

はじめに

本報告書は、2018年8月3日（金）仙台および8月17日（金）東京・自由が丘で実施したアクティブフォーラムでの講演をまとめたものです。

2007年度から始めた本フォーラムは、文部科学省「大学教育再生加速プログラム（AP）」の一環として実施することとなり、今年度は初めて東北 仙台、北海道 札幌で実施しました。札幌は3時間の授業研究ワークショップという新形態で行ったため、文字で報告できる形態ではなく、本報告書では割愛させていただいております。授業研究ワークショップは、アクティブラーニングを深化させる上でとても効果的な形態と確信できたので、今後、他の地区でも実施したいと考えております。

仙台でのフォーラムは、昨年の熊本開催同様に地元の先生方の熱い思いに応えたいと企画し、講演とワークショップを並列で走らせるというこれまでにない形態にチャレンジし、更に保護者や高校生、中学校教員にも広く参加を呼びかけて実施しました。200名を超える参加者となり、この場を借りて心より御礼申し上げたいと思います。

キャリア教育推進フォーラム（自由が丘）は、12回目となり、Zoom（オンラインWEB会議ソフト）を実験的に活用し、全国の先生方に講演等の配信を試みました。また株式会社LoiLoの全面的な支援からロイロノート・スクールを活用し、これまで以上に参加者が一体となったフォーラムとすることが出来ました。今後もロイロノート、Zoomなどを活用したフォーラムにチャレンジしたいと考えております。

仙台、札幌、東京とご協力、ご支援下さいました登壇者の先生方、本当にお忙しいところありがとうございました。そして何よりもご参加くださいました高校関係者あるいは教育、行政の関係者の方々には感謝の念を禁じえません。本当にありがとうございました。次年度は、AP事業も最終年となり、名古屋、博多でのフォーラムを企画しております。また、皆様とお会いできることを心より願っております。

最後に本報告書が教育改革の一助になることを祈念しております。今後も教育現場に寄り添えるフォーラムとなるよう努力して参ります。

産業能率大学 入試企画部長
林 巧 樹

【高校教員対象】

「第12回キャリア教育推進フォーラム」のご案内

【テーマ】キャリア教育・アクティブラーニング・探究をつなぐ

【ねらい】

- ・生徒のやる気の源にあるものは何か？アクティブな生徒となる分岐点について考察し、その指導のあり方について考察します。
- ・高校での教育改革を進めるには何が足りないのか？全国の高校での事例から、改革が進む高校と進まない高校の要因を探ります。
- ・キャリア教育と授業でのアクティブラーニング、さらに探究学習をつなぐための授業づくり、教材研究について様々な観点から検討します。



開催日時
8/17
(金)
10:30～18:00

■日時	2018年8月17日(金) 10:30～18:00
■主催/後援	主催：産業能率大学 後援：東京都教育委員会 神奈川県教育委員会 ほか
■定員	320名 ※高校教員優先（その他の方はオブザーブとなる可能性あり）また、1校3名までの参加とします。
■参加費	3,000円（資料費等として）参加費は当日受付にてお渡しください。
■会場	産業能率大学 自由が丘キャンパス（TEL 03-3704-0731）
■申込み	本学ホームページ http://www.sanno.ac.jp/exam/teachers/ よりお申し込み下さい。

お申込みはコチラ



<プログラム>

- ①【講演】「やってみなきゃ わからないっしょ！！」 ビリギヤル 小林さやか氏
- ②【講演】「なぜ高校で授業改革が進まないのか？～高校現場と大学教育をつなぐ～」

一般社団法人 大学イノベーション研究所 所長 山内 太地氏

- ③【授業（教材）研究ワークショップ】※下記より1つを申し込み時に選択

教科	授業者
英語	和田 玲先生（順天中学校・高等学校）
国語	二田 貴広先生（奈良女子大学附属中等教育学校）
国語	三村 美紀先生（岡山県立総社高等学校）
数学	近藤 義治先生（渋谷教育学園渋谷中学高等学校）
数学	大村 勝久先生（静岡県立浜松北高等学校）
世界史	中村 怜詞先生（島根大学）
政治経済	高屋 恵理先生（岩手県立盛岡第三高等学校）
生物	山藤 旅聞先生（東京都立武蔵高等学校）
リーダーシップ	田中 駿一先生（東京都立六郷工科高等学校）
探究 （協働的学習者育成プログラム）	杉田 一真（産業能率大学）

- ④【講演】「これからのキャリア教育のかたち～キャリア教育とアクティブラーニング、探究をつなぐ～」

法政大学 教授 児美川 孝一郎先生

【授業者・講演者・参加者相互のネットワークづくり（意見交換会）】参加費：2,000円 ※任意参加

授業力向上フォーラム(仙台開催)

「学習意欲を高め学力向上につなげる授業改革」
 開催日時：2018年8月3日(金)10:30～17:20
 会場：太白区文化センター(楽楽楽ホール)

8/3
(金)

教科指導力向上研究会(札幌開催)

開催日時：2018年8月6日(月)10:00～17:00
 会場：アスティ45 ACU 12F・16F

8/6
(月)

お問い合わせ：産業能率大学フォーラム事務局 担当：加藤 Tel.03-3704-0731

学習意欲を高め 学力向上につなげる 授業改革

//// AI時代を生き抜く子供たちを東北から育て、全国に発信する ////

ねらい

東日本大震災後、多くの教育者はこれまでの教育のあり方に無力さを感じ、本当に必要な学びとは何かを模索しました。その答えが、「人間には、ゼロからスタートしなければならない時が来る。教師がいなくても学び続ける子供たちを育てなければならない」「なぜ教えない授業が学力を伸ばすのか」より引用にあると思います。

東北で初のフォーラムを開催するにあたり、これまでの高校教員を対象とするだけでなく、中学校の先生方、また保護者の方々と、これからの東北地方を牽引する子供たちを育むうえで、大切なことを共に学びたいと考えました。

本フォーラムは、講演とワークショップで構成されています。講演では、学校教育は、いまどのように変わろうとしているか、なぜ教え過ぎないことが大切なのか、子供はどこで学びのスイッチが入るのか？など多彩な講師で実施します。

授業研究ワークショップでは、全国で活躍する授業者による教材や指導案設計、スキル開発などを通し、明日から使える授業改善の方法論を学びます。

講演

太白区文化センター (楽楽楽ホール)

10:30~17:20 定員 400名

参加費/無料

対象: 学校関係者(中学校・高等学校教員、
教育委員会指導主事、予備校・塾関係者)
保護者(中学校・高等学校の子女)

主催: 産業能率大学

共催: (申請中) 仙台市教育委員会

後援: (申請中) 宮城県教育委員会 福島県教育委員会
山形県教育委員会 岩手県教育委員会
秋田県教育委員会 青森県教育委員会

授業研究ワークショップ

太白区中央市民センター (大会議室、中会議室、小会議室)

10:30~16:45

各講座1,000円(資料代として)

対象: 学校関係者(中学校・高等学校教員、
教育委員会指導主事 等)

主催: 産業能率大学

共催: (申請中) 仙台市教育委員会

後援: (申請中) 宮城県教育委員会 福島県教育委員会
山形県教育委員会 岩手県教育委員会
秋田県教育委員会 青森県教育委員会

セッション 1

10:40~11:40「未来に通じる学力の育て方」
宮城県仙台第三高等学校 教務主任
授業づくり研究センター 滝井 隆太先生
休憩

セッション 2

13:00~14:00「なぜ『教えない授業』が学力を伸ばすのか〜大学入試改革に備える〜」
保護者の方にも
オススメです
東京都立武蔵高等学校・附属中学校
指導教諭 山本 崇雄先生

セッション 3

14:20~15:20「映画『ビリギャル』主人公が語る!
子供の能力を引き出す大人のあり方」
保護者の方にも
オススメです
ビリギャル 小林 さやか氏

セッション 4

15:40~17:20「We can make Real `Active Learner`
〜アクティブラーナーを育成する学び〜」
福岡県立城南高等学校 校長
和田 美千代先生
<コーディネーター チーム宮城>
宮城県聖ドミニコ学院中学校高等学校
及川 俊浩先生
宮城県白石工業高等学校
春日川 孝先生

セッション 1

各10:30~14:00※申し込み時に①~③から1つお選び下さい
①【教科別授業研究ワークショップ】
数学 下町壽男先生 元岩手県立花巻北高等学校 校長
②【アクティブラーナーを育てる授業設計ワークショップ】
チーム東北コラボレーションによる授業設計研究
皆川 雅樹 産業能率大学 経営学部 准教授×岩手県立
花巻北高等学校 助川 剛栄先生
③【授業力向上スキル開発ワークショップ】
授業改善に役立つロジカルシンキング ~弁証法、ア
クションラーニング、コルブの経験学習理論など~
小林 昭文 産業能率大学 経営学部 教授

セッション 2

各14:15~16:45※申し込み時に①~③から1つお選び下さい
①【教科別授業研究ワークショップ】
国語 渡邊 久暢先生 福井県立若狭高等学校
②【アクティブラーナーを育てる授業設計ワークショップ】
主体的学習者育成プログラムによる探究設計
齋藤 弘通 産業能率大学 経営学部 准教授
③【授業力向上スキル開発ワークショップ】
教育コーチングスキル開発 ~深い学びにつながる
アクティブラーニングを支える対話力のスキル開発~
鈴木 建生先生 ユマニテク短期大学 副学長
元産業能率大学 教授

※18時~20時 意見交換会(懇親会) 任意参加
参加費3500円程度

※18時~20時 意見交換会(懇親会) 任意参加
参加費3500円程度

アクティブフォーラム体験授業動画配信のお知らせ **登録制・無料**

参加したフォーラムの他の授業の様子もぜひ見たい！



当日参加ができなかったけど授業を見たい！



振り返りのためにもう一度見たい！



SANNO Active Forumにて行われた、 体験授業動画を配信しています。

(※現在配信している動画は2015～2018年度です)

授業改善やアクティブラーニングの視点による授業実践にお役立てください。

こちらからアクセスください！

ご利用にあたって

動画視聴には会員登録が必要となります。
本学ホームページよりご登録ください！



「SANNO REAL 学生たちの挑戦」配信中！！！！

SANNOの“REAL”を感じる動画をyoutubeで配信しています。

来場者50万人を超える自由が丘のイベント成功に向けて、
イベントの企画に挑む学生たちに密着。
本気で取り組むからこそ見える課題や成長について、
学生インタビューを交えて紹介します。



こちらからアクセスください！



学びの輪(アクティブラーナーをつなぐ) 連載中！！！！

全国のアクティブ・ラーナーをつなぐ学びの輪を本学HPにて
連載中！
教育への想い、取り組みをリレー形式でご紹介しています。



こちらからアクセスください！



産業能率大学

お問い合わせ:入試企画部 企画課
TEL:03-3704-0731 Mail:kikaku@hj.sanno.ac.jp

講演者プロフィール（敬省略）

■山内太地 一般社団法人 大学イノベーション研究所 所長

1978年岐阜県中津川市生まれ。岐阜県立中津高等学校、東洋大学社会学部社会学科卒業。理想の大学教育を求め、日本国内の4年制大学約800校（2017年度現在）はすべて訪問。海外は14か国3地域の約100大学を訪問し、年間約150高校で進路講演を実施。コンサルティングしている複数の大学では志願者数V字回復を成し遂げる。著書に『高大接続改革』『時間と学費を無駄にしない大学選び』『就活下剋上』など。

■滝井 隆太 宮城県仙台第三高等学校 教諭

20年以上に渡り、コーチングの授業への応用を模索・実践。躍進を続ける仙台三高のキーパーソン。現所属校では、H22年に始まった授業づくりを通じた教員研修「授業づくりプロジェクト」に立ち上げから関わる。H27年からは、校内に設置された「SSH-授業づくり研究センター」で、他教科を横断・融合しながら、従来の受験学力を担保しつつ21世紀型スキルを育成する授業・教育プログラムや、仙台三高の独自理論「構成的アクティブラーニング」の研究・開発を主導する。現在の最大の関心事は「主体的学び」を促すための自己決定理論（動機付け理論）の現場的实践と「深い学び」を実現するためのさまざまな方略と授業設計。授業研究会「拓く会」代表。

■山本 崇雄 東京都立武蔵高等学校・附属中学校 教諭

1994年より東京の公立中学校で英語教師として教壇に立つ。2006年東京都立両国高等学校に赴任。同年新設された附属中学校にて新入生から英語教科の担当となる。両国にて実践された「教えない授業」がマスコミ等で大変な評判となり、2016年出版された「なぜ「教えない授業」が学力を伸ばすのか」（日経BP）は、ベストセラーとなる。これまで多くの高校で研修講師を依頼され、生徒の自立を促し、学ぶ楽しさを実感させることで結果として成績を伸ばす授業を紹介されている。2017年より現任校に赴任。検定教科書『New Crown English Series』（三省堂）編集委員。

■ さやか (ビリギャル / 小林さやか)

『学年ビリのギャルが1年で偏差値を40上げて慶應大学に現役合格した話』(坪田信貴・著)の主人公=ビリギャル。1988年3月生まれ、名古屋市出身、東京都在住。中学、高校で学年ビリを経験し、高2の夏に小学4年レベルの学力しかなかった。当時の全国模試の偏差値は30弱。中学時代は素行不良を理由に何度も停学になり、学校の校長に「人間のクズ」と呼ばれたことも。塾講師 坪田信貴氏との出会いを機に、1年半での日本最難関レベルの私大、慶應義塾大学の現役合格を目指すことになる。結果、1年で偏差値を40上げて、複数の難関大学のほか、慶應義塾大学に現役で合格を果たした。その後、ウェディングプランナーとして活躍し、2014年にフリーランスに転身。現在は、全国への講演活動やイベント企画運営などをしながら、札幌新陽高校で「校長の右」という役職で教育を学ぶべくインターン中。

■ 和田 美千代 福岡県立城南高等学校 校長

昔ドリカム、今A.L。平成6年福岡県立城南高校で、生徒主体の進路学習ドリカムプランを企画開発、キャリア教育の先進事例として全国的注目を集める。

城南高校には教諭として18年、教頭して2年計20年勤務。文部科学省のキャリア教育関係の委員を務め、学習指導要領特別活動の解説にも携わる。

平成27年から2年間、福岡県教育指導部長として、新たな学びプロジェクトチームを率い、アクティブ・ラーニングの普及啓発の仕事をする。

福岡県教育庁高校教育課主幹指導主事を経て、この春から城南高校校長。一学期始業式辞はA.Lで行う。

ずっと自分を駆動するエンジンを追いかけているアクティブラーナー。

■ 児美川 孝一郎 法政大学 キャリアデザイン学部 教授

大学院修了後、青年期教育を専門として研究を続けてきたが、この20年あまりキャリア教育の研究と大学・学部内での実践に力を入れている。日本キャリアデザイン学会理事(研究誌編集委員長)。主な著書に、『若者はなぜ「就職」できなくなったのか』(日本図書センター)『キャリア教育のウソ』(ちくまプリマー新書)『親活の非ススメ』(徳間書店)『まず教育論から変えよう』(太郎次郎社エディタス)『夢があふれる社会に希望はあるか』(ベスト新書)等。

もくじ

「なぜ高校で授業改革が進まないのか ～高校現場と大学教育をつなぐ～」・・・・・・・・・・9P

一般社団法人 大学イノベーション研究所 所長 山内 太地

【東京会場】

「未来に通じる学力の育て方」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・47P

宮城県仙台第三高等学校 滝井隆太

【仙台会場】

「なぜ教えない授業が学力を伸ばすのか ～大学入試改革に備える～」・・・・・・・・・・85P

東京都立武蔵高等学校 山本嵩雄

【仙台会場】

「映画ビリギャル主人公が語る 子供の能力を引き出す大人のあり方」・・・・・・・・・・117P

小林さやか

【東京会場・仙台会場】

「アクティブラーナーを育成する学び」・・・・・・・・・・・・・・・・・・147P

福岡県立城南高等学校 校長 和田美千代

【仙台会場】

「これからのキャリア教育のかたち

～キャリア教育とアクティブラーニング、探求をつなぐ～」・・・・・・・・・・179P

法政大学 教授 児美川孝一郎

【東京会場】

一般社団法人 大学イノベーション研究所 所長

山内 太地

なぜ高校で授業改革が進まないのか？

—高校現場と大学教育をつなぐ—

自己紹介 偉い人の話はなぜつまらないのか

- 1 私たちは教育の力を信じすぎている
 - ①高校をめぐる環境
 - ②進路指導、地方と都会
 - ③公立高校の課題
 - ④教員が変えるべき習慣
 - ⑤次世代の学校像を築く生徒と教員
- 2 アクティブラーニング（ブーム）はもう古いのか？
- 3 教育の主役は誰か
- 4 あのファミリー像はバブル期のもの
- 5 世の中には2種類の人がいる、人を使う人と人に使われる人
- 6 自分株式会社の社長、自己管理能力
- 7 文系理系分けをしないマルチスキル
- 8 能動的学習
 - ①自分から進んでやる楽しい勉強の習慣
 - ②世界は理系が有利か？
 - ③グリーン車に乗る
 - ④やりたいことがわからない
 - ⑤いますぐ、できること
- 9 問題提起

質問タイム

なぜ高校で授業改革が進まないのか

一般社団法人 大学イノベーション研究所 所長
山内 太地

自己紹介 偉い人の話はなぜつまらないのか

日本には全部で 800 校もの大学があるんですが、私 16 年かけて全部行ってきました。この経験を活かし、高校で講演をしたり、いろんな本を書いたりする作家業をしております。

本日の最初の話は「偉い人の話はどうしてつまらないのか？」から始まります。

高校生たちはうんざりしてるんです。体育館に全校生徒が集められて、「今日は偉い人の話だからしっかり聞くように」と言われた場合、十中八九つまらないですよ（笑）。どうして偉い人の話はつまらないのでしょうか？ 理由は 2 つ。

まず一つめ、話す内容が本当につまらない。どういうことでしょうか。みなさんの前で講演してくれる立派な先生方というのは、素晴らしい実績を上げています。彼らは素晴らしい実績を上げる力があります。ところがそれをみなさんに面白おかしく話す力がないんです。そこでぼくは考えました。吉本のお笑いを観て勉強しようと。吉本の芸人さんを想像してください。芸人さんたちが「どうも〜」って出てきて面白いコントをやりますね。あのとき芸人さんたちは「持ちネタをちゃんと喋れたぞ、よかった」といって帰ってはいきません。お笑い芸人たるもの、お客様が笑ってくれなければ負けなんです。さて、将来生徒はどちらの大人になるべきでしょうか？ ① つまらない話をする偉い人か、②お客様が笑わないと負けの芸人か。間違いなく芸人です。そういうわけで、生徒さん全員進路希望は「芸人」と書いて先生に提出してください。すると職員室に呼び出されます。実際には、本当にみんなお笑い芸人にならなくていいんですが、でも、芸人が持っている力は生徒さん全員に必要です。私はこれを「芸人力」と呼んでいます。これはいったいどんな力でしょうか？ こんな力です。

「お客さん、今日ケーキが安いですよ、買いませんか？」

「店長、この町にお店を出しましょう、儲かりますよ」

「患者さん、あなたはこの病気なんですから、この薬を飲んでください」

というように、将来高校生たちは全員どんな職業についても、相手に気持ちが伝わらなければ仕事になりません。でもいままでの偉い人はこれができなかった。彼らは自分が喋りたいことを喋っている。でもそれはみなさまが聞きたいことではない。だから寝てしまう。じゃ、どうすればいいんでしょう？

「偉い人の話はどうしてつまらないのか？」の理由 2 つめ。

今度はみなさま聞く側の問題です。このあと生徒さんたちが無事憧れの大学に入るとそのあとどうなるんでしょう。素晴らしい実績を上げているんだけど、それを面白おかしく話す力がない大学教授の話をやというほど聞くことができる。産業能率大学を除く（笑）。そうすると、どんなにいい大学に入っても「せっかくがんばっていい大学に入ったけど、つまらない授業ばかり

だ」とみんな授業中にスマホを使うんです。

でもみなさん、各高校にお帰りになって生徒さんにこうお伝えください。

「どんなにつまらない授業でも、何か大切なことを言っているはずなのよ、だからちゃんとノートをとるのよ」

「そんなこと普段高校でやってる」

それだけではありません、ぜひ今日からは「質問したいことをノートに書きながら、授業を聞く」のです。すると何ができるでしょう？ 手を挙げて質問ができるんですね。

みなさまこんな経験はございませんか？ 「はい、偉い人の講演が終わりました。それでは質問がある方は手を挙げてください」。こんなとき日本人は誰も手を挙げない。なぜでしょう？ それはこれまで私たちはこういった場で手を挙げて発言することを恥ずかしい、カッコ悪い、いじめられると思っていたからです。もうひとつは、質問する前提で話を聞いていない。だから寝てしまうんです。でももし、ここが海外の大学だったらどうでしょう？ 手を挙げて質問しない人は存在していないのと同じなので 0 点です。今後生徒たちが生きていく世界は、予め質問を考えておき、手を挙げて質問ができる人だけが生き残れる世界です。だから今日からルールは変わりました。私は 50 分間を黙って聞いていただくつもりはありません。質問を考えていただいて、最後に質問コーナーで「質問をどうぞ」と言ったら全員手が挙がる、手を挙げてない人から当てます（笑）、というのを普段高校生にやっています。なので私が講演する高校では質問コーナーで全員手が挙がります。ただし、今日をご安心ください、各机の上になにやらハイテク機器が用意されています（笑）。そちらでみなさまからご質問がいただければ、と思います。というところで始めましょう。

1 私たちは教育の力を信じすぎている

①高校をめぐる環境

この道 20 年一筋にやってまいりまして、教育ジャーナリストを名乗りながら日本中の素晴らしい大学、素晴らしい高校の先進的教育事例をたっぷり取材してきたんですが、結論から言いますともうアップアップでございまして嫌になってきました。

もう堀川に行きたくない、広尾学園にも行きたくない、国際教養大学にも行きたくない、です（笑）。それぞれの学校さんを責めているんじゃないんです。私、気づいちゃったんです。「素晴らしい教育をやっている高校や大学を取材して記事にしたら、世の中が変わるんじゃないのか？」「素晴らしい教員や教育関係者が集まるイベントに行ったら、教育が変わるんじゃないの？」とやってきたんですが、私が思ったのは「学習者本人が、能動的、主体的に学び、それをアウトプットしなければ、無意味」ということです。

よく活躍している有名な人をメディアで取上げていますが、その人の高校や大学がその人をつくったのではなく、たまたまその高校や大学に入って自分で勝手に学んで結果を出しているんじゃないかと思います。その証拠にみなさん、金沢工業大学を出てベンチャー企業を起こした有名な人って誰も思いつきませんね。決して金沢工業大学が悪いわけじゃないんですよ、でもみなさんが素晴らしい、素晴らしいとほめている大学って、「入った後に勝手に伸びた人って誰？」って話なんですね。いい大学として、金沢工業大学とか東北大学とか武蔵大学とか国際教養大学とか

立命館アジア太平洋大学とかの名前を聞くんですが(スライド4)、10年前もそう言っていました。おそらく10年後も言っているんでしょう、そうやって日本の大学はアジアの大学にどんどん負けていくんですよ。もうフィリピンにも負けます。なのにマスメディアはいつまでもやれ東大に入ったから偉いとか言っているんですよ。もう、うんざりしました。行ったこともない大学なのになんでみなさんこんなに一所懸命に東北大学をほめているのかってことです。国内でどこが偉いのかという競争を私は積極的に降りることにしました。

(スライド4)

順位	大学名	所在地	評価
1	東京工業大学	東京	1000
2	東北大学	宮城	1461
3	武蔵大学	東京	1429
4	国際基督教大学	神奈川	1106
5	明治大学	東京	82
6	立命館大学	京都	72
7	慶応義塾大学	東京	64
8	福岡工業大学	福岡	46
9	筑波大学	茨城	44
10	駒澤大学	神奈川	42
11	京都女子大学	京都	41
12	国際基督教大学	東京	40
13	法政大学	大阪	39
14	関西大学	大阪	37
15	学習院大学	東京	35
16	法政大学	東京	35
17	山形大学	山形	34
18	九州工業大学	福岡	33
19	中央学院大学	東京	31
20	富山県立大学	富山	30
21	神奈川工科大学	神奈川	29
22	東京理科大学	東京	28
23	日本大学	東京	28
24	法政大学	東京	28
25	成蹊大学	東京	26
26	学芸大学	兵庫	26
27	立教大学	東京	25
28	神奈川外国大学	千葉	24
29	福岡大学	福岡	23
30	京都府立大学	京都	23
31	国士大学	埼玉	22
32	聖光学院大学	埼玉	22
33	信州大学	長野	21
34	新潟県立大学	新潟	21
35	大東大学	大阪	20
36	同志社大学	兵庫	20
37	聖光学院大学	埼玉	20
38	中央学院大学	東京	20
39	名古屋大学	愛知	19
40	神奈川外国大学	千葉	19
41	西宮学院大学	福岡	19
42	清泉女子大学	神奈川	18
43	中央大学	東京	18
44	東洋女子大学	東京	18
45	早稲田大学	東京	18
46	同志社大学	大阪	18
47	聖光学院大学	埼玉	18
48	富山大学	富山	17
49	筑波大学	茨城	16
50	筑波大学	茨城	16
51	十文字学園女子大学	埼玉	16
52	国際基督教大学	東京	16
53	神奈川外国大学	千葉	16

大学通信

「面倒見がよい大学」 トップ100ランキング

進学校の進路指導教諭による評価を集計

大学通信は毎年、全国約2000進学校の進路指導教諭にアンケート調査を実施し、昨年(2017年)は685校から回答を得た。その中で「面倒見がよい大学」はどこかを聞いた。
https://article.auone.jp/detail/1/3/6/7_6_r_20180216_1518746513794079

私もジャーナリストを名乗ってますので、やれ日大アメフトについてテレビに出るとか東京医科大学について語れとか、テレビ各局から連絡がきましたが全部断りました。テレビに出るとブランドが下がります。と言うか、ぼくは別に医学もアメフトも詳しくないですからね。重要なことはテレビというのはイナゴみたいなもので、そのときの熱いニュースに群がるだけです。やれアクティブラーニング、やれ主体的学びとか。今度はあれをやれ、これをやれ、とお上から降ってくるものを、先生方もずっと消費してそして定年退職するんですか？ 自分の頭で考えて行動していないんじゃないか。どうも私はそこに問題意識があって、今日は素晴らしい教育を生徒に提供したいという熱い方たちがここにいらっしやることを百も承知の上であえて、それを疑ってくださいという話をします。

老子の言葉で「学を絶てば憂いなし」というすごい言葉があります。勉強するなど言ってるんです。ただこれは「じゃ勉強しないで、華やかだったころのビリギャルさんになれ」って言っているわけじゃなくて、学問を絶対視することを疑う。「私たちが教育者としてがんばっている、これって素晴らしいよね」というのを「ちょっと立ち止まって考えよう」ということです。こういう危険な企画で本日招いていただいたという、まあ来年からは呼ばれないでしょう(笑)。

先生方がそれぞれ今日しっかり学ばれていい経験をして、仲間と友情を結んで、各高校に帰るとどうなるか？ わかってくれない上司と同僚と教育委員会にボコボコにされます。現に、九州では「九州名物 朝課外」と申しまして、九州では7時半からゼロ限をやっているんです。

これは進学校だけではなく、鹿児島県ではなんと商業高校もやっています。だから6時に家を出て学校に行くと、7時半から簿記やコンピューターをやるって話です。早くやめてほしいですけどね。

また私は名古屋出身なんですが、愛知県でも特に三河地域というのは国公立大学への進学志向がめちゃくちゃ強くて、「塾いらず」と言われています。それは「朝課外、土曜の補習、夏休み補習」をみっちりやっているからです（スライド5）。そしてこれで名古屋大学や東京大学に入れちゃうもんだから、高校の先生方はやりがいを感じちゃって夏休みがつぶれることを何とも思わない。世間では部活動のことばかりが問題になっていますが、その勉強版はどうなんだ、って話です。

私は横浜翠嵐高校の先生が、小さい赤ちゃんの子どもがいるのに2時、3時まで寝ないで生徒のために何かをやっているというのを、ツイッターでバカバカしいって書いたら、横浜翠嵐高校の生徒たちに炎上されて炎上されて（大爆笑）。だけどぼくはやっぱ疑いたいわけです。「先生がプライベートや家庭を犠牲にしてまで、あんたたちを東大に入れたというのは、本当に美談でいいんですか」と。

それから、ぼくが納得いかないのは、地方の公立高校でいわゆる旧制中学発祥のトップ校の次の旧制高等女学校発祥の2番手進学校とかは異常に校則が厳しいんですよ。いわゆる荒れている学校ではなく、生徒はみな国公立大学に行くつもりで賢いのに、異様なまでにスカートが何センチとかの校則がものすごく厳しくて、先生方こんなスカートをいちいち測る間に教材を開発してくださいよという状況なんです。某県は教育委員会がトップ高校に対して東大に何人入れろとか言ってます、結局は老害を駆逐するところからですね。地方の異常に厳しい校則、異常な国公立大学推し、テストの多すぎ。もうみなさんお気づきですね、先生方はやらされる勉強をさせられて過労死寸前です（スライド5）。こういう現実があるのにこっちを問題にしないで、意識高い人だけが集まって「教育、熱いよね」と帰ってきたら大ごとですよ。この状況をなんとかするのが、今日私が呼ばれたテーマなのです。

（スライド5）

「自称進学校」

- 九州名物「朝課外」
- 三河名物「朝補習、土曜補習、夏期補習」
- 異常に厳しい校則
- 異常に国公立推し
- 多すぎるテスト
- オンラインポートフォリオ
- 英語4技能
- 学習到達度
- 「**やらされる勉強**」で高校は過労死寸前！

5

②進路指導、地方と都会

では進路指導はどうなっているのか。地方の場合は国公立大学をみんなが志望するわけなのでセンター試験を受けます。例えば和歌山県の場合、だれもが和歌山大学に行きたいんです。でもだれもが入れるわけじゃない、河合塾やベネッセの判定で E 判定となった、「お前は島根県立大学にいけ、この学校はどうだ」と。そういうことの繰り返しです、これが地方の場合です。

では東京はどうかというと、私立の序列順です。MARCH に入れ、日東駒専に入れ。ですから都立狛江高校に行ったときに超驚いたのは、「うちの生徒が入りたい学校は青学と専修しかありません」と言われました。何を言ってるんだこの先生は、です。他にも大学はあるでしょ？ でも違うんですね、要は小田急沿線で、MARCH から一校、日東駒専から一校、家から近いところを探してくる。進路指導も何もあつたもんじゃない (笑)。

でも、もっとひどいのは大阪です。私は日本中の高校で講演していますが、大阪の高校は進路指導が機能していません。本当に。結局頭のいい順に、関大に行きなさい、近大に行きなさい、桃山に行きなさい、となっちゃっていて、本当に大阪府の公立高校って偏差値 60 の高校で国立は 20 名を切るんですよ。京都府や兵庫県の場合はわりと全国に散って行くんですが、大阪の場合、鳥取大学には死んでも行かないんです。そういう状況で都会の高校生の方が選択肢が狭いです。

北陸三県の場合、例えば富山県ではどんな高校でも、つまり地域で一番低い高校でも国立に 10 人ぐらいいは入っています。では富山が頭がいいのかということではなくて、富山県では富山大学と富山県立大学を滑ったら大学は F ランクしかないんです、そうすると地域に日大とかはないんですね、そこでしょうがないから秋田大学に行くかという感じで全国に散っていく。長野、静岡、新潟みたいな所は、高校側も国公立大学の進学実績がものすごくよくて、こういったのを見ると、地方の高校ってパラダイスです。

③公立高校の課題

東京や大阪のように早くから 3 科目に絞り込んで、適当に大規模私立大学に行きなさいという進路指導だけが正義になっちゃっているような感じがあって、地方の方がちゃんと最後まで 5 教科を勉強しますし、地方はパラダイスなのかと。

いや地獄です (笑)。なぜならば、その地方の子たちは将来何になりたいかということ、文系の場合は、公務員、教員、銀行員です。この 3 つですが、もういらぬ仕事なんですよ。人工知能がやってくれるんで (笑)。特に地方銀行は潰れると言われていています (スライド 7)。なのに新潟大学は法学部 4 割が公務員、経済学部 4 割が銀行ですから。いつになったら気づくんでしょう。

(スライド 7)

逆境の地方銀行

<https://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20180501-00010002-fukui-118>



金融庁の有識者会議が、人口減少などで地方銀行の収益悪化が進んだ場合、1行単独でも存続が難しい地域が23県あると試算する報告書を公表した。

結果的に地方は疲弊しているので、特に地方の理系、山形大学工学部に行く子の場合、就職は絶対に東京なんです。秋田県立大学は2番目に多いのは愛知県出身です。ぼくは驚きました、一番はもちろん地元の秋田ですが、愛知県の子は秋田県立大学にめちゃくちゃ大勢行きます。でも卒業すると愛知に帰ってきます、就職先があるから。秋田には特に就職するところがないんで。秋田県の方には申し訳ないんですが。

このように、地方の進路指導は上手くいっているように見えて、地方内で消費しているから結局いつかは疲弊していく。この会場には公立高校の方が多いと思いますが、公立高校で先生方が高い意識を持って、こういった場に参加してアクティブラーニングをやるぞって思ったときに、1、2年でコロコロ変わるのが管理職です。わかってくれないんですね。教頭、校長にみんななりたいたからすぐ変わるんです(スライド8)。そしてアクティブラーニングをやる気のある先生がやってきて、そこをいい高校にしようとするので大抵飛ばされます。アクティブラーニング推進教員が消えます。何か新しいことをやってみようとする、自分の意志とは無関係に転勤になって、その学校にアクティブラーニングが根付いていかないんです。

(スライド 8)

公立高校の課題

- 1・2年で代わる管理職
- AL推進教員が消える
- 中学受験の敗残兵が集まる中堅進学校
- 県内のダメ教員を集めた中下位公立高校
- いわゆる底辺校の学習意欲が低い生徒
- 教えられる人がいない
- 目先の授業改善より進路実績
- B社の奴隷

これはどちらかというとも都会ですが、いわゆる荒れている底辺校とトップ進学校よりも本当に困っているのは真ん中の高校です。まず生徒は中学受験の敗残兵です。そして先生はといえば、トップ高校とダメ高校にはいい先生が集まるんですが、真ん中ってなんかくたびれた先生が集まります。これは愛知県の偏差値 54 の高校で言われたことですが、校長先生が「いや～山内さん、ウチの高校っていうのはトップ進学校でくたびれた教員と、ヤンキー校でくたびれた教員が集まって数年間休んでいる高校なんです」と。「それで生徒たちは指定校推薦で偏差値 50 台の大学に放り込めばいいから、がんばらなくていいんだよ、部活はがんばるけどね」。県単位でやっているという「お休み高校」が発生してしまうんです。おそらく先生方の中には、「私は、ぼくは、熱いんだけど、帰ってみると高校自体は管理職から同僚までみんなそういうお休み高校でちょっと羽を休めてる」と。これじゃ生徒が悲劇ですね。

なのでそういう高校は地域から何とされているかということ、「賢く入ってバカで出る」といわれます。大変気の毒ですが。

結局、教えられる人がいない。ハーバード大学の先生にドヤ顔でこう言われました。「大学教員って言うのは、結局自分が教わったようにしか教えられないんだ」と。ハーバードはそれでもいいんですけど、みなさんはそうはいかないじゃないですか。自分たちは詰め込み教育だったのに、生徒たちにはアクティブラーニングをやらなきゃいけない。だから大いに矛盾しているんです。そして目先の授業改善より進路実績が優先される実態があります。

結局進学校はこうなっちゃいます。アクティブラーニングをやりたいたいんですが、国公立大学進学者数は 100 人を死守しなければならない、あるいは最近国立大学は推薦、AO が増えていますが、上位進学校だとそこへの対応が遅れますね。そのくせ学習指導要領は理想ばかり掲げられます (スライド 9)。それでアクティブラーニングをやりなさい (スライド 10) と。

(スライド 9)

新高校学習指導要領(2022～)

http://benesse.jp/kyouiku/201801/20180103-1.html?_logitter_sns_id540415=2

「資質・能力の三つの柱」

<1>知識・技能

<2>思考力・判断力・表現力等

<3>学びに向かう力・人間性等 「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」

▽国語科 必履修科目「現代の国語」「言語文化」と選択科目「論理国語」「文学国語」「国語表現」「古典探究」

▽地理歴史科 「歴史総合」「地理総合」と「日本史探究」「世界史探究」「地理探究」

▽公民科 必履修科目を「公共」に

▽数学 統計などを扱う選択科目「数学C」を新設

▽数学と理科にまたがる選択科目「理数探究基礎」「理数探究」を新設

▽全生徒に「情報I」を履修させる

▽英語を「英語コミュニケーションI・II・III」(Iが共通必履修)と「論理・表現I・II・III」に

▽総合的な学習の時間を「総合的な探究の時間」に名称変更.....など

9

(スライド 10)

文部科学省の考える アクティブ・ラーニング

2012年8月28日 中央教育審議会答申
「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」

教員による一方的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称。学修者が能動的に学修することによって、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれるが、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等も有効なアクティブ・ラーニングの方法である。

これを読み解くと

- ①発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等の教授・学習法で
- ②教員による一方的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れ
- ③認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成をする

10

④教員が変えるべき習慣

これはツイッターに転がっていたものですが、教員が変えるべき習慣です。

- ①教科書通りに授業を進める、
- ②一方的に講義を続ける、
- ③生徒に携帯の利用を禁止する、
- ④生徒全員に同じ授業、同じ時間割、
- ⑤ネットで調べればわかるようなことを教える、
- ⑥みな退屈な内容でも授業を続ける、

と言うと、少なくともわが校では私は違うと言うんでしょうが、大変残念なことに私がまわったほとんどの高校はこれです。要はみなさんは、『風の谷のナウシカ』のラストシーンにおけるたった一匹で青く光るオームです。みなさんがそれぞれ各学校に戻ると他の先生たちは真っ赤なんです(爆笑)。いま、われわれがやろうとしているのは、それを全部青色にしないといけないんですが、こういった場で得たものを地方の学校に持って帰ると、それをわかってくれない管理職と同僚に言うのはめちゃくちゃ大変です。ある高校で言われました、「受験の5教科で、まず理科の先生だけを説得し、理科だけをアクティブラーニングでやろう」ということです。こんな戦国時代の国盗りみたいなことをやっているんです。

⑤次世代の学校像を築く生徒と教員

生徒の学び方については、いままで通りの自律の他に、もうみなさんご存知のように仲間たちと学んだ成果を共有する。そして教員も、例えば進学校に行くと科目ごとに職員室があって離れています。英語職員室とか数学職員室とかがよくあるんですが、先生方も学科を超えて対話をしてその成果を共有していただきたいです(スライド 12)。

(スライド 12)

生徒の学び方は
自律 と 共有

教員は
対話 と 共有

これにより、次世代の学校像を、
全教員が一丸となって、築き上げる

親の協力による家庭学習も極めて重要＝文化資本 ¹²

(スライド 13)

理想と現実

• どんなに良い教育を語っても、
すべては教室で1対40の中

国公立大学はお金がなくて研究力は落ち、
私立は偏差値順。
マンモス名門私大はST比50～60

こう言うと、「いいわよね、フィンランドは」(スライド 14) って話になるんですが、なんでもかんでもフィンランドがいいと思うのは北欧神話です (笑)。

(スライド 14)

フィンランド



エスポー市・タピオラ中学校の職員室。

読売新聞 <http://www.yomiuri.co.jp/fukayomi/ichiran/20170721-OYT8T50003.html>

- 授業は8時から2時半で、5時には帰宅
- 1クラスの生徒数は15～20人
- 部活動は無く、生徒は地域のスポーツクラブなどに通う
- 夏休みは2か月
- 職員会議 週1回1時間半 日常的に教師同士が活発に意見交換することで、他教科の授業内容が把握でき、教科横断的な学習に役立つ。
- 日本よりも学校の裁量幅が大きく、時間にゆとりがある。
- PISAの順位は中国やシンガポールの台頭で下がった。学習への意欲や関心は低い(日本と同様、成績の良い国に共通の傾向)。
- 課題解決力の育成を重視するプロジェクト学習のため、学ぶ知識の量は減らした。

14

最近私は金沢商業高校に行って大変感動しました。正直、他県の商業高校は進学校ほどじゃないけど、底辺校よりはできるということで、真ん中と一緒にされていますが、はっきり言ってここはズバ抜けてすごかったです。金沢商業高校が教えていることは、大きいテーマはこれら4つです。あとは高校のホームページを見てください。

- ①ロジカルシンキング・リテラシー ②プレゼンテーション・リテラシー
③シミュレーション・リテラシー ④コミュニケーション・リテラシー

ここでは何が目的かというと「高校3年間でビジネスパーソンとして完成させる」んです。これを見た瞬間ぼくは気づきました、灘も開成もごみだ。だって結局そこって事態を大学に先送りしているだけなんです。桜蔭高校を出ていきなり社会で働けますか、18歳で。ところが金沢商業高校は違うんです。大学の経営学部を出たくらいの力をつけて社会に出ていくことが目標なんです。なので企業からの金沢商業高校の評価は極めて高いです。単なる中の下ぐらいの生徒がくるんじゃないんですね。残念なんです、他の商業高校でこれだけでできているところはなかなか無いと思います。いままでだったら、ぼくはこういう高校の成功事例は長々と解説するんですが、今日は急ぐのですっ飛ばします。

次は近大付属高校です。ここでは4,000人の生徒全員にiPadを配ってまして、授業はみな反転学習です。動画で授業が終わっているので教室ではみんなで議論をやろうということです。素晴らしい取り組みなんです、大変残念なのは卒業生の6割は近畿大学に行きますので、近大に入っちゃったら、結局は昔ながらの講義中心の授業をやっている、ということになります(笑)。

進学校って基礎学力が高くて、能動的に学ぶ習慣がすでに生徒たちについているんです。それでアクティブラーニングが上手くいきましたというのは堀川イズムなんですね。

そうならないために、そこでいわゆるトップ進学校ではない高校での成功事例として、千葉県立袖ヶ浦高校(スライド18)にぼくは注目しています。就職や専門学校進学 of 生徒が多い高校で生徒たちがアクティブに学んでいる例です。成果が上がっているとされているんですが、先生が友達なのではっきり言いますが、進学実績が上がったわけじゃありません。アクティブラーニングをやって生徒たちが伸び伸びとしているからといって、ナントカ大学にいっぱい進学しましたというわけじゃない。もちろんそれが効力かという議論の余地がありますが、成果が可視化されているというかどうかはまだちょっとわからない。

(スライド18)

千葉県立袖ヶ浦高校

<http://pc.nikkeibp.co.jp/article/column/20140613/1133844/>



情報コミュニケーション科 永野直 教諭

①先生の言うことを聞いてノートを丸写しではなく、自分で調べ、まとめ、表現し、発表をする。

②生物 顕微鏡での観察結果をiPadカメラで撮影。クラウドにUPしてクラスみんなで見る。映像を編集し、スライド資料化して発表。授業内で動画撮影、教材制作をしていく中で、生徒同士が教えあう関係が生まれた。

③教え合い、学び合う、協働型学習が増加。生徒のアイデアが授業に反映される。社会科の授業では、自分で教材を作って、生徒が生徒に授業をする取り組みも行っている。

一番よくないのが、学校の先生が陥りやすいエビデンスで、エビデンスに疲れてしまって、何を持って効果があったかという「生徒たちの目が輝いている」というものです(笑)。これがエビデンス内容でしょうか。そしたらすごいエビデンスの大阪府立箕面高校(スライド19)が現れまして、偏差値トップ校ではないにも関わらず、1年で36人海外大学合格です。しかもそれがメルボルン大学やシドニー大学などの海外トップ校なんです。これはすごい高校が現れたと思ったんです。詳細は日野田校長が8月28日に著書を出しますのでそれをご覧ください。大阪ですごい成果を上げたんですが、このたび武蔵野大学中学高校に引き抜かれました。これからは東京で大暴れしていくのだと思います。なにをやっていたかはスライド19をご覧ください。もちろんこれを成功例としてほめちぎるつもりはなくて、重要なのは単なる「いい大学にたくさん進学させるのが偉い」を崩したことがポイントです。なんと補習を全部止めたんです、そして授業時間や行事を減らして成績を上げた。教員の負担を減らし進学実績を上げる。こんな高校は私はいまのところここしか知らない。

それこそ横浜翠嵐高校のように先生が自己犠牲をして生徒を東大に入れる、日比谷もそうですね。でもここはそうじゃないんです、働き方改革(スライド20)と進学実績の向上の両立です。先生方の学校の目指すべき方向はこれしかないです。なので上から降ってきたり、業者さんがやれて言うてくるいろんなもんを押し付けられたら、何かを止めてください。いまうちの高校でやっている何かを止める。もうはっきり言いましょう、スカートの長さを測るのを止める。時間が惜しいんです。大阪府立箕面高校は、なんと定期テストもマークシート導入で業務効率化ですね、あと英語はTOEFL準拠です。それから職員室はフリーアドレスで先生の机がなくなっちゃったんです。ま、私は個人的にはフリーアドレスは嫌いですが。

(スライド19)

大阪府立箕面高校

海外大学36名合格 2017年3月卒
(国公立53名、関関同立370名)

- ・補習全廃
- ・英語を中心に、論理的思考法の習得と他社理解に重点を置いた授業改善
- ・生徒が安心して発言できる場づくり
- ・大阪府「骨太の英語力養成事業」17校の一つ
- ・TOEFL対応授業、専任講師派遣、講義形式からスピーキングに比重
- ・英語圏の大学でも修学できる英語力養成、英語で自分に考えを述べられる
- ・「英語でロジカル、クリティカルな思考法を身に付ける」「他者理解」
- ・自分の考えを英語で述べる活動を繰り返す
- ・TOEFL対応授業では、クリティカル・シンキング、デザイン・シンキングなどの論理的思考法、マインドマップやTチャートなどの合意形成・意思決定のためのノートテイキング技法などを学ぶ。1年生の初めは英語を使わず日本語で思考法・技法のトレーニングを徹底的に繰り返す。
- ・授業は講義形式ではなく、インターナショナルスクールなどで行われているワークショップやアクティブ・ラーニングのスタイルで、生徒同士が課題解決について考える活動が中心。「教室は間違っても良い場、失敗を楽しもう」活発な議論。
- ・他教科の教師とチーム・ティーチング。国際バカロレアの指導方法を学ぶ。
- ・数学、国語、社会、美術、保健体育などでもこの指導方法をする。
- ・生徒との双方向な授業形態、「なぜ?」と問いかける。いつでも質問。
- ・希望者はハーバード、MIT、シリコンバレーに短期留学。現地ではプロジェクト学習。
- ・イングリッシュ・キャンプ ハーバードやロンドン大の学生が来て課題解決型学習
- ・生徒も教師もオープンマインドで語り合う雰囲気づくり
- ・1年生の英語 教科書を一読した後、文章の概要をイラストやマインドマップなどを使って表現し、それをグループで共有する。そして、他者の意見も取り入れながらサマリーを作成する。
- ・大勢の前で自分の意見が言える。論理的に考えて主張ができる。教師に授業改善案を提案する。
- ・教科間の壁を越えて自主的に授業を見せ合い、自由に意見を述べ合う

詳細は「箕面高校 平成29年度学校経営計画」で検索



日野田直彦 校長(現・武蔵野大学中高)

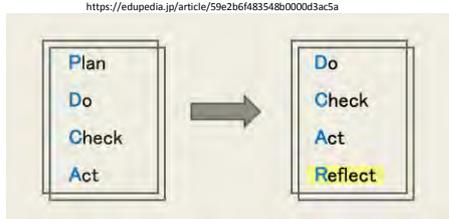


全教室の壁面がホワイトボード
(私服校)
(職員室フリーアドレス)

19

(スライド 20)

箕面高校の「働き方改革」



- 補習全廃、授業時間・行事の削減 成績向上
 - 1コマあたりの授業時間を45分→50分に変え、コマ数を減らす。全体の授業時間の大幅な削減。
- 定期テストにマークシート導入 業務効率化
 - 記述式のテストは授業内で行い、隣の人と採点
 - 定期テストは学習指導要領に書かれておらず、実施義務はない。
- 会議は全部職員室でオープンに
 - フリーアドレスで机に教材を積まない。先生同士が常時話しやすい環境に
- 改革は一気にやらず、ゆっくり順番に、議論して
- PlanよりReflect まず行動してみる

20

このようにさまざまな学校があります。理想としては能動的な学習習慣、自分の頭で考え、行動できる力を高校生に身につけてほしいんです。それで社会で重要な仕事につけるかどうかが決まるからです (スライド 21)。大学も同様で、自分で研究課題を見つけて、情報を集めて論文を書いて発表をする (スライド 22)。そういう人間を大学で育ててほしいんです。ぼくはこのために 20 年がんばってきたんですが、特に大規模な私立大学というのは構造的になかなか教育水準が上がらない、というのが大変残念です。

(スライド 21)

自分の頭で考え、行動できるかどうかで、 社会で重要な仕事に就けるかどうかが決まる (高校生編)



医療現場に携わる現役病理医や看護師が、生徒たちに講義やワークショップをする
広尾学園高校(東京都・私立)
<http://resemom.jp/article/2015/08/07/26214.html>

- ①新聞を読んで自分の意見を持ち、文章を書く。
- ②どうすれば試合で勝てるか、勉強が楽しくなるかを工夫する。
- ③将来何になるか→これからの世界はどうなるかを考える
- ④親や先生や友達と対話・協力する

能動的な学習習慣をつける

21

(スライド 22)

自分の頭で考え、行動できるかどうかで、
社会で重要な仕事に就けるかどうかが決まる
(大学生編)

出典 <http://www.als.co.jp/>

語学力と国際性はもちろん、
①自分で研究課題を見つけ
②情報を集めて論文を書き
③発表する。

アクティブ・ラーニング
問題解決型学習
熱心なゼミ・研究室の指導などの
「質の高い教育」が受けられる大学を選ぶ。

チームワーク、リーダーシップ、問題発見・解決能力などの

社会で必要とされる力をつける

22

でも日本でこんな風にのんびりやっているうちに、シンガポールの小学生がプログラミング、ロボット工学、バイオテクノロジー、3Dプリンター工作、資本市場と経済、起業家精神、交渉術、ディベート術などの起業家教育（スライド 23）をやっているわけですが、シンガポールどころではなくて、中国、韓国、フィリピンに日本はどんどん負けていくのではないかと感じます、われわれがのんびりしていると。今年の夏は暑くて岐阜県多治見市では日本一暑くて連日 40 度を超えているのにエアコンがゼロですから、対策は何をやっているんでしょうか、ホントに。

(スライド 23)

シンガポールの小学校

・小学校低学年から、

- ・プログラミング
- ・ロボット工学
- ・バイオテクノロジー
- ・3Dプリンター工作
- ・資本市場と経済
- ・起業家精神
- ・交渉術
- ・ディベート術



を学んでいく。

<http://www.mag2.com/p/news/119594>

2 アクティブラーニング（ブーム）はもう古いのか？²³

アクティブラーニングという言葉がみなさんの中では陳腐になって、もうブームが去っているということは、みなさんの中では薄々感じられていると思います。もううんざりですね、アクティブラーニングブームは。なぜならば、どうせ 1 対 40 で教室で、みんなが同じ教科書で、同じ時間割で、同じ授業をやるという体制が変わっていないからです。1 対 40 という体制を変えないで

アクティブラーニングをやっているからです。これでは、先生がどんどんアクティブになるアクティブティーチングにならざるを得ないんです。じゃあ何が切り札になるかという、正解があるとは私は思っていません。言われているのは例えばブレンディッドラーニング、それからアダプティブラーニング、ま、塾はこの世界ですね。そしてシアターラーニング、これは演劇教育です（スライド24）。こういったものが始まっています。

アクティブラーニングが成功しない大きな理由として、「Instructional Design (ID) インストラクショナル・デザイン（スライド25）＝授業設計」をしていなくて、アクティブラーニングを教室でやろうとっている、うまくいかないわけですね、元々の予習も知識も無しに議論だけやる、というのではうまくいくはずがありません。

去年やっていたドラマ『先に生まれただけの僕』では、この「インストラクショナル・デザイン (ID)」と「ペップトーク」というのがすごく取り入れられていました。ペップトークというのは、アメリカでスポーツの試合の前に監督やコーチが選手を励ますために行っている短い激励のスピーチですが、日本のいまのスポーツ業界と真逆ですね。日本のアメフトやボクシングの世界は早く何とかしてほしいです。

(スライド24)

アクティブ・ラーニング(ブーム)はもう古いのか

教室で1対40で、「みんなが同じ教科書で、同じ時間割で、同じ授業を受ける」時代の終わり。

ブレンディッドラーニング

講義型授業にオンライン学習を組み込む

生徒一人ひとりの学びが多様化する

アダプティブラーニング(適応学習)

個々の生徒の進捗に合わせ、学習内容や学習レベルを調整し提供

生徒の理解度や定着度によって、学年を問わない学習を行う

シアターラーニング

(スライド25)

インストラクショナル・デザイン(ID)

Instructional Design(教える行為 設計)

教育の場などにおいて、学習者の自由度を保ったままで高い学習効果が生じることを意図して、具体的な計画を立てること。

「何かをうまく教えるための技術と科学」早稲田大学向後千春教授「教科書と教室で講義しての理解は、もっとも効率が悪い」

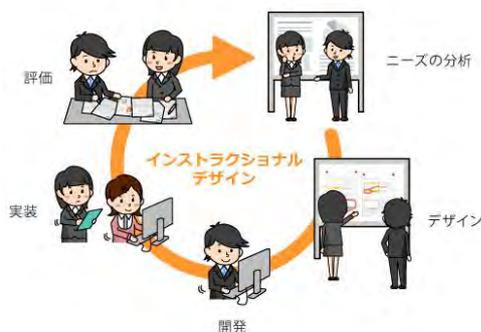
「研修は最もコストがかかる手段で受け身体質を助長しかねない」

「日常業務でチャレンジングな課題に取り組むことによって、知識やスキルを身につけられる環境があるのなら、研修は特に必要ない」

「どうしても研修を行うなら、講師が講義形式で教える従来型の研修ではなく、具体的な事例を使ったロールプレイングやディスカッションをとって、受講者が主体的に学ぶ「教えない研修」を設計することをお勧めします。講義型の研修は正解主義で、そのままでは実際の業務に役立てにくいことが多いからです。教育成果を出すには、できるだけ実務に近い環境を用意する必要があります。」

熊本大学 鈴木克明教授

<https://www.recruit-ms.co.jp/issue/interview/0000000521/>



<http://satt.jp/dev/instructional-design.htm>

ペップトーク

アメリカでスポーツの試合前に監督やコーチが選手を励ますために行っている短い激励のスピーチです。「Pep」は英語で、元気・活気・活力という意味。家庭で、職場で、教育現場ですぐに実践できる シンプルでポジティブな言葉を使ったコミュニケーション。(一般財団法人日本ペップトーク普及協会)

25

3 教育の主役は誰か

教育の主役は誰なのでしょう？ 大変申し上げにくいんですがこれまでは先生でした。だから私は先生が集まって教育を語りあうシンポジウムには行かないんです。だってそこには主役がないから。生徒がいないんですよ、それでバカバカしいと思って行かなくなりました。では今日はなんでここにいるかと言うと、私がしゃべるからです（笑）。

教える側が主役の教育（Teaching）から、能動的な学習者（Active Learner）が主体に学校は変わるべきだと思います（スライド 28）。もちろん、この能動的な学習者（Active Learner）は生徒だけではなく先生方ご自身でもあります。そして集団の教育から、個人の学習へ大きく世の中が変わっていきます。通信制の高校はまだ世の中の一般の高校から遠い世界ですが、カドカワがつくる N 高校とホリエモンの高校が現れたように、徐々に通信制の学校と通学制の学校はおそらく溶け合ってくるだろうと予測しています。「今日、私、学校に行きたくない」というのは、不登校ではなく代りにタブレットで参加すればいい、という時代がこないかなあと思っています。（スライド 28）

教育の主役は誰か

教える側が主役の教育（Teaching）から、能動的な学習者（Active Learner）主体へ

①一斉授業から、主体的、対話的で深い学びへ。

学習スタイルや学習速度の均質性を前提とした授業から、一人一人の学習者に対応した個別指導と、相互に協働し、学び合う教室運営へ。

②「学習する学校」

表面的にペアワークやディベート、ロールプレーや共同制作活動などを行ったとしても、学習者の能動性を引き出すことができなければ、「学習者が自ら主体的に学ぶ学習」（Learning）とはいえない。

教員の役割も、学校の役割も変化している。能動的学習者とは、教員自身でもある。

集団の教育 から 個人の学習へ

28

このような、先生方の取り組みを根底からひっくり返すような残念な話をしていますと、いろいろ胸にたまってくると思いますので 3 分ほど休憩にします。現時点での思いを話し合っただけならと思います。ではスタート。

友達と話す楽しい話の 3 分は短いんですが、つまらない話を聞いている 3 分は長いですね、ということのでつまらない話に戻ります。

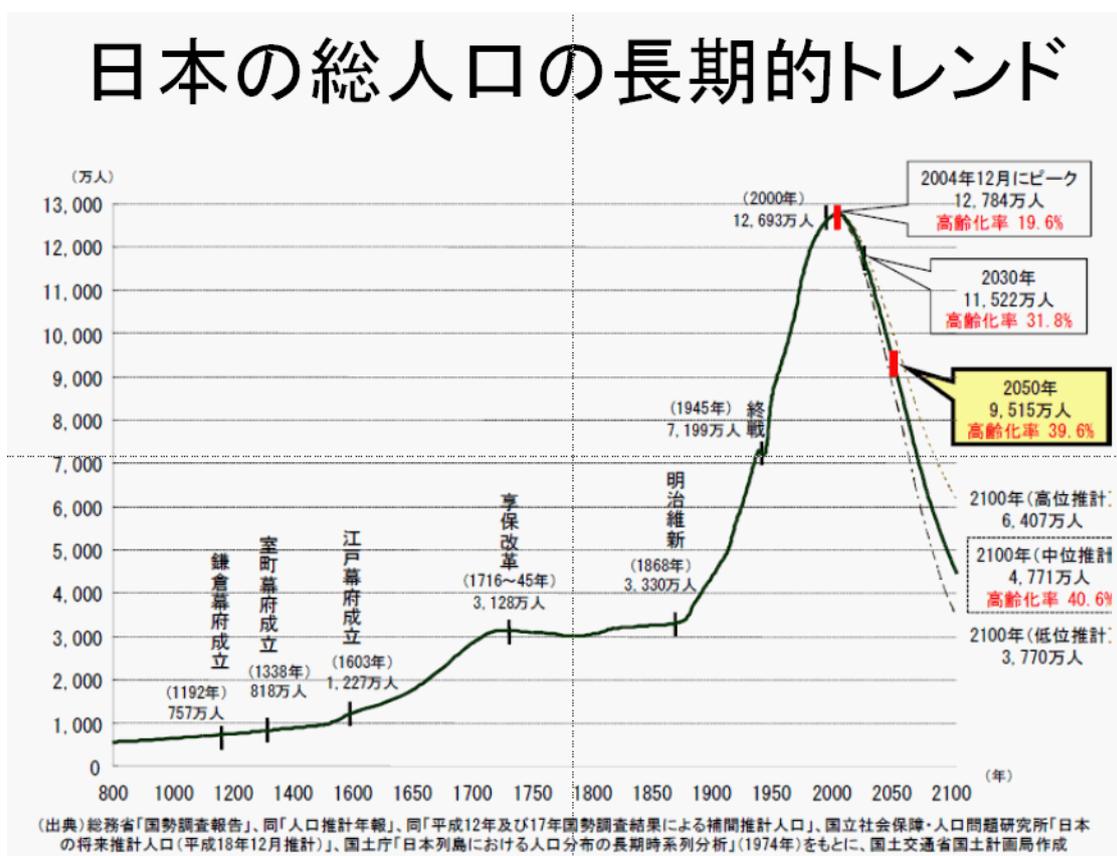
4 あのファミリー像はバブル期もの

ここからは私が普段高校生に話している内容になります。

高校生に話していることは、「みなさんがどういう時代を生きているのか」ということです。な

んと、平安時代の紫式部から高校生のお母さんたちまで、日本の人口は一貫して増えていました。たとえ戦争中であろうと。ところがいまの高校生たちからどんどんと人口が減ってきました（スライド 30）。すると何が起きるのでしょうか、今日働いている人よりも、10年後に働いている君たちの方がお客さんが少ないんです。どんな職業についてでもです。すると何が起るのか？給料が下がります。いまの高校生が約 2000 年に生まれてから約 15 年の間に、日本の会社員の平均年収が全体で 50 万円落ちています。これは同じ仕事をしているのに年収が 50 万円減ることなんですよ。

(スライド 30)



引用元 <http://webronza.asahi.com/science/articles/2012061100008.html>

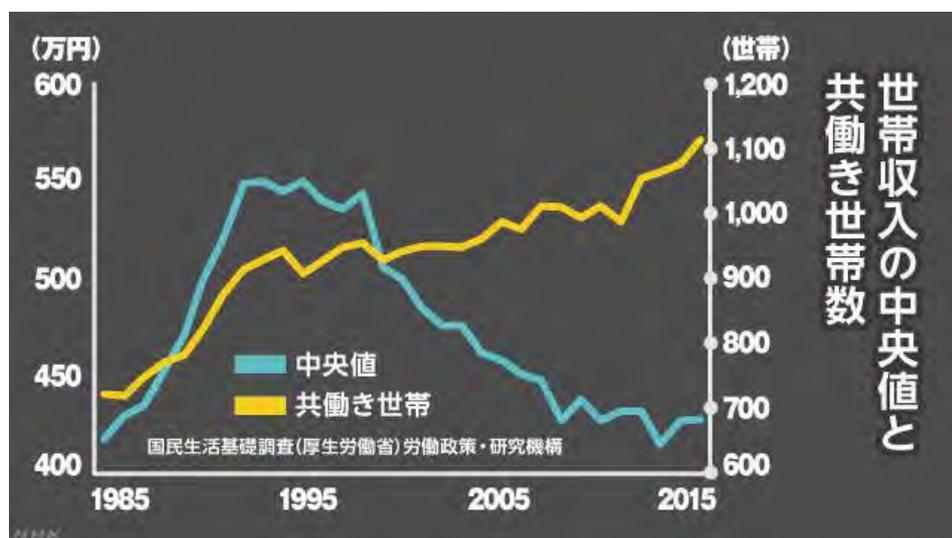
いま現在、日本の会社員の平均年収は 400 万円です。ところが、私が大学生を取材すると女子大生でこんなことを言う人が多いんですよ。「私、年収 1000 万円の男性と結婚して専業主婦になりたい」これを寝言と言います（爆笑）。あくまでも一般論ですが、専業主婦というのは夫の年収が 600 万円を超えていないと家計を維持できないそうです。専業主婦のお母さんが悪いわけじゃありません。でもいまの高校生が将来結婚するとき、専業主婦になりたい場合、年収が 600 万円の男性って現れるんでしょうか？ それは 25 歳から 34 歳の独身男性のわずか 3% って感じです。だから専業主婦になりたい女生徒さんにはこう言ってください「ああ、あなたは女子の上位 3% に入るのね」と。ミス上智になるしかないくらい、非現実的です。いったい何が起きているのか？

お父さんお母さんの時代だったら、男性は会社、女性は結婚したら仕事を辞めて専業主婦という働き方は普通と言われた時代もありました。しかし今日現在、専業主婦家庭と共働き家庭の数

の比較で、なんと共働き家庭が専業主婦家庭の2倍、それがスライド31の黄色のグラフ、そして足りない保育園、という状況です。

(スライド31)

共働きが増えたのに収入減



https://www3.nhk.or.jp/news/business_tokushu/2017_0925.html

31

なので、高校生のみなさんが見てはいけないTVアニメが4つあります。『ドラえもん』、『サザエさん』、『ちびまる子ちゃん』、『クレヨンしんちゃん』は禁止。なぜかはおわかりですね。全部お母さんが専業主婦だからです。この4つのアニメを見てはいけません。これは高校生たちが将来つくろうと思っている家庭の姿じゃないんですね。あれは遠い昔、昭和という時代の時代劇です(爆笑)。4つの中で一番新しいのは『クレヨンしんちゃん』ですね。いつ始まりましたか？ 1990年です。高校生はまだ生まれていない。でもここの会場のみなさまは何があった年なのかよくご存じです、そうですバブルです。『クレヨンしんちゃん』はバブル期の設定なんですよ。だからしんちゃん(野原しんのすけ)のお父さん、野原ひろし(のはら ひろし)の設定年収は600万円です。そして彼は高卒です。これが約30年前という時代です。そして30年の月日が流れ、当時5歳だった野原しんのすけさんは、今日33歳のおっさんです。その33歳のしんのすけさんの年収は、下がって、下がって400万円。いまの高校生が大人になるときはもっと下がります。脅しではありません。

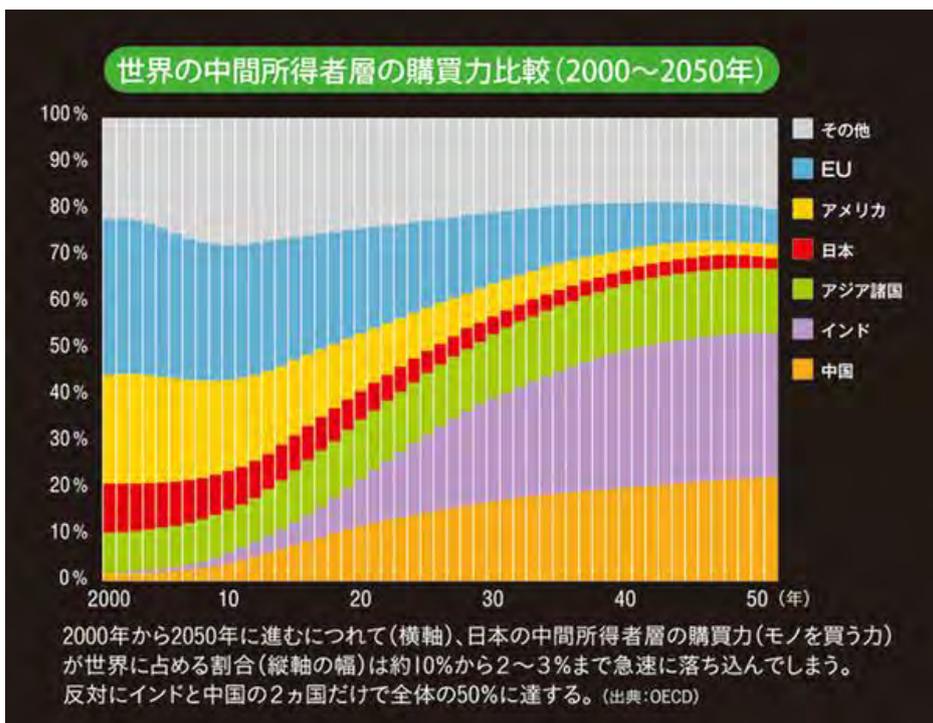
ではどうしたらいいんだろう、って話をこれからしますね。ま、これは厳密には経済に詳しい人にはいろいろと間違いを突っ込まれるんで話半分で聞いてください。

5 世の中には2種類の人がある、人を使う人と人に使われる人

ぼくは高校生に未来は明るいと言っています。それは2050年までに何が起きているかという(スライド32)、ヨーロッパとアメリカと日本は貧しくなるんですが、インドと中国と東南アジアは豊かになって、お金持ちになった人からどんどん日本に来てくれて、観光やビジネスをし

てくれる。だから実は客は増えるんです。豊かになったアジアの人がいっぱい来てくれる。だからぼくは高校生には、大学で勉強するとチャンスだよと言っています。ただしこれはピンチでもある。ローソンとユニクロは全世界から社員をとります。日本語ペラペラな大卒のミャンマー人が支店長レベルで採用される時代になります。なので、実は大学受験のライバルって隣の席のやつやよその高校じゃないんです。アジアの高校生なんです。ただし、アジアの高校生とみなさんの生徒さんには共通の敵がいる。それはAIです。

(スライド 32)



出典 <http://gendai.ismedia.jp/articles/-/35622?page=2>

世の中には2種類の人しかいない、人を使う人と使われる人です(スライド 33)。生徒さんたちは全員、人に使われる人になってはいけません。「何を言っているの?この人」とお思いでしょう。「会社に入ったら社長に使われるじゃないか」、確かにその通りです。でも大事なことは、「世の中は頭のいい人やお金持ちが動かしている、私たち下っ端は言われた通りに働けばいいんだという気持ち」はいますぐに捨ててください。

(スライド 33)

人を使う人

VS

人に使われる人



引用元 <https://www.borg.media/walmart-instore-drone-2017-04-04/>



ユニクロで考えましょう (スライド 34)。みんなユニクロっていうと、服を売っているところだと思いますが、そこで服を売ることだけを考えていればいいという店員さんだったら、一生バイトです。でもそれは望んでない生き方で、望みは違いますよね、ならばつまり、「お店が儲かることを考える店長」、「会社が儲かることを考える社長の気持ち」で働いてほしいんです。

全員社長になれとは言いません、ただ自分が店長や社長だったらどんな会社や学校や病院にしていきたいのか、っていうマネージメント、管理職の気持ちを持って働かなければ、「店長や社長の言うとおりに売ったらボーナス出るんでしょ」という人の仕事はもうありません。なぜならば、ユニクロは無人レジになって、人間は店長だけになるからです。黒ネコヤマトはドローンが運んできます。とうとう、はま寿司の受付はペッパーになりました (スライド 33) お寿司は勝手に回ってきます。もうお分かりですね、お会計もロボットになったら人間はいらないですね。(スライド 34)

UNIQLO ユニクロで考える

引用元 <http://www.uniqlo.com/jp/>

服を
売ることを
考える店員



← 労働
←主にバイト→

お店が
儲かることを
考える店長



技能

会社が
儲かることを
考える社長



知識 →

←主に正社員→

そしたら、「私のはま寿司じゃなくて、公務員か大企業に入るから」って言うんですね、その大企業こそヤバイです。今まで大企業に入った人って、偉い店長や社長がやれって言うとおりにやっていたら、ボーナスが出ていたんじゃないですか。でもベルコンペアーが下がっている、これからの時代にそれだと負けちゃうんですよね。要はいまの高校生がどういう状況かという、親や先生や先輩と同じことをしていたら、その親や先生や先輩より貧乏になります。というか、仕事が無いんです。どうすればいいのか。今日はその話をしに来たんです。

6 自分株式会社の社長、自己管理能力

まず高校生は、将来働くということを「労働を提供すること」だと考えてはいけません。それだったら労働を提供するロボットや、東南アジアからの安い賃金で働く人と競争になってしまいます。だから、労働だけで考えるのではなくて、「何を提供できるのか？」というときは、「技能と知識」です。そこで店長や社長の能力を高校や大学で身につける。

けれども、みんな勉強が嫌いなわけですよ。「勉強しろ、勉強しろ」って親や先生に言われるんだけど、家で勉強しようとする「ついスマホ、食べる、寝る」、それもわかります。でもこれって何が足りないからでしょうか？ やる気？ 違います、「自己管理能力」です。

「自分株式会社の社長は自分なんですよ」というのを普段高校生に話しています。社長が自分

なのに従業員がさぼっていたら会社は潰れますよね。ところが多くの高校生は誰かに管理されないと勉強も仕事もしないんです。大変申し上げにくいんですけど、こういう人は将来どうなるでしょうか？ 誰か偉い人に安くてきつい仕事で使い捨てにされます。だからこんなに賃金が下がったり、過労死しているんです。申し上げにくいんですが、世の中は「自己管理能力がある人」が「自己管理能力がない人」を使っている状況です。このことに高校生に気づいてほしいんです。全員に社長になれとは言いません。でも安くてきつい仕事をやりながら、誰かに使われているという感覚はちょっと持ってほしいですね。自分の頭で考えて、道を切り開いてほしいんです。私はそう考えて3回転職しました。持ってほしいのは「マルチスキル」です。

(スライド 35)

自己管理能力の問題

家で勉強しようとする、
・ついスマホ ・食べちゃう ・寝る

「自己管理能力がない」

誰かに管理されないと勉強も仕事もしない人は、
偉い人に、安くてきつい仕事で使い捨てにされる人間に。

自分株式会社の社長は、自分自身！

35

7 文系理系分けをしないマルチスキル

日本の大学が良かれと思って提供している教育は 40~50 年古いんです。特に、英語学科に入ったから英語の専門家、建築学科に入ったから建築の専門家という学部学科の枠が古いんですね。時代はマルチスキル (スライド 36) です。いくつもの武器を持つこと。例えば人工知能をやりたければ、ロボットと IT をやる。データサイエンスだったら、統計学知識とコンピュータサイエンスと分析力とマーケティング。文系、理系って関係ないです。とうとう政府も「文系と理系」という分け方を止めようと言いはじめましたが、ご存知のように高校ではきっちりわかれています。なのでこれをそろそろ何とかしないとイケません。何でそうなってきたかという、例えば「私立文系で法政大学経営学部に入って、銀行に入りました」というと、サクセスストーリーですね。この人はゼネラリストとして養成されたサラリーマンなんです。いままではそれでよかったんですが、でも、高度な専門性知識を必要とする知識社会からは脱落します。

そこで「マルチスキル」です。英米文学科とか、産業能率大学だったら経営学部に入ったら、「経営学科を出ました」だけではない、さらに何かを得てほしいですね。この前名古屋のイオンモールに大変美しい女性が一日警察署長というイベントで来ていましたが、なんと彼女はコスプレイヤー、グラビアモデル、現役看護師の 3 つの仕事をやっていました。ぼくも講演とコンサルと文筆業をしている、なので星野 源 (音楽家で小説家で俳優) さんみたいです (笑)。彼は歌も歌える、小説も書ける、役者もできる。生徒さんにはそうしてほしいです。だから生徒さんが「先生、私これにもなりたい、これにもなりたい」と言っていたら、「両方やりなさい」って言ってください。看護師志望の人は多いと思いますが、単なる看護師だったら 150 万人もいますから、そうではなくて「コレコレができる看護師を考えたらどう？」という話をしています。

(スライド 36)

マルチスキル



<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000166.000008738.html>

橘 玲 @ak_tch

「ゼネラリスト」として養成されたサラリーマンが、高度な専門性を要求する知識社会から脱落しつつある。

【AI(人工知能)技術者】
ロボット工学×IT技術×語学

【自動運転の技術者】
自動車エンジニア×情報通信×語学×プロジェクト
マネジメント能力

【データサイエンティスト】
統計学知識×コンピュータサイエンス×分析力×
マーケティング

【語学とファイナンスの知識を有する弁護士】
法律×語学×ファイナンス

【FP&A (ファイナンシャルプランニング アンド アナ
リスト)】
財務・会計×経営上の管理会計と分析

【メディカル・サイエンス・リエゾン】
医学×語学×コミュニケーション能力×マネジメント
能力

例えば、IT 関連求人に含まれる言葉 (スライド 37) として、ブロックチェーン、AI、自動運転、フィンテック、サイバースキルとかを聞くと、「こんなのってコンピュータが好きなやつだけが知っていればいいんでしょ」とみんなが言うので、ぼくはこう言います。「こういう言葉はいまや保育士だって知らないとかだめだよ」と。文系・理系とかはいまや関係ないんです。人に使われて安い賃金で終わるんじゃなく、自分の頭で考えて行動して働いていくためには、世の中を動かす側が使っている言語を知っておくべきなんだよ。こう私は思っていて、特に保育士は放っておくと待遇が悪いですから、自分で考えて状況をよくしていける力、それを働きながら身につけると言うよりは、高校・大学で基礎をつけてほしいと思います。ですから、みなさんもうご存知のように「能動的な学習」なんです。

(スライド 37)

求人検索エンジン「スタンバイ」で実施した IT関連求人の動向調査の結果

<http://www.atmarkit.co.jp/ait/articles/1806/01/news068.html>

求人に含まれるキーワード	前年比 (求人数)	求人数	最高提示年収
ブロックチェーン	4.2倍	1099件	2200万円
AI/人工知能/機械学習	2.2倍	19959件	4000万円
IoT/M2M	2.1倍	17660件	4600万円
自動運転	2倍	5806件	2100万円
フィンテック/FinTech	2倍	3459件	4000万円
サイバーセキュリティ	2倍	1481件	3000万円
ロボット工学/ロボティクス	1.8倍	1372件	2500万円
AR/VR/拡張現実/仮想現実	1.6倍	5178件	2499万円
データサイエンティスト	1.6倍	3136件	3900万円
データアナリスト	1.5倍	1380件	2000万円
ビッグデータ	1.4倍	8202件	3900万円
情報セキュリティ	1.4倍	4838件	3900万円
画像技術/画像処理/コンピュータビジョン	1.2倍	8495件	2000万円

「スタンバイ」掲載求人のうち、以下のキーワードを含む求人の前年比 (求人数)、求人数、最高提示年収 (出典: ビズリーチ)

8 能動的学習

①自分から進んでやる楽しい勉強の習慣

「能動的学習」というときに重要なのは、ほとんどの高校生は学校の勉強を嫌々やらされています。でも、自分から進んでやっていることは楽しそうですね。彼らは Tik Tok をやったりしていると楽しいわけですが、ぼくはあれが何が面白んだか全然わかりません。私も 40 歳、とうとうおいていかれました。仕事も同じなんですけど高校生で言えば勉強ですね、「やらされる勉強」じゃなく「自分から進んでやる勉強は楽しい」のです。仕事も同じです。このままでは高校生はいつか「やらされる仕事」にたどり着いてしまう。高校時代、大学時代に自分から進んでやる楽しい勉強の習慣をつければ、自分から進んでやる楽しい仕事に出会えるはずなんです。

じゃ、どうすればいいのかってことで、英語の 4 技能「よむ、かく、きく、はなす」ですが、はっきり言って、これは英語以外の科目で使えますよね。英語以外の先生全員にこれを覚えていただきたいです。

すなはち、いままでわれわれは「よむ、かく」の勉強ばかりやっていたんですよね。本を読む、テストで書く。だけど、「きく、はなす」の勉強を高校でやってほしいです。あるいはご家庭でもやってほしい。保護者の方にやってほしいですね。「子どもは塾にいけば勝手に大学に入るんでしょ、親も忙しいし、いまどき親子で会話はしないよ」って言うんでしょうが、そうじゃないんです。「きく、はなす」の勉強は実は家庭でできるんで、大学受験は保護者の役割が極めて重要です。

いままでぼくたち、ずっと教育っていうと先生が話すことを「黙って聴く」ものだと思っていました。もちろんそれは大事なんです。でもこの「聴く」は「よむ、かく」の勉強法（スライド 41）に含まれます。でも高校生には「『きく、はなす』の勉強をするといいよ」という話をしています。「誰かと話したり、人に教えたり、一緒に学ぶ」という勉強をしてほしいですね（スライド 41）。

もちろんそれは先生方の普通の授業の改善に含まれるんですが、まさにここに私たちが、「先生や学校が良かれと思っていっぱい提供したら生徒は伸びるという魔法」にかかっています。本当に重要なのは、ご家庭での授業外学習です。アクティブラーニングとか授業法を改善するときには、「生徒が家で勝手に能動的に学び、そこに保護者が協力してくれる体制」をつくった方が、生徒は学ぶし、みなさんも早く帰れる、というメリットがあります。

(スライド 41)

教育から学習へ



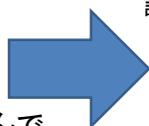
<http://blog-imgs-19.fc2.com/a/t/a/atamatote/umeda05.jpg>



<http://www.kokuyo-furniture.co.jp/products/public/piatto/>

黙って聴く

- ①先生が出した
- ②正解のある問題を
- ③出題者の意図を読んで
- ④効率的に解く



誰かと話す、人に教える、一緒に学ぶ

- ①自分(たち)で探した
- ②正解が(まだ)無い問題を
- ③みんなと協力して
- ④試行錯誤しながら解く

よむ、かく

きく、はなす

41

大坂府立箕面高校 (スライド 19) で補習を止めたというのは、結局補習をやらなくても学習習慣がついているからで、勝手に家で勉強をするんです。「どうせ塾に行ってるんだらう」ということを言う方もいましたが、塾に行っていたら海外大学に 36 人も合格できません。

というわけで、そろそろみなさん、黙って聴いているのはうんざりしていると思いますので、「誰かと話す、人に教える、一緒に学ぶ」をやってみましょう。いまからクイズを出しますので、テーブルごとに 1 分間、話し合ってください。

クラスに一人はこういう生徒がいるはずですよ「先生、私アニメの声優になりたい」。夢としてはいいですよ、でも現実はどうでしょうか。ここでみなさんに問題です。

「声優が本業で、ちゃんと食べていける人は日本全国で何人でしょうか？」

1 分間話し合ってください、用意スタート。

(1 分間話し合い)

では手を挙げる人を 10 秒で決めてください。

はい、では「声優で食べていける人は日本で何人か?」、答えたい人手を挙げて。はいどうぞ。

「0 人」。(爆笑)

「20 人」。それだとサザエさんだけで終わりですね。はい、次の方どうぞ。

「100 人未満」。えーと 100 人よりは多いです。もうひとつどうぞ。

「300 人ぐらい」。正解! 拍手~!

『ルパン 3 世』で石川五右衛門役など多くの人気作品のキャラクターを演じている売れっ子声優の浪川大輔さんが、テレビ番組で「だいたい 300 人」だと言っていました。声優志望の生徒さんには「声優で食べていけるのは 300 人だよ」と教えてください。ちなみに「職業 声優」と登録している人は 1 万人いるそうです。アニメ専門学校の卒業生は 1 年で 3 万人です。みんな何になるんでしょうね (爆笑)

さて、ただいまほんの少しの時間ですが、「黙って聴く」だけではなくて、「誰かと話したり、

人に教えたり、一緒に学ぶ」という体験をしていただきました。ただし、今日は時間がないのでたまたま正解がある問題でした。でも生徒さんは将来社会に出ると、もちろん正解がない問題に挑むわけです。ぜひこういうことを取り入れてほしいと思います。

②世界は理系が有利か？

ここでまた夢のない話をします。私は世界中へ行ってきましたが、そこで世界は「理系有利」だという話をします。まあ文系の人にもちゃんとフォローしますので。さてこの写真（スライド42）は何でしょう？ 答えは、日本がエジプトにつくった橋です。

時々こういう生徒がいます、「私、英語が得意だから英語学科に行く」。まあそれもいいでしょう。でもちょっと考えてください、「英語がペラペラな人」と「英語がペラペラで、橋がつかれる人」ではどっちに仕事があるのでしょうか？ 英語学科に行くなどは言ってません。でもいまの日本の進学事情で蔓延しているのは、英語の得意な女子がいるのは国際なんか学部ばかりです。そしてよく見てください。彼女たちは専門的な職業にホントに就けていますか？ 国際教養大学の卒業生の就職の50%は製造業です。おかしいと思いませんか？ 要はこれって、語学要員でとられているだけなんです、あきらかにノンキャリアです。みんなが褒めている大学は疑ってください。国際教養大学と立命館アジア太平洋大学と金沢工業大学、みんなが褒めているところには何かあるんですよ。もちろんいい点もたくさんあるんですよ。いい点もたくさんあるんですが、何か課題もあるんですよ。疑った方がいい。

（スライド42）

世界は理工系が有利に？

専門性
論理的思考力



http://www.kougiken.jp/12_shashinkan/cg/shashinkan.cg?no=582

高付加価値の仕事ができる



「あなたは、何の技術を持っていますか？」

ということで、文系理系を問わず、高度な専門性と論理的思考力のある、高付加価値の仕事ができる人間になってほしいですね。別に私は英語学科に行くなどは言ってないです。さらに中国語ができますとか、貿易が詳しいですとか、マレーシアに留学したからイスラム教徒の友達がいっぱいいますとか、なんでもいいからそういう付加価値、マルチスキルをつけてほしいですね。特に文系志望の生徒にはこれをしっかり言うておかないと、本当に危険です、これからは。

基本的にぼくは、普通科高校から私立文系という進路はもう出口がないと思っています。じゃあ、それを前提にして、どうしていったらいいのかということは、先生も生徒も保護者も一人ひとりが考えていくべきことです。

理系が恵まれているのは、やはり学んだ内容と職業がつながっていく傾向がまだあるんですよ。

問題は文系なんです。歴史学科を出ても「織田信長株式会社」はないですからね。あったとしても本能寺で潰れますね（笑）。だから、文系の人に言っているのは、職業に直結しない学科の場合は、入りたい会社と自分の学んだ学科との整合性をつけていくべきなんです。

例えば歴史学科で歴史を学んで、銀行に入りたいとします。「私、銀行に入りたいです」。そのとき銀行はこう言うでしょう。「信長が何の役に立つのか?」と。そのとき「役に立ちません」と言ったら入れませんよね。だから説明ができること。「私は歴史学科で信長を学んだことで、こんな力がつきました。だからおたくの銀行でこんな風に役に立てるんです」という風に、ちゃんと説明ができる「芸人力」、これを生徒たちにつけていただきたいと思います。

③大学ではグリーン車に乗る

新幹線にグリーン車があるように、大学にもグリーン車があります。どんな名門大学でも合格したことに満足して遊んでいる人が山のようにいます。ただし、一部の人は一所懸命にやっているんですね。例えば公務員試験合格をめざしている人だけが集まって公務員講座を受けたり、英語が得意な人だけが集まって、猛勉強して海外留学しています。なので生徒さんが進学するときには、「あなたは大学に入ったら、グリーン車に乗りなさい、明治にも法政にもあるでしょう」と。「一部で一所懸命に勉強しているいい仲間や、優れた先生を自分で探してそういう人と付き合うように（スライド 44）」というのは、どうしても申し上げたい。遊んで、サボって、バイトしているっていう人がいっぱいいます。でもそういう人たちは自由席のお客様なんで、就職のときは指定席がない可能性があります。産業能率大学のような小規模大学のメリットは、全席グリーンである、ということかもしれません。

(スライド 44)

「グリーン車」に乗る



<https://www.jr-odekake.net/shinkansen/comfort/nozomi/>

英語授業
資格
就職支援
海外留学

ボランティア
恩師
小規模
面倒見



恐ろしいことに、東北大学にも自由席がございまして、東北大学は高校の先生から異様に評価が高いんですが、学内アンケート調査によるとなんと東北大生の6割が1日1時間以下しか家で勉強していません（スライド 45）、本当です。ぶっちゃけ東大も京大も似たようなものです。ど

うしてこの日本一頭のいい人たちは大学で勉強しないんでしょう？

(スライド 45)

東北大学では



画像引用元 <https://www.tohoku.ac.jp/japanese/profile/campus/01/access/>

自宅学習 57.6%が**1日1時間未満**
 論文執筆 64.4%が**1日に0分**
 読書 80.6%が**1日に1時間未満**
 教員と話す あまり話をしない・まったく話をしない **51.1%**

45

いろんな理由はあるでしょう。でも私はこう思っているんですよ。大きな理由は「親と先生と塾が、やれって言った受動的な勉強しかやってこなかった」ということです。でも、大学はそういう場じゃありません。バイキング料理を食べるように、「自分の好きな勉強を好きなだけやりたまえ」というのが大学です。ところが、「親と先生と塾にやれって言われた受動的な勉強だけをやってきた人」は大学で自由になると勉強をやらなくなる。これではダメだ。そう、言われたことだけやる社員なんです、これじゃ、日本沈没ですね。

東北大学の全員がダメとは言っていない、残りの4割は言われなくても勝手に勉強するんです。そういう人の中からノーベル賞をとったり、何かを発明したり、潰れそうな会社を立て直す人がでる。「高校生は全員そっち行かないとだめです」ということですね、「えー、まだやりたいことがわかんねえや」と。それはわかります。やりたいことがわからない人にアドバイスです。自分がやりたいことで将来を考えるのをやめてください。

④やりたいことがわからない

いまどきの親や先生は優しいです。「あなたが行きたい学校に行っていよいよ」、「やりたい仕事をやっていいのよ」って言うからわからなくなっちゃうんですね。「やりたいこと」と「自分ができること」と「社会が求めていること」の3つで考える (スライド 46)。

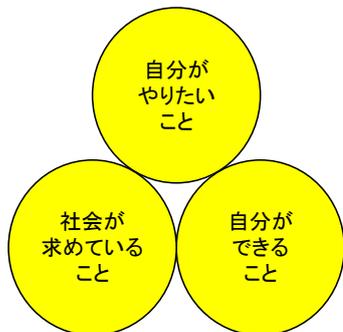
先ほどの「アニメの声優」は自分がやりたいことです。でも社会は求めてない、なぜって全国で300人しかいないんですから。「本当にできるのかな」って考えるんですね。ぼくはこう言っています。売れっ子声優の上坂すみれさんは上智大学のロシア語学科卒です。すると何ができるでしょう？ ロシア人の役ができる。ここに付加価値がある。これはあくまでも一つの例です。では看護師。150万人もいます、社会が求めています。だけど、本当にやりたいことですか？「女子の職業で看護師は給料高いらしいよ」という気持ちで人の命が扱えるのでしょうか？ 看護師は

社会が求めている、だけど本当にやりたいことなのか、「できるかな?」と考える。やりたいことがわからない生徒さんにはこれをぜひ親子で話し合ってくださいといいかなと思います。

とは言っても、なりたいことの一位はアンケートを取ると **YouTuber** ですからね (笑)

(スライド 46)

やりたいことがわからない

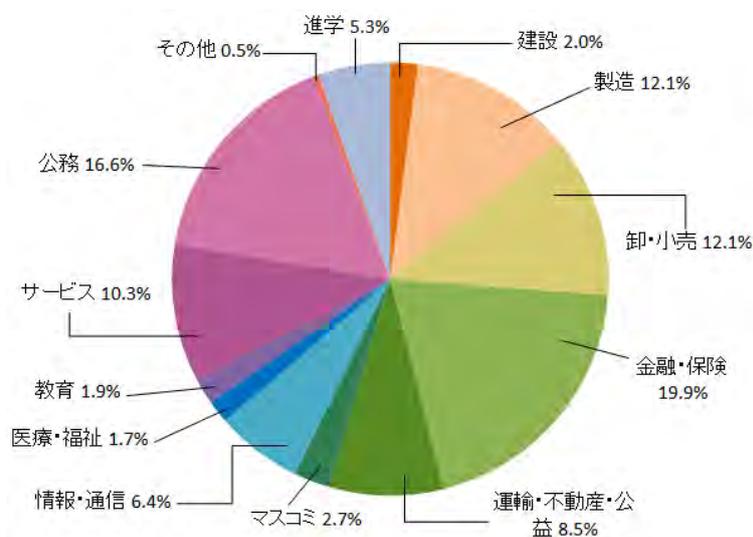


46

いろんな大学を進学先として観るときに、先生方に意識していただきたいのは、単なる大学名ではなくて、「その大学を出ると本当は何になっているのか」、というところです。意外にみなさんご存知ないです。例えばこれは名門法政大学法学部の就職実績です (スライド 47)。みんな法学部っていうと、公務員か弁護士っていうんです。大嘘です。公務員は2割を切っています、弁護士はその他です、ほとんどいない。法科大学院進学も約5%です。実際にはいろんな職業に就くんですね。そしてこれは恐ろしいほど、就職先は偏差値順です。やはりその実態は知っておいてほしいですね。こういった就職データを見ると予想と違いますよと。

(スライド 47)

法政大学法学部の就職実績



17

某外国語大学は、「航空・ホテル・旅行業界」の宣伝ばかりしていますが、実際そこに行っている人は「あれ、こんなに少ないの」みたいな感じです。もちろんぼくは偏差値を否定しませんから使っていいんですが、「その大学を出ると本当は何になっているのか」、特に地方に新しくできた公立大学の中には、はっきり言って都会の私立より就職が悪い大学が混じっていますから、なんでも地方国公立に放り込めばいいというものでもない。ちょっと悩ましいですね。

⑤いますぐ、できること

この項目で終わりです。

いますぐできることは3つあります（スライド48）。①「制服で宿題をやる」。これは岐阜県の高校で聞いたんですが、家に帰って制服を脱いじゃうと気持ちがゆるみ、すみやかにスマホ。冷蔵庫に首を突っ込んだまま出てこない（笑）。そこで先生が言いました、「君たち今日から家に帰ったら、30分は制服のまま勉強してみたまえ。30分勉強したら、着替えて、スマホで遊んだり、冷蔵庫に住んでもよろしい」と言ったところ、みんなちゃんと勉強してくるようになった。

はい、これを2学期からやらせてください。ただし、先生に言われてしぶしぶやっていたら受動的学習です。自分の意志でやる能動的学習に誘導してほしいですね。だいたい高校生は、部活が終わって、塾が終わって、帰ってきたら即カレーでしょ？ お腹がいっぱいになると脳の命令は胃にいつちゃうと言われてます。食べたものを消化するためです。だからお腹がいっぱいで勉強できるはずがないので、「家に着いたら即カレー」ではなくて「15分か30分間勉強してからカレー」。

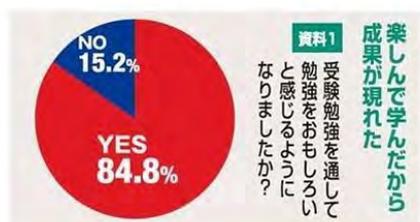
次は②「15分勉強法」と言ってますが、だいたいこういう子がいるんです。「部活が忙しくて勉強できません」。それはウソです。勉強したくないことを部活のせいにははいけません。忙しいのはわかります、工夫してください。人間の集中力は、せいぜい15分しか続かないと言っているお医者さんもいます。だからテレビ番組って15分でCMなんですね、今日の私の講演も15分間隔で話し合いました。実はこれはみなさまの集中力が途切れることを前提にしたCMの時間だったんです。よくできた講演ですねえ（笑）。というわけで、時間が無い方、集中力がない方、高校生は、「とりあえず15分だけやったらどう？」と。朝起きて15分、電車に乗ってる15分、家に帰って15分、寝る前の15分、はい、1時間できました。たった1時間？ いいえ、東北大生よりも多いです、自信を持ってください。これを積み重ねて学習時間を確保してほしいですね。

最後が一番大事な③「好きになるように工夫する」です。東大現役合格者の84.8%が「受験勉強を面白いと感じていた（東進アンケート）」というのが東進の宣伝にあるんですが、いやいやしぶしぶやったんじゃないんですね。もはや、われわれの受験戦争のときとは違うんです。今の高校生は自ら工夫して面白いと思えるように、自分で能動的に学んでいくっていうのが、実は勉強において成果が出てくるんじゃないか、ということです。

(スライド 48)

今すぐできること

Reser/Mom



- ①制服で宿題
- ②15分勉強法
- ③好きになるよう工夫する

東大現役合格者の84.8%が
受験勉強を面白いと感じる

(東進アンケート)

http://www.toshin.com/news/topic/1404_16.php

48

今から 40 年前、まだ生まれていないみなさんも多いと思いますが、当時世界は将来どうなると思われていたのか？ (スライド 49)。

- ・食料生産が人口増に追いつかなくなる
- ・米ソの核戦争が起きる
- ・サハラ砂漠が拡大し、アフリカは停滞
- ・衛生環境の悪化や未知のウイルスの蔓延

人類滅亡って言われていました。ところが 40 年後、そうはならなかったんですね。

- ・食料生産は 2 倍になり大規模飢饉減少
- ・米口の核兵器は 1/5 に減少
- ・アフリカが世界の次の成長センターに
- ・世界の平均寿命は 59 歳から 70 歳に伸びた

今や世界の平均寿命は 70 歳なんですよ、これはすごいことですよ。これは勝手にこうなったんでしょうか？違いますね、誰かががんばったんです。医者なのか、政治家なのか、経済なのか、農業なのか、いろんな人ががんばって世界はちょっとよくなりました。これは何も偉い人たちががんばったんじゃないありません。がんばったのは、みなさんです。みなさま方が学校を出られて、あるいは保護者の方が社会で、職場で、ご家庭で、世の中をよくするために一応みんながんばった結果、世界はちょっとよくなりました。でもまだまだですよね。戦争は無くなりません。治らない病気もあります。何より日本はこのままだと人口が減って沈没です。このピンチばかりの世の中で、ぜひ親子で話し合ってください。

「ぼくが、私が、これを学ぶことで、この職業に就くことで、世界がちょっとよくなるぞ、それは何だろう？」ということを生徒さんの進路選びで考えてほしいと思っています。

(スライド 49)

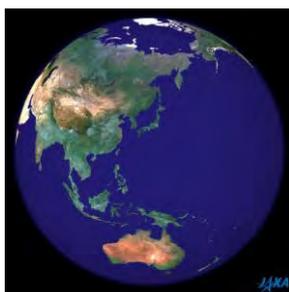
未来には希望がある。ただし、主体的に学べば。

<http://berd.benesse.jp/magazine/opinion/index2.php?id=4391>

40年前の将来予測	現在
食料生産が人口増に追い付かなくなる	食料生産は2倍になり大規模飢饉減少
米ソの核戦争が起きる	米口の核兵器は1/5に減少
サハラ砂漠が拡大し、アフリカは停滞	アフリカが世界の次の成長センターに
衛生環境の悪化や未知のウイルスの蔓延	世界の平均寿命は59歳から70歳に伸びた



http://kens_asia.blogspot.jp/2011/06/blog-post.html



<http://www.eorc.jaxa.jp/earthview/2005/tp050603.html>

49

9 問題提起

なんで高校で授業改革が進まないんでしょう？（スライド 50） 正解をバーンと出すつもりはなくて、私も一緒に考えたいと思っています。

私が普段高校を講演で回っていてどうしても不満なのは、先生方がまったく SNS をなさっていないので、名刺交換をしてフェイスブックに名前を入れると誰も出てこないんですね。結局大人たちが、SNS が登場したときに Twitter や Face Book は危険だ、怖い、危ないといった結果、子どもたちはすっかり Twitter はやらなくなり、匿名で見たり、あとは You Tube を観たり、Tik Tok を使ったりして、SNS は閉鎖的な方向に逆走して悪い方に向かっているというのが、ぼくが最近の高校生のように見て感じていることです。なのに、オンラインポートフォリオはやれっと言うんですよ。ここは笑うところですよ。

先生方は決して県や学校の部品じゃないんで、福澤諭吉が「一身独立して一国独立す」と言ったり、夏目漱石は『私の個人主義』という名著を書いています。私たち一人ひとりが精神的に独立する。日本は大学からして国家から財政的に独立できないから、補助金の不祥事がいっぱい起きるんですね。ハーバード大学は財政的にアメリカ政府から独立しているからトラブルにならないんです。我々一人ひとりが社会や学校のいち部品じゃなくて、独立して自分のメディアを持つべきだと思っています。みなさんは部品ではありません。で、学校単位で会話をしない。なぜってすぐ転勤になるからです。「私やぼくが、働きやすい楽しい職場や授業づくり」、それで、生徒や社会が幸せになっていく。基本的には「先生がいい教育を提供して、子どもが伸びました」、というのはちょっとストップ。子どもは勝手に育つんじゃないのかなと。なぜなら私の息子は私の言うことを一切聞かれません、常に。どの学校に入れだの、あの仕事に就けだの、もう一切諦めました。何も聞いてくれません。というあたりを踏まえて、今日は正解があるというよりは、「なぜ進まないのかということをもみんなで考えていきたい」というのを私からの問題提起ですので、

たつぷりとシンキングタイムということで、いったん講演はこれでお終いです。ご清聴ありがとうございました。

質問タイム 実践ロイロノートを使って

質問1 なんで自己紹介がこの写真なんだ？

これはスーパーで息子のベビーカーを押している写真ですが、これは「イクメン」アピールです。普段、高校生や保護者にとってはインターネットでの接点がないので、ぼくがどこの馬の骨なのかわからないんですよ。プライベートがわからない。それって興味が湧いて、結婚してるの？子どもいるの？と思うじゃないですか。だけど直に聞けません、だからこうして始めから子どもいますよとアピールしてます。僕自身フリーランスで働いていて一番怖かったのは、「このまま40歳、50歳になって独身で子どもがいないと、保護者の信頼が得られないんじゃないか」ということでした。「偉そうに大学受験を語ったけど、おまえは50歳で独身じゃないか」と。そういうのが個人的に心配で、がんばって婚活をしましてなんとか結婚して子どもを持ちました。

この写真を自己紹介に使っているのは、保護者に「家庭を持っています」というのをアピールするためにベビーカーの写真にしたというわけです。

質問2 芸人かって、どうしたら身につくんでしょう？

実は今日ぼくがやったのは講演じゃないんです。講義じゃありません。これは演劇でした。実はみなさまは、ぼくがしゃべった内容だけに注意しているのではなくて、非言語の動きも見ているんですね。どうして偉い人の講演がつまらないかという、演台の後ろにいるからです。そうすると上半身しか見えませんし、体が動きません。すると、動きがないから内容がよくてもみなさんが寝ちゃうんですよ。そこで私はどうしたらいいのか考えました。劇団四季、宝塚、市川海老蔵、美輪明宏、志村けん、吉本などのいろんな演劇の舞台を観て、その動きを取り入れて、生徒が寝ない講演をめざしているんです。

これは別に先生や芸人さんだけが持つべき能力ではなく、生徒さんはこの能力が全員必要です。なぜならば、生徒さんは将来、お客様に物を売る。上司や取引先とやり取りをする。患者さんや保護者と話しをしますよね。そのとき相手が求めるのは素の自分なんかじゃありません。きちんと相手に意志を伝えたり、相手の話を聞く人。このときに芸人力が必要。なので私は高校生に、演劇を観に行くのもよいし、You tubeで演説のうまいアメリカ人の動画を見たっていいんですよ、その面白い動作や動きをまねて、自分が講演をしたり、人に話すときに取り入れる。そういうことをやることで演劇力をつける。これを生徒さんも先生方も意識してほしいと思って「芸人力」という言葉を使って話をしています。

質問3 先生への講演依頼はどうしたらいいんでしょう？

直で私にメールをいただけたら対応します。おかげさまで年間 150 校ほど講演していき、さっき確認したら今日はここにこれまで私が講演した高校の先生が 23 名いらっしゃいました。教育関係の業者さんに言えば、そちら経由で私にくる場合は学校側にギャラは発生しません。でも学校側から講演料をいただいている場合もありますので、私に聞いていただければ、というところ。この後伺う高校さんの先生もいらっしゃるの、あ、ゆっくり喋れなくてすみません。小林さやかさんもそうだったんですけど、本来 90 分の内容を無理やり 50 分にしているんですみません。言い訳じゃないんですが、高校生はこのスピードの方がいいんです。お笑い芸人とかで慣れているので。はい、言い訳でした。

質問4 20年後、教員の仕事はどのように変化していると思いますか？

公務員や銀行と同じで、基本的には AI と共存できる先生になっていないと難しいです。なのでプログラミングや電子黒板や ICT の機器が全然わからないという人は困ると思います。先生方もともかく、いまの高校生が教員になりたいという場合は、かなりそういった機器に詳しくないと難しい、ただし有効に使えば教員の負担は減ると思います。

質問5 社会の変化、収入減など嫌になってくるが、どの段階で伝えるべきか？

私は幼稚園だと思っています。まさに私が『クレヨンしんちゃん』の話をしたのはそこなんです。高校生のみなさんはクレヨンしんちゃんのような豊かな暮らしはできません。それなのにテレビっていうのはまだそういう豊かだった古い日本の姿をいつまでも流しているんですね。『鉄腕アトム』のようにもう『サザエさん』も終わるべきなんですよ、本当に。「じゃあ、『サザエさん』を観ちゃいけないなら何を観たらいいの？」というときにぼくはこう言っています。「『クレヨンしんちゃん』と『ドラえもん』の劇場版なら観ていいよ」と。なぜならあれは日常ではなくて、問題解決だからです。「宇宙から敵が攻めてくる。それをみんなで戦って倒す。悪の帝国を倒す」ですね。スポーツだったら甲子園で優勝するとかの問題発見とか問題解決は観てもいいので、劇場版を観るようにしてください。だから一刻も早くつくるといいのは、『サザエさん劇場版』ですね、宇宙からくる侵略者をサザエが倒す、ぼくはこれが見たいです（爆笑）。ありがとうございます。では次の方。

質問6 高学歴であることが社会に出る時にいまだに求められていることが少なくないことをどう思いますか？

他の質問とかぶってきますが、日本の教育がこうなってしまうのはみなさん先生方のせいではありません。マンガ『ドラゴン桜 2』に書いてあったように、すべては企業、採用側の問題です。そもそも文部科学省の官僚が新卒しか採らないんですから。なので、企業の就職にカスタマイズされて大学がセッティングされちゃってますから、企業に従順なサラリーマンをつくらなくちゃならないというのが先生たちに課されてしまっているのです。採用が変わらないといけません。ところが新卒一括採用と年功序列を止めてしまったら、弱肉強食の社会になって、フランスやスペインのように若者の仕事が無くなってしまいう可能性が高い。なので、大きくはシステムが変わらないと思う。そうなっちゃうと東大ピラミッドのまんま、ということです。この後も変わらない、という個人的には悲観的なシナリオを描いているんですが、そういう中でも選択肢は増えています。そういうところでどうしていくか、ということは私も考えていきたいところです。では次にいきましょう。

質問7 学校で働き方改革を起こしたい。

管理職をどのように落とすか？ SNS をどのように活用するか？

小林さやかさんが4月から7月までいらした札幌新陽高校がすごく参考になると思います。この学校のすごいところは、ICTの機器を売り込んでくる業者さんをかたっぱしから生徒の前で講演させるんです。みなさんのところにそういう会社が売り込みにきたときに「うざい、帰って」って思うじゃないですか。そうじゃなくて、みなさんとは違う強味を持っている分野ですから、例えば「いまどきのICTの機器ってこんなにすごい」という話を生徒たちにしてもらったり、それこそパイロット校になったらタダで使えるとか。外部からいらっしゃる方を高校にもっともとりこんで、今日は市役所からきました、今日は消防士さんがきました、今日は先進的教育のICTの人がきました、とか学校の先生以外の社会人、大変申し上げにくいんですが、普通科高校の場合、先生が生徒に働いている大人の話ができるのは学校の先生という職業だけです。なので、世の中のいろんな職業の人のことを、学校のコントロールのもとにもっと外部の人を学校に入れて、触れさせていく。そうじゃないと声優になりたい人ばかりになっちゃうんで。

そのために重要なのは先生方が外部に人脈を持つことです。私がSNSやFacebookを勧めているのは、Facebookのメリットって大学教授だらけなんですね、あれはおっさんのメディアだと言われちゃってますけど、大学教授と大学職員はかなり多くの方がやってらっしゃるので、ぼくが熱心に勧めた高校の先生は私が紹介した大学教授何十人とつながるわけです。そうすると大学教授はだいたい日本中をうろろろしていますので、何かのついでにみなさんの高校に行って、この分野の著名な教授がいらっしゃってロボットのお話をすると。そういう機会をどんどんつくっていく。「たまたま友達がロボットの教授なんでうちの高校でしゃべります」と。そういうときに、うまく上司を説得して、「ちょうどコンピュータの権威の先生が来てくれるのだから」とやれますよね。その先生をとおしてみなさまが本当に実現したいことを他人にしゃべらせる。自分で言っ

ちやうと上司が切れます。生意気なやつは出世させんぞ、地方へ飛ばすぞと。そこで外部の人を使う。私、多いんですよ、高校に呼ばれて行ったときに「本当はうちの高校はこうこうしたいんだけど、教頭や校長が嫌がっていて。山内さんの口から言ってくださいよ」と。「自分で言えよ」って言えないところもあって。ということで、人脈を掴んで他人に言わせる。みなさんがそういう感じでいろんな大学の先生ともっとつながってほしいなと思います。ということで、今日の見美川先生に友達申請をポーンと（笑）。私の背後にも 2,000 人ぐらいのネットワークはありますので、ぼくにも友達申請をしてください、必ず返します。

質問 8 山内さんの考えるおすすめ大学はどこですか？

今日は長くしゃべれなかったんですが、それはアメリカのミネルバ大学（スライド 26）ですね。ハーバードを超えたと言われていています。ここは基本、講義禁止でキャンパスがなくて全寮制という大学です。ミネルバ大学の本も出ています。ただしそこだけが正解ってつもりはなくて、「世界中行った中でどこがよかったですか？」と聞かれたらそれはケンブリッジ大学です。

ケンブリッジ大学の授業は、1 対 3 なんですよ。チュートリアルと言って、教授と学生たちが徹底的に話し合って、しかも全寮制。だれが全寮制でしょう？ 教授も全寮制。学生だけじゃないんです。同じ寮に教授と学生が住んでいる。これは毎日修学旅行ですね、生徒はだいたい嫌がるんですけど（笑）。その環境を見たときに私は気づいちゃったんですね、世界で日本だけでした、エリート大学で全寮制でないのは。ハーバード大学も北京大学も、たとえ地元に住んでいても通学禁止なんです。必ず寮に住んで仲間と共に授業外学習をしなくてはなりません。

（スライド 26）



ミネルバ大学

- 授業はすべてオンライン (20人で議論)
- 教師は10分以上話してはいけない
- 予習を3~4時間
- 世界7キャンパスを移動
- 企業や大学院でプロジェクト
- 講義廃止
- ハーバードを超える優秀な学生が世界から

26

日本だけでした、夕方 6 時に東大の授業が終わったら、千葉や横浜に帰ったら、親がご飯をつくってくれるというのは、もうこれでは勝ち目がないと思います。でも日本の大学にいきなりこれは難しい。だから高校生に話しているのは、「海外留学してくれ」と言っています。短期間でも構わないんです。夏休みだけでも。たとえ日本のどんなにいい大学に入っても、そこはスポーツでいえば国体選手に過ぎない。学問のオリンピック、ワールドカップが存在します。イエール大学やプリンストン大学を取材したとき、もうそのあまりの圧力に打ちのめされましたよ。もう日

本は終わったと。そう思ったんですが、「自分はハーバード大学に入れるわけじゃないけれど、この経験をどうやったら人々に還元できるんだろうか？」と、あるいは「私はどう生きていいんだろうか」とずっと考えられました。そういう観点で、そこで海外大学にちょっと留学することで多くの生徒さんの目を開きたいと考えております。

質問 9 大学教授の話がつまらないって、誰が決めたんですか？

これは～、勝負しましょうか（笑）どのテーブルでしょう。いきましょう。このシステムだとわかるんですね、28 番のテーブル（爆笑）どういう感じでこの質問になりましたか。

一会場 あの、話がつまらないというのは、トークスキルの問題なのか、学術的な問題なのか、というところからちょっと疑問で。トークスキルが無くて淡々と話している先生もいるんですが、聴く側がその学問を勉強したいと思っていたらすごく面白い授業もあって、「大学の教授の話がつまらない」というのはちょっと違うと思いました。

ありがとうございます、おっしゃる通りです。なので自分でフォローしていたように全員とは言っていませんよ。私たちが大学時代を送っているとき、感動した授業を覚えていますか？ 私はないんです。何人かはあったと思います。そういう素晴らしい先生との出会いがあったからたぶん、いまみなさんはここにいるんです。なので全否定はしていません。ただみなさん以外のそういう授業や先生に触れていないマジョリティの中には、「大学は遊んでいただけでした」と平気で言う社長とかいるじゃないですか。だからひとついい授業があったとか、いい先生がいたということによって、日本の大学が全部いいよねというのは個人的には煙たいよね。申し訳ないけど、一般的にはつまらない。ということで、私自身ものすごく面白い、という自分の関心がわく学問内容で、先生が 90 分しゃべりっぱなしでも面白くてしょうがなかった、と言う経験は確かにありましたので、ご質問にはおっしゃるとおりですと答えます、議論はしませんごめんなさい。ありがとうございます。

質問 10 アカデミックな場である大学が、社会人養成所のように変容しつつある。高校では何をさせるべきか？

さっき金沢商業高校の事例を出したのは、「高校 3 年間で完成させる何か」というのをちょっと考えていただきたいですね。どこかの大学に先送りするための高校ではなくて、高校 3 年間で私に、ぼくに、身についたものは何かって。

私自身、さっきオンラインポートフォリオで言いましたけど、よい部分ももちろんあると思っていて、何か自分のなりたい将来像、もちろん進学先でも就職でも将来の夢でもいいんですが、そこに向かって計画的に高 1、高 2、高 3 の学問を積み上げていくという点ではもちろんこれもいいと思います。なので高校で考えていただきたいのは、とにかく「なんとか大学に入れてよかったね」の手前で、やはり高校時代を楽しむこと。中国人はこう言うそうです「いいな、日本の高校は体育祭、文化祭があって」。われわれも思い出すと、文化祭の前日の準備なんかがめちゃくちゃ

や楽しかったわけです、ワクワク感があつて、ちょっとロマンスがあつたりですね。というわけで、高校3年間はやはり楽しく生きる生徒さんに、楽しくというのは決して遊んでということではなく、ということをおれわれがどれだけ考えられるかな、というのがひとつあるんだなと思っています。松本深志高校という長野県の名門があるんですが、あそこの高校はこのご時世に異様に浪人生が多いんです。浪人生が多いって珍しいことなんです。私が「みんなは難関大学に入りたいからこんなに浪人するんですか？」って聞いたら「違う」って言うんです、もちろんそういう人もいます。実は高校3年の秋ごろに文化祭やスポーツなど教科外のイベントで青春を費やした結果、完全に勉強が後回しになって、勉強はみんな4年生になってからやればいいう風潮があると言います。もちろんよくないことですが、一方でなんて楽しい高校生活なんだと。

ところで、確かに大学がすっかり社会人養成所になって、大学4年間にキャンパスライフを楽しんでいますという話はもうみんながしなくなっちゃいましたね。海へ行って、スキーに行つてとか言わなくなって就職予備校的になってますから、むしろ、高校時代にはじめてもいいんじゃないかと思う。あ、すみません、もっといっぱい語りたかったんですがお時間が無くなりました。以上で終了です、ありがとうございました。

(終わり)

宮城県仙台第三高等学校主幹教諭

滝井 隆太 先生

未来に通じる学力の育て方

- 1 未来に通じる学力とは
- 2 授業者の役割の変容
- 3 授業づくりが壁を破る
 - ①スタート地点
 - ②実効性を追求する
 - ③授業づくりの実際
 - ③-1 「単元設計」具体例
 - ③-2 「授業デザイン」具体例
 - ③-3 「問いたて」具体例
 - ③-4 プチ演習&具体例① 構成的アクティブラーニング「RBP 実験授業」
 - ③-5 プチ演習&具体例② 構成的アクティブラーニング「気づき力育成プログラム」
 - ③-6 プチ演習&具体例③ テクストの斬新提示
 - ③-7 プチ演習&具体例④ 問題作成演習
 - ③-8 プチ演習&具体例⑤ 主体的・協同的・体験的・創作的授業
 - ③-9 プチ演習&具体例⑥ 気づき力、教科融合、エンカウンター的体験学習
- 4 これからの教室

未来に通じる学力の育て方

宮城県仙台第三高等学校 主幹教諭

滝井 隆太

1 未来に通じる学力とは

滝井隆太です。よろしくお願いします。「未来に通じる学力」とは「おそらくこうなるであろう」、「こうしていかなければいけないんじゃないか」というところでお話をしていきたいと思います。本日はこの4点です。

1 未来に通じる学力とは

2 授業者の役割の変容

3 授業づくりが壁を破る

4 これからの彼らとぼくら

1と2に関してはご存知の方が多いと思いますので、早くやります。今日のメインは3です。そして最後に教育ゲームを取り入れた授業の演習を少しして終わりたいと思っています。

では1の「未来に通じる学力とは」です。まずはこの動画を見ていただきたいと思います。

(動画上映)

これはアメリカの高校の先生が子どもたちのためにつくった『Do you know?』という有名な動画です。要するに未来がこうなるというものです。

(スライド5)

未来に通じる学力とは

技術革新

第4次産業革命

AI・IoT及びビッグデータ

日本の教育の得意分野

第1次産業革命…18世紀末 水力や蒸気機関の機械化

第2次産業革命…20世紀初頭 分業に基づく電力を用いた大量生産

第3次産業革命…1970年代初頭 電子工学や情報技術を用いたオートメーション化

内閣府白書 日本経済2016～2017より一部改

Copyright (C) 2018 Ryohei Takai. All Rights Reserved.

子どもたちの未来は第4次産業革命のさらに先にあります。第4次産業革命の中に、「1 技術革新（特にAI artificial intelligence）」、「2 グローバル化」、「3 新興国の台頭」とありますが、特に技術革新のところ、AI ですね。ここが一番大きいと思います。いまは第4次産業革命が進行中でAI、IoT、そしてビッグデータがキーワードです。

こうやって産業革命（スライド5）を見ていくと、日本の教育は第2次産業革命や第3次産業革命にすごくフィットしていて、ここで大成功しました。ぼくらの先輩たちはその時代要請に応えた教育を実践していたということです。いまぼくらは第4次産業革命の渦中にいます。第3次産業革命あたりの終わりぐらいから日本はだいぶ元気がなくなり始めましたね。

結局、その未来でどういうことが学力になるかというと端的にはスライド6です。新学習指導要領とも一致していくことになります。

（スライド6）

未来に通じる学力とは

未来に通じる学力

問題・課題の発見
唯一解が容易に導けない問い
主体性・自律性
協働性・多様性

これらに対応できる
「学力」

Copyright (C) 2018 Yuwa Taki All Rights Reserved.

そこで教育におけるシフトが進んでいきますが（スライド7）。教室で行われることは「教授」教える、知識を伝達していくことから、「生徒が学んでいくこと」が中心になっていく。

教科内容の「コンテンツ」から、これを素材にして、これを通して「何を身につけていくか」ということになっていく。

「習得がメイン」だったところが、「活用あるいは探究」というところまで進む。これは新学習指導要領も大学入試もそして世界も一緒に動いていく。特にOECDに関してはみなさんもうご存知だと思いますが、日本の教育改革が目指すべきゴールのようなことも発表しています。

（スライド7）

未来に通じる学力とは

教育におけるShift

教授	学習
コンテンツ	コンピテンシー
習得メイン	活用・探究も

新学習指導要領も（高校教育改革）
大学入試も（高大接続改革）
そして世界も（OECD Education 2030）

2 授業者の役割の変容

その中で、「授業者の役割を変えていかなければならない」ということです。

教育工学の世界の先生たちはこういう言い方もします。「言語情報の伝達」から「知的技能」へのシフトですね。彼らが知識をどう使うか、あるいはまだ知識になってないものをどう獲得するか。あるいは複雑に組み合わせたそれらをまったく未知のものに対してどう使っていくか。そういう状況をぼくらはつくる。そういう条件を提示してあげる、それがぼくらの仕事になるということです（スライド15）。

（スライド15）

授業者の役割の変容

言語情報の伝達（教える）から
知的技能の活用と探究的活動の
設計・計画と支援・促進へ

授業者の役割を別の角度から見るとこうなると私は思います。ひとつは「プランナーでありデザイナー」である。そして「ファシリテート」する人間である。そして「コーチ」でもある。

プランナーとはもちろん授業の準備、プランニングデザインをするということですが、ここでほとんど授業の善し悪しは決まってしまうわけで、段取り8分ということになります。その中で一番大事なものは「問い」のデザインじゃないかと思います。あるいは単元構成といったところです（スライド17）。

（スライド17）

授業者の役割の変容

授業者はプランナー・デザイナー

プランニング＝計画，立案
デザイン＝設計，意匠

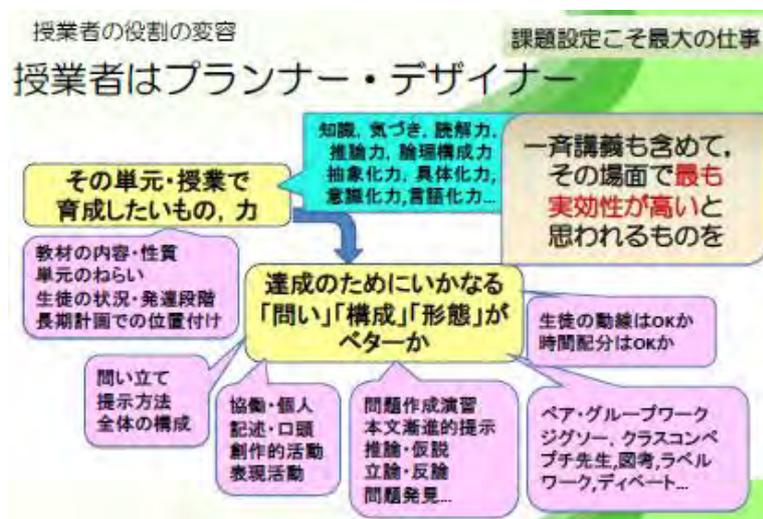
授業準備
段取り八分

問いを	単元を
構成を	1コマを
形態を	手法を

これは非常に難しいです。いろんな要素があるからです（スライド18）。ただ、一方ではこうです。「生徒たちにどういう力をつけさせたいのか」というスタートがあって、その達成のために、その教材でどういう問いがあってどういう構成があるか、ということです。その達成のための実効性が高いと思われるものをとにかく追求していくということ。それにはたくさんの要素があっ

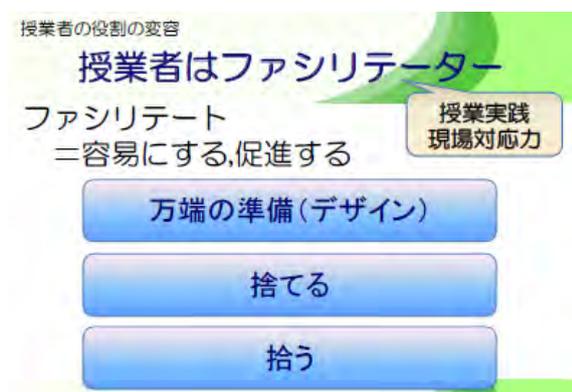
て、空間のある一点をつかむようなそういう授業のデザインが必要です。これは非常に苦しいです。7~8年前はこれに一人で格闘しましたが、いまは仲間がいて助けてくれる、一緒につくってくれます。あるいは、ぼくの先に進んでくれているという仲間がいます。非常に楽になりました。

(スライド 18)



続いて「ファシリテート」(スライド 19) です。ファシリテートというのは、もともと容易にする、促進するという意味があります。要するに準備を万端にしても結局、現場にいるとファシリテートをしなければいけないんですね (スライド 20)。ものすごく大変な準備をしたのに捨てないといけない。あるいはこれは逆から言うと生徒から想定外のものが出たときに捨てるか、ということです。用意していたからその通りにやるというのではダメでしょう。ここはどうしても経験が必要になると思います。教員として最後の最後にぼくらに残される牙城がここではないかと思っています。AI では絶対にできないところではないかと思っています。授業は生き物であって、ぼくらはナマの授業屋であって、教室は LIVE ですから、その動きに関しては、人間はいらなくなる。ここは AI には置き換えられない。逆に言えば知識の伝達はもう AI やビデオの方が早くて効率がよくてうまいかもしれません。

(スライド 19)



(スライド 20)

授業者の役割の変容

授業者はファシリテーター

捨てる
変更を恐れない

拾う
想定外を楽しむ

用意周到にデザインされた授業。であってなお、現場ではしなやかな対応力を求められる。

授業は生き物 教室は「LIVE」

最後に「コーチ」です。私はコーチングから入っています。授業づくりはコーチングと共通するところが多いです。私の場合、コーチングで、もがいてもがいてという 20 年間をすごして、現場の中から見つけてきたものを授業に転用しているというスタイルが多いです。コーチの仕事の中ですごく大事だと思うのは、実は、結局はこの 2 つ、[スライド 21](#)、[スライド 22](#) だと思います。

(スライド 21)

授業者の役割の変容

授業者はコーチ

コーチングは授業に通ずる

コーチの仕事

動機付ける

柔軟に対応する

規律を育てる

モラルを育てる

計画する

見極める

最大化する

何が起きているかを、事の本質を、捉える

切り取る ドリル化する

統合する コーディネートする

技術、理論
セオリーを
教える
(ティーチング)

⋮

Copyright (C) 2018 KASHIWA AI Rights Research.

(スライド 22)

授業者の役割の変容

授業者はコーチ

動機づける→自律的動機づけ

意欲は、「そこにあるもの」ではない。しかし無限。

理論と経験と技術、何より熱量→生徒自らが動機づける

何が起きているかを捉える

つまづき、成功、今何が、生徒の中で何が、原因は。

アンテナを高く、視座を柔軟に、引き出しを多く

コーチの仕事の一つは「動機づけ」です。最初はやはり動機や意欲ってないんです。例えば私はラグビー部ですが、入学時に特にラグビーをやりたいと思ってくる子はいない、ラグビーを知らないんですね。ぼくらが、最初から「ラグビーはどうだ？」って言って、そこに意欲を持たせるのは大変です。厳しいあの 3K スポーツの代表ですから。動機づけというのは、やはり本人から意欲が出るようにしないと苦しいですね。外からの刺激によるものを理論的には「外発的動機づけ」と言います。コーチングではよく批判されるんですが、でも「内発的動機づけ」絶対視は、下手をすると、実質的には放置と変わらないことになってしまう。結局生徒がいかにか自分で、自分のことを動機づけられるようにするか、ここがところが一番大事です。後でこのところは再び触れたいと思います。

動機づけで一番大事なのは最初のところは熱量です。だから熱だけでガリガリとやってもいい年代というのはあるのは確かですが、2~3年やったら理論を勉強して、あとは経験を活かして、ということになっていく。あるいは対人的スキルを身につけていかなければならないと思います。そのうちに「ここ（生徒がいかにか自分で、自分のことを動機づけられるようにするか）」に気がつく。やっぱりここが大きいと思います。「ああ、これやってちゃダメなんだ」と彼らがそう気づいていかないとダメなんだというところに、私自身が気がついた、というのが自分の経験の中ですごく大きかったです。

もう一つは、そこに起こっていることに気づくことです、分析もそうです。逆にいうと統合できるかどうか、分析と統合ができるかどうか、がコーチの役割じゃないでしょうか。これはそれぞれ、そのまま授業にスライドしていきます（スライド 22）。

まとめとしてはこちら、スライド 23 この中段のところ、私はこのエドワード・L・デシの影響をものすごく受けています。先の 3 つの「プランナー・デザイン」、「ファシリテーター」、「コーチ」の全部に通じていくと思います。「彼らがどうやったら自分で学びだすのか」ということを考え出すのがぼくらの仕事であって、知識に関しては、その仕掛けさえすれば彼らは自分で取ってきます。

（スライド 23）

授業者の役割の変容

まとめ

- 教師は生徒を社会化する担い手
動機づけと責任感を促進
- 「生徒をどう動機づけるか」ではなく
「どのようにすれば生徒が自らを動機
づける条件を生み出せるか」
が正しい問い エドワード・L・デシ
- 授業者自身が変容への主体意識を

23
Copyright © 2018 Ryusuke Tani. All Rights Reserved.

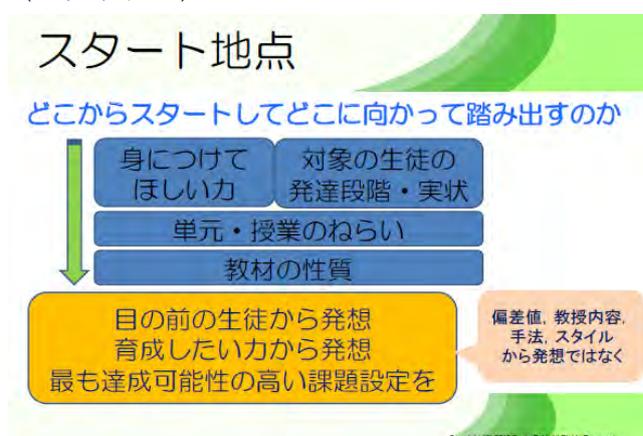
3 授業づくりが壁を破る

①スタート地点

ではよいよメインです。ここから動きも入りますのでぜひよろしくをお願いします。

まずは最初の一步を間違えてはいけないのもう一度確認します。「どこからスタートするのか」というのはスライド 25 の「身につけてほしい力」です。つまりいまの「目の前の生徒」、これを放って置いて、「やらなきゃいけないからやる」とか「このスタイルをやるからやる」とか、こうなるともう本末転倒で、本質を外すことになりかねません。ここはすごく大事なところだと思います。

(スライド 25)



②実効性を追求する

そのうえで、実効性を追求する (スライド 26)。もしその場面で一斉講義が一番よければ一斉講義を選ぶべきです。「その場面で何が一番いいか」ということです。これまで 5,000~6,000 時間、アクティブラーニング (以下 AL) の時間を積み上げてきましたが、ほとんどの場面で一斉講義と AL を比べると AL が勝ちます、実効性では。いくつかの限られた場面だけ一斉の方が効率がいいです。とにかく AL を何パーセント取り入れなきゃいけないとか、時間でいったらどのくらいやらなきゃいけないとか、そういうのは非常にナンセンスな話でその場面で一番いい形をとるのがすごく大事なんだと思います。

あと、これを言うとちょっと怒られますが、生徒が楽しくて、ぼくも楽しくて、そして楽で成果が上がるならその方法がいいですよ。わざわざ無理して修行のようなことをやる必要はないです。先生方はすごく真面目な方が多いので、このところは後ろめたいんですね、でもぼくはやっぱり楽な方がいいと思います、効果が同じなら。

次に、実効性が同じで従来学力を落とさないなら、そういうときは AL をやるべきです。(さっき言ったように実際に落ちませんが。) なぜなら他の資質能力の獲得可能性が高い方を選ぶべきだから。協働性や主体性、そういったものの獲得性が高いからです。

また「パフォーマンスやってもいいけど、あるいはALをやってもいいけど、結局評価できないでしょ、だからやらない」って、そういうのはちょっと違うと思う。従来学力が落ちていないという時点でもう最低限はクリアしていますから、評価をやらない理由にしない、というのはすごく大事です。

(スライド 26)

実効性を追求する
教科内容の学びの質という点で

その場面で最も実効性が高いからその方法を取る

- 形だけの導入, **手段の目的化は絶対避ける**
行うこと自体, 変えること自体が目的ではない
- 全てにとってパーフェクトの授業はない
→相対的・全体的に, **歩留り, 実質的学習効果の高いものを選択する**
- 「**楽しく**」「**楽**」で効果が上がる学習法があるならそれがベター
- 教育現場: 理論・新開発技術の成果反映が遅い **スピード感が必要**
cf. シグソー

実効性が同じなら, 従来学力を落とさないなら, ALをやるべき。汎用的な資質能力の獲得可能性が高いのだから

従来学力が担保されていれば, 現状以上の測定は現時点では必須ではない。もちろん測れるなら測る方がよい cf prog

Copyright (C) 2018 Ryuta Taki All Rights Reserved.

③授業づくりの実際

そして「授業づくりの実際」(スライド 27)です。これを少し分けると、「単元設計」、「授業デザイン」、「問い立て」になります。

(スライド 27)

授業づくりが壁を破る

授業づくりの実際

- 単元設計 **単元全体の計画**
- 授業デザイン **1時間ごとの個別の授業計画**
- 問い立て **謎こそが, 「知的好奇心」を掻き立てる, 「考える」ためのしかけ**

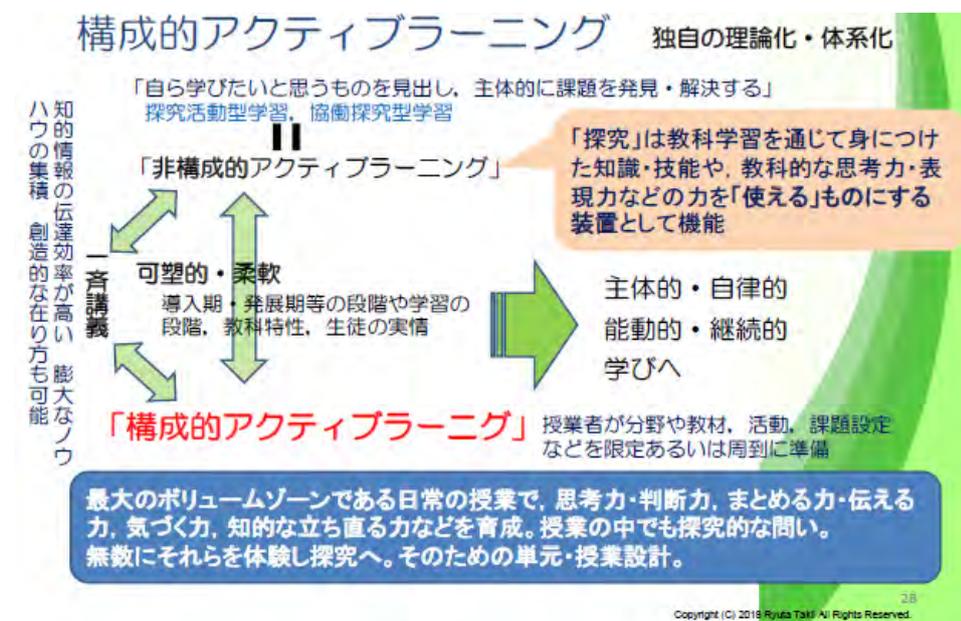
Copyright (C) 2018 Ryuta Taki All Rights Reserved.

「単元設計」とは単元全体の計画、「授業デザイン」とは単元全体からブレイクダウンしてきた、授業ひとコマごとの授業計画、そして授業や単元を貫いて「問い」というのが非常に大事なボリュームを持っています。問い立てでは、「謎かけ」が一番彼らを動かす方法です。「謎」ですね。

仙台三校では2014～5年ぐらいに「構成的AL」を独自に理論化しました（スライド28）。

まず「非構成的AL」とはいわゆる「探究」です。「構成的AL」は一斉授業と探究の間を、学校で一番大きいボリュームゾーンである「授業」で埋める。そういう仕掛けをつくらないとだめじゃないかと。「構成的AL」によって、習得・活用・探究を滑らかにつなぐ、あるいは互いに補完する。そのイメージは初めて自転車に乗れるときの感じですね。一人で乗れない子どもは最初親が後ろで自転車を支えて、ちょっと離してまたぐらっときたら掴んでまた押して、そしていつの間にか彼らは自分一人で走っていきます。そういう関係ですね。彼ら自身は自分でやっているという感覚を強く持ちながらも、実はぼくらがここをコントロールしている、ここが教員としての仕事の、さっき言ったプランニングと大きく関わってきます。

（スライド28）



では属性をスライド29で少し整理しましょう。これは仙台三高授業づくりプロジェクト2016年度のもので、一番大きいのは、「課題設定」を学習者がするのか、授業者がするのか、というところの違いがです。

(スライド 29)

属性比較

	非構成的AL	構成的AL	一斉講義
課題設定者	学修者	授業者	授業者
働きかけ	支援	支援	教授
学修	能動的	能動的	受動的
目的	探究	活用・探究	習得
育成目標	汎用能力・資質	思考力・表現力	知識
主たる行為	Study(Learning)	coaching	teaching
振り返りの傾向	メタ認知的	内部的	外部的
動機づけの傾向	内発的	外発的～内発的	外発的
形態	Super-Student -centered	Student-centered	Teacher-centered

仙台三高授業づくりプロジェクト 2016

③-1 「単元設計」 具体例

単元設計の具体例です。これは昨年3年生でやりましたが、「サッカーにおける資本主義の精神（評論）」（スライド 30、31）です。「単元の計画」を最初に立て、担当者3人で内容を揉みました。「いまの彼らに何が足りないのか」、「どういう力をつけてほしいのか」、「この教材だったらこれはいけるか」、といったことで、まずはここを明らかにします。そこから逆算して一つひとつの授業に対するプランニングを始めます。ひとコマの授業では完結しないということがよく起こります。最初の1時間目に投げられた問いが、最後の8時間目になってようやくわかるという、その間、生徒はモヤモヤするんですが、そのモヤモヤもすごく大事です。

(スライド 30)

単元設計 具体例

- 資料1 授業プラン抜粋
(評論)サッカーにおける「資本主義の精神」
(小説)舞姫

コンピテンシーの育成を意識
その教材を「教える」のではなく
その教材で「育成する」

単元全体としての目標
長期計画と生徒の状況から目標設定
授業者が協働し共有

Copyright © 2018 Ryukyu University. All Rights Reserved. 30

(スライド 31)

コンピテンシー重視

① 基礎知識・技能

② 基礎的・専門的知識・技能

③ 基礎的・専門的知識・技能

④ 基礎的・専門的知識・技能

⑤ 基礎的・専門的知識・技能

⑥ 基礎的・専門的知識・技能

「小野」重視 授業デザイン(時間)の活用

※ 本単元で獲得するべき知識・技能・態度の重要性を考慮し、授業デザインを工夫する。

※ 本単元で獲得するべき知識・技能・態度の重要性を考慮し、授業デザインを工夫する。

※ 本単元で獲得するべき知識・技能・態度の重要性を考慮し、授業デザインを工夫する。

③-2 「授業デザイン」具体例

例えば「クレールの女(随想)」(スライド 32、33)では、この単元を通じて授業プランにあるような汎用的な力を身につけてほしいということで、1~2時間ていりんなデザインを入れながらつくりました。最後は創作活動で終わりました。

(スライド 32)

授業デザイン 具体例

- 資料2 授業プラン
- (随想)クレールという女
- (評論)グローバル化のゆくえ

単元全体から1コマ1コマへ
単元目標と教材の性質からデザイン
個々の授業に落とし込む

1コマの授業では解決しないことも
授業のねらいや目標をあえて隠して
気づきやメタ認知を促す

(スライド 34)

関連情報 背景知識 スキーマ構築

知識構造化

思考の深化

探究

協働

③-3 「問い立て」具体例

「単元設計」、「授業デザイン」ときてここから3つめの「問い立て」(スライド36)ですね。ここからちょっと動きを入れたいと思います。実際の場面では単元のどこかに探究的な取り組みをできるだけ入れていくべきです。「探究的な問い」というのは唯一解を容易に導けない問いが多いので、まず授業者がこの手の問いを立てるのが、なかなか難しかったりするんです。探究的な問い立てには、また別なアプローチがあるんですが、とりあえずやってみましょう。

(スライド 36)

問い立て プチ演習&具体例

- 知的好奇心を揺さぶる
- 活発な思考を促す
- 自律的な知識獲得につなげる
- 単元のどこかで「探究的問い」を「知識構築・内容理解のための問い」は構成的ALの仕立て

唯一解が容易に導けない問い

どう謎かけをするか、どこに穴をあけるか

知的好奇心が刺激され、主体的に考えるために

2 分間分間差し上げますので、まず文系の方と理系の方に分かれて資料にあるそれぞれのテーマへの「問い」を立ててください（スライド 37）。2 分間しかないので限られると思いますが、とにかく、この問いを投げかけられたら、生徒は知的好奇心を揺さぶられて、活発に思考し始めて「これはどうなっているんだ？」と自分で知識獲得に調べに行くという、そういう「問い」をめざしてつくっていただきたい。

まずは 2 分間、個人で「問い」を立ててください。

（スライド 37）

問い立て プチ演習&具体例

下記の課題について問いを立ててください。

時間は 2 分間です。

文系の方

①柔肌の熱き血潮に触れもみで寂しからずや道を説く君

or ②島原の乱

理系の方

①地球の自転

or ②質量保存の法則

① 知的好奇心を揺さぶる

② 活発な思考を促す

③ 自律的な知識獲得につなげる

*前提となる基本知識は既存の想定としてください。

*その他の条件に関してはそれぞれの所属校の想定としてください。

（ 2 分間個人作業 ）

では自分が立てた「問い」を隣同士で互いに紹介してください。できればお名前の交換もしてください。では 1 分間ぐらいで紹介をしてください。

（ 1 分間互いに問いを披露する ）（ 活気があって笑い声が湧く ）

はい、ありがとうございます。次に進めさせていただきます。

私は授業の中では 1 番の短歌「柔肌の熱き血潮に触れもみで寂しからずや道を説く君」は、このようにやってみました。

「時空をこえて革新的短歌だと評されているが、それはなぜなのか」。

このようにすると生徒は短歌の意味を探っていき、短歌の時代背景、与謝野晶子の情熱的生き方まで追究しにいけます。

2 番目の「島原の乱」に関しては、「2020年の大学入試問題」の著者でご高名な石川先生が仙台に来られたときに、こじんまりとした勉強会をしていただいたことがあるんですが、そこで私がつくった問いです。

「もし島原の乱が何者かによって捏造された歴史だとしたら、いったいいつ誰がどんなことのために起こったのか」。

こうすると歴史だけでなく、いろんな形で考えていかないと、どうにもならないようなことになります。こういう問いというのが、必要なんじゃないか。最初から「この短歌はこういう意味

で、「島原の乱はこういうもので」と教えてしまうより、こういうことをひと工程踏むというのが必要になると思います。

理系の「地球の自転」は、これは東大で実際に出された問題です。

「もし、地球が東から西に自転したとしたら、何が起こるのか」。

これは東大の外国学校卒業生入試で出題されました。普通の高校生にこれはまだ出せないんですね、まだ。でもいずれこういうものを出していかないといけないですね。それから「質量保存の法則」に関しては後で扱いたいと思います。

スライド38の「探究的問い立て」ですが、これはご存知の方も多いと思います。唯一解が容易に得られない、納得解、最適解というのをみんなで何とかしていきましょうというのを問う。

(スライド38)

探究的問い立て

文句なしの探究的問い

◎唯一解が容易に得られない問い

工夫によってこれも可能

○新出知識を探究的問いに仕立てる

例えば…
 既有知識に整合しない違和や気づきを問いに組み込み、謎解きを仕掛ける。

たった一つを変えるだけ
 クラスも教師も喜ぶ「質問づくり」
 多くを問う者は、多くを学び、多くを保持する

こういうものは文句なしの探究的問いですね、ただ新出知識は彼らにとってはある程度探究的な仕掛けができるんじゃないかと思います。まだ教わっていないものに対して「あれ？」と違和に気づいて、そこから彼らが探究、文字通り探究ですね。細部にわたって極めようとする、本質をつかもうとする、構造をつかもうとする、そういうことができるんじゃないでしょうか。

もうひとつはこれです。これも後で触れますが問い立て自体を彼らに任せてしまえばいい。教材研究で一番おいしいところは結局この「問い立て」なんです。そこをぼくらがやってるんじゃなく、彼らにやってもらったらいんじゃないか、ということです。これはアメリカでだいぶ成果が上がっているようです。一時期流行りましたね。

(スライド 38)

探究的問い立て

文句なしの探究的問い

◎唯一解が容易に得られない問い

工夫によってこれも可能

○新出知識を探究的問いに仕立てる

例えば…

既有知識に整合しない違和や気づきを問いに組み込み、謎解きを仕掛ける。



例えばさっき出た「グローバル化のゆくえ（評論）」の授業ですが、ここで「探究的問い立て」をつくってみました。

「グローバル化に伴って表出するであろう問題をどのように解決できるか」。

これは誰も解決できないので、まちががなく探究的な問いです。何を根拠に何を主張するか。これが正しいというものはないですね。

あるいは、スライド 41 は古典、「なむ」の識別です。古文の識別の大事なところですが、生徒は既有知識として「係助詞なむ」と「強意の助動詞＋意志推量の助動詞なむ」の 2 つを持っていますが、「本文の中に何かおかしいところはないだろうか？」と聞かれたら、接続から「あれ？」という気づき生まれる。「ではそこを調べてみよう」、「どうしてこうなっているのか突き止めてみよう」というような、プチ探究的な「問い」はいつでも投げかけることができます。ただ時間との関係で、いつもいつもは入れられないですね。

(スライド 41)

新出知識を探究的問いに仕立てる 例

既有知識
係助詞「なむ」

強意の助動詞＋意志推量の助動詞「なむ」

何を対象にどのくらいの時間をかけるのかは慎重に計画

新出知識
終助詞「なむ」

「接続」を手掛かりに問題に気づく

何かおかしいところはないか？
謎が残ってないだろうか？

課題発見を促す問い

では、その謎を解いてみよう
どうしてこうなっているのか突き止めて

探究的な問い
の仕立て

リサーチ、協働で問題解決

③-4 プチ演習&具体例① 構成的アクティブラーニング 「RBP 実験授業」

続いてスライド42のRBPのRというのはレジリエンス、resilience、何回も挑戦する力、立ち直る力、非常にいい言葉だと思います。これは仙台三高に研究センターという組織があって、そこで開発した教育プログラムです。ひとことで言うと、試行錯誤。あるいは失敗を織り込んである実験授業です。

(スライド42)

RBP
授業づくりが壁を破る プチ演習&具体例 ①

構成的アクティブラーニング
RBP実験授業

RBP (Resilience-Building-Program)
知的立ち直り力育成プログラム

試行錯誤や失敗を織り込んだ実験授業

さてこれに関して、先生方の知恵をお借りします。「質量保存の法則」(スライド43)についてですが、困ってるんですよ。

「質量保存の法則」というものがありますが、実験をしているとなぜか質量保存の法則に当てはまらない物質があるんです。

(スライド43)

困っています…
みなさんの力で解決して欲しいことがあります!

反応の前後で、物質全体の質量は変わらない。
すべての化学変化に当てはまり、
状態変化などの物質の変化すべてに成立する。

(中学校「新しい科学2年」)

質量保存の法則

(スライド 49)

みなさんの力で解決して欲しいこと

- ① (事実として) どんなことが起きているのでしょうか？
 - ② どうして？なぜ？？
- ※ 理論的な説明も加えてください。

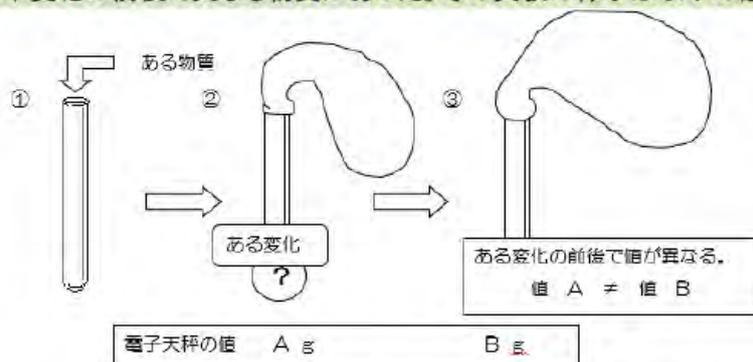
それでは、実験開始！！

実験はスライド 50、51 のようなことです。試験管の中にある物質を入れ、風船でふたをすることで密閉します。ここで質量を測ります。

(スライド 50)

RBP 実験

様々な物質について、密閉して実験したところ、何度やっても電子天秤の値が、変化の前後で異なる物質があった。その実験の様子は以下の通りであつ



注 意：試験管と風船には隙間はなく、試験管の内部と外部の物質の出入りはないようにする。

授業づくりが壁を破る

Copyright (C) 2018 Ryuta Taki All Rights Reserved. 50

(スライド 51)

RBP 実験

質量保存の法則が成り立つはずなのに、今回は、なぜ変化の前後で電子天秤の数値が異なってしまったのか？以下の実験器具・材料は自由に使っても良いので、理由を含めて示して欲しい。

【実験器具・材料】

試験管、試験管立て (今回はコニカルピーカー)、風船、電子天秤、駒込ビペット、葉さし、

ドライアイス、マグネシウムリボン、ジエチルエーテル、

A3 の用紙 (自由記述用：実験手順、思考過程、仮説、実験結果などメモしておく)

※ ドライアイスと Mg リボン、ジエチルエーテルは、教卓の上にある。必要な時は適宜、持っていくこと。

用意したものはこういうもの（スライド 51 下部）です。それらの中のうち、ドライアイスを試験管に入れて風船で密閉して質量を測ると減っていきます。これはなぜでしょうか？

では先程のパートナーと一緒にジャンケンをして負けた方はお答えください。なぜなのかを。

（互いに説明）

これはいろいろ考えますよね。まずは「物質は何なんだ？」と物質特定に試行錯誤をします。それから実際の測定結果（スライド 52）が出てから「なぜなんだ？」と再び試行錯誤するわけですよ。ここでやっぱり答がなかなか出ないですよ。これが、ぼくが先ほど言った「構成的 AL」（スライド 28）で、思考の条件を少しずつ出していきます。彼らは自分で考えているつもりですが、実はコントロールされています（スライド 53）。

（スライド 52）

実験結果 《実際の測定結果》

	器具全体の重量 g	投入直後の値 g	気化後の値 g	ドライアイスの重量 g	重量の変化量 g
1回目	27.66	28.01	27.79	0.35	-0.22
2回目	27.66	27.91	27.77	0.11	-0.14
3回目	27.66	28.08	27.82	0.42	-0.26

ドライアイスを入れた直後よりも、気体となった後のほうが電子天秤の数値は小さくなる。

（スライド 53）

この授業の課題設定

- ◎離れた知識をつなげる—知識の構造化
既有知識の応用を促す—気づき
そのために、「ねらい」を隠したデザイン
- ◎実験の組み替え—試行錯誤が前提の実験
最初から結論が用意されている実験ではない
- ◎仮説・実践—発見・根拠(理論構築)
- ◎協働

結局これは「浮力」ということですね。質量保存の法則の実験だったんですが、実際にはここに浮力が働いていて、先ほどの数値のように軽くなっているという現象が起きています。

これまでの理科の実験というのはこちら（スライド 54）でした、これはわかりやすいです。それは当たり前です、わかりやすく教えるためにやっているんですから。理論があってその検証のための実験をする、でもぼくはこれがすごくつまらなかったんです。

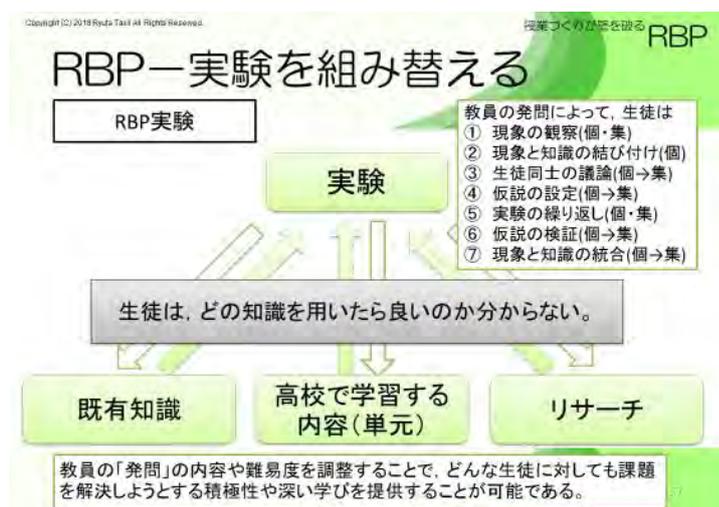
(スライド 54)



そこで化学の先生に「これまでと違うやつをつくらうよ」と呼び掛けて、一緒につくったのがいまの授業です。化学の先生はどうしても自分の経験を超えられないんです。だから「こういうプランどうですか、これはどうですか？」って何回もやっても「これじゃいままでと変わらない」と私も何度もダメ出しして、2人で何度も何度も作り直しを重ねました。

そして RBP の構造はスライド 55 です。生徒は、既有知識であるとか、いま習ったこととか、リサーチしてこれからわかることだとか、どれを使ったらいいのかわからない。現実の社会でも、現実の場面でも、未分化未整理のままいろいろなことが彼らの前に起こってくるわけです。そこに対して「この場面ではこれを使いなさい」とかという整理されたことをサジェスションしてくれる人はいないですし、そういうふうにはやれないです。で、こういうことが必要なんだということなんです。

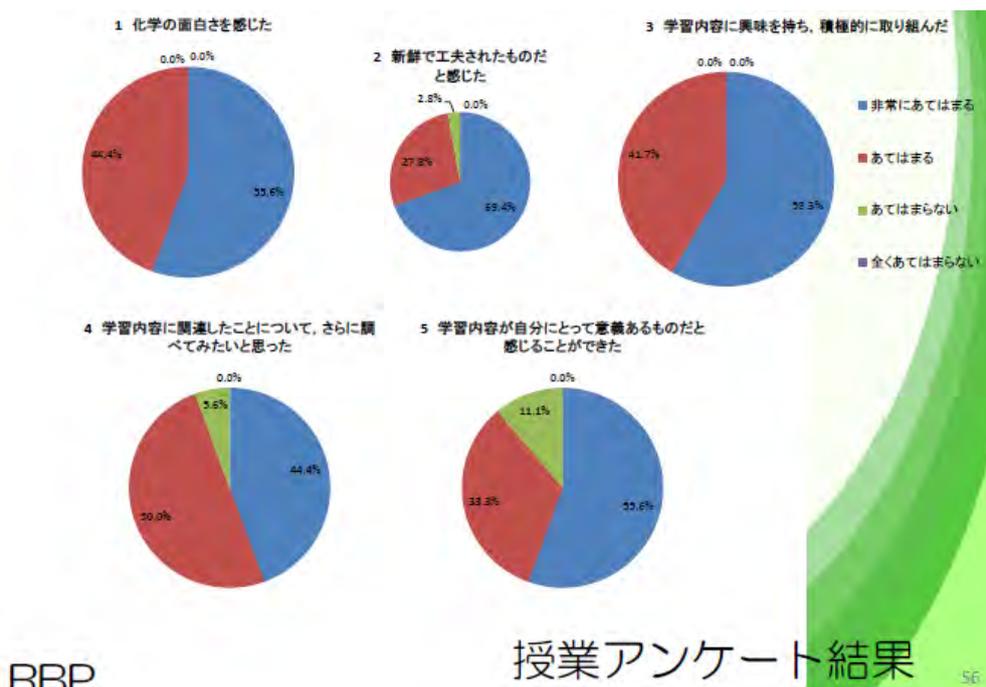
(スライド 55)



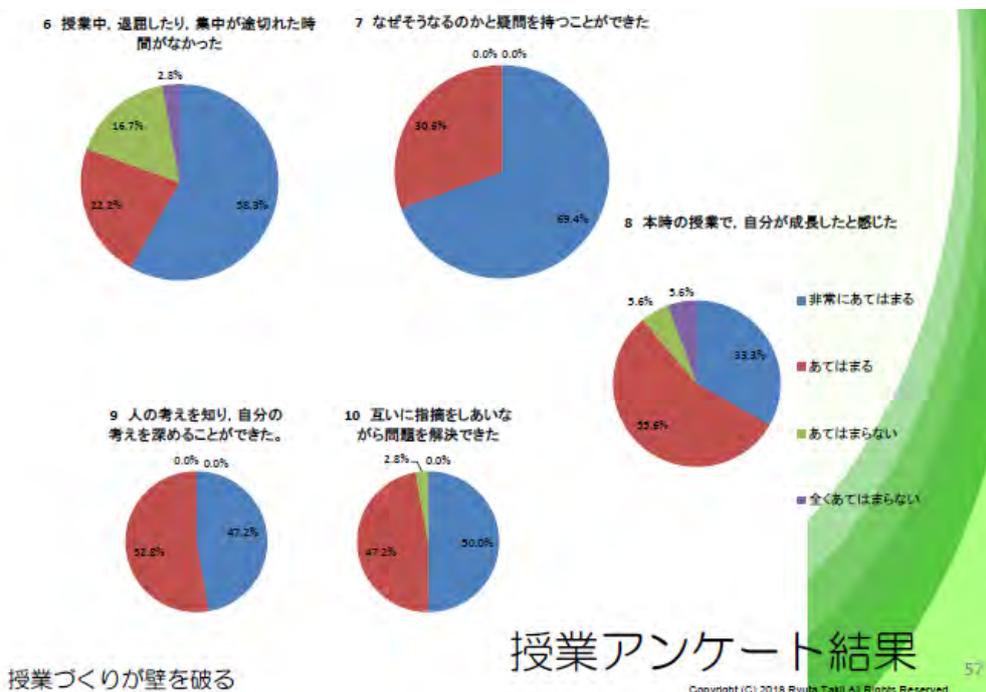
ぼくは毎回単元ごとに授業アンケートをとっています。この授業ではスライド 56 の授業アンケート結果にあるように「化学の面白さを感じた」というポジティブな意見は 100%です。もちろん授業中に寝たりする生徒は一人もいません。

アンケートからはスライド 58 のようなことが見て取れると思います。

(スライド 56)



(スライド 57)



(スライド 58)

まとめ

既習事項が含まれている素材について、
その手順や方法を組み替えて実験を行い、
仮説構築や試行錯誤を伴いながら
協働して問題を解決することを、
課題設定によって目指す。

RBP仮説のとおり、
生徒の主体的な取り組みを促し、
教科内容への関心や学習意欲を高め、
積極性や協働性を向上させることが示唆された。

ではここで息抜きをしましょう、これはうちのラグビー部員勧誘ビデオです。これをほぼ男子全員に配っています。

(ビデオ放映)

これは 2015 年ラグビーワールドカップイングランド大会、五郎丸選手が一躍有名になった試合です。大方の予想を裏切って日本が最強国の一角、南アフリカ共和国に勝った試合ですね。ビデオではここから「ラグビーとは」と始まって、うちのラグビー部の宣伝が始まるんですが、実は今のゲームの中に教え子が出ていて、仙台出身の真壁伸弥、サントリーのキャプテンをやったりした子ですが、この子がぼくに本当の意味で可能性を教えてくれたんです。彼はホントに細い子でしたがあるときから変わっていくんですよね。ラグビーのワールドカップの前にどこかのテレビ局の HP の記事に私の名前が入っていたんですが、「ラグビーを始めたきっかけ 滝井隆太の言葉」って書いてある。先生の文字をちゃんとつけるって感じですよ。 (笑い)

私は彼に何を言ったのか覚えていなかったんですよ。そうしたら彼と同じ代の子に、「先生は彼に、『お前は世界に羽ばたける』って言ってましたよ」と言うんですよ。でも「おれ、そんなこと言ったっけかな」と。ただその言葉そのものは覚えていますが、実は入学してきた男子全員に「お前は世界に羽ばたける」って言ってるんで (会場笑い)、言葉は覚えて無くはないです。でもこれってすごく大事だと思っています。この言葉を本気にした彼は、本当に世界に羽ばたいた。こうやって人間って変わっていくんだ、意欲って本当に無限なんだと思います。彼は 1 年生のときは練習に遅刻するような子でした。でもあるときから自分から早く来てトレーニングするようになったんです。意欲はやはり無限なんですよね。だからぼくらの仕事ってすごく大事なんですよ。

③-5 プチ演習&具体例② 構成的アクティブラーニング「気づき力育成プログラム」

さて、話は元に戻ります。「気づき力育成プログラム」(スライド 59) も先の RBP 実験授業と同じく研究センターが開発したプログラムです。その中の課題設定とは気づきである、ということで、これも 7~8 年前に理科の先生方とだいぶ議論を重ねてつくったプログラムです。

(スライド 59)

授業づくりが壁を破る プチ演習&具体例 ②

構成的アクティブラーニング

気づき力育成プログラム

「気づき」を分析、高校の授業・学習向けに
再構成・プログラム化

生徒の「気づき」力を開発・育成し、
「課題設定能力」の向上を目指す

国語の場合は次のようにやっています。スライド 60 ですが、①芸術的作品の写真を観て、特徴的な現象を抽出し、②その現象はなぜ起こるのか仮説を立てなさい。その際に文化を比較しなさい、ということで実際に例えば教科書の挿絵や本文に出てくる写真などを日本のものと西洋のものを十数枚並べます。生徒は一人 1 台の PC でそれらの写真を行ったり来たり眺めて何かしらの現象がないかと特徴を探します。

(スライド 60)

気づき力育成プログラム

①芸術作品の写真を観て、特徴的な現象を抽出せよ。

②その現象はなぜ起こるのか、仮説をたてよ。その際、文化性、民族性など、さまざまな視点から考え、必ず合理的根拠を示すこと。

その根拠はいったい何なのかということ、日本文化・欧米文化というところまで踏み込んで、なんとか立論するんです。次にそれを 3 人で共有して (スライド 63) さらにブラッシュアップします。先ほどの「構成的 AL」の話で言うと、ここで少しヒントを出します (スライド 61)。ここでは高階秀爾の評論です。彼は芸術論で大学入試では最頻出の方です。「彼はこのように言っていますよ」と少しだけ情報を出します。

(スライド 63)



気づき力育成プログラム

(スライド 61)

気づき力育成プログラム

授業づくりが壁を破る プチ演習&具体例

構成的AL

段階的な
問いかけ、思考ための材料の提示

③筆者・高階は、美術作品から特徴を見出し、古語「うつくし」と「きよし」をキーワードとして、「日本人の美意識」について論じている。高階の論を推測せよ。

④高階論要旨を述べよ。

出典
「日本人の美意識」 東京書籍 精選現代文B（2学年）
高階秀爾 「日本近代の美意識」による

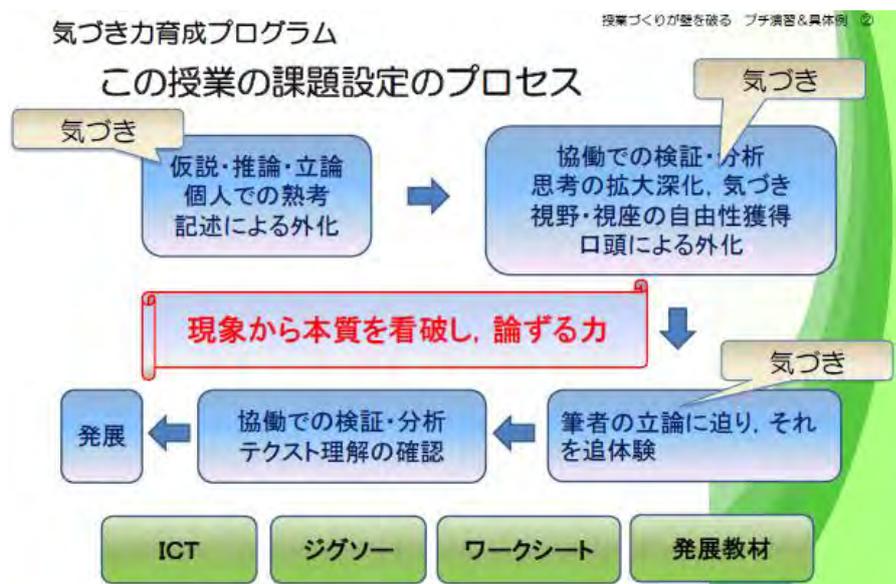
Copyright (C) 2018 Ryota Takii All Rights Reserved.

それをもとに彼らは自分の論文をつくり上げていく。それを人に対して表現し、よりいいものにしていく。仙台三校の場合はこういう条件を与えた場合、生徒は非常に活発な議論をしてくれます。成果物としても、ワークシートもずいぶん書いてくれています。かなり高いクオリティで書かれています。

この授業のポイントをまとめると次になります（スライド 66）。これは通常は評論家がやる仕事です。普通の人になかなか気づかないところを捉えてその本質的なところを言語で表現して伝える、というのが評論家の仕事です。その評論家の思考プロセスを追体験するようなプログラムです。

この気づきのところで、ぼくらがコントロールしたものを与え、同じような気づきを促すということをめざしています。

(スライド 66)



③-6 プチ演習&具体例③ テキストの斬新提示

ちょっと似ているのですが、私がずっと前それこそ20年前からやってきたテキストの漸進提示というものがあります。

例えばスライド 68 の『手の変幻』は、我々が高校生の時代からあるものなのでご存知かと思います。最初の一文がこのようにあります、お手元の資料をご覧ください。ぼくの授業では黙読のときは「黙読ルール」があって、読み終わった人は手をすっと挙げてすっとおろす。みなさんも読み終わったら手を挙げてそれからおろしてください。

(スライド 68)

手の変幻

清岡卓行

ミロのビーナスを眺めながら、彼女が
こんなにも魅惑的であるためには、両
腕を失っていなければならなかったのだ
と、僕は、ふと不思議な思いにとらわれ
たことがある。

この内容を読むと、「テキストの漸進提示」だからだいたいどういう質問がくるのかがわかりますね。私はこういうふうを受け取った、このあと「推論しなさい」という話です。「乱暴じゃないか、これだけでそれはできないでしょ」と思われるかもしれませんが、そんなことは実はなくて、この少ないテキストの中にけっこう情報が埋まっています。例えばその情報とは、「題」です。題というのはいつもすごくヒントになります。『手の変幻』ときたら手が現れたり消えたりすること。そして1行めの『彼女』という言い方です。彫刻に『彼女』という言い方をしているというのはこうです。筆者のプラスの価値判断というものを反映しているんじゃないか。こういうところで、『彼女』を見つけること、着眼です。そこから論理的に思考を組み立てるというトレーニング。こういう形でないとなかなかできないですね。

続いての文章です、ここにもたくさん情報が埋まっています。こんなふうに言う、ということは、逆から言ったら「手があったら魅力は無かった」という話です。少なくとも減じている、この情報はすごく大事です。

そして次は、「両」でなけりゃいけない、「腕」でなくちゃいけないのか。元々は腕はついていたのか、どのようについていたんだろうか、といういろんな思考がここで働きます。こういう論理思考、着眼、発想。

そして、決定的にこれがあります、『不思議な思いにとらわれた』と。不思議になるというのは、普通じゃないから不思議になるんで、通常の筋道じゃないということです。この場合通常の筋道じゃないというのは、何なんだろうかと考えてみます。普通は両腕の欠損というのは魅力が減じるはずなのに、しかしここでは魅力が増えている。これはいったい何が起きているのか。ここまでをこういう論理で生徒が考えてくれたらほぼ大成功です。生徒は、けっこうな率でこのように考えてくれます。「手に無限の可能性が生まれた、それが魅力なんだ」という話です。後、本文の中に抽象的表現がいろいろ転がっています。こんなふうテキストの掘り出しというのはけっこうできます。こういうのに慣れていくということはひとつ必要なと思います。共通テストの試行調査問題で少しだけでその兆しが見えているんです。こういう力はこのあと大事になってくるんじゃないかと思います。

読んで解釈をするのは必要です。だけどそれだけじゃなくて、例えば今のように推論していくということも必要なんじゃないか。そういうことができるようになると「身につく力」は大きく違ってくるので、この後は「テキストの解釈」ではなく、推論・推理、仮設構築、立論の方がどちらかというと注目されていくと思います（スライド69）。

(スライド 69)

授業づくりが壁を破る プチ演習&具体例 ③

テキストの漸進提示

「テキストの解釈」ではなく
推論・推理
仮説構築
立論

「できるようになること」
 (身に付く力) が大きく異なる

③-7 プチ演習&具体例④ 問題作成演習

もう一つです。この問題作成演習はたくさんやります。さっき「生徒に問題をつくらせる」とか「生徒に預けていいんじゃないか」と言いましたが、ぼくの場合は答をちゃんとつくるというのが一番大事だと思っています。ぼくがよくやるのは、教科書を全く教えないで、生徒が問題をつかって、それを解き合って、グループになって代表問題をつくる、そしてパーフェクト解答をみんなで作る、それを組み替えてシェアするということです。スライド 71 では大阪大学の問題で、傍線部・問題を消してサラの状態のものを配布して、問題をつくるという、前に話した『サッカーにおける資本主義の精神』か『グローバル化』でやったように記憶しています。とにかくテーマが一緒のもの、別の人が書いたもの、あるいは同じ人が書いた若干ずれたテーマというのをもってくる。だいたい入試問題から持ってくる人が多いです。

(スライド 71)

問題作成演習

○問題作成演習 パッチワークデザイン

H25大阪大 蓼沼宏『幸せのための経済学——効率と衡平の考え方』の**傍線部・問題を消去したもの**を配布(問題)

個人で作成(15分)→ペア解答・採点(8分)

→ファブリックグループでシェア・班の代表問題1問決定・パーフェクト模範解答・採点基準・出題意図 協議作成(20分)

提出メール, 提出期限, 次回パッチ告知。

◎7時間目 準備物(問題作成演習 生徒提出代表問題・解答)

○各自全問題解答(30分)

○パッチグループで解説(15分)

③-8 プチ演習&具体例⑤ 主体的・協同的・体験的・創作的授業

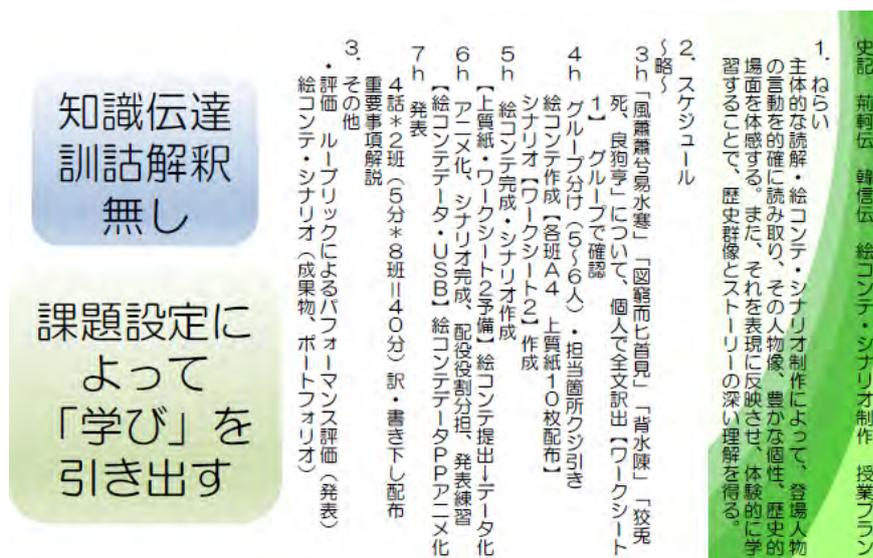
～古典題材 PR,アニメ化～

こちらの動画を見てください。この動画は古文のアニメ化の授業です。

(動画上映)

この授業 (スライド 73) は、ぼくは全く教えなかったんです。内容も、訓詁解釈や知識の伝達はゼロで、彼らに「ここからここまでをアニメーション化してね」と言いました。彼らはその内容を自分たちで訳し、シナリオ化し、重要場面と思われるところを絵にし、アテレコをし、演じた、ということころです (スライド 73)。これに 7 時間を割いたんですが、通常はこれらの古文の作品の授業をやるのに 7 時間以上かかります。だから時間は増えていません。それから従来のスタイルの授業と比較してテストの成績が悪いかというとそうではないです。となると、最初 (スライド 26) に言ったように実効性が同じようだったら、こういう授業をやった方がいいということです。

(スライド 73)



史記 荊軻伝 韓信伝 絵コンテ・シナリオ制作 授業プラン

1. ねらい
主体的な読解・絵コンテ・シナリオ制作によって、登場人物の言動を的確に読み取り、その人物像、豊かな個性、歴史的場面を体感する。また、それを表現に反映させ、体験的に学習することで、歴史群像とストーリーの深い理解を得る。
2. スケジュール
- 3 h 「風蕭蕭兮易水寒」「図窮而匕首見」「背水陳」「狡兔死、良狗亨」について、個人で全文訳出(ワークシート)
- 4 h グループで確認
絵コンテ作成(各班 A4 上質紙 10 枚配布)
シナリオ(ワークシート 2)作成
- 5 h 絵コンテ完成・シナリオ作成
[上質紙・ワークシート 2 準備] 絵コンテ提出・データ化
- 6 h アニメ化、シナリオ完成、配役役割分担、発表練習
[絵コンテデータ・USB] 絵コンテデータ PPP アニメ化
- 7 h 発表
4 話*2 班(5 分*8 班=40 分) 訳・書き下し配布
重要事項解説
3. その他
評価 ルーブリックによるパフォーマンス評価(発表)
絵コンテ・シナリオ(成果物、ポートフォリオ)

知識伝達
訓詁解釈
無し

課題設定によって
「学び」を
引き出す

教育にはやはり評価がついてまわります。評価はいまのところテストの点数が一緒だったら、いいですよ、いいですよ。でもやったんだったら、やはり評価してあげたいということです。ただ、評価疲れしちゃうんですよ、ぼくらがやりきれなくなっちゃうから、そこでぼくの場合はその場で、再現性がないというか、そういうものに関しては、ざっくりとしたルーブリック (スライド 74、75、76) を与えます。

(スライド 74)

補足 パフォーマンス評価とルーブリック

評価の観点 (㉔, ㉕, ㉖及び㉗, ㉘の一部)	
D	学習者は以下の説明で記述されているいずれの規準にも到達しない。
C	学習者は、読解・シナリオ作成・アニメーション化によって、登場人物の言動をおおまかに読み取り、自身の思考と想像をもって、それを表現に反映させ体験的に学習する本時の活動に取り組んでいる。
B+	学習者は、読解・シナリオ作成・アニメーション化によって、登場人物の言動を読み取り、自身の思考と想像をもって、それを表現に反映させ体験的に学習する本時の活動に積極的に取り組んでいる。
B	学習者は、読解・シナリオ作成・アニメーション化によって、登場人物の言動を読み取り、その人物像や歴史的場面に思いをはせ、豊かな自身の思考と想像をもって、それを表現に反映させ体験的に学習する本時の活動に積極的に取り組んでいる。
B+	学習者は、読解・シナリオ作成・アニメーション化によって、登場人物の言動を的確に読み取り、その人物像・豊かな個性・歴史的場面を体感し、豊かな自身の思考と想像をもって、それを表現に反映させ体験的に学習する本時の活動に積極的に取り組んでいる。
A	学習者は、読解・シナリオ作成・アニメーション化によって、登場人物の言動を的確に読み取り、その人物像・豊かな個性・歴史的場面を体感し、独自の着眼点、豊かな自身の思考と想像をもって、それを表現に反映させ体験的に学習する本時の活動に積極的に取り組んでいる。

授業づくりが壁を破る フチ講習員具体例 ㉔

古賀麗花 主体的・個別的・体験的 100%

(スライド 75)

補足 パフォーマンス評価とルーブリック

『相互評価表』(史記アニメ化)		年 組 番 氏名						
◎他の班の発表について評価する。該当に丸を付けて合計を出す。◎								
E	発表者班名	原文を正しく捉えているか	5	4	3	2	1	合計 25
		資料・演出などの工夫が伝わったか	5	4	3	2	1	
		豊かな表現で発表していたか	5	4	3	2	1	
		発表にオリジナリティはあったか	5	4	3	2	1	
		班内の風力が伝わってきたか	5	4	3	2	1	
アドバイス・コメント								
B+	学習者は、読解・シナリオ作成・アニメーション化によって、登場人物の言動を的確に読み取り、その人物像・豊かな個性・歴史的場面を体感し、豊かな自身の思考と想像をもって、それを表現に反映させ体験的に学習する本時の活動に積極的に取り組んでいる。							
A	学習者は、読解・シナリオ作成・アニメーション化によって、登場人物の言動を的確に読み取り、その人物像・豊かな個性・歴史的場面を体感し、独自の着眼点、豊かな自身の思考と想像をもって、それを表現に反映させ体験的に学習する本時の活動に積極的に取り組んでいる。							

授業づくりが壁を破る フチ講習員具体例 ㉕

古賀麗花 主体的・個別的・体験的 100%

(スライド 76)

補足 パフォーマンス評価とルーブリック

評価の観点	3	2	1	0
発想・思考 の自由度	自身の体験を題材に、 非論理的な着眼点と自由 で意外性のある発想。 自らの想事と気づきをも ちて、随想の創作に 取り組み、作品にそれ を反映させている。	自身の体験を題材に、 自由な発想、自らの想 事と気づきをもって随 想の創作に取組み、 作品にそれを反映させ ようとしている。	体験を題材にしている が、事実の経過が基 本、自分の心の動き 物、その効果などにつ いての発想・思考が乏 しい。	発想・思考に取り組み ていない、発想しよ うとしない。
構想・構成 の自由度	本題内で断片的随想を 活用しつつ、自らの体 験を題材に、自身の面 面観や物の見方を、随 想の主題に反映させる よう構想を練り、工夫 された構成をもって、 創作している。	自らの体験を題材に、 自身の随想観や物の見 方を、随想の主題に反 映させ、工夫された構 成をもって創作しよ うとしている。	自らの体験を題材に、 自身の面観観や物の見 方を、随想の主題に反 映させ、創作しよ うとしている。	構想に取組まない。 構成を考えようとして いない。
豊かな表現 の自由度	自らの感性・考えを表 現するために、さまざ まな言葉を用い、文学 的、創造的な随想創作 を試みている。また、 読み手を引き込む修辭 や表現上の工夫をして いる。	自らの感性・考えを表 現するために、さまざ まな言葉を用いよう としている。また、読み 手を引き込む修辭や表 現上の工夫をしよう としている。	自らの感性・考えを表 現するために、さまざ まな言葉を用いよう としている。	表現を豊かにしよう とする工夫が見られ ない。
態度・参加 の自由度	体験から感受したもの や感動された思いなど を自らの言葉で表現す ることに、強い関心を 持ちながら、随想の創 作に主体的・積極的に 取り組んでいる。	体験から感受したもの や感動された思いなど を自らの言葉で表現し ようとし、随想の創作 に主体的・積極的に取 組んでいる。	創作の態度は認めら れるが、積極性が認め られない。	創作に全く取り組んで いない。

授業づくりが壁を越える プチ演習&具体例 ⑥

古典題材 主体的・協働的・体験的・創造的 授業

76

それから生徒相互評価も参考にします。もちろんぼくも評価します。成果物として残るものは、レポートとか論文に関してはもうちょっと細かいものをつくっています。本当にこれだけです。それ以上のものはなかなか時間をかけられないので、とりあえずここからでいいんじゃないかと思っています。要するに、さっき言ったように、やらない言い訳にしないということが大事だと思います。

③-9 プチ演習&具体例⑥ 気づき力、教科融合、エンカウンター的体験学習

もう一つ紹介します、これは昨年のセンター試験の後に理系の生徒たちに2時間連続で実施した授業です(スライド 79~81)。これはちょっと苦労しました。もしご存知の方がいらしたら少しの間黙っておつきあいください。

まずは注意力テストです。白チームが何回パスするかを注意深く数えてください。

(動画上映)

ということで、これらはぼくらの認識力がいかに限られたものであるかを体験的にわかる、コーチングでよく使っているものなんです、これを1時間目にまず見せます。授業は2時間連続で行うので、まずは視座を変えられるトレーニングを少ししておく。そして2時間目にお手元にあるスライド 82 を読ませます。その後、「銀行ゲーム」をします。これも後で説明します。まずは、お手元の資料スライド 82 の「救命ボート」を先ほどの黙読ルールに従って読んでいただけますでしょうか。

(スライド 79)

全体像（単元計画）

「しなやかな思考」「複数の視点、視座の意識化」「ものの見方の拡大、変容」「他者理解・多様性理解」「多角的、複眼的思考の獲得」についての、統合的体験的なプログラム

◎1時間目 認知の限界性の自覚 視点・視座の変容

◎2時間目 他者、多様性理解 多角的複眼的思考の獲得

- ・2時間連続で実施
- ・1時間目は2時間目の構成的要素としても機能

(スライド 80)

1時間目 認知の限界性の自覚 視点・視座の変容

- 導入 動画 Awareness test 視聴→意見交換「この動画が意味すること」【ペア】 対話
- 思考実験「目が見ているもの」「幻想を破る」 黙読【個人】→寓意解釈→寓意解釈のシェア・質疑応答【グループ】 対話
- ワールドカフェ 他グループへの派遣(三人)情報入手・シェア 資料1「100の思考実験」(解釈)配布 黙読【個人】 対話
- クロストーク【クラス全体】 対話
- 資料2 芥川龍之介「藪の中」 黙読 (15分)【個人】

(スライド 81)

2時間目 他者、多様性理解 多角的複眼的思考の獲得

- 思考実験「救命ボート」 黙読 本当のねらいへの布石 対話
登場人物(ロジャー・メイト)の主張についての意見・感想交換【ペア】
- 銀行ゲーム (30分)【グループ】 協働
教科横断での授業づくり (数学科と協働してのゲーム課題づくり)
- クロストーク【クラス全体】 対話
本当のねらいへの気づき 統合 Well beingへつなぐ
- 資料3 佐藤信夫「レトリックの記号論」 黙読【個人】
資料4 救命ボート解説・作図解説配布 スキーマ形成のためのフォロー

(スライド 82)

評論・思考実験 WS2

1 次の文章を読んで後の指示に従え。
救命ボート」余剰の富を独り占めしてよいのだろうか？

「よし救命ボートのキャプテンにみずから名乗りでたロジャーが言った。このボートに乗っているのは二人だ。収容人員は二〇人だから余剰だな。食料はたっぷりあるから、助けが来てくれるまでの二四時間くらいは、十分にもつ。だから、ひとりひとりにチョコレートビスケット一枚とラム酒一杯をおまけで配る余裕もある。何か反対意見は？」
「ビスケットはもちろん嬉しいのだが」メイト氏が言った。われわれが今いちばんにすべきは、ボートを漕いでいって、溺れているあの気の毒な女性を助け上げることではないかな。もう三〇分も前からこちらに向かって叫んでいるよ。何人かが困ったように、ボートの内側に視線をそらし、ほかの人たちは信じがたいというように首を左右に振った。
おれたちの意見は一致していたはずだが「ロジャーが言った。あの女が溺れているのはおれたちの責任じゃない。それに、助けたら、おまけのビスケットにありつけなくなる。せつかく居心地のいいこの空間を、どうして壊す必要がある？」まわりから賛同の声が上がった。
「助けることができるからだ。助けなければ死んでしまう。理由としては十分だろうか？」
「又生なんて残酷なもんさ」ロジャーが答えた。もしあの女が死んだとしても、おれたちが殺したわけじゃない。さあ、ビスケットを欲しい人は？」

- ①登場人物「ロジャー・メイト」の主張についてのあなたの考え「意見・感想」をまとめなさい。
②パートナーと相互に自分の考えを説明し合いなさい。

「銀行ゲーム」とは次のようなゲームです。チームで協力してみなさんのお手元の資料（スライド 83、84）にあるように図形をつくります。今回は、先ほど言ったようにセンター試験の後の理系の授業でやったので、もう彼らは国語は必要ない。でも高校教育としてはそれをやらないといけないので、国語の時間だけでも数学的要素を入れました。その数学の問題は私がアイデアを出して数学の先生に相談して何を欠落させたら彼らは何分くらいでやれるのかということを確認しながら数学問題をつくりました。彼らは問題を解きながら紙からその型を切り抜き、銀行である私に持ってくる。それを競争するので、彼らはすごく夢中になってやります。（ルールはスライド 83 参照のこと）

ところがここにはポイントがあって、そもそも配布用品セットは班によって①から⑥のように異なっていて（スライド 84）、「紙 3 枚+コンパス+定規+鋏」のセットが全て揃っている班もあれば、「紙 3 枚」しかない班もあります。夢中になって勝負として問題を解いている彼らは、班ごとのセットの違いになかなか気づかないのだけれど、終わった後の「本当の狙いは何だったんだろう？」という問いかけによって、思考が変わっていきます。

問いかけは「今のゲームを一所懸命にやってくれてうれしかったけど、これは数学なのか？」。いやそうじゃないです。もうみなさんおわかりでしょう、先ほど読んでいただいた文章『救命ボート』と『銀行ゲーム』を合わせて考えると、授業をつくったぼくらが伝えたかったことは何か。

では先程ジャンケンで勝った方、パートナーに教えてください。はい、これは「寓意に気がつ

いてほしい」ということです。

(スライド 83)

気づき力&教科融合&エンカウンター体験学習

銀行ゲーム ルール説明

- ① チームで協力して、見本(資料3)の図形の2倍の大きさの図形を作る(鋏で切り抜く)。
- ② 銀行で、出来た図形の査定を受ける。銀行は製作精度に応じて、査定する。(厳しいです)
- ③ 査定額の総和が最も高いチームが勝ち。
- ④ 使用できる文具・紙は配布された袋のもののみ。ただし、鉛筆、シャープペン、消しゴムは使用可。
- ⑤ 他のチームと交渉して、文具・紙・アイデア等の貸し借りができる。
- ⑥ 同じ図形は1つしか査定を受けられない。

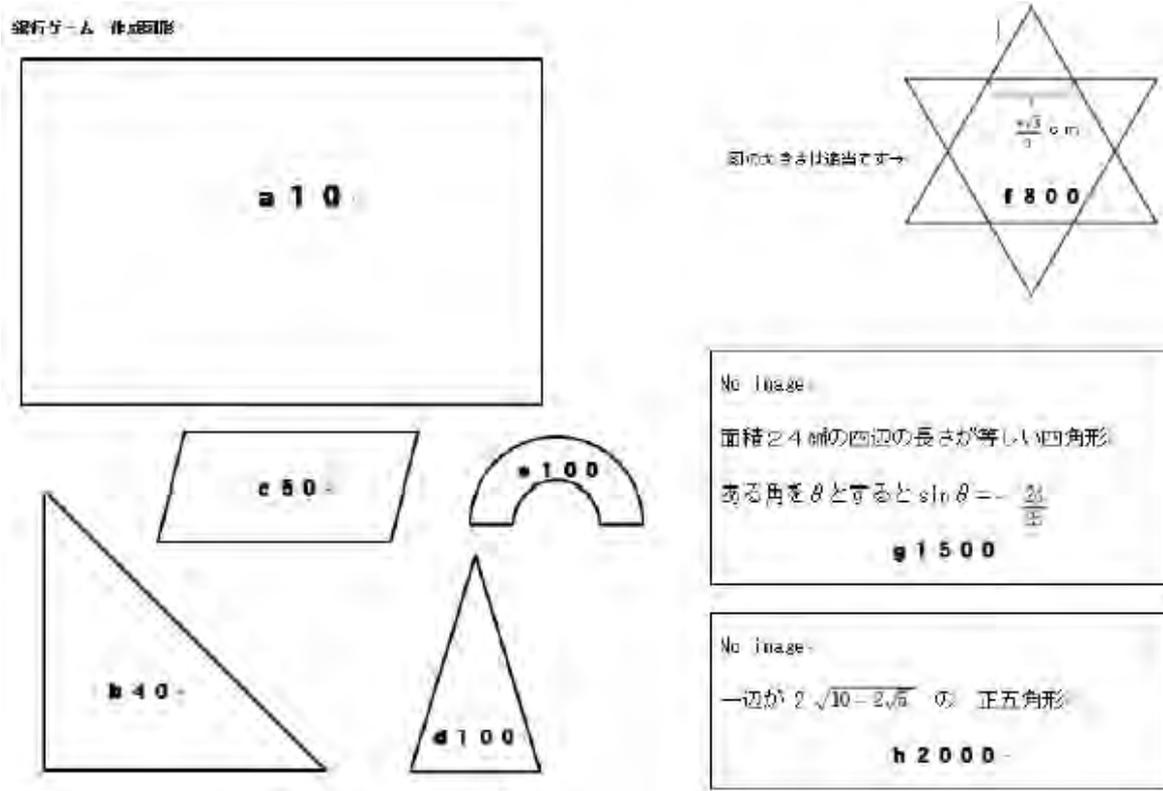
Copyright © 2018 Future Design All Rights Reserved. 90 授業仕様

(スライド 84)

配布用品セット

- ① 紙3 + コンパス + 定規 + 鋏
- ② 紙5 + 三角定規セット
- ③ 紙20 + 鋏
- ④ コンパス + 三角定規 + 分度器 + 鋏
- ⑤ 紙1 + 三角定規
- ⑥ 紙3

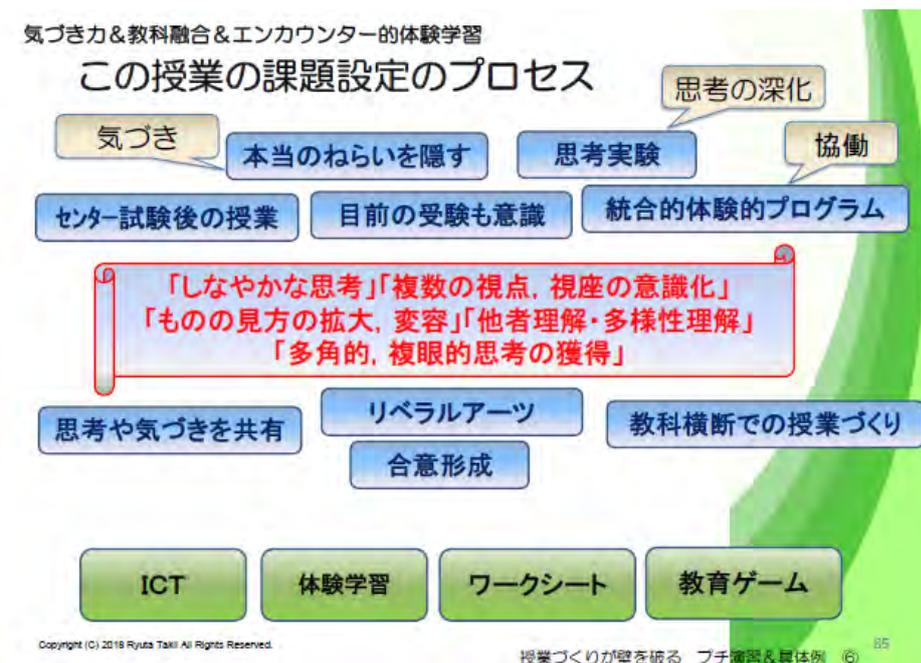
(スライド 85)



スライド 82 の『救命ボート』では、ボートに乗っているのは先進国です、生徒へのぼくの投げかけ方は「船に乗っている 12 人は国名でいったら何だろうか?」と聞きます。そのあたりで生徒はパパパッと気づいてくれます。では次はパートナーと話し合ってください。そして配布用品セットはそれぞれ国名はどこでしょうか? まず①のセットはどこ国でしょうか? 生徒はだいたい「アメリカ」とでかい声で言います。では、④のセットはどこ国でしょうか? 日本です、資源はないけど技術力がある。他には、「資源も技術力も少しある」、「何もない」です。何もない班はゲームの時間はやり取りもほぼできない。すごく賢い奴は先に問題をバーッと解いて、「おれが問題の答を渡すから、鉄を 3 分間貸してくれよ」といったやりとりもするんですが、結局ほとんどは何もできません。

ボートに乗っているのは先進国ですね。「君らは気づいているよね、なすすべもなく時間をつぶした班があったことに気づいているよね」と生徒に言います。私はそこまでです。「あのときどうしたらよかったのか」ということを生徒は考えます。答を要求しているわけじゃない。こう生きてくれというわけじゃないが、そういう契機をぼくらが準備していくことがここにつながっていくんじゃないか。生徒に「これは 3 年間の最後の授業です」なんてことを言いながらやっていたら、けっこう感動的になって思わず涙ぐむ生徒もいましたが、こういうつくりの授業も今後はありだと思います。みんなでつくってみんなで集積していかなければならないと思います (スライド 86)。

(スライド 86)



4 これからの教室

さて、時間も少なくなってきました。最初に見せた動画（スライド 86）に戻ります。

ぼくたちはいま存在していない仕事に就くであろう生徒を教えています。まだ全く開発されていないような技術を使って、いまはまだ誰も知らない問題を彼らは解いていく、解決していく。そういう彼らをいまぼくらはこの時点で教えています。

(スライド 86)

④ これからの教室

We are currently preparing Students for Jobs that Don't yet Exist...

私たちは、今存在していない仕事に就く生徒たちを教えています

まだ発明されていない技術を使って Using Technologies that haven't been Invented...

In order to Solve Problems We Don't Even Know are Problems yet
今はまだ誰も知らない問題を、彼らが解決するために

Copyright (C) 2018 Ryuta Takai All Rights Reserved.

ぼくらの教えがそれにつながっているのかという自覚をすごく持たないといけないと思います。仙台三高ではカリキュラムマネジメントがスタートしていて、授業づくりプロジェクトはもう十年になろうとしています（スライド 87）。授業づくりの改善です。いま言った教育プログラムをつくって、研修会をやったりする学校づくりプロジェクトをスタートして、グランドデザイン、アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーの制定、というところに入っていってます。

（スライド 87）

④ これからの教室

- カリキュラム・マネジメントの軸は授業マネジメント

仙台三高は 授業づくりプロジェクト & 学校づくりプロジェクト

- 教員文化・学校文化の不易と流行

「変えてはいけないもの」を見極めながら、「生」の授業のプロとして発想し、行動する。

- 教員協働

授業づくりは協働の時代が到来。チームで！

Copyright (C) 2018 Ryusa Taki All Rights Reserved.

もうひとつ、教育には変えてはいけないものが絶対あります。ただし、今回の教育改革が転んだら日本はだめだと思っているんです。何としても成功させたい。だからマスコミが一番怖いので、よくわかんないで茶化すから。上げ足を取るし。そういうところで教育改革が転んでほしくないです。「本当に 30 年後、60 年後に日本は大丈夫なのか」という所にぼくらが立っているんです。そして、変えればいいということばかりではない、という話ですが、見極めもしなきゃいけないし、最後に人間に対して人間が行っていることなんだから、変えちゃいけないことがあるよね、ということをもう一度みんなを確認したいです。

先ほど言ったように、やはり協働しないとどうしょうもないです。つくり込みの精度が上がらないからです。一人が自営業的にやっているという時代は終わっていると思います。そこを早くシステムとしてつくり上げた方がいいんじゃないかと思います。

今日はどうもありがとうございました。

（終わり）

東京都立武蔵高等学校 主幹教諭

山本 嵩雄 先生

なぜ「教えない授業」が学力を伸ばすのか

—大学入試改革に備える—

- 1 自己紹介
- 2 職員機能の細分化と「教えない授業」
- 3 いまの日本の学校は大丈夫だろうか？ということを考えます
- 4 トランジション問題
- 5 世界の変化する学校
- 6 いい学校、いい先生の定義の見直し
- 7 50分の時間を自分たちでデザインできるように
- 8 なぜ「教えない授業」に変化したのか、そのきっかけ
- 9 誰に教わっても大丈夫な自律した学びを手に入れる方法
 - ①学びをリアルな社会問題につなげる
 - ②魔法のノートづくり
- 10 続けるための4つのマインドセット

なぜ「教えない授業」が学力を伸ばすのか
—大学入試改革に備える—

東京都立武蔵高等学校 主幹教諭

山本 嵩雄

1 自己紹介

みなさまこんにちは。どうぞよろしく申し上げます。

まず最初に短い動画をちょっと見ていただきたいんですが。どんなことを感じるでしょうか。

(動画 「The Future of Work Youtube」)

では感じたことを近くの人と 30 秒話してください。

どうですかね、人がまったく出てこない動画だったと思うんですけども、これが 10 年後、20 年後の世界の動画ではなく現在起きていることの動画だということがすごく大事な事かなと思います。これをつくった方はアメリカの Ted Dintersmith さん（教育哲学者・アメリカ）で、映画プロデューサーでもある方です。この前日としてパネルディスカッションの中でデッドさんが言った言葉（スライド 4）は、いまの動画で出てきた、『知識を覚える』、『単純作業をできるようになる』、『指示に従う』などは『全て機械、AI ができるようになってしまう』という世の中にすでになっている」ということでした。

いま、「学校の学び」がこういうもの（スライド 4）になってしまっていないかどうか、ということがすごく大事だと思います。

(スライド 4)



子どもたちにぼくが英語の授業で自己紹介をさせるときはだいたいこんな感じで、名前を書いて好きなことやものを 3 つ、絵で描いてもらいます。（スライド 6）。

(スライド6)



最初の授業でこれをやりますが、2つ大切なことがあります。1つは絵で描く、デザインするという。もう1つはこれを使って自分で自己紹介をするのではなくて、相手のこの絵を見ることで質問することによって自己紹介を深めていくという体験をしていきます。大切なこと、それは「絵を描く、デザインすること」、「質問をつくること」、この2つを最初の授業でぼくはやりま

2 職員機能の細分化と「教えない授業」

今日は教員のみなさん、保護者の方、また高校生もいらっしゃるので、どっちかという今日では高校生目線で話したいと思います。先生方には生徒目線で聞いていただけるといいかなと思います。

『教えない授業』(スライド7)という本を書きました。このタイトルを見てみなさんはどんなことを感じますか？ 本を読む前はいろんなことを感じると思うのですが、いまでもけっこう批判されるのが、「教えることを放棄している」、「先生がラクしたいだけでしょ」、進学校だからできるんじゃないか、「教えちゃいけないの?」というようなことです。こんな極端な話までタイトルからすると感じるのかもしれない。

(スライド7)



ただですね、ぼくは授業の中でやっているのは、先生の役割が（スライド 8）大きく変化するということです。

これまでの学校というのは「教える」というスタイルだったと思うんですね。そこから少しずつ「導く」という方向に変わっていく。教えない授業はコーチ・Coach-とかファシリテータ・Facilitator-とか、この辺りをめざすことにすぎないわけですね。だからもっと言えば、場合によって Teacher にもならなきゃいけない、Coach にもならなきゃいけない、Facilitator にもならなきゃいけない。それぞれで最適な方法を選ばなきゃいけないというのが正解だと思います。これできなきゃいけないというのはない。

（スライド 8）



だけど、通り一辺倒の「教える」ことだけでは先ほどの映像のように、これからの社会で生き抜く子どもたちを育てることはできないかなと思っています。

もっと言えば、ここは AI や ICT、映像が得意な分野だと言われています。でもぼくは Teacher を極める先生がいてもいいと思うんです。教えることが上手な先生はどんどんと極めていいと思うんです。ただ、いまの子どもたちの学びの仕方を見ると、試験前に You Tube で学びたい項目を探ることを、普通に高校生、中学生がやっています。そうすると、そこでは全国の本当に教えることが大好きで得意な先生たちの動画が見れます。それを見るとぼくが 1 時間の授業でやっていることを 10 分とか 5 分のコンパクトな内容に、本当に分かりやすく映像を使いながら解説している動画にたくさん出会えます。もうかなわないなあ、ということを感じたりします。そういう今の環境を上手に使いながら、うまく導いていくということが大事なんじゃないかなと思います。

生徒自身も変わってきています。『高校生教室』（スライド 10）というものがあります。彼は船橋さんと言いますが、高校生のとき、疑問に思ったこと、「なんで学んだらう？」、「なんで人は学校に来るんだらう？」ということにモヤモヤしながら授業を受けていたそうです。そのとき彼が思ったのは、「じゃあ高校生が高校生同士で、『なんで学ぶのか』を話し合えばいいじゃん」と言って始めたのがこの『高校生教室』です。放課後に集まってきて、彼らはガチで授業をやった

んです。ガチで国語の授業をやったり、数学の授業をやったり、理科の授業をやったり。その後は本気で反省会をするんですね。若手の研修会のようなことを彼らはやっていたんです。Tik Tokで彼のプレゼンを見ることができるのでぜひ見ていただきたいと思います。彼らは名古屋大学に進学して、また新たなことに挑戦しているみたいですが、とにかく「自分たちで学ぶ」ということを彼らはしたわけですね。

(スライド 10)

高校生教室



教え合い、そして学び合う | 船橋 理仁 | TEDxNagoyaU

そしてなんと某予備校の宣伝「生徒が講師に教える」という所までいきました。「教えたことの90%は忘れない」、「偏差値の低い子がどんどんと上がっていく」という宣伝内容でした。

「教えない授業」でも生徒による授業は中学生のうちからやっています。次の動画 (スライド 12) は中学3年生がやっているものです。

(動画 「生徒による授業」)

(スライド 12)

生徒による授業



こんな感じで自由に授業をさせています。このときは「have to」の使いかたを学ばせたんです

が、ちなみにこの学生 A は中学 3 年生のときに英検準 1 級に受かり、高校 3 年生で英検 1 級に受かり東大に行きました。この学生 B は学校の勉強は全然できずテストはダメだったんですが、生きる力がすごくて海外の大学に進学しています。彼 C はダンサーになってヨーロッパのバレエ団に所属しています。多様な進路が生まれている感じですね。

この動画のような感じで、子どもたちは自由に授業を組み立てることができます。

その前提となる彼らの経験というのは、いままで教わった経験なんですけれども、「教えない授業」を実行するためにはある程度教わる経験も必要で、ゼロからできることではないので、まずは学び方をしっかり教えてあげなきゃいけないということですね。

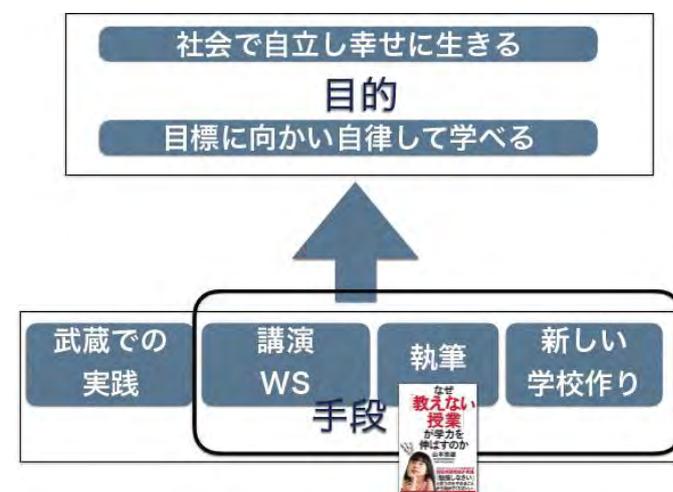
たとえばこの動画の授業はすごかったですね。この生徒による授業では、教科書の単語をすべてお面にして、レッスン全てを並べ替えるという壮大なプロジェクトをやっていました。難しそうですね、すべて単語がバラバラなので。少しのヒントからジグソーパズルのように組み立てていくような感じの授業をしました。

このとき彼らが出した反省には、「もっと生徒を巻き込むようにしたかった」とか「もっと生徒に考えさせる問いをつくりたかった」とか、ほんに教員が書くような反省がたくさんみられました。中学校 3 年生はものすごくよく授業を見ているということだと思います。

ということは、まず「教えない授業」ということで大切なのは、「学び方を教え、教えられるくらい学ぶ」ということ、これを意識して授業をしています。「学びの責任は生徒自身にある」ということですね。

ぼくの教育者としての最上位目標は、子どもたちが「社会で自立して幸せに生きる」です（スライド 14）。子どもたちが社会に出て行ってハッピーに生きていてほしい、ということが最上位目標です。それに向かって僕の授業の中でやっているのは、「目標に向かって自律して学ぶ」ということです。これが学校でやっていること。で、出ていったらこうなってほしいということ。その手段として武蔵高校での実践、今日のように講演させていただいたり、執筆したり、新しい学校づくりのお手伝いをしています。

(スライド 14)



また、ぼくの立ち位置というのがすごく難しくなっていて、ひとつ団体を立ち上げました。
スライド 16の「未来教育デザイン confeito」です。ここがぼくの教育を発信する場であって、つまり「武蔵高校でやっている実践」となると、武蔵高校全体がそういう実践をしているという誤解を与えたり、学校に迷惑がかかりはじめたので団体をつくったということです。

団体には2人しかいないんですが、生物の教員（山藤旅聞）と私とで、これからの教育についてデザインしていこうということで、発信する場としています。だから今日もどちらかという武蔵高校の教員というよりも、「未来教育デザイン Confeito」の立場で話すというのがしっくりくるかと思います。Confeitoは元々ポルトガル語で、ポルトガルからきたお菓子、日本語だと金平糖です。金平糖それぞれの形がちがって、淡い色、食べれば誰もが笑顔になるという、そういったイメージで教育をしていきたいと思っています。

(スライド 16)



山本 崇雄 (英語)



山藤 旅聞 (生物)



Confeitoの理念は3つあり、「違っていいという Diversity」と、「つながりの Relationships」、それから「Happiness 笑顔をつくっていく」、ということを大切なキーワードとしてデザインしていきます。

最近ではSDGs (エスディーゼズ「Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)」を使った出前授業などをよく一緒にやったりしています (スライド 19)。

SDGsは2030年までに解決したい課題です。国連が定めた17の課題 (スライド 20、21、22) とそれをより具体的にした169のターゲットがあります。それぞれのゴールを通すと、国連の持っている課題だとか数値目標にたどり着けます。17の課題はクリックするとその分野の複数のコンテンツがあり、課題や数値目標がわかります。

(スライド 19)



(スライド 20)

	<p>1. 貧困をなくそう あらゆる場所で、あらゆる形態の貧困に終止符を打つ</p>		<p>4. 質の高い教育をみんなに すべての人に包括的(※)かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する</p>
	<p>2. 飢餓をゼロに 飢餓に終止符を打ち、食料の安定確保と栄養状態の改善を達成するとともに、持続可能な農業を推進する</p>		<p>5. ジェンダー平等を実現しよう ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワメントを図る</p>
	<p>3. すべての人に健康と福祉を あらゆる年齢のすべての人の健康的な生活を確保し、福祉を推進する</p>		<p>6. 安全な水とトイレを世界中に すべての人に水と衛生へのアクセスと持続可能な管理を確保する</p>

(スライド 21)

	<p>7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに すべての人々に手ごろで信頼でき、持続可能かつ近代化的なエネルギーへのアクセスを確保する</p>		<p>10. 人や国の不平等をなくそう 国内および国家間の格差を是正する</p>
	<p>8. 働きがいも経済成長も すべての人のための持続的、包摂的かつ持続可能な経済成長、生産的な完全雇用およびディーセント・ワーク(働きがいのある人間らしい仕事)を推進する</p>		<p>11. 住み続けられるまちづくりを 都市と人間の居住地を包摂的、安全、強靭かつ持続可能にする</p>
	<p>9. 産業と技術革新の基盤をつくろう 強靭なインフラを整備し、包摂的で持続可能な産業化を推進するとともに、技術革新の拡大を図る</p>		<p>12. つくる責任 つかう責任 持続可能な消費と生産のパターンを確保する</p>

(スライド 22)



子どもたちの学びをそれぞれのゴールに照らし合わせると、「1 貧困をなくそう」とか「2 飢餓をゼロに」しようといったリアルな世界の社会課題につながります。

スライド 19 は 1 列め、2 列め、3 列めにそれぞれ意味があります。

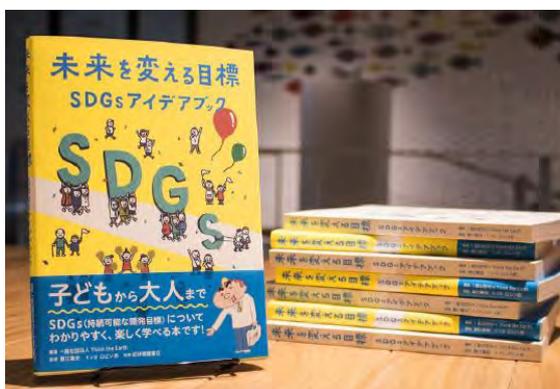
1 列めの 1 から 6 は途上国が抱えている課題です。詳細はスライド 20 で飢餓、健康と福祉など、生きていく上での大切なことです。

2 列めの 7 から 12 を見ると、エネルギー、働きがい、産業技術革新などがあってこれらは先進国の課題です (スライド 21)。

最後の 3 列めはもっと大きなことで、海の豊かさ、平和・公正など、途上国や先進国に (案 の分類に) 関係のないもっと大きな話題になっています (スライド 22)。

そして 17 が「パートナーシップで目標を達成しよう」となっています。このようなゴールになっています。そして私はこのような本『未来を変える目標 SDGs アイデアブック』(スライド 23) をつくって、実際に授業の中に取り入れる例なども紹介しています。これは日本語の本ですが、そんな活動をしています。

(スライド 23)



それからスライド 24 は出前事業です。時間があればみなさんの学校にも伺いたいと思います。ぜひ依頼していただければと思います。1 時間で子どもたちを自走させるように、「やってみよう」

という気持ちにさせる授業をしたいと思っています。

(スライド 24)



3 いまの日本の学校は大丈夫だろうか？ということを考えます

「いまの日本の学校は大丈夫だろうか？」ということを考えます。そもそも学校って何のためにあるんでしょうか？ この答えをぼくら教員、親、また生徒はもっているんでしょうか？

「学校って何のためにあるんでしょうか？」

みなさん自身の言葉でいいので、これも 30 秒ぐらいでちょっと話してください。どうぞ。

何のためにあるんでしょうか。ここが最上位目標ですね。学校って何のためにあるのか？ これが共通理解できていないとだめなんです。

私はこれだと思います、「子どもたちが社会に出て幸せに生きるため」に、学校はあるべきもの。でも「東大〇人」、「現役進学率〇%」だったり、「開かれた学校をめざそう」という言葉もあります (スライド 25)。

(スライド 25)



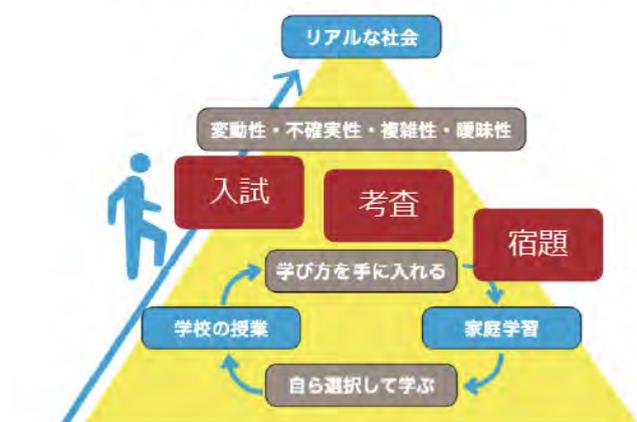
これはおかしいですよ、「開かれた学校」という言葉自体が。ということは、いまは閉ざされているんじゃないかと思えますよね。もともと学校というのは子どもたちが社会で幸せに生きるためにあるべきなのに、いまは閉ざされた状態にあるんです。学校は社会につながっていないとおかしいんです。ただこういう途中段階だったり、手段だったりすることが目標になってしまっ、その先の「何のため？」ということも大人が共通理解していないんです。だからここを社会全体が共通理解することから始めなければいけないなと思っています。

社会全体、大人全体が、子どもたちがハッピーに暮らす社会をつくっていかなくちゃいけない。この子たちが、最初に見てもらった映像の社会の中で、どうハッピーに生きていくかを強烈にイメージしなくちゃいけないということだと思えます。

そしていまの社会に子どもたちが登っていくために、ぼくは学校の授業の中で「学び方」を手に入れるための学びをさせています。そして、家庭学習にむすびつけ、「自分でやってみよう」にむすびつけ、「自分で選んで学んでいく」というサイクルを回しながら（スライド 26）リアルな社会に登ってほしいと思っています。

（スライド 26）

教室と社会を分断するもの



ただ学校をリアルな社会と分断するものがあります（スライド 26）。さっきの話じゃないですけど、閉ざされた学校では、まず「入試」です。ここが目標になってしまう。その先についてしっかり語ってあげないといけない。「この先どうなるか」を。あくまでもここは過程にすぎないのに、目標になってしまう。「やりたいことはわからないけど、とりあえず大学にいこう」ではなくて、答えが見つからなくても、この過程にあるんだということを子どもたちに意識させなくちゃいけない。

それから「審査」です。普段の学びが中間審査・期末審査に左右されてしまうことがすごくあると思います。

それから「宿題」です。「宿題」はこの循環を断ち切ります。全員に必要な同じ宿題というのは無いと思うんです。たとえば「本の〇ページから〇ページまでをやっておきなさい」という宿題、ある子にとっては全部わかっている、ある子にとっては解くのは難しい、ある子にとって

は半分ぐらいわかる、そんな感じですから、全員で一律にそのページを学習することに意味はないと思います。100歩譲って、「わからない問題だけ解いてみよう」とか「選んでやってみよう」とかであればまだ「選んで学ぶ」ということができるんじゃないかなと思います。

これらが子どもたちと社会を分断していると考えています。

4 トランジション問題

でもなかなか、なくならないですよ、学校では宿題を止めたり、考査を止めたりということは、なかなかできないと思います。でも本当にできないんでしょうか？

ものすごい勢いで社会は変化しています。だけれど変わっていないのは学校だと言われています。スライド27のスタイル。これは相当古い写真で明治時代です。変わっていません。一斉授業スタイルに見えます。そこで「トランジション問題」という学校と社会が違いすぎるという問題が発生しています。

(スライド27)

変化する社会と変化しない学校



スライド28はもと東大の、現立教大学の中原先生が「教育機関とリアルな社会の隔たり」についてまとめた表です。ではどんな違いがあるか。

まず「どんな課題がでるか?」。教育機関では指定された範囲から出る。リアルな社会では出題範囲はない。

「誰ととくか?」。教育機関ではひとりでとく。リアルな社会では職場のメンバーみんなでとく。

「解いているあいだは?」。教育機関では無言でとく、相談すればカンニングとなって怒られる。リアルな社会ではどんどんとコミュニケーションした方がいい、相談すれば褒められる。

「道具は?」。教育機関では鉛筆と消しゴムのみだが、リアルな社会ではコンピュータを含め何でも使う。

「わからなければ?」。教育機関では教えてくれる先生がいる、リアルな社会ではフィードバックをくれる人を自分で探す。

つまり教育機関とリアルな社会にはこれだけの差が生まれ生まれています (スライド29)。

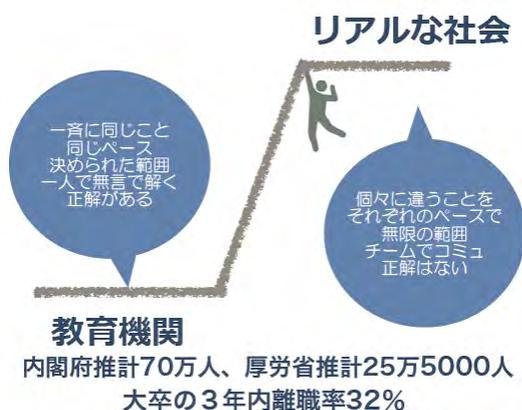
(スライド 28)

教育機関とリアルな社会の隔たり

	教育機関	大人のリアル社会
どんな課題がでるか？	指定された出題範囲から = 課題は与えられる	出題範囲はない = 課題を自分たちで提案する
誰ととくか？	ひとりでとく (テスト)	職場のメンバーみんなととく
解いているあいだは？	無言 = 相談すればカンニング	コミュニケーションしまくり = 相談すれば褒められる
道具は？	鉛筆とケシゴム	コンピュータ含めて何でも使う
わからなければ	教えてくれる先生がいる	フィードバックをくれる人を自分で探す

中原淳教授 (立教大学)

(スライド 29)



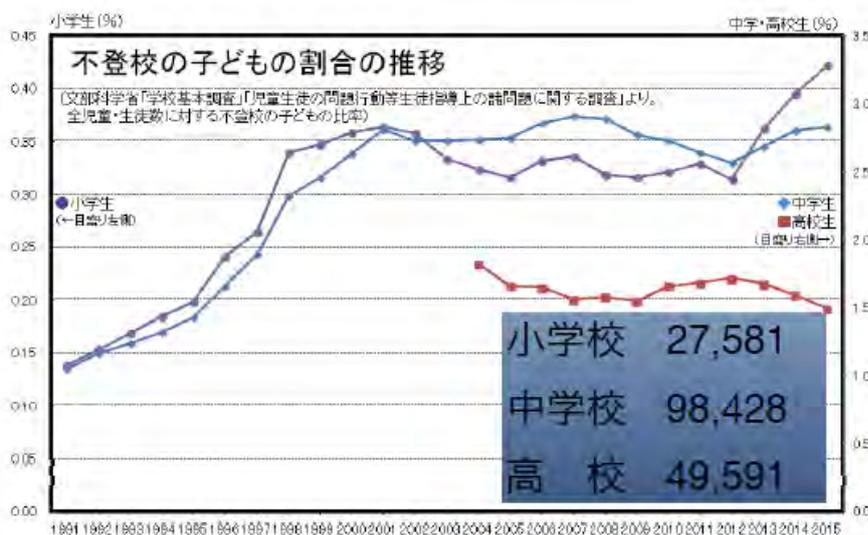
そうすると社会に出たときに困るのはいまの子どもたちですね。その結果生まれたのは大人の引きこもりです。70万人とか25万人とか言われています。ものすごい数の大人が職を失ったり引きこもってしまっています。

そして離職率です。新卒が仕事を辞める率は32%です。学校とは段差があるこのリアルな社会に順応する子どもたちを教育機関は育てられていないんです。そういう結果だと思います。

そしてスライド30は不登校の割合です。2015年のデータですが、小学校で約3万人、中学校で約10万人、高校で約5万人。これに中退を含めると20万人以上の子どもたちがいまの学校に「NO」を言っているんです。違和感を感じているんです。もっと言えば、学校に来ているけれど、いまの授業が本当に大切なのかと疑問に思っている子はものすごい高い率にいるんじゃないかと思っています。

実際に「学校に違和感を感じている子」の統計はないんです。ただNPOの人たちに話を聞くと、子どもたちは今の学校しか選択肢を知らないで、違和感というよりも「学校がダメな自分をダメだと思ってしまう」と。他の選択肢がない。だから他の選択肢をつくっていくことはすごく大事なことだと思います。

(スライド 30)



ここで紹介したい中島芭旺(なかしま・ばお)君という少年は12歳ですが、小学校のときに「学校に行かない」と決めた子です。彼は小学校のときに算数の勉強をされていて、乗ってきて、もっともっと勉強したいと思ったときに、止めなきゃいけないことに違和感を感じたんです。もっと算数をやり続けたいのに次は音楽をやらなきゃいけないことに違和感を感じた。そして自分で勉強をするという道を選んで、哲学者になって自分で哲学の本(スライド31)を書いて、世界中で読まれているということです。こういう子がもっともっと生まれてくるんじゃないかと思います。

(スライド 31)

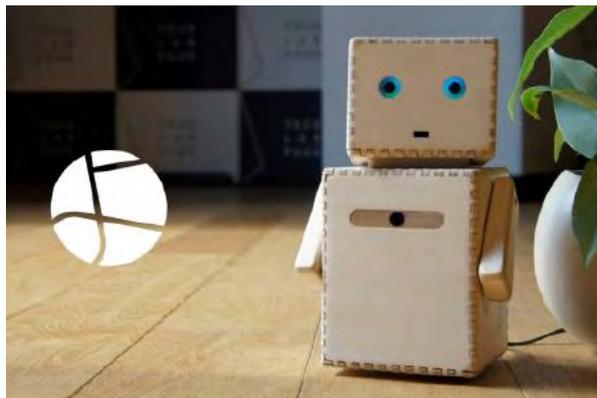


これは Yoki (よき) という会社の情報端末ロボット HACO ロボット(スライド 32)ですが、Amazon や Google などのデバイスを家に置いて、ここに話かけるといろんなことをインターネットに接続して応えてくれるというものです。誰にでも優しい、インターネットに接続するデバイスをつくりたいということで、木でできたロボットみたいな形です。これにしゃべりかけると、好きなレストランを教えてくれたり、使っている人の体温を感じたり、健康状態を把握したりするというものです。

彼らは 2020 年に会社をつくらうと考え準備をしたのですが、世の中が予想以上に早く動いて

いたので、当時彼らは高校生だったのですが会社をつくりました。従業員は40人で社長は高校3年生、一番年長は40歳の従業員がいるという会社です。彼に1時間のインタビューというか会話をする時間をもらったんですが、彼が話している言葉の半分ぐらいは、何を言っているのかよくわからなかったです。プログラミングのことだったり、AIのことは、ぼくはもっともっと勉強しないとイケないと、そのとき感じました。つまり、すべての世代のパートナーシップがこれからは必要になるということです。

(スライド 32)



先生と生徒は対等になってくるという時代認識が必要だ、と思います。だから週に1回くらい生徒が先生をやるという時間があってもいいんじゃないでしょうか。インターネットのことだったり、AIのことだったり、YouTubeのことだったり、生徒の方がはるかにぼくらよりわかっている。ぼくらはそれを知らなきゃいけないと思うんですよね。そういうパートナーシップを組んでいくという考え方が大事だと思います。

5 世界の変化する学校

そんな中、世界で学校はすごく変わってってます。いくつか紹介します。

まずミネルバ大学 (スライド 34) です。世界で一番入りにくい大学だと言われています。この大学の長所は校舎がありません。そして7つの国で学ぶ大学です。具体的には、1年めはアメリカで学び方の基礎を学びます。2、3年次にアルゼンチン、ブエノスアイレス、ベルリン、ハイデルバード、ソウルなどいろんな国を周り、4年次はイスタンブール、ロンドンで学びます。この国にはいろんな特徴がありますね、発展途上とかこれからのいろんな課題を持っている国だったり、先進国だったり、そこでリアルな課題に直面しながら学びを深めていくという、そんな大学です。

(スライド 34)

変化する学校①～ミネルバ大学



もう一つは、「High Tech High」というアメリカにある高校です。これは短い動画をみせますので、どんな高校なのかを想像してみてください。英語ですがちょっとがんばって聞いてみてください。

(動画 「High Tech High」)

学校では子どもたちが何かをつくっていますよね。動画の中でこんなふうに言っていました。世の中は120年以上も前のモデルでいままも教育を行っている。しかし、この学校の特長は100%プロジェクトベースです。何かをつくりだす。教科はありません、考査も宿題もありません。

ここには通知表はないんですが評価する場があって、それは子どもたちがつくったプロジェクトを大人が目にする。学期に1回ある発表会に、その道のプロだったり、地域の方や保護者の方がきて評価するんですね。これはテッド・ディンタースミスさんがつくった『Most Likely to Succeed』という映画の予告編です。そんな学校があります。

宿題はない、テストもない、通知表もない、ただどもこの学校の標準テストの成績は平均よりもはるかに超えていて、大学進学率もすごく高くなっているという、そういう学校です。

次は「Green School」。前のは都会にある学校でしたが、それとは対照的な田舎にある学校でバリ島にあります。すべて竹でできている校舎です。窓ガラスはありません、外気が吹き抜けていくつくりです。ここでは、豊かな自然の中でPBLをやるので、わりと自然ベースのプロジェクトが多かったと思います。たとえばスライド36は植物を育てているんですが、右側には魚がいます。さかなのフンが水とともに植物に注がれて栄養になり、小石でろ過されてまた水に戻ってくるといふ循環をプロジェクトでつくっています。

(スライド 36)



日本も負けていません。工藤先生がいる千代田区立麴町中学です。工藤先生が職員や生徒に示している最重要目標はすごくシンプルです。スライド 37 の「世の中ってまんざらでもない！ 大人って素敵だ！」です。これが学校の最上位目標です。この最上位目標にてらして、すべての行事、すべての授業をもっていこうということです。わかりやすいですね。

今年度この学校で取り組んだのは次の 3 つの全廃です。定期考査全廃です。宿題、ちょっとだけ出していいというものもあります、全廃です。そして担任制もやめました。そんな学校が普通の公立の学校で生まれているということですね。

(スライド 37)

変化する学校④～千代田区立麴町中



6 いい学校、いい先生の定義の見直し

「いまの学校で大丈夫か？」と不安に思う生徒もいるかもしれません。毎年 4 月に学校でささやかれる言葉にはどんな言葉があるのでしょうか？

「今年の担任の先生は外れだ」、「今年のクラスはつまらない」、「〇〇先生の教え方はわからない」、「うちの学校は新しいことが何もない」。

こうやって何かと比較して自分で勝手に不幸になってしまう子どもたちがたくさんいます。依存型の学習者はすべてに頼ってしまう。

これは、次のように表現を変えるとまったく同じです。

「〇〇先生の教え方はわかりやすい」、「今年の担任の先生は当たりだ」、「今年のクラスは面白い」、「うちの学校は最新の教育をしている」。

これらもすべて依存型です。「だったら自分で何ができるのか？」です。

「いい学校、いい先生」の定義を見直しをしていかなきゃいけないということです。依存型学習者は失敗したり、つまずいたときに必ず誰かのせいにします。クラスのせいにしたり、先生のせいにしたり。

たとえば保護者の方が授業参観に行ったときにこういう授業(スライド 41)が行われていたら、いままでは、静かな教室で先生が指示をして、それに従って進んでいく授業がいい授業だと言わ

れていましたので、「うちの学校は落ち着いている」と思うでしょう。だけど、疑ってかからなきゃいけない、そういう時代だと思います。

そこで「でも大丈夫！誰に教わっても大丈夫な自律した学びを手に入れよう！もう、学校や先生に依存するのはやめましょう！」（スライド 42）ということです。これは生徒向けのメッセージです。自律型の学習者になればいいんです。「先生に依存する、学校に依存する」ことから、「パートナーシップを組む」ということです。必要なときに、必要なことを利用していく、ということです。お互いにパートナーシップを組んでいくことが大事です。

（スライド 41）



（スライド 42）



自立型学習者は、失敗したり、つまづいたときに、原因は自分だと考えるようになります。自己責任となります。ピンチになったときに誰かのせいにならず、チャンスだと捉えられるようになってきます。自立していきましょう、ということです。

7 50分の時間を自分たちでデザインできるように

ではぼくの英語の授業ではどうしているかという、英語は手段です。スライド44の左下が手段です。話したり、書いたり、聞いたり、読んだり、手段です。でも発信する方法は多様で、小説を書いてもいいし、詩にしてもいいし、歌にしても劇にしてもミュージカルにしてもいいんです。こんなに発信がぶわっとあって、そのもとにあるだけにすぎないんです。その先に大きくあるのはデザインする力です。こういった手段を使ってどういう世の中をつかっていくか、というデザインをどうしていくのか。そこを意識して授業をしています。

(スライド44)



実際の教室がどんなになっているかという動画をみてください。

(動画)

これは中学1年生です。それぞれのグループでみな違うことをやっているんです。グループには100円ショップで買ったストップウォッチが渡されていて、でもそれしかないです。やるべきことを自分たちで折り合いをつけて、複数のタスクを同時にこなしている状態です。教室にはALTがところどころにいたり、ぼくが座っているので生徒が質問をしにきたり、プレゼンテーションをしにきている、という様子です。

このように生徒が勝手にやっています。とにかく50分の時間を自分たちでデザインできるようになるというのがぼくの授業の特長です。

8 なぜ「教えない授業」に変化したのか、そのきっかけ

いまは自律した生徒を育てたいとすごく思うんですが、15年前、教師10年めのときにやっていた自分の授業を振り返ってみると、これが完全にTeacherでした(スライド47)。元々は教える派の先生でした。この動画はぼくが教師10年めの様子です。

(動画)

2003年、全英連という全国大会に参加してやったモデル授業です。2,000人の前でやりました。いま見ると完全に教えています。常に先生が指示し、生徒はそれに応えるという形の授業をしています。そんな授業をしていました。

(スライド 47)

15年前の私 (教師10年目)



Effective Learning Lab

デジタルハリウッド大学院 佐藤昌宏研究室

授業のあとは毎回へとへとになりました。これやんなきゃ、あれやんなきゃ、これやったら次はあれをやんなきゃいけない。授業準備もあれとこれとそれと。とにかく授業準備が大変で、授業が終わるとへとへとになったことを覚えています。「何なんだろうこの違和感は」と思っていたんです。そんな頃に起こったのが、東北の地でぼくがこういう話しをするのはどうかとも思うのですが、大きなきっかけとなったのでお話しします。

やはり 3.11 の大震災です。そのあと同僚と仙台や荒浜あたりの海岸線を歩きました。何もなくなることの恐怖と、明日この状況の中で子どもたちがどうなるだろうかということを強烈に想像しました (スライド 49)。またその後、いろんなところで福島や日本の 10 年後、20 年後を考えている高校生たちに出会ったときに、彼らの強さをすごく感じたんです。10 年後の子どもたちにその強さはあるだろうか、と考えたわけです。

(スライド 49)



その後、去年も同じ場所に行きましたが、そう変わっていなかった。これはすごくショックでした。東京では、復興は進んでいるというイメージがあります。だけど報道もだんだんと減ってきて、東京の子どもたちもだんだんと忘れてきています。だからこそ大人がしかりしなきゃいけないとすごく思います。

もうひとつは、ケンブリッジ大学に研修に行ったときに、ぼくのさっきのスタイルを披露したところ、「君はなんでそんなに教えすぎているの？ そんなんじゃ生徒は失敗できないでしょ」と言われたことを強烈に覚えています。単語を全て教え、文法を教え、それから教科書を読むということをやっていたんですが、これは「いままでそうしなさいと教わってきたやり方」です。だけど、「もっと挑戦させましょう」ということを言われたんですね。なるほど。先ほどの震災の「ゼロから立ち上がる」ということと、ぼくが「教えすぎていた」ということがつながったわけです。とにかく自力でよじ登る子どもたちを育てたいと思うようになったんです。

9 誰に教わっても大丈夫な自律した学びを手に入れる方法

①学びをリアルな社会問題につなげる

では子どもたちが「自律型学習者」になるにはどうしたらいいのか？

「誰に教わっても大丈夫な自律した学びを手に入れる方法」というのがあります。大きく2つを話したいと思います。

まず①「学びをリアルな社会問題につなげる」ということです。アイデアを大人に話し続ける。もうひとつは②「魔法のノートづくり」です。学んだことを大人に話す。「誰かに話す」ということが大切なのと、リアルな社会課題に自分の学びをつなげるというこの2点です。

「学びをリアルな社会につなげる」とは、先ほどのSDGs（スライド19）です。たとえば「すべての人に健康と福祉を」というSDGsのこの窓（スライド57）を通してみたいと思います。

（スライド57）



これからある課題が動画で出てきます。その解決策をみなさんと考えていただきます。どんな問題なのかちょっと注目してください。

（動画）

はい、動画には輸血が必要な患者がいて、それを一所懸命に運ぼうとしたけれど、運ぶために4時間かかって亡くなってしまったという患者がいたという問題がありました。この問題を解決

するためにどんな方法が考えられますか？ ちょっと 30 秒話してください、どうぞ。

簡単には出てこないですよ、授業はこれにまる一時間かけます。ああだこうだとずっと考え続けます。そして子どもたちから、いろんな意見が出てきます。ここから先のアイデアは実際にハーバード大学の学生たちが考えたアイデアです。みなさんの考えと一致しているでしょうか、この問題は解決できています。動画をご覧ください。

(動画)

ドローンですね、15分で着いてしまうという動画でした。こういう新たな発想を生み出すということですね。

「DESIGN for ALL」(スライド 59) という考え方があります。すべての人のためのデザイン。デザインを考えると、ソフトウェア、ハードウェアで箱やモノはつくれるけれど、ユニバーサルデザインとなると、ここにもう 2 つ大切なことがあって、「ソーシャルウェア：社会に貢献するという観点」と、それから「センスウェア：五感に働きかける」という、ソフトウェア、ハードウェア、ソーシャルウェア、センスウェアの計 4 つが大切です。

そう考えると、もう五感が響くというのがこのデザイン(スライド 59)の中にあると思います。

(スライド 59)

デザインで
Happyな世界を作っていく



デザインでハッピーな世界をつくっていく。社会課題にむすびつけて、自分たちのアイデアをそこにもっていく、そういうデザインをしていくと子どもたちは動いて行きます。

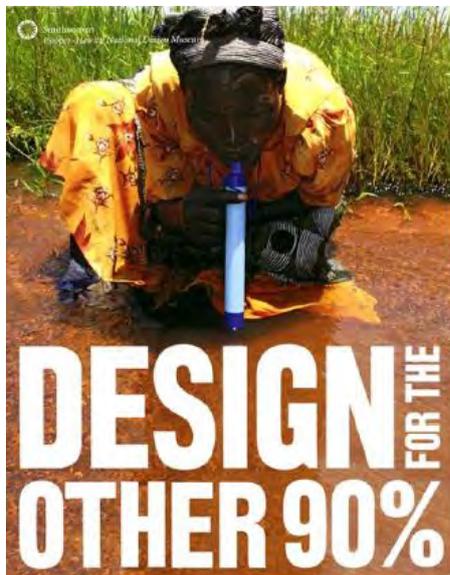
たとえば、この問題に直面したとします。「サハラ以南のアフリカでは、43%の子どもが不衛生な水を飲む」(スライド 60)。

(スライド 60)



水を考えると日本は幸せですね。だけどそうじゃない国がほとんどであると知る。そしてこういうアイデア（スライド 64）が生まれてきます。

（スライド 64）



これは「ライフストロー」というろ過する道具です。これは Amazon でも買えます。そうすると、SDGs のこの窓（スライド 63）になってきます。

（スライド 63）



世の中のデザインって、富める人 10%のためのものだと言われています。そうではない 90%の人のためのデザインをつくらうというのが「DESIGN FOR THE OTHER 90%」という考え方です。たとえば水を入れてゴロゴロと転がして運ぶ道具の「Q ドラム」があります。それから「ポータブルソーラー」のシステム、いろんなアイデアがこの中にあります。

ところで、ファーストファッションは好きですか？ 服が安いですね。だけどその裏にはこの縫製工場の落下事故（2013 年 Bangladesh）（スライド 67）がありました。この工場にはいろんなファーストファッションのブランドが入っていました。この問題があつて、ぼくらの安い服というのがあります。それを知ったうえで、ぼくらや子どもたちは、この服を買おうとか、買わ

ないとか、そんなチョイスができるようになります。

(スライド 67)



Rana Plaza collapse: April 24, 2013

1,138 workers were killed when the Rana Plaza factory collapsed in Bangladesh

このことを伝えるためにはどんなアイディアがあるのか？ (スライド 68)。貧困をなくそう、でもそれをどうやってみんなに伝えていくのか？ 責任ある生産と消費、けどどうみんなに伝えていくのか？ (スライド 69)

(スライド 68)



(スライド 69)



それを考えたときにたとえばこんなアイデアがあります。これもすごいです。

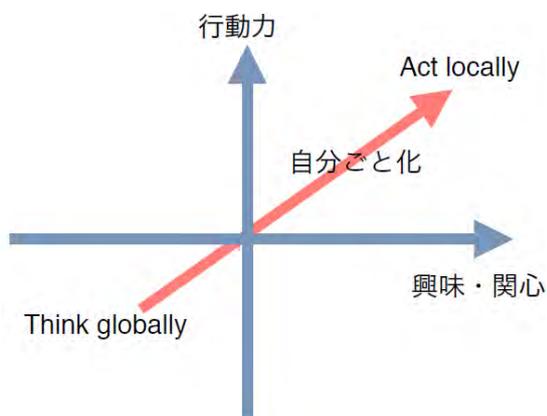
(動画)

動画では広場にある自販機のような機械で2ユーロのTシャツ、200円ぐらいのものを買おうと思ってボタンに触れると、それをつくっている人の環境の映像が映しだされました。13時間働いて13セントしかもらえない状況が写しだされるんです。そして最後に出てくるボタンが、BUYとDONATEで「買いますか？ それとも寄付しますか？」という選択になります。こういうデザインです。こういうデザインを授業の中でやっていくと面白いです。

武蔵高校の子どもたちのなかに、ペットボトルを本気で無くそうという子どもたちがいます。この子どもたちが考えたのは、専用の水筒づくりです。そのアイデアをコカ・コーラに持って行って、会社の人たちが本気で動いてくれそうな気配もあるようです。こういった子どもたちのアイデアをリアルな社会につなげて、「自分たちで社会を変えられるんじゃないか」と、「社会の一員なんだ」ということを実感して学んでいく。そうするともっと教科の学びをしなければいけないことに子どもたちは気づくんです。そういういい循環が生まれてくる。

何にも関心がない子どもたちに、まずグローバルな視点を与えます。いまみたいな心が動く、センスウエアを刺激するような課題を与えます。そこになんとか興味を持たせ、さらに「自分ごと化」することで、ローカリーに活動できる(スライド71)。「自分ごと化して行動できる」そんな生徒を育てたいと思っています。

(スライド71)



②魔法のノートづくり

次に「魔法のノートづくり」です。具体的なノートはこんな感じです(スライド73)。

教科書には、英語に限らず写真や絵がいっぱいあるので(スライド74)、リアルな社会で英語を学ぶときは写真からストーリーを想像していますよね。絵や図、写真から何の話だろうかと想像することはすごく大事です。また、自分で絵を描いてみることも大事です。最初に触れた自己紹介で絵を描く(スライド6)というのはここにつながってきます。自分で描いてみる、絵の情報や写真の情報を大切にするとということです。

私たちは面白いな、と思ったら記事を読みますね。そして本当に面白かったらガッツリ読みま

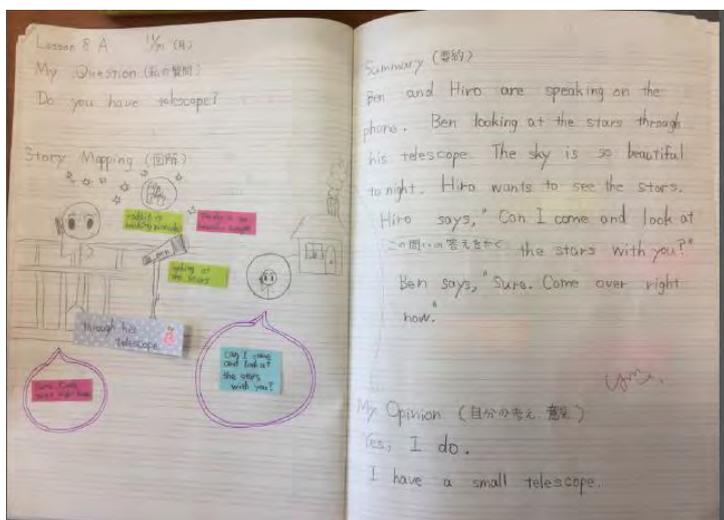
すね。そこで子どもたちに大事なことは学び方です。わからない単語が出てきたときはどうするのか、わからない文法が出てきたときはどうするのか。学び方を教えるのが先生です。教わって、読んで、本当に面白かったら家に帰ってお母さんに伝えますよね、ブログに書いたりしますよね。それが「はなす、かく」の目的ですよ。

というリアルな社会の学びというのが教室でもできるはずなんです。

教科書でも同じです。教科書には挿絵や写真があるのでそれをしっかり見るのが大事です。そして、先ほどの自己紹介の説明で言いましたが「問い」をつくることです。質問することです。疑問に思ったことをたくさんつくることです。

スライド73のノートフレームは、左ページ上に自分の「問い」を書きます。その下にわかったことを図解します。右ページ上にわかったことを言葉でまとめます。その下に自分が立てた「問い」への答えを書きます。つまりこんな感じ(スライド77)です。

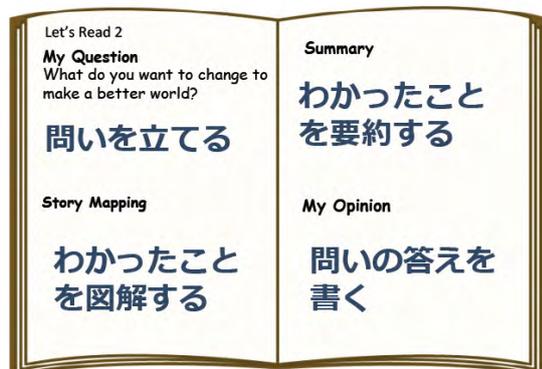
(スライド73)



(スライド74)



(スライド 77)



「問いを立てる」のは学びの途中だと思います。最初にいきなり問いは立てられないので。まず、子どもたちが取り組むことは、わかったことを図解すること。そして、わかったことを要約する。最後に問いの答えを書く。このフレームができればどんな授業でも自律して学ぶことができる。もし、一斉授業のずっと一方的に話す先生の授業だったら、授業中にこのノートのフレームを試してみてください。その先生の授業が双方向性になってきます。子どもたちが先生の授業を変えることができるんです。だから「問いを立てること」はとても大切なことです。

もし授業中に質問する自信がなければ、休み時間に質問してください。「あ、子どもたちはこういうことを疑問に思っているんだ」と先生が気づきます。意外に先生はそこに気づいていないです。子どもたちがいろいろ考えてるということに気づいていない先生が多いです。だから、質問することによって、「こんなことを考えているんだ。じゃあ次の授業でこうしよう」と必ず変わってきます。こういうフレームをぜひつくってほしいと思います。

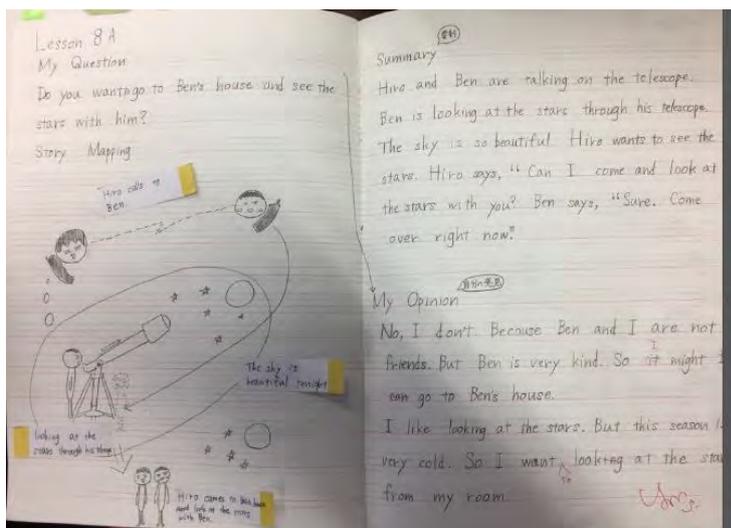
フレームの具体例を紹介します。これは中学1年生3学期の授業のノートです(スライド78)。ベンとヒロが電話で、星空がきれいだからいまから一緒に見ないか、というようなことを話しています。この生徒が立てた問いは、「ベンの家に行ってベンと一緒に星を見たいですか?」です。生徒の答えは、「ベンの家には行きたくはない、なぜならベンと私は友達ではないから。でもベンは優しいから行くかもしれないなあ」。そして「私は星を見るのは好きだけれど、いまのシーズンは寒いから自分の部屋から星を見たいです」と書いています。中学1年なので、これでほんとに十分だなと思っています。高校生になるにしたがってこの題材がIPS細胞になったり、環境破壊問題になったりしていきます。そこでも「自分なりに問いを立て、自分なりに答えるというフレーム」ができると、どんな授業でも自分のものにすることができます。

それを隣の席の生徒に必ず話すようにします(スライド79)。自分はこう思ったよと。

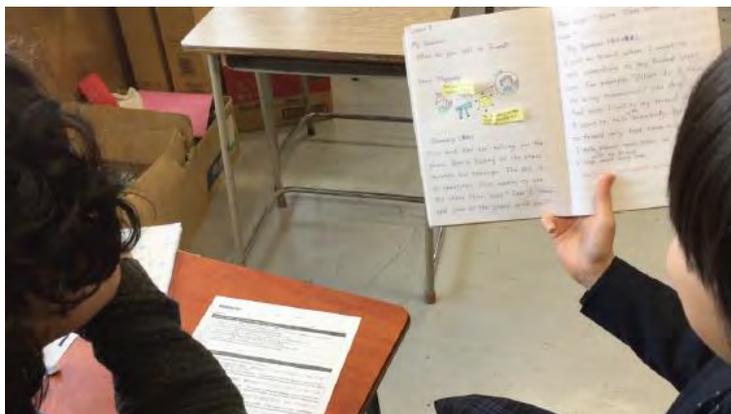
(動画)

話すことによって、自分の考えが深まっていきます。そして相手の意見・多様な答えを知ることができます。

(スライド 78)



(スライド 79)



次の動画は高校生の授業です。自分たちでノートをしっかりつくり、自分なりの「問い」を立て、自分なりに答えていくというフレームができています。

(動画)

こちらは中学2年生です (スライド 81)。

(動画)

(スライド 81)



10 続けるための4つのマインドセット

これは続けていこうという意志がすごく大事なので、最後にぼくが6年間子どもたちに常に話し続けた4つのマインドセットをお話しします（スライド83）。

（スライド83）

続けるための4つのマインドセット

- ✓Forgiveの精神→成功へのイメージ
- ✓+-（plus minus）の精神
- ✓100回の法則
- ✓習慣を変えるwith



順に上から説明します。

まず①「**Forgiveの精神**」。Forgiveは「許す」の意味です。できなかった自分を許すことです。人間にはできないことがたくさんあります。それをダメだと思ってストップするんじゃなくて、できない自分を許してあげることです。許すためにはこの時間の概念がすごく大事です。許していく、待っていくということですね。「直線の時間」と「循環する時間」という2つの時間についての哲学の概念です。

たとえば「直線の時間」は、朝起きてご飯を食べ、決まった電車に乗り、決まった駅で降り、仕事に行き、決まったことをして、決まった時間に帰っていく。後戻りができない時間です。

それに対して農村などに流れる「循環する時間」は止まることができます。今日は雨が降っているから農作業は止めようとか、ができます。後戻りができます。常に循環していて、四季も見えます。いつ種をまいて、いつ刈り取るということ子どもたちが見ることができます。循環する時間は見ることができる。それが循環する時間です。

学校はどちらの時間でしょうか？間違いなく直線の時間でしょうね。中間・期末考査があり、そこに向かって勉強していき、その間に行事が敷き詰められていますよね。中間考査で失敗した子どもはどうなります？ 短期間で詰め込んで補習をさせたりとか再テストをさせたりしますよね。でもそうやって詰め込んだものって直ぐに忘れてしまいますよね、そして子どもたちにモチベーションは無いです。やり直す時間がないまま次の期末試験の範囲に向かってどんどんと進んでいく。先生も教科書をこなすことが目的になってしまうので、面白いことに挑戦する余裕がどんどんと無くなっていく。

この「直線の時間」を「循環する時間」に変えていかなくてはいけないんです。まず「何年生で何ができるようになる」という固まった固定概念をどんどんと崩していかなくちゃいけない。たとえば中学校なら3年間という時間が与えられているので、その3年間の中でその子にこのこと

を習得させよう、と。たとえば「1年生の1学期で3単元のS」ができなくていいんです、その段階で。ただこの子が3年後にはしっかりそれができるようになるという明確なヴィジョンとイメージをもって指導していくことが大事なんです。いまはできなくてもきっとできるようになるよと信じて指導していくことが大事なんです。「小学校4年生だからこの計算ができて当たり前でしょ」という、そういった固定概念を崩すということです。

この前ある講演で、ある専門学校の先生が「高校を卒業したのに計算がまともにできない子が入学してくる。〈学びの責任〉をどう思われますか？」と聞かれました。ぼくは始めは質問の意味がわからなかったんですが、「ちゃんと指導してください」ということだったんです。ぼくは、高校を卒業したときに算数ができなくても、それを専門学校でやり直すことがなんで悪いことなのかはわかりません。そのときにその子ができていないことがあったら、学びをするチャンスであることは間違いないです。いったんその子を受け入れたからには、やはりそこは教師の責任だと思います。その子がやりたいと思うなら挑戦させるべきです。

もっと言えば、計算ができなければ、もう計算機ができる時代です、もうずっとそうです。これからもっとAIがいろんなことができるようになります、もっと先のリアルな社会でどういう生き方をするのか、というところに教育がシフトしていかなくちゃいけない。

したがって、この「直線の時間」をいかに「循環する時間」にしていくか。先生は待たなくちゃいけないです、相当待たなくちゃいけないです。あきらめずに。「できないことはこれからできるというポテンシャルなんだ」そんなふうに言い続けてあげなくちゃいけない、「できるようになるよ」と。

この「直線の時間と循環する時間」というのは、哲学者の内山 節さんが『子どもたちの時間』の中に詳しく書かれています。お時間があつたらぜひ読んでみてください。

まだあと3つありますね、時間も3分です。

②「**プラスマイナスの精神**」というのは、「できなかったときがあってもいい。でもプラスにする日もあるぞ」です。ぼくはサッカー部の顧問をやっていたんですが、遅刻してくる子がいます。それはマイナスです。でもそれを怒ってもしようがないです。自分の責任です。でもそれをプラスにしようね、ということを意識させます。たとえば少しでも残って練習をすとか、準備や片付けを率先してやるとか、自分でプラスマイナスを整えよう、そんなように考えることです。だから、「今日は全然勉強ができなかった、一日中YouTubeを見ちゃったな」という日があってもいいんです、けどプラスに転ずる日がなかったら、それは意味がないということです。しかも1週間とか3日とかの短いスパンで整えるような精神です。「今日はダメだ、自分はダメだ」といってずっとダメになるんじゃないかと、「よし、今日はちょっとがんばろう。昨日できなかった分がんばろう」というそんな精神ですね、整えていくという精神です。

③「**100回の法則**」は、何かできないことがあったとき、100回チャレンジしてみようということです。野球の素振りもそうですね、毎日10回やっても変わらない気がしますけど、毎日100回やったらどうでしょう？ サッカーのリフティングで、10回、20回できる子と、100回できる子、そのプレイは大きく変わってきます。英語劇のセリフが覚えられない、10回やっても覚えられない。でも100回やったらどうですか？ まず100回挑戦してみる、ということです。わかりやすい数字、手の届く数字として100となっています。

最後の④「習慣を変える With」というのは、たとえば「勉強する時間がない。テレビが大好きだ」というなら、「テレビ With 単語集」です。テレビを見ているときに手元に単語集を置く、教科書を置く、そしてコマーシャルの時間に音読するというルールを設けるんです。つい惰性でテレビを見ているときもありますよね、そうすると実は音読の方が面白くなったりすることがあるんです。主の活動を副の活動がどんどん浸食していくことが「習慣を変える With」です。何かをやっているときに、プラス何かをする。音楽を聴いているときに何かを手元に置く、YouTubeを見ているときに手元に何かを置く。そこから「こっちの勉強の方が面白い」となったらしめたものです。両国高校の子たちがやっているのは、「お風呂 With 何とか」です。幼児用クレヨンを持っていったり、クリアファイルを2枚重ねて間にプリントをはさんだりとか、長風呂の子はけっこうこういうことをやっていました。習慣を変えるために「何かと With」という考え方です。

この4つのマインドセットをして、さっきの自律した学習者になるように学んでいけばいい。

これで最後です。スライド86は、ぼくのプレゼンでいつも最後に見せるものです。日本には江戸時代にこういう学びがありました。原画は目黒中央図書館に収蔵されていて展示はされていません。電話でお願いしないと見せてもらえないんですが、教員であれば見せてもらえます。

絵の中にはいろんな子がいます。この子は寝ていますね。ここでは年上の子が年下の子に何かを教えています。2学年制で年上の子が年下の子に教えるというルールがありました。先生は必ず後ろにいて、子どもたちの前に立つことはなかったそうです。評価はどうしていたかというところ、壁に作品を貼って、お互いに仲間のいい所を褒め合う、そんな評価だったそうです。先生が評価をするわけじゃなかったようです。先生は指導はしても子どもたちが互いに学び合っている、そういう教室がありました。ぼくは日本人のよさって、こういう2学年制であったり、思い合ったり、教え合ったり、そんな中で生まれてきたんじゃないかと思っています。

(スライド86)



時間になりました。ぼくは日本の全部の学校にこういうアイデアを届けたいという願いを持っています。そしてパートナーシップを組める先生を全国につくりたい。なので忙しいけれど全国をできるだけまわりたい。出前授業もやりたいと思っています。「未来教育デザイン Confeito」のホームページがあつて、そこに問い合わせフォームもあります。そこでぼくのメールに通じますので、講演依頼、出前授業、相談などはぜひそこを通していただければと思います。長い時間おつきあいいただきまして、ありがとうございました。

(終わり)

『ビリギャル』こと 小林さやか

映画『ビリギャル』主人公が語る

子供の能力を引き出す大人のあり方

- 1 『ビリギャル』は、家族の愛の物語、人の成長の物語です
 - ①『ビリギャル』がこの世に出たきっかけ
 - ②本日の構成
- 2 自己紹介
 - ①坪田先生との出会い、受験動機
 - ②母と父のこと
 - ③ビリギャルさやか プロフィール
- 3 不可能を可能に変える5つのポイント
 - ①ワクワクする目標を設定しよう
 - ②根拠のない自信を持つ
 - ③具体的な計画を立てよう
 - ④目標や夢を公言しよう
 - ⑤憎しみをプラスの力に変えるべし
 - ⑥忘れられない封筒の重み
 - ⑦ポイントのまとめ
- 4 お母さんの褒め方にみる自己肯定感を育てる会話
- 5 コーチングについて

映画『ビリギャル』主人公が語る！
子供の能力を引き出す大人のあり方

『ビリギャル』こと

小林さやか

1 『ビリギャル』は、家族の愛の物語、人の成長の物語です

みなさん、こんにちは。おつかれさまです。私はどこの学校にも属していませんし、教育者でもないのですが、さきほど山本さんのお話を楽屋で伺っておりまして、まさに同じことを伝えたいなあとはホントに共感するところばかりだと思いながらお話を伺っておりました。

私はこの1時間、恩師の坪田先生がやってくださった指導、まさに「自発的に主体的に学ぶ」ということを、成功体験としてお話させていただければと思っています。

ではまず初めに聞いてもいいですか？ 『ビリギャル』って知ってますか？ 映画ビリギャルを見たよという方はちょっと手を挙げていただけますか？ あ、すごい。やっぱりここは教育関係の方々だからでしょうか。では映画の予告編、約1分半のものですがこれを見ると映画のストーリーがわかりますのでどうぞご覧ください。

(映画予告編上映)

「学年ビリのギャルが1年間で偏差値を40上げて現役で慶応大学に合格した」という話の本が出たのはもう4年半前になります。本は120万部のミリオンセラーになり、映画『ビリギャル』では280万人動員という、本当に多くの方に知っていただけるお話になったんですけども、まずはじめにお伝えしておきたいのは、これはただの受験の話ではないと私は思っています。これは家族の愛の物語であり、人の成長の話だと思っています。なので誰かを指導する立場の方、お父さんお母さんの立場の方、これからがんばらなきゃならない学生の立場の方、いろんな立場で自分に置き換えて見ていただける話だと思っています。だからこそ、こんなに多くの方に共感していただける話となったんじゃないかと思っています。

今日私がお話することは、この場は先生が多いかと思しますので、授業に役立てられるかどうかはわかりませんが、生徒の気持ちに立ってお話しさせていただきます。他の方の講義のようにメモることがいっぱいあるとか、得ることがいっぱいあるという内容ではないので、ぜひちょっと休み時間に気楽に聞いているという感じで、温かく聞いていただけたらと思います。

①『ビリギャル』がこの世に出たきっかけ

一番最初に、この本がまず世の中に出たきっかけの話をさせていただきます。

私には2歳年下に弟が、そして6歳下に妹がおります。お母さんのお腹に男の子の弟がいるとわかったときお父さんはすごく喜びました、「俺、男の子ほしかったんだよー」とめちゃくちゃ

喜んで、「俺はこいつをプロ野球選手にするため命かけるわ」と生まれる前から父は誓っていました。弟を待ち構えるかのようにお父さんは待っていて、彼が小学校に上がる時には、めちゃくちゃいいグローブとバットとスパイクを買い与え、少年野球クラブチームのキャプテンをさせて、その1番バッター、ショートでエースというのが弟でした。さらになんとそのチームのコーチをお父さんがやっているという分かりやすい野球親子でした。弟は野球以外何もしなくていいと言われて育ちました。どのくらいヤバかったかという、私が言うのも何なんです、彼はホントに勉強ができなくて、彼はもう28歳になりますがこんなことを言います。

「姉ちゃん、聞いてよ、この前ムカつくことがあったんだよ」

「どうしたの」

「俺、もうムカつきすぎてへその緒が切れるかと思った」と言ったんですね。

お前まだへその緒が付いていたのか、って(笑)。彼は「堪忍袋の緒が切れる」と言いたいんですね。まあ、言えるだけ偉いなと思うけど、違うなと思いつつも言えるって素晴らしいなと思うのですが、そのくらい野球一本でやってきた弟です。

もちろん推薦で高校に入りました。でも入学して7か月で野球部を辞めてきました。「俺はそもそも野球なんてやりたくねえんだ」と初めて父に歯向かいました。父はこれに本当にショックを受けて「どうして俺の言うことが聞けないんだ」と泣きながら弟を追いかけまわして、弟が血だらけになるまでぶん殴っていました。

弟は野球をやりたくてやっていたわけじゃない。お父さんに殴られないように、怒られないように、毎日必死で練習してただけなんだということに、そのときみんなが気づくわけです。これはまさに無理やりやらされて心が折れてしまう、という失敗例です。お父さんはいまでもこのことを後悔しているようですが、弟は唯一がんばっていた、自信を持っていた野球を無くしたときにものすごく自信を喪失してしまい、家にも居場所をなくして帰ってこなくなりました。自分の言葉を持たなくなって、しゃべらなくなったんですね。心に深い傷を負った弟は、ヤンキーの集団のパシリになって、3年くらいずっとそれをやっていました。それを見て家族みんなが心配していた時期がありました。長かったんですが、そんな弟に家族ができました。子どもができた、といってある日ギャルの女の子を連れてきて、「結婚する」といったんですね。弟がお父さんになって、家族を持ちました。これがうちの家族の大きな転機になりました。

同じ時期、妹にも大きな転機が訪れました。この子は小学校のときは不登校でした。なぜ学校に行かなくなったかという、「朝、起きられねえから学校行かねえ」というのが理由です。普通は「そんなこと言ってないで、学校に行きなさい！」と言うじゃないですか。でも、うちのお母さんはちょっと変っていて、「そんなに起きられないならしょうがないか」とやっていたら、まったく出席日数が足りなくなって、妹の担任はもう一所懸命学校に来させようとがんばったんです。でも「朝起きられないからしょうがないですか」と、親子そろってそんなことを言うので、もう仕方ないとなったんでしょう。昼頃に妹がフラフラと起きてきて「学校行ってきまーす」と学校に行くと、クラスでは「まーちゃんがやって来た！」と人気者だったようです。私は「明るい不登校」って呼んでいました。妹は体が弱く特技も何もありませんでした、でも私にだけは負けたくない、私のことをすごくライバル視していて、私としてはけっこうウザかったんですが、何かと張り合ってきていました。彼女は「お姉ちゃんが突然勉強をしはじめて、慶応大学

に行きたいらしい。そしたら本当に行っちゃった」、というのを6歳下ながらしっかりと見ていたようです。彼女が中学生になったとき、深夜バスに乗った東京にひとりで来ては、私が大学の友達と遊ぶ所についてきたりしているうちに、「東京てめちゃくちゃ楽しいじゃん」ということに気づいてしまい、「お姉ちゃんみたいに東京の大学に行きたい。でもあんなに勉強はできないから別のルートで。私はもうちょっとラクして東京の大学に行く」と思ったようです。そして自分なりに調べて、中学を卒業したら自分の意志で高校3年間をニュージーランドの高校に進学しました。ニュージーランドの高校を卒業して、帰国子女枠という枠で、私が受験して唯一落ちた上智大学に合格しました。この妹の大学進学を機にお母さんが、先に触れましたが『ビリギャル』の著者であり私の恩師の坪田先生にお礼のメールを送ったんです。

「子どもたち3人を、本当にこんなにもいい子はいないと信じて育ててきてよかった。そのころ唯一励ましてくれたのは坪田先生だけだった。本当にありがとうございました」という趣旨のメールを母は坪田先生に送ったんですね。

坪田先生以外の大人は、みんなうちのお母さんを責めたんです。「お前があんなに甘やかすから、過保護に育てるから、あの子たち3人ともダメダメになったじゃないか」と。お父さんを含めた周りの大人はみんなお母さんを責めました。でもお母さんは何を言われても、「でも、あんなにもいい子たちいなくないですか」と私たちを育ててくれました。「その子育ては素晴らしい」と言ってくださったのが唯一、坪田先生でした。

坪田先生は母のメールへの返信として、「手紙を送るだけでなく、さやかちゃんとの思い出のつもりで、さやかちゃんの合格体験記をストーリー仕立てにしてお母さんに送ろう」、と思って書き始めてくださったのが『ビリギャル』の最初の原稿になりました。

先生から「わりとうまく書けたから、さやかちゃん、ネットに乗せてもいい？」というメールが夜中にきました。「いいっすよ」と返事をしたら、なんと次の日にネットでバズって、このサイトの騒動を見た出版社3社ほどから坪田先生に「これを本にしませんか？」と連絡がきて、本が出版されました。

実は、この本を一番買って読んでくださっているのは40代の女性です。おそらく思春期の子どもを持って、ちょっと子育てに悩んだり、行き詰っているお母さんが、何かにする思いで手に取ってくださったとか、「うちの子どもも勉強するようになってくれないかな」、「慶応に行ってくれないかな」とか、「効率的な勉強方法がここに書いてあるんじゃないかしら」とかの思いで読んでくださった方が多いんじゃないかと思いますが、そういった読者の方から一番多く寄せられた言葉は「さやかちゃんも坪田先生もすごいけど、何よりもお母さんがすごい。このお母さんの話をもっと聞かせてほしい」という声が出版社にたくさん届き、その声から生まれたのが、10万部ベストセラーになっている母の話の本、『ダメ親と呼ばれても 学年ビリの子3人を信じて どん底家族を再生させた母の話』です。ここには母の辛い子育てがそのまま書いてあります。この2冊に私は関わっています。

(スライド2)



②本日の構成

『ビリギャル』という言葉は聞いたことがあっても、「もともと頭がよかった子が勉強して慶応に行く話でしょ」と思われる方が実際多くおられると思うので、もう一度私の口から「学年一ビリでギャルだった私がなぜ慶応を目指そうと思ったのか」、「どうやって1年半の間、猛勉強を続けられたのか」という話をこれからします。それを踏まえて「ビリギャル流 不可能を変える5つのコツ」についてお話します。

私はよく中学校、高校をまわって生徒たちにこういった話をしているんですが、今日は大人の方々にこそ聞いていただきたいと思ってそのまま持ってまいりました。そして最後に、私が考える「理想的な大人のあり方」ということをお伝えしてまとめて終わりにしたいと思います。

2 自己紹介

①坪田先生との出会い、受験動機

さて、先ほど映画の予告編を見ていただきましたが、実際の私の高校2年のときのプリクラがこちらです(スライド4)。ネットでめちゃくちゃ流出したので自分もネットから取ってきました。当時私はこんな格好だったんですが、前と比べてホントに更生していたつもりでした。

というのも小学校のとき、私はホントにコンプレックスの塊みたいな人で、弟がちやほやされすぎて、私は拗ねて拗ねて「なんで私は女の子に生まれちゃったんだろう」とか「なんであの子みたいに言いたいことも言えなくて、自分なんて大嫌いだ」と小学校6年間を過ごしました。

そんな私を見かねて母が、「さやちゃん、中学受験をしてみたら。そんなに人生やり直したいんだったら」と言いました。「そうか! 中学受験をしたら公立の中学に行かなくていいし、私のことを知っている人は誰もいない世界がそこにあるんだ」ということを知ったので、キャラ変を目的に中学受験をしたんですね。

(スライド4)



そのときも勉強はあまり好きじゃなかったので、「もう二度と勉強をしたくない。これを最後にしたい」と思って中高大の一貫校に行こうと決めました。無事合格して、やっと「これから新しい人生が送れるんだ」と中学1年生の1日目から勉強なんかを止めてしまって、友達との時間をとても大切に、好奇心旺盛にいろいろなキラキラした生活をここからスタートするんです。私はキャラ変で成功して人気者にもなれて、思いどおりの人生がここから始まるんですが、中学3年のときに私に大きな転機が訪れました。

このとき学校でタバコが見つかりました。6限の授業が終わったとき、先生が私のところに来て肩をトントンとして「カバンをもって職員室に來い」と言いました。職員室に連行されて、「君はもう無期停学処分だ」と言い渡されました。「なぜ俺が、お前がタバコを持っていたことを知っていたと思うか？」と先生が言ったんです。それで「なんでですか？」と聞いたら、私が大親友だと思っていた、今も思っていますが、先生はその彼女の名前を出して、「あいつが俺に教えてくれたんだ。だからお前も他にタバコを持っている奴の名前をここで言えるよな。じゃないと今日は帰れないのがわかるよね」と言いました。そのとき、それが本当のことだったら死にたいと思うくらい真っ暗になって辛かった。なんで私の人生にこんな辛いことが起きるんだろうと思いました。本当に怖くて、辛かった。だけど、同時に私は先生の言葉が許せなくて、「なんでそんなことをするんだろう。私から宝物のような存在を奪っていく、なぜだ」、「何をしたいんだろうこの人たち」、「大人ってしょうもねえな」と思ってしまって。中学生、高校生だったらみんなそうだと思うんですが、すごく狭い世界で生きていたんですね、学校の先生と親ぐらいしか大人を知らなかったんです。それで「大人って汚いんだな」とパタンと心を閉ざした瞬間でした。

タバコに関して私が誰の名前も言わないので、先生が家に電話しました。私がタバコを持っていたことを母は知らなかったので「申し訳ありません」と言っていました。当時私は母を「ああちゃん」と呼んでいました「さすがにああちゃんもショックを受けるだろうな。怒るだろうな」と思いました。職員室にバツと入ってきた母は謝ったあとに、こう言ったんです。「でも先生、こんなにいい子はいないと思いませんか？」って言い始めました。「先生がおっしゃるいい子っていうのは、髪が真っ黒で、スカートがひざ下10センチ以上長くて、校則を破らないで、お勉強ができる。そういう子だけがいい子だとおっしゃるのなら、この子はもう悪い子で結構です。

退学だとおっしゃるのなら退学で結構です。でもこんなに友達思いのいい子は私は他に知らないです。先生どう思われますか？」と。お母さんは私をかばうというよりも、「なぜわからないんですか？」という感じで一所懸命に訴えてくれていた。私は2人のようすを隣で見ている「自分ってダサい」と思いました。私はこのとき「ああちゃんが、謝らなきゃいけないこととか、悲しむことは今後一切絶対にやらない」と心に誓いました。それで私は自分の中にぶつと芯ができて、こんな写真のような恰好でしたが、以来「ああちゃんが嫌がるようなこと」はしませんでした。そのぐらい私の中では中学3年の無期停学処分は大きな転機になりました。

そのときにもうひとつ決めたことは、ああちゃんのようなお母さんになりたいと思いました。「早く子どもを産んでああちゃんのような優しいお母さんになりたい。もう学校の先生たちに教えてもらうことなんて何もない」と思ったので、正直、「高校なんて辞めてやる」と先生に言ったんです。「退学にするぞ」と何度も言われて「学校にいるのはこっちから願い下げだ」って。そしたら、先生に言われました。

「お前はここを辞めてどうするんだ？」

「他の高校に行くからいいです」と言ったら、

「お前みたいなクズを受け入れてくれる高校があると思っているのか？ 悔しかったら調べてみろ」と。

私も悔しかったので調べてみたら、中高大の一貫校を途中で退学になっていると確かに問題児扱いされてあまり受け入れてくれない現状がありました。だから「悔しいけど高校は卒業して、大学は行かずに働こう」と決めたんです。

でも、そういう私が何で突然塾に通おうと思ったのか。

同じ時期、私が高校2年なので弟は中学3年ぐらいでしたが、もう野球をやめたいという兆しが見えていて、お母さんは「野球をやめさせて、別の道を行かせなきゃ」と思ってたみたいです。そして弟の同級生がたまたま通っていた塾のパンフレットを家に持って来ていました。そして弟に「もう野球なんかやめちゃって、別の道に行ったら？」みたいなことを勧めていましたが、弟は「俺は勉強なんか1日もしたことないから、塾なんか絶対行かない」と断ったので、それがスライドして私に来ました。「さやちゃん、塾の面談の日を取っちゃったんだけど、代わりに行ってくれない？」、「その日なら暇だから行ってもいいよ」、そんな感じで出かけて出会ったのが坪田信貴先生です。

私の先生像を覆す人でした。私はその日は塾を断って帰ろうと思っていたんですが、初対面なのにめっちゃニコニコして、私のことをなんか肯定的に見てくれたのがすごく印象的でした。学校の先生たちはみんな、私のことをしかめっ面で見、「スカートの丈を伸ばせ」だの「ピアスの穴は開いてないか？」だの「髪の毛の色がまたちょっと明るくなったじゃないか？」だの、ずっとずっと追いかけてまわされていたので、ま、学校の先生と塾の先生は立場が違うので当たり前ですが、こんな大人は初めてだと思った。

(スライド5)



何が違ったかと言うと、私は先のプリクラのような容姿で塾に行ったんで、坪田先生はこんなふうになりました。

「さやかちゃん、そのまつげはどうなっているの？ 俺にはヒジキみたに見えるんだけど。どうやってつくっているの？」

「これは学校の授業中、1時間ずっとマスカラを塗っているとこうなるんだよ」

「へー、それってかわいいの？」

それから、

「さやかちゃん、お腹が出てるけど冷えませんか？」

ニコニコしながら、そんなふういろんな質問をしてくれて、彼が「怒っているんじゃない」ということはよくわかったので、「この人は何にも知らねえんだな」と思い「いろんなことを教えてあげなくちゃ」と思って、ジャニーズのこと、友達のこと、元カレのこと、親のことなど、2時間あまり、もういっぱいしゃべってあげたんです。そしたら先生はゲラゲラ腹を抱えて笑って聞いてくれて、「君って超おもしろいね、東大に興味ない？」って言いました。

ここに東大卒の方がいたらごめんなさいですが、当時私は東京に行ったこともないし、もちろん東大のキャンパスにも行ったことがないので、これは当時の超先入観なんですけど、東大ってなんか牛乳瓶の底みたいな眼鏡をかけている人ばかりでイケメンは絶対にいない世界だと思っていたし、話は超つまんなさそうな人しかいないんだろうと思っていたので、「そんなとこ、自ら行くかよ」って思って「東大は興味ねえ」って言いました。そしたら先生は「なるほど、君はそうやってものごとを捉えるんだな」とかブツブツ言いながら、「じゃあさ、慶応ボーイって聞いたことない？」ってニヤニヤしながら私に聞いたんです。「慶応はどう？」って言ったんで、私は「あ、慶応って櫻井翔くんが行ってるとこだな」と思って「あ、慶応だったら行ってあげてもいいですよ」って言いました。そしたら先生が「よし、じゃあ君は1年半後、現役で慶応に合格するよ」って。それから「じゃあ明日から塾に毎日通えるね」と。私は「いや、明日は来れるけど、明後日はカラオケが入っているし、来週はクラブのイベントもあるし」と、私の夏休みはこんなに忙しいんだということを一所懸命に主張したら、「わかった、じゃあ来れる日だけでいいから来い。その代わりにぼくがやれと言ったことは120%やってくると約束できるな」と言われ、

「わかった、約束する」って言いました。私はこのとき本当にワクワクしたんです。「勉強しなさい」と言われているのと一緒になんだけど、なんかこの人と明日もしゃべりたいし、「この人だったらなんか違う世界に行けるんじゃないか」と直感的に思いました。

「何か私、東京に行ってみたいかもしんない」、「慶応ってホントにイケメンがいっぱいそうだから行けんならちょっと行ってみたいな」、「私だったら行けるしな」って気持ちで、慶応に行けることを連想して、毎日塾に通うことを親に相談もせず自分で決めて、ルンルンで家に帰りました。

②母と父のこと

家に帰って、「ああちゃん、私ね、慶応に行くことにしたの。だからあの塾に通いたいんだけどいい？」って言ったら、「さやちゃんすごいね、ワクワクすること見つかったんだ、おめでとう」って、受かってもいないのにああちゃんはちょっと泣いていました。泣いて抱き合って喜んでくれて、飛び跳ねて、「全力でああちゃんは応援するからね」って言ってくれた。でもうちのお母さんは子どもたちは大好きで宝物だと言って育ててくれたんですが、お父さんのことはあまり好きになれなかったみたいで、お母さんのカバンにはいつも『離婚調停に勝つ方法』っていう本が入っていました。だからああちゃんは「お母さんは行かせてあげたいんだけど、お財布をにぎっているパパにお願いしにいかないといけない」と。だから2人で嫌々と、でもしおらしくパパにお願いしにいったんです。

私はその頃お父さんのことが本当に嫌いで、お母さんをいじめる悪者だと思っていたんです。それで日ごろは、「くそじじい、うるせえ、ああちゃんに指1本触れるんじゃないか」って言うと、「お前誰に向かってもの言ってるんだ、誰の金でメシ食ってるんだ」と言われて、「頼んでねえから、このやろう」みたいな感じで家を飛び出して、そしてお母さんが迎えにくるというそんな毎日はずっと過ごしていたんです。そんな娘が突然トコトコきて、「パパ、私ね慶応に行くことにしたの。だからあの塾に通いたいんだけど、いい?」、つきましては金払え、みたいなことを言ったんですね。いまにして思えばお父さんに気の毒だったなと思うんですが、お父さんはそのとき「お前、バカか」と。「さやかが慶応に受かるわけねえだろ」、「おまえを塾に通わせる金なんてドブに捨てるのと一緒にだから一銭も払いたくない」と言ったんです。

私は「なにおっ」って思いました。「弟にはいっぱいいっぱい、なんか死ぬほどグローブやバットを買い与えたのに、私の塾代を払わないってどういう神経してんだ」、とめちゃくちゃ腹が立ってもう怒りに震えていたら、お母さんが先にブチ切れて「あ、そうですか。わかりました。じゃ、あなたには今後一切支援はお願いしませんので、けっこうです。さやかは私が責任をもって慶応に行かせます」って言って、父は「やれるもんならやってみろ、かわいくない女だな」みたいな会話になって、それからさらにいっそう口をきかなくなったという両親で、これが私の受験スタートでした。

(スライド6)



(スライド7)



③ビリギャルさやか プロフィール

ほとんどもう話しましたが、スライド8は私のプロフィールです。先ほど話したように私は中学3年のときに無期停学処分を受け、校長先生に「人間のクズ」と言われたことがありました。このとき私は、初めて喋る知らないおじさんに「なんでそんな公開ディスみたいなことを言われなきゃいけないんだろう」と腹が立って、そのまま「はい」って言って出ていったんですけど、「人間のクズだ、わが校の恥だ」って言っていた先生が、慶応に受かった途端に「わが校の誇りだ」と言っていただけになったんで、よかったなと思っています。高校2年の夏に坪田先生と出会い、1年半の猛勉強の末に慶応義塾大学総合政策学部に入りました。SFCと呼ばれるキャンパスでしたが、私はそのキャンパスではなく本当は三田キャンパスに通う気満々で勉強していました。文学部に受かる気満々だったんです。むしろ文学部しか受からないと思っていました。経済・商・総合政策は記念受験のつもりで受けました。

なぜ文学部を落ちたのかというと、まぎれもなくちゃんと理由がわかっているんです。塾の最後の日に坪田先生が、私を呼び出して自販機でコーヒーの「レインボーマウンテン」を買って、

その缶にカッコよく「絶対合格！」ってサインをしてくれて、

「これ、お守りにして持っていけ。さやかちゃんが今年の MVP だ。お前は一番がんばった、だから絶対に受かるから。慶応に受かって戻って来いよ」

「先生！絶対に私、受かって戻ってくるね！」

って、やりとりがあったんです。それはちょっと感動的なシーンでした。

私はそのレインボーに輝くご利益満点のコーヒーのお守りを握りしめて新幹線に乗って、たぶん慶応は文学部が最初の受験だったと思うんですが、私は試験の直前に「先生、力を貸して！」と念力を込めまくって、そのブラックコーヒーを一気飲みしました。試験会場に持ち込めないで、残せないから。そしたらお腹が壊れちゃって、試験中にグルグルと鳴り始めて、これはやばいと思いつつ試験中に何度もトイレに駆け込んで、そうしているうちに時間が足りなくなってパニックに陥っちゃって、解答用紙は半分も埋められない状態で回収されていきました。まさか坪田先生のせいで失敗するとは思わなくて、これはどうやって説明したらいいだろうかと泣きながらホテルに帰ったのを覚えています。でも無事、というかたまたま総合政策に引っかかって今ここに立てています。

(スライド8)

ビリギャルさやか プロフィール

愛知県名古屋出身
 2歳下に弟6歳下に妹がいる
 小学校のときは内気でおとなしい性格
 中学受験をし 中学高校一貫の私立中学にてキャラ変に成功
 中学3年生で無期停学 校長先生に「人間のクズ」と言い渡される
 高校2年の夏に坪田信貴先生に会う
 1年半猛勉強のすえ、慶応義塾大学総合政策学部に入學
 卒業後は某一部上場プライダル企業に入社
 2014年にフリーに転身




大学卒業後はウエディングプランナーになりました。そして 2014 年にフリーランスに転身し、今は自分で会社を持っています。でも正直なところウエディングの仕事よりも教育関係に興味があって、ウエディングの仕事は 1 割、教育が 9 割ぐらいでやっております。セミナーやイベントを開催したり、こうやって講演させてもらったり。

最近では札幌新陽高校という札幌にある私立の高校に 4 か月、インターンに行っておりました。荒井優（あらいゆたか）校長のフェイスブックの「校長日誌」をたまたま見つけて、勝手にファンとなって読んでいました。私は校長先生というと、さっき喋ったような「わが校の恥だ」と言ったような人たちのイメージが強くて、校長先生というと嫌なおじさんしかいないと思っていたんですね。でも「校長日誌」を読んでもるかぎりでは、「こんなに温かい先生がいるんだな、会っ

てみたいな」となって、そうなると思っても立っても居られなくなって、面識もないのに突然メールで「こういうものですが、いつかお会いしてお話したいです」みたいなことを送ったら、すぐに会ってくださって、それからは私のメンターの一人です。私はもう 30 歳になります。30 歳になるときに、何年も前の受験の話をこんなふうに偉そうにしゃべって、これっていつまでやっていいんだろうかと、毎回こういう講演のたびに不安に駆られていて、もうちょっと教育の勉強をしたいなと思っていました。

それで優さんに「大学院に行こうと思うんです」と相談したら、「さやかちゃん、教育を学ぶんだったら大学院じゃない、現場で学びなさい」、「札幌新陽高校でよければ。しばらく来ますか?」、「高校生にいろいろ教えてもらったらいい」と言われました。そこで「行ってもいいですか!」と私は縁もゆかりもない札幌市に引っ越しをして 4 か月住んで、毎日何をやるでもなく学校に通って、朝の職員会議に勝手に出て、授業中はフラフラと廊下を歩いて面白そうな授業を見つけたら勝手に入って空いている席に座って観てました。それを見つけた先生が私に無茶振りをして「ちょっとさやかちゃん、1 時間話してよ」とか言って、1 時間話してみたり。

それから、札幌市はよさこい（「YOSAKOI ソーラン祭り／札幌市初夏の一大イベント」）が盛んなので、「1-8」というクラスの担任を体験させてもらいました。1 クラス 2 人の担任制なのでちゃんとした担任と私の担任ごっこがいて、そのときによさこいの朝練を私が勝手にして、「お前らちゃんとしないとぶっ飛ばすぞ」みたいなことをやりながら、クラスの生徒たちといろんな話しながら過ごしました。夏休みに入る前に「さやかちゃん、ありがとうの会を生徒たちが開いてくれてオイオイ泣きながらこの前インターンを終えてきました。

「校長の右目」という名刺を持ってインターンをやっていたんですが、私のように先生でも生徒でもない立場、斜めの視線が学校には必要なんじゃないかとちょっと思ったり、私は元スーパー劣等生だからこそわかるけど、先生たちにはわからない生徒の気持ちがあるんじゃないかと思ったのもあり、そういうフワフワした存在の私が先生たちの代わりとなって、先生たちが生徒をもっと見れて、よりいい教育に少しでも寄与できればいいなと思って、4 か月勉強させていただきました。この札幌新陽高校の話は最後までちょっとだけさせていただけたらと思います。

3 不可能を可能に変える 5 つのポイント

まずはこの「不可能を可能に変える 5 つのポイント」（スライド 9）を一つずつ見ていきたいと思います。あの、みなさんは「生徒に」とか「自分の子どもに」とかじゃなくて、ぜひご自身の人生に重ね合わせて、自分だったら、と思って聞いていただきたいと思います。

(スライド9)

**不可能を可能に変える
5つのポイント**

- ① 「ワクワクする」〇〇を設定しよう
- ② 〇〇のない自信を持とう
- ③ 具体的な〇〇を立てよう
- ④ 目標や夢を〇〇しよう
- ⑤ 〇〇〇をプラスの力に変えるべし



①ワクワクする目標を設定しよう

まず一つめです。①「ワクワクする目標を設定しよう」です。

いまの生徒って立派な目標を立てようとしすぎじゃないでしょうか？ 高校生のときの私の目標は「知的なイケメンがゴロゴロいる世界にいきたい」だったんです。ただひたすらに「ワクワクするし、やってみっか」でした。

例えば「慶応義塾大学に行って、その後こういうのを専攻して、こういう立派な会社に入って」という流れはまったく見てなかった。「ワクワクするし、やってみっか」な感じで、それで本当に慶応に行けちゃったんで私は正解だったと思ってるんですが、いまの生徒たちに「将来の夢は何？」って聞くと、「公務員」って言うんですね。「えー？」って思って「公務員って何しているのか知ってるの？」って聞くと、「いや、知らねえけど、安定してんでしょ」みたいな感じ。「いや、それって夢って言わねえから」って会話を札幌新陽高校でもめちゃくちゃしたんです。「この子たち、何だろう、ワクワクする目標のつくり方がわかんないんだな」って思った。「むしろそういうのを思っちゃいけないんじゃないか」というふうに思っている子が多いようなイメージがしています。

もっとわかりやすい例で言うと、私がいた高校は、中高大の一貫校で、付属の大学は偏差値が40~45 ぐらいのところですが、その中でも私がいたクラスは通称「バカクラス」と呼ばれていて、そのクラスは何もしなくても出席だけしていれば付属の大学行けちゃう、というコース。でも他の4割ぐらいの子たちは、その大学にいても無駄だということに最初から気づいていて、ちゃんと勉強をして指定校推薦だったり一般受験で他の大学に行くという人たちが英才教育を受けている。そして私はもちろんこのクラスには入れなくて通称「バカクラス」という中でのビリだったんです。そのクラスの友達が東京の短大に進学しました。この子は KinKi Kids の堂本光一くんの追っかけをしていました。彼女の東京の大学に行きたい動機は「とにかく光ちゃんの近

くに行きたい」、それだけで大学受験をしました。私と同じような感じです。

でもこの子は本当に受験勉強をがんばって、東京の短大に進学し、その後にファッションの勉強をして KinKi Kids のスタイリストになったようです。そういうことが本当に起こるんだよ、ということを生徒たちに言っています。

この例はめちゃくちゃわかりやすくて生徒たちは「きゃーっ！！」ってなって、「えー！いいんだ、それで」となります。いや、いいんだと思うんです私は本当に。人間って感情の生き物だから、心をわーっつと揺さぶられて、ワクワクしたり、ドキドキしたりするときに、初めて爆発的な能力を発揮できるし、努力することが苦じゃなくなる。眠気を感じないくらいアドレナリンが出てるときは、絶対にワクワクしているときだと思うんです。

坪田先生はそれをわかっていた、心理学の先生だから。だから私に「慶応はどう？」って言ったんです。「櫻井翔くんも行ってるよ」って。坪田先生ってジャニーズのことがめちゃくちゃ詳しいんですよ。女子高生のモチベーションを上げるのに最適だから。なので、みなさんもジャニーズの誰がどこの大学に行っているかを全部把握しておくといいですよ、それで簡単にモチベーションが上がります。それぐらいに女子高生のジャニーズ愛というのは勉強のモチベーションになりますので。そういう意味で「ワクワクする目標を設定するのがいいよ」というのを生徒たちに伝えていきます。

大人のみなさんが、生徒たち、子どもたちを思っているいろいろな言ってしまうのはよくわかります。私もこの年になってよくわかったし、札幌新陽高校に入って生徒たちと過ごしてみて、ちょっと「何か教えてあげなくちゃ」という気持ちになってしまうのはよくわかった。でもやっぱり、目標とか進路とかは自分で決めないと本当に意味がないと思う。なんとなく行った大学で、何にも勉強しない人はいくらもいますよね、みなさんはわかると思うんです。ま、私もあんまり大学時代はまた勉強しなかったんですが、けどやっぱり何かをがんばるってことを自分で決めて、自主的にやらないと、絶対に達成することは無理だということは私はよくわかっているつもりです。

さて、①の「ワクワクする目標を設定しよう」の次がありますが、ちょっとその前に。

「ビリギャルはもともと頭はよかったんじゃないか?」、「進学校に行っていたらしい」という記事を死ぬほど目にしました。もちろん私は生まれつき天才だと思っています。けど学力は本当にあまりなかった。でもそのことをあまり問題だとは思っていなかったんです、だって「別に勉強できなくて、付属の大学には行けちゃうし」ってずっと思っていたからです。

で、これは日本史の問題でしたが「この人は誰でしょう?」という問題がありました。この人は聖徳太子です。当時の私は「こんな人は知らない、『せいとくたこ』って誰じゃい?」と思っていました。「子」がついているので女の子だと当然思っていました、太っているからこんな名前を付けられて気の毒な子だなと思ってました。

(スライド 11)

Q, この人はだれでしょう？



せいとくたこ
※正解は聖徳太子(しょうとくたいし)

また、「ビリギャルは英語はすごく得意だったらしい」という記事も読んだことがあります。当時私がどのぐらい英語が得意だったかという、スライド 12 のように「strong」を「日曜日」と答え、坪田先生は、「S しかあってねえ。動詞も名詞もぐちゃぐちゃだなあ」みたいなことをすごく言ってました。私は解答用紙を空欄のままにしておくのが嫌いだったので、とにかく知っている単語をその空欄に埋めていったという状態でした。そして「Japan」を「ジャパーン」と答えていました。読めてはいましたが、坪田先生は「君は郷ひろみか！」って怒っていましたが、世代が違うのでその意味はちょっとよくわかっていなかった。「ジャパーンって映画でよく出てるんだけど、何が違うんですか？」って感じでよくケンカをしていました。先生は「君としゃべっていると、ほんとに脱線して他の生徒が見れないから、さっさと帰れ」とも怒られていました。

(スライド 12)

Q, 次の英単語を訳しなさい

① strong	→	日曜日 ※正解は「強い」
② Japan	→	ジャパーン ※正解は「日本」



それからスライド 13 のように「Hi Mike, Nice to meet you.」の「Hi Mike,-」を「ヒー、ミケ」と読んでいました。その時坪田先生は「あ、よかった、ローマ字は読めたんだ」と言ってわりと安心してました。そのぐらい英語も壊滅状態でした。1 年半後には英字新聞をすらすらと

読める状態にまでいきましたが、とにかくスタート時はこんな感じでした。

(スライド 13)

Q, 次の英文を訳しなさい

<p>Hi Mike.</p> <p>Nice to meet you.</p> <p>- Nice to meet you too.</p>	<p>→ ヒーミケ。 ※正解は「やあ、マイク」</p> <p>はじめまして。</p> <p>こちらこそ、はじめまして。</p>
--	---



こんなでしたけど、だけど私は「慶応だったら行ってやってもいいよ」という姿勢はずっと崩さなかった。自己肯定感がスーパー高い、うざいギャルだったんです。これを育ててくれたのはお母さんだったので、これは最後に「どうやって育んだのか？」という話をおまけにつけたいと思います。

②根拠のない自信を持つ

次は、②の「根拠のない自信を持つ」です。

坪田先生は生徒が入塾面談にきたときに、必ず同じ質問をするんです。「君、東大に興味はありますか？」と。そうするとほとんどの生徒が「え、東大ですか？ 無理です」って一所懸命に言うそうです。お父さん、お母さんもしかり、「いやあうちの子が東大は絶対ムリムリ」、そういうことを一所懸命に言われるみたいです。

でも、坪田先生に「そんな中で君だけは一人トコトコときて、『東大なんて興味あらん、もっとイケメンいるところを紹介しろや』って言ってきた。君は本当に自己肯定感が高い、ってそのときに思って、この子は伸びるかもしれないと思った。」と受かってから言われました。なるほど、そこでわかるんだな、といまではよくわかります。

自分ができるって知っている力。「やってみるか、やってみないかどっちにする？」と言われたときに、「えー、ワクワクする」と本人が思って、周りのみんなが「絶対無理なんだからやめときなよー」とさんざん言っても、「いや、私ならできる気がする」で「やる」と決めた。その選択肢を選べたことを、私は「地頭がいい」ことよりも何よりも、私に才能があったと思ってる。それぐらい自己肯定感って大事じゃないかと思っています。「根拠のない自信を持って、まずはやる」ということ。

それからもうひとつ。「ビリギャルはもともと頭がよかったんじゃないか？」っていういろんなところで言われるんですけど、そんなとき坪田先生が言ってくれたこのエピソードを思い出します。

高校3年になったぐらいのときです、本当に死に物狂いで勉強をしていたときです。

「さやかちゃんさあ、そんなにがんばって1日15時間勉強し続けて、ぼくは本当に慶応に受かると思っている、君だったら。で本当に受かったら周りの人って何て言うと思う？」

「えー、みんな喜んでくれんじゃないの？」

「残念ながらそれは違う。きっと周りの人はこう言うよ。特に大人がこうやって言う。『ああ、もともと頭がよかったんだね』、必ず君にそう言う人がいっぱい出てくると思うよ。だけど、同じだけ努力して、同じだけの実力をつけて、仮に当日熱が出て実力を発揮できなかったとしよう。そして慶応に落ちたとしよう。結果だけが違ったとしよう。そしたら周りの人は何て言うかっていうと、『ほら、どうせ無理って言ったじゃん』って。『そんなの無理に決まってんじゃない』って言うんだよ。

何が言いたいかっていうと、周りの人は結果からしか判断してくれないということ。どれだけ努力をしてそこまでいったか。そのプロセスのところ、努力のところは意外と観てくれないんだ。だけど何が一番重要か。それは『死ぬ気で努力してそこまでいったんだっていう経験を自分で持っていること』、その経験こそが君の宝になる。一生の宝になる。これは社会に出たときにたぶん実感すると思う。だからぼくを信じてとにかくついてこい」って言われました。そのときは、

「ああ、先生って優しい友達いないんだな」って思った。「かわいそうだな」って思った。「私、そんな冷たい人は周りにいないんですけど、心配ご無用」って思ったんだけど。

でも『ビリギャル』って本が出て、よくわかった。「この子はもともと頭がよかったらしい」、「進学校に行っていたらしい」、「慶応の英語の偏差値は63ぐらいあったらしい」。そういうことを書いてる人は、私は会ったこともない、知らない人ばかり。でも死ぬほど多くの人たちがそれを信じていた、そのことに私はすごく衝撃を受けた。「私はあんなにがんばったのに。なんで私のことを何も知らない人がそういうことを言うんだろう」って。「そう言っている人たちって、どういう心境で言っているんだろう」って思ったら、もしかしたら、「一所懸命にがんばったことがない人たちじゃないか」って。そのとき初めて、坪田先生が言ったことがよくわかった。

先日『二ノさん』という嵐の二宮くんがやっている番組に出させてもらったときのことで。社会学者の古市憲寿さんは総合政策学部（SFC）の先輩なんです、3つぐらい上かな。その番組で初めて会ったんですが、二宮くんが「古市さんは『ビリギャル』の先輩ですよ、どうですか『ビリギャル』、すごいですよね」って言ったんです。そしたら古市さんは「何がすごいかわかりませんが、ぼくの周りにはこういう人はうじゃうじゃいますから。何がすごいか教えてください」と言ったんです。そしたら、鈴木奈々ちゃんが、「なにあの、冷たいんだけど。やば〜い」って言って会場が笑うという流れだったんです。でもそのとき、私本当に古市さんと同じ気持ちだった。

『ビリギャル』という本が出て、映画ができて、いろんな反応があった。中には「あんたが映画になるくらいだったら、私の方がもっともっと下から這いつくばってきたのに。私の方が映画にしてほしいからプロデューサー紹介しろや」みたいなことを言ってくる人もすごくいっぱいいた。けど一方で、「こんな話絶対裏があるはずだ」って言う人もいっぱいいる。この違いはいつい何だろうって思ったんです。

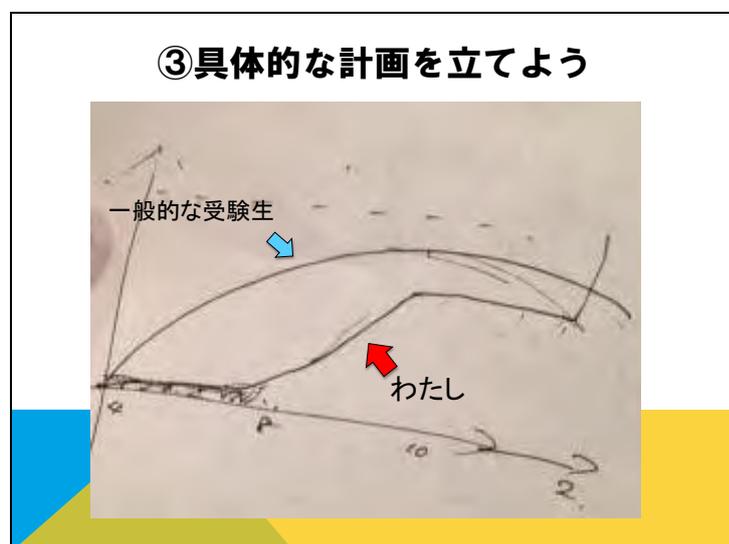
そしたらやっぱり古市さんがおっしゃったとおり、「一所懸命に努力をしてがんばって行ったその先には、同じ経験を持っている人たちがたくさんいるんだ」ってことを、なんとなくですが

そのときに気づいたんです。『ビリギャル』のおかげで気づきました。慶応、早稲田、東大、もっと言うと、スポーツのプロの人たち、アーティスト。そういう人たちはたぶん『ビリギャル』を観て、共感するところとかあって、「これが奇跡」と思う人はいないと思う。「絶対無理なんだから止めときなよ」と人に言われ続けて、でも「こんちくしょう」でがんばった人たちがああいいう人たちなんだと思います。だから若い人たちには、一人でも多く、そっちのグループに入ってもらいたい。そういう思いでいます。

③具体的な計画を立てよう

スライド 15 はある日、坪田先生が私に書いてくれたグラフです。右に 4 月、8 月、10 月、2 月といくほど試験に近づく。上にいくほど学力が上がっていくというグラフです。

(スライド 15)



一般的な受験生に比べて、私の場合はこういういびつな線を描いて学力が上がっていくよ、というのが坪田先生が言いたかったことです。この図をよく見ると、私のグラフは高3の夏まで偏差値は一切上がっていません。ここで何をしているかという、とにかく基礎を固めています。

最初に坪田先生から渡されたドリルは小学校4年生のものでした。「先生、高2なんですけど、私」って言ったら、「いや、わかっている。君は天才だからこんなの一瞬でできるとわかっているからやってきて」といわれて、「この野郎！」って思ってやっていたら、「あれ、小学生ってこんな難しいことけっこうやってたんだなあ」と思うようなちょっとわからない問題も出てきつつ、割とサクサクとできた。で、終わって見せに行ったら先生が「さやかちゃん、こんなにぶ厚いドリルだけど君は2週間でできた。普通の人を1年かけてやるんだよ。君、天才なんじゃない？」って言うんです。で私は「やっぱ私は天才なんだなあ」と思うわけですね。それで「早く次のテキストをちょうだい」と言うと、先生はニヤッと小学校5年生のドリルをみせて「これ、どのくらいでできるかな？」と。私は「絶対に1週間で終わらせてみせる」と言って、1日のノルマ以上のことを一所懸命に家でやり始めるわけですね。こうやって坪田先生は私を上手に

手のひらで転がして、「さやかちゃんはやっぱり天才だなあ」、「お、やっぱり君はすごい観点をもっているな、やっぱり天才だなあ」と毎日先生から言われ、私はそれを鵜呑みにしていました。これは私が楽道家だったので、先生はそうやって持ち上げて、持ち上げて。私は持ち上げられた分がんばるというタイプだと知っているから、先生はそういうふうに使っていた。

でも、みんながそういうわけじゃないです。『人間は9タイプ』という坪田先生の本があります。子どもたちを9タイプに分けていて、私は「楽道家」のタイプ、もろ楽道家。そのタイプによって声のかけ方を変えていたようですが、私はまんまと先生の心理学分析に乗せられて、がんばっていたわけですね。

勉強もスポーツも何でもそうだと思うんですが、できないものを毎日やらされていたら鬱になっちゃうからやめたほうがいいと私は本気で思っていて、できないものって嫌いになっちゃう。だから勉強が嫌いになって机に向かうのがどうしても億劫になる。だけど、「できる」という感覚をちゃんと植え付けていけば、勉強を嫌いにならないと、いまは思います。めちゃ勉強が嫌いだった身からすると、「できないから嫌いだったんだ」というシンプルなことがわかった。「だったら、できるところまで戻ってやればいい」というのが坪田先生のやり方。「6割〇が取れるところを探せ」とよく言っていました。それを探したところ、私は小学校4年まで戻らなきゃならなかった。でも「一步一步、階段と同じで2段飛ばしじゃなくて、確実に土台を築いていってしっかりと足元を踏みしめて登って行ったら、すごく高いところまでいける。だから何十万人という受験生を抜いて受かるのは君だから、ぼくを信じてついてこい」と、このグラフを書いて言ってくれました。

具体的な勉強法は『ビリギャル』の第4章に詳しく書いてあるのでそちらをご参照いただければ、ということでここでは飛ばします。

④目標や夢を公言しよう！

この4つめの「目標や夢を公言しよう！」は、私が超得意だったところです（スライド16）。

まずスライドの上の部分ですが、「自己成就予言」という言葉があります。これは「私はこうになりたいです、こういう夢があります」というのを多くの人に言えば言うほど、大きな声で言えば言うほど、これを達成する確率がぐっと高くなるという現象です。ダイエット番組なんかまさにそうですね。ダイエットって、もう誘惑の嵐との闘いの日々じゃないですか。だけどダイエット番組のあの人たちがちゃんと痩せられるのは、テレビを通して「私、痩せますよ」ってわざわざ言いふらしちゃっているからなんですよ。ね。「やないとマジ死ぬ」という、いろんな人にプレッシャーをかけられて、もうやらないと絶対ダメ、っていう環境をあの人たちはああやってテレビのおかげでつくってるんじゃないかと思ったんです。だからちゃんと痩せられるんだと。ああじゃないと、目の前に出てくる美味しいものを「今日だったらいいかな」とって食べちゃうじゃないですか。それと一緒に人間って意志が弱いから、まずは「人に言いふらす」とってことを私は生徒たちにお勧めしています。

(スライド 16)

④目標や夢を公言しよう！

★自己成就予言(じこじょうじゅよげん)

意識的、または無意識的に自己の予言や主観的期待に沿うような結果を生じさせる行動をとったために、自己の予言や期待通りの結果が出現する現象。

★ピグマリオン効果

「期待を込めれば人は伸びる」という効果。

反対に、親や教師が、もしくは自分で自分に期待をせずに

ネガティブな言葉をかけ続けて成果が下がることをゴーレム効果と呼ぶ。



実際に、私は塾に通うと決めた翌日から、「私慶応に行くんだ～」と学校中に言いふらした。そしたらみんなが「さやかが慶応だって、超ウケる～」、「行けるもんなら行ってみるよ～」とか言ってネタにしてメチャクチャ言いふらしてくれて、学校中の噂になった。「さやかが慶応を受けるらしい、ウケる」と。学校の先生がそれを聞きつけて、「お前のクラスはそういうところじゃない。そもそも慶応ってどういうところか知っているのか?」、「お前が受かるわけねえだろ」とかってすごく怒られて。私は「慶応行くんで、推薦いりませーん」って感じで生意気ばかり言ってたから、お母さんが学校に呼び出された。「お宅の娘さんはまた変なことを言いだした。頼むから、他の生徒に悪影響だからそんなバカなことを言わせないでほしい」と先生がお母さんに言ったんです。

そしたらお母さんも強者で、「先生、あの子は本当に慶応に行くんです。推薦は結構です」と言って帰ってきちゃった。だから私は、ほんとに「落ちたら死ぬ」って状況を見事につくったんですね(笑)。

スライド 16 の机の写真ですが、これは実際に私が家で勉強していた机なんですけど、正面の壁に「慶応」って紙が貼ってあります。これは私が書いたんじゃなくて当時小学生だった妹が習字の時間に「好きな文字を書きなさい」と言われると必ず「慶應」って書いて持って帰ってきたんです。それで1枚じゃなくて6枚が全部「慶應」の文字で、だんだん上手になっていくという(笑)。

これを見ていると、たぶん妹は学校の先生に「まーちゃんは慶応に行きたいの?」って聞かれたと思うんです。そしたら妹は「私じゃないです。お姉ちゃんが慶応に行くんです」って言っていたようで、妹の学校でも有名人になりました。

そしてお父さんも「絶対無理だ」と言っていたのに、「さやかがなんか別人みたいにすごい勉強はじめたんだよね。ホントにあいつが慶応受かっちゃったらどうしようか、俺金ねえよ」とか

言いながら、いろんな人にニヤニヤしながら言いふらし始めて。

そんなふうに私は地域の有名人になっちゃって、「あの子、すごくギャルだったのに慶応めざすらしいわよ」、「いやいや、無理でしょう」って噂するお母さんたちがいっぱい地域にいて、私は「落ちたら引越したい」という状況をここでもつくれたわけですね。

なので、先ほどの自己成就予言の効力は私が一番知っている。それぐらいお勧めの、アナログな方法です。

そして、スライドの下段の「ピグマリオン効果」。これはぜひ教育者のみなさんに、親御さんも含めてぜひ覚えてほしい単語です。「期待を込めれば人は伸びる」という効果です。これの逆は「ゴーレム効果」といって、「あんたなんかどうせムリなんだから、止めときなさい」とか、上司が部下に対して「お前みたいなバカなやつを信じた俺がバカだった」とかのネガティブな言葉をかけ続ければかけ続けるほど、営業成績だったり学校の成績がちゃんと右肩下がりに下がっていく、という恐ろしい現象。これを「ゴーレム効果」と言います。

坪田先生はこの「ピグマリオン効果」の使い手の天才で「君はこういうところが素晴らしい」って人を褒める天才なんですよね。そしてうちのお母さんもこのピグマリオン効果が天然でできていた人です。「さやちゃんみたいにいい子はいないんだから」と学校から帰ってきただけで抱きしめる、というお母さんでした。最強のピグマリオン効果を発揮する人が私のそばにこうやって2本立っていた。でもそれ以外は全部ゴーレム効果だった。だから全ての子どもたちに1本でもいいから最強のピグマリオン効果が立っていてほしいな、と強く思っています。

もし坪田先生とうちのお母さんが「いやあ、さすがに慶応はムリかもね」ってというような、ちょっとでもゴーレム効果をやっていたら、私はたぶん慶応に受かるというより、慶応を目指そうとは思わなかったと思います。だから子どものまわりが全部ゴーレム効果というのは、その子どもの可能性をホントに一瞬で潰してしまうので、ぜひ先生方や親御さんには子どもたちのピグマリオン効果となってほしいと思います。

⑤憎しみをプラスの力に変えるべし！

自己成就予言をやると、これが必ず出てきます「憎しみ」。

「どうせムリなんだからやめとけ」と、よかれと思って一所懸命に言うてくださる方がたくさん出てくる。私のお父さんが「おまえを塾に通わせる金はドブに捨てるのと一緒だから、俺は一銭も払わん！」と言ったときに私は坪田先生に「先生、聞いてよ」と塾で毎日お父さんの悪口ばかり言うてたんです。そしたら坪田先生はこう言いました。

「君って、超ラッキーだね！」

「は？ 何がラッキーなの？」

「人間の感情で一番強いものは憎しみだ。それをパワーに変えることができれば、君どうなると思う？ お父さんに最後は感謝しないといけなくなるよ」

「パパに感謝あ？ 何それ！」

坪田先生は、憎しみはパワーになると教えてくれましたが、そのときは「絶対にパパを土下座させてやる」と思って私は死に物狂いで勉強をしたんです。そしたら本当に最後はパパに感謝し

ないといけなくなった。慶応に受かったとき誰が一番喜んだかっていうと、泣いてお父さんが喜びました。「俺、慶応に行くのが夢だったんだよー」って言いました。夢がたくさんあるんだなと思いましたけども（笑）。そういうお父さんだったので、やはり寂しかっただけなんだなあと。ちなみに今はすごく仲がいいです。お父さんがあのときに悪者を買って出てくれなかったら、慶応は落ちていたと思う、本当に感謝しています。

(スライド 17)



あと、「おまえが慶応に受かったら、全裸で逆立ちして校庭を1周してやるよ」と言った学校の先生がいました。体育の先生でしたが、「先生、絶対にやってよ」と言ったら「おう、絶対やってやるよ。でも受かるわけないんだから、受かったら証拠をもってこいよ」と言われました。

卒業式の日、その先生に合格通知を持って行ったら、「おまえってヒマだな、自分でこんなのをつくって」と、受かってもなお信じてくれなかった。今では憎しみはパワーになったと知っているのですが、そういう人たちにも感謝しないといけなかなと思っています。

⑥忘れられない封筒の重み

この「忘れられない封筒の重み」というのはお母さんの話なんですけれども、ある日分厚い封筒をお母さんが私に渡してきました。たぶん高校2年の夏を過ぎたあたりです。これはお母さんが一所懸命に集めたお金だった。3人分の学資保険を全部解約して私の塾代に充ててくれた。それでも足りなかったから親戚中に頭を下げて借り集めてきてくれた。それでも足りなかったからお父さんに内緒でパートにも出た。それで集めてくれたお金が封筒にどのくらい入っているのか、私は知りたくなかった。お母さんに「さやちゃん、これ坪田先生に。期限すぎちゃったんだけどすみませんって言って渡してきて」と言われたときに、「ああ、わかったよ」と何食わぬ顔をして塾に行って、「はい」って先生に渡したんです。

そしたら坪田先生は中身を見て「さやかちゃん、この封筒をもう一回持って」と私に封筒を返したんです。そして私がそれを持ったらこう言いました。「その重みを絶対に忘れるなよ。必ず自分の力で2倍にしてお母さんに返せよ。君ならその意味が分かるよね」って言ったんです。

だからそのときに、「私は浪人は許されないんだ」とわかった。もう1年、ああちゃんにこれを払わせるわけにはいかない。だから私は絶対現役で慶応に行かなきゃいけないと思った。正直なところ、慶応に落ちたら明治でもいいかなと思ってた、明治には山ピーが通ってたから（笑）。だから山ピーでもいいかなと思ってたけど、「いや、私は慶応じゃないとだめなんだ」とそのとき本当に思って、その日からはアドレナリンが出まくったように、1日15時間勉強をしていました。

学校の先生を前にしてこんなことを言うのはちょっと申し訳ないんですけど、学校のカリキュラムは完全に慶応の受験には必要がなかったんで、まあそれまでも正直必要なかったんですが、学校の授業で4コマ寝させてもらって1日の睡眠時間を確保していました。1日4時間睡眠で家と塾では一睡もしない、という生活を1年間やりました。学校の先生は本当に嫌だったと思うんですけど、それをやらないと受からなかったんで、ほんとにぎりぎりのところをやりました。

⑦ポイントのまとめ

ここまでの不可能を可能に変える①～⑤のポイントをまとめます。

- ①ワクワクする目標をつくろう
- ②根拠のない自信を持とう
- ③具体的な計画を立てよう
- ④目標や夢を公言しよう
- ⑤憎しみをプラスの力に変えるべし

さらに⑤は、「プラスの力に変えて、最後は感謝に変えよう」です。これが私のやり方でした。

4 お母さんの褒め方にみる自己肯定感を育てる会話

さて、「坪田先生に会えたから、さやかちゃんはよかったね」と言われることが多いんですが、もちろん、そうです。とても感謝してる。でも、そのまえに、私の母の子育て、言葉かけがこのビリギャルストーリーを生んだ最大の要因だったように思うのです。

私はやっぱりお母さんが主人公だと思っているんです、『ビリギャル』って。

母がどうやって私を育ててくれたのか。それは「なんでもいいからワクワクすることを自分で見つける力を持ってほしい」これがうちのお母さんの子育てのたった一つのモットーだった。これが『ビリギャル』を生んだ一番の理由というか、要因だったんじゃないかって、思っているんです。

そしてお母さんは褒め方が特殊なんです。

まず褒め方には3種あります。「Doing」、「Having」、「Being」です。

- ①「お手伝いしてくれてえらいわね」

Doing 行動を褒める。

- ②「学年1位だなんて、えらいわね」

Having 持っているもの、所属していることを褒める。

そしてうちのお母さんは次の3つめの褒め方が上手かったです。

③「さやちゃんが笑顔でいてくれるだけで、ああちゃんはほんとに幸せなんだよ、ありがとう」

Being 存在自体を認めて褒める。

(スライド 21)



この③はお母さんの得意技でした。これを1日に1回は必ずやってた、いや1回どころかずつとやってた。そういうお母さんだったんですね。

でもね、「じゃあ Being で子どもを褒めましょう」といっても、できない人がすごく多いと思うんですよ、だって昨日まで「宿題やったかー」とか「勉強してろー」とか言っていたお母さんが突然今日になって、「あなたがそこに笑顔でいてくれるだけで、なんてお母さんは幸せなんだらう♡」って言い始めたら、子どももバカじゃないので、たぶん「何をたくらんでいやがるんだ」と思うでしょう。そこで、次の方法をお勧めします。

「You メッセージ」と「I メッセージ」というものがあります (スライド 23)。

「勉強しなさい (You must study) !」の主語は「あなた」になっています、同じことを伝えるにしてもこう言ったらどうでしょうか？

「私はあなたに勉強してほしいと思っているよ。なんでかって言うと、最近お母さんはさんはいこういうこと勉強したのよ」とか、「初めて梅干しを漬けてみたんだけど上手にできたから、あんたたちが喜んでくれてとっても嬉しいな」とか「この前初めてこういう所に行ってみたんだけど、すごく学びがあって、やっぱり知らないことを知って楽しいなあ。この楽しさをあんたにも知ってほしいなあ」みたいなことを言ったんだとします。だいぶニュアンスが違いますよね。

(スライド 23)

メッセージの主語を変換する

♥ Youメッセージ
 「勉強しなさい！」
 あなたはこうすべき(押し付け)♠
 子供は親の顔を見て行動するようになる

♡ Iメッセージ
 「私はあなたに勉強してほしい。
 ものを知る面白さを知ってもらいたいから。」
 自分の願望と理由を伝える♠
 子供に自我が芽生える(自己肯定感にもつながる)

そうすると、子どもから、いやお母さんはそういうけれど、自分はいまこういうものに夢中なんだ、ダンスをしたいんだとか、虫を研究したいんだとか、「Iメッセージ」で言えば同じ「Iメッセージ」で返ってくる可能性が高くなります。そうすると「Iメッセージ」のキャッチボールができて、そこに子どもが本当にワクワクする、子どもがヒーローになれる分野がそこに潜んでいるかもしれない。こういう会話が家庭や学校でもっともっと必要なんじゃないか、と私は思っています。なので、これをぜひやってほしいなあと思っています。

5 コーチングについて

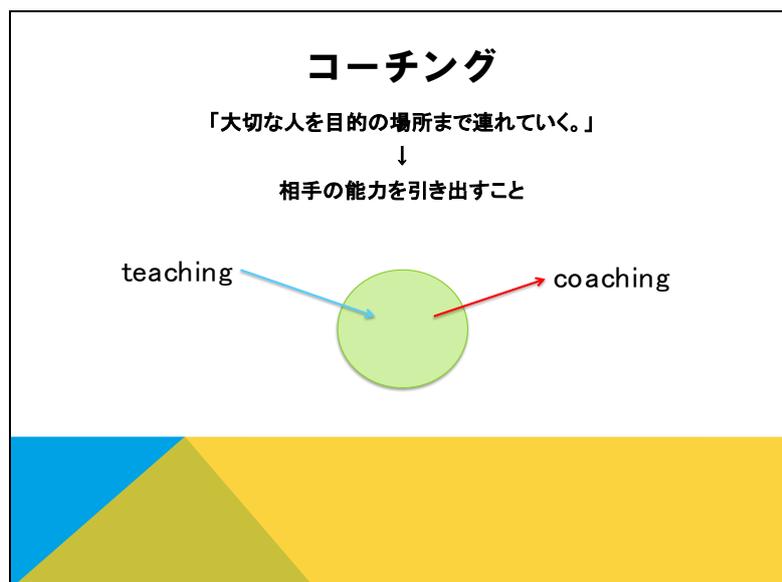
最後に簡単にコーチングの話を見せてください。

スライド 24 はブランドのロゴマークです。COACH という名詞には「馬車」という意味があります。馬車から派生した動詞の意味もあります。「大切な人を目的の場所まで連れていく」という意味です。まさにこれは相手の能力を引き出すということです。

(スライド 24)



(スライド 25)



スポーツの世界には Coach 呼ばれる人がいますが、あの人たちは教える役割の人ではありません。教えるんだとしたら、それはまさに Teacher という肩書のはずなんです。Coach と Teacher は役割が全然違って、スライド 25 のように矢印の方向が違うんです。矢印が対象物に対して向いているのが Teaching。反対に矢印が外に向かうのが Coaching です。坪田先生は一切授業はしません、全部自習です。その代わりに先生は何をしているのかというと、常に私を励まし、一緒に作戦を練ってくれたし、毎日声をかけてくれた。全部勉強は自分でやったけど、先生がいなかったら私はモチベーションが下がっていた。これはまさに一緒に走ってくれる存在だったわけですね。何かを施してくれるわけじゃない。ただ隣にいて「がんばれーっ！」って言って一緒に走ってくれるのが坪田先生だったと思います。コーチングのプロが坪田先生。

『ビリギャル』って、ティーチングが全然肌に合わなくて、「なんだこれ、意味わかんねえじゃん」って、理解ができないゆえに「テストが終わったらどうせ忘れるんだし、暗記するだけ無駄じゃん」と思っていた、ティーチングが合わなくて能力を発揮できなかった子が、コーチングに切り替わった瞬間に突然爆発的に能力を発揮したという典型的例の一例に過ぎないです。

このようにコーチングが大事で、国はもうティーチングだけでは、今までの戦後からずっと日本がやってきたティーチングの教育ではもう世界では通用しない、これからの社会では生きていけないということをもっと多くの大人がちゃんとわかって、これは、ちゃんともっとコーチング、アクティブラーニングの方に移行していかないといけないということをもっと国も認めて教育力を変えようとしていますよね。こういうコーチングを坪田先生はやってくれた。そして私はそのうちの一人だったというシンプルなお話です。

コーチングの基本は、スライド 26 のように、まず①話をよく聞くということ。坪田先生も母もそうです、相づち、うなづき、繰り返し、相手がヒーローになったつもりで気持ちよく話せるように全身全霊で聞いてあげる、というのがまさにコーチングの基本。そして②いい質問を投げかけていい答えを引き出してあげる。というのがコーチの役割。

(スライド 26)

コーチングの基本

①傾聴—よくきく(あいづち うなづき 繰り返し ヒーローインタビュー)

②質問—いい質問をすればいい答えが返ってくる
(詰問→相手を責めながら、返事を迫って問いたてること)

③承認—褒める、叱る→然るべきビジョンを示すこと
×おだてる→事実にもとづかないこと
×怒る→感情を押し付けること

↓

**人間の自発性を引き出す
命令文で相手の行動を変えることはできない**

③そして承認です。「褒める」と「叱る」があります。その前に「おだてる」というのは事実にもとづかないことで持ち上げることで、「褒める」とは本当に心の底から「すごいなあ、君のそういうところは何なんだろう、誰に似たんだろう」のように、褒められて本当に気持ちがいいなあとなる言葉をかける。そして感情を押し付けるのが「怒る」です。この「おだてる」・「怒る」ではなく、しかるべきビジョンを示す。「私はこう思うけど、あんたはどう思う？」っていうキャッチボールをすることで「承認」、認めるということをしてほしい。

これによって、人間の自発性を引き出すことができる。命令文で相手の行動を変えることはできないので、まずはやっぱり自主的に学ぶという意欲を駆り立ててあげるとというのが、周りの大人の役割なんじゃないか、と思っています。

「全ての人が一人の例外もなく、いつかその人なりのヒーローになる可能性を持っている」これは、私にコーチングを教えてくれた本間正人先生（学習学の提唱者）という私のメンターの言葉です。この人は先日まで坪田先生の塾の顧問をされていました。やっぱりコーチングって絶対に必要なんだろうなと、と思っています。

そして最後に、「日本一に本気で挑戦する人の母校 札幌新陽高等学校」（スライド 28）の話です。校長の荒井優（あらいゆたか）先生のことをご存知の方も多いと思いますが、この高校は3年前にもう潰れかけていた高校です。だけど創始者の孫である優さんに声がかかって「よし、新陽高校を、もっと言えば日本の高校の教育を変えるべく、覚悟を持ってこの学校を立て直すんだ」ということで、3年前に校長に着任されました。そこからV字回復を果たして、いまは学校が息を吹き返したようになって、先生たちも生徒たちもすごくいきいきしている学校なんですけど、「探究コース」が今年（2018年度）初めてつくられました。24名の生徒がその探究コースにいますが、私と同じ歳の「校長の右腕」という中原健聡（なかはらたけあき）という子がいて仲良

くさせてもらっているんですが、彼が荒井優さんに「自由につくっていいよ」と言われてつくったコースが探究コースです。

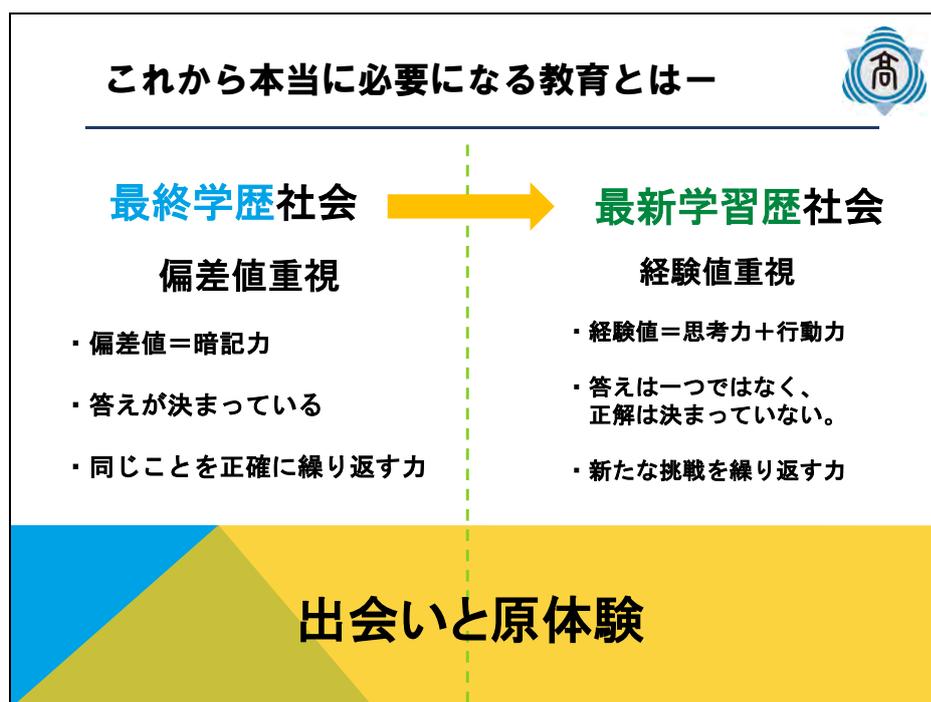
探究コースには定期考査が一切ありません。評価は、全部 GoPro で授業中の動画などを撮ってにおいて、協調性、プレゼン能力、いろんなものを多角的に見て評価するというコースです。

(スライド 28)



これからの社会はスライド 29 のように、「最終学歴社会はもう終わりだ、最新学習歴を何歳になっても更新していく社会になっていく」というか、もう、こうなってきた。そういう社会を生きていくには、偏差値や学歴だけでなく、「経験値」が絶対必要。この「経験値」を積むには原体験と出会いが必要なんじゃないか？

(スライド 29)

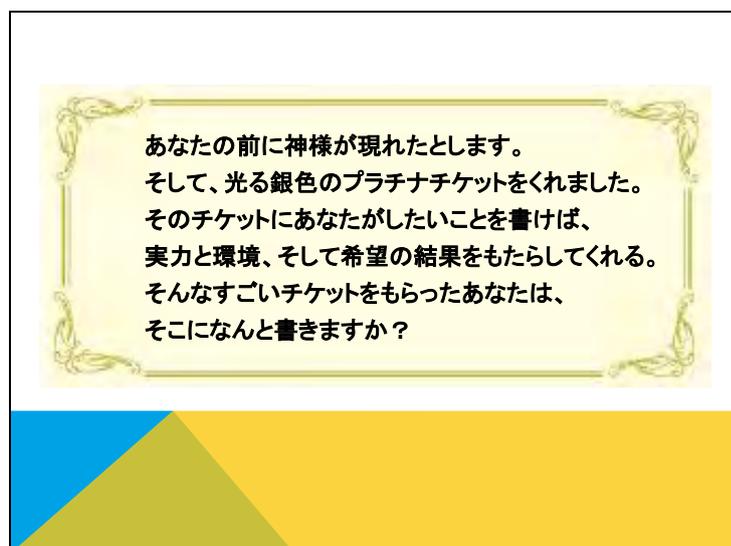


私は坪田先生と出会ったときに「わあ、こんな面白い大人がいるんだ！」と感動した。これはまさに出会い。それから一所懸命にがんばって、理想とした目標に対して死ぬ気でがんばって、本当につかんだ、っていうとんでもない成功体験を持っているから、社会でどんなことがあっても生きていける自信がある。こういう体験を、学校の中でさせてあげられたらどんなにいいだろうと思って、中原も私も優さんも同じ思いでこの教育（スライド 29）をもっともっと広めていきたいという思いで、いまは仲間としてこれからもやっていこうと思っています。

まずは、何万回追いかけてまわして「勉強なさい！」って言うよりも、まず「大人がワクワクいきいきして、子どもそっちのけで自分の人生を楽しんでいる、そんな姿」を見せることが、私は一番の英才教育じゃないかと思っているわけです。

最後に、あえてみなさんにこのプラチナチケットの話（スライド 30）をして終わりたいと思います。

（スライド 30）



これは唯一野球だけがんばってきた私の弟が野球をやめて、自己肯定感が落ちてしゃべれなくなったときに、坪田先生が弟に投げかけてくれた質問です。そのとき弟は2時間待っても「俺なんて」、「どうせムリ」、「バカだから」と泣きながら、チケットに書くことが何も出てこなかった。だけど最後に坪田先生が、「何年かかってもいいから、自分の力でこのチケットに書きたいものを見つけられるよ、君だったら大丈夫」って言ってくれました。

それから何年もたって、つい最近28歳になった弟に「いまだったら何を書きたい？」って聞いたら「親父を越える経営者になりたい」って書くそうです。「俺は漢字も数字も読めないけど、でも親父がどんなにすごい経営者かよくわかった」、「30年ぐらい前から規模はいつも大きくならなくて、なんでだろうって思ったときもあったけど、でも儲からないのに人のためにあんなにがんばって、人に愛されて、人望が厚い親父を俺は初めて誇りに思ったんだ」、「だからあの人のみたいに俺はみんなに愛される経営者になる。親父が安心して引退できるように俺は会社をちゃんと引き継ぐんだ」と言って、いまは一所懸命に勉強しています。なので弟にも学ぶことですけ

ど、やっぱり何歳になってもいろんなことを学び続けて、その背中を下の世代に見せていかなきゃいけないなと思って、私もその一人になればいいなと思っています。

「意志あるところに道は開ける」(スライド 31)、坪田先生が私にくれた言葉を、みなさんにおくります、そしてみなさんから多くの下の世代に伝えていただければと思います。

またお会いすることがどこかであるかもしれないのですが、そのときはまたどうぞいろいろと教えてください。今日私は教育者でもないのに偉そうに話してどうも失礼しました。ご清聴いただきまことにありがとうございました。

(スライド)

みなさまの未来がたくさん人の幸せに溢れたものになりますよう心から願っております



意志あるところに道は開ける!

本日は誠にありがとうございました

ビリギャル さやか 

(終わり)

福岡県立城南高等学校 校長

和田 美千代

アクティブラーナーを育成する学び

コーディネーター：及川俊浩（チーム宮城代表 聖ドミニコ学院高等学校）

挨拶 最近考えさせられたもの2点を紹介します

本日の目標とそのループリック

- 1 自己紹介
- 2 授業をアクティブラーニング化するコツ、インテイクスイッチ
- 3 なぜ教室でアクティブラーニングが求められているのか？

ペアワーク 「なぜ授業をALにしなければならないのか？」について自分なりの答えをつくる

質問タイム

資料「卒業式、語る」

アクティブラーナーを育成する学び

福岡県立城南高等学校 校長
和田 美千代

一及川（コーディネーター） みなさんこんにちは。宮城県にあります聖ドミニコ学院高等学校の及川と申します。まず和田先生の紹介ということでこの場に立っておりますが、紹介の前に今日一日がんばってってくれた産業能率大学の学生さんに質問があります。ひとつよろしいですか？

産業能率大学に入って4年間学んできて、「自分のこんなところが変わったなあ」、という点は何かありますか？

一産能大生 産業能率大学に入って変わった点と言いますと、私は高校時代は受け身の授業ばかりを受けていたためあまり自分から積極的に発言することは一切なかったんですが、アクティブラーニング（以下AL）型授業を多く取り入れている産業能率大学に入ることで、自分を変えたいという思いで入学したんです。実際に入学して先生の講義をただ受けるだけでなく、教えていただいたことを学生同士のグループで話し合っ、再確認することで授業で学んだことが身につくということがありました。

グループワーク型の授業が多かったので、学んだことを共有して話すことによって、意見を発信する力とか人の意見を聞く力が身についたなあ、と、大学4年間を通して思います。

一及川 はい、ありがとうございます。質問をするとお願いしたのは1時間前です、それでこれだけ話せるので、これもこの大学の成果のひとつなのだと思います。産業能率大学は学生さんだけではなくて、われわれのような教育関係者にもこういういった学ぶ機会を毎年与えていただいています。

実は私は12年前に初めて和田先生の話をお聞かせいただきました。和田先生とはそれ以来の付き合いです。私自身は、それで変わろうと思いました。そして今も和田先生の教えで変わろうという気持ちは誰にも負けていないと思います。今日は先生方もぜひ和田先生の話から何かしらのきっかけ、パワーをぜひ持って帰っていただけたらと思います。では和田先生どうぞよろしくお願ひします。

挨拶 最近考えさせられたもの2点を紹介します

その1 阪急電車の中釣り広告から

ただいまご紹介いただきました福岡県立城南高等学校の校長をしております和田美千代と申します。

これは阪急電車あったスヌーピーの中釣り広告です。最近考えさせられたもののひとつとしてみなさんにご紹介しようと思って持ってきました。翻訳の日本語はこうです。

『先生、この3番目の問題がよくわからないんですが、私が考えることを書くんですか？それか先生が望む答えを書けてことですか？』



これってものすごく考えさせられるセリフだなと。そうか、私たちはいつも生徒に「あなたの考えを書きなさい」、「あなたの考えをつくりなさい」と言いつつ、実は先生が望む答えを書かせているんじゃないかなと、自分が考えることを書くのか、先生が望んでいる答えを書くのか、私たちは生徒たちに対してどっちを要求しているんだろうと、考えさせられる1枚でした。

その2 浪江・双葉・荒浜小学校に行ってきた

さて、今日は「授業力向上フォーラム」なんですが、昨日、私は浪江・双葉・荒浜小学校に行ってきた、考えました。そこで思ったのは

- ・東北の先生方は、「それ〈授業力向上〉どころじゃないんじゃないか？」
それ=教育改革、主体的・対話的で深い学び、AL、授業改善

「それどころ」の「それ」とはこのようにいろいろ言われているんだけど、東北の先生方にとっては、実はそれどころじゃない状況なんじゃないかなと、そう昨日は思って、ギリギリまでこのプレゼン資料をつくり替えていました。

「何のために教育改革をするのか？」

「何のためにALをやるのか？」

「何のために授業改善をやるのか？」

これらについて今日は午前中からいろんな方がいろんな角度で話をされていたと思います。私もそういう話をさせていただこうと思ってプレゼンを準備していました。だけど、双葉や浪江に行ったら実際に原発施設の前で、「ここから入ってはいけません」とバリケードがあって監視の方がいて、群馬県警がパトカーでずっとパトロールしています。ああ、これが現実なんだ、と考えたときに「何のために、主体的・対話的で深い学びをやるのか」について私なりに、実はこれまでとは別の答えが出てきたんです。それは私なりの深い学びだと思っているんです。そこで、最後にまたこの話をします。

本日の目標とそのルーブリック

ここから私のいつもの授業の感じで進めます。今日はみなさん自身が次の2点ができるようになることが目標です。

- ①「なぜ授業をALにしなければならないのか？」を図1を使って説明できること
 - ②「インテイクスイッチ」について図に描いて説明できること
- この2点が今日の目標です（スライド2）。

（スライド2）

本時の目標とそのルーブリック

内容目標	①なぜ授業をALにしなければならないのか、図1を使って説明できる。 ②インテイクスイッチについて図に描いて説明できる。			
ルーブリック (評価基準)	S	A	B	C
	校内に授業改善チームを作ることができる	教室で実行に移すことができる	管理職に説明できる	同僚に説明できる
態度目標	発言する、傾聴する、承認する、協力する、貢献する			
ルーブリック (評価基準)	S	A	B	C
	チーム内でファンリテーター役ができた	人の発言を促すことができた	発言のよいところをほめることができた	発言に耳を傾け、自分も発言することができた

また態度目標は、「発言する、傾聴する、承認する、協力する、貢献する」です。なので少なくともお隣の方と協力しあって目標の①と②ができるようになっていただきたいと思います。少なくともそれは、私が求める答えではありません。みなさんのお考えで、「なんで自分は、授業をALにするのか？」を、それから「インテイクスイッチとはどういうものか」を、自分の言葉で語っていただきたいと思います。

さて、図1というのはこちらです（スライド3）。この2点の写真を使って「なぜ授業をALにするのか？」を考えて自分の言葉で語っていただきたいと思います。

（スライド3）

図1 なぜ授業をALに？



産業革命以後近代工業社会



情報革命以後知識基盤社会

画像引用 http://blogs.yahoo.co.jp/r_in_cambridge/21967231.html

<http://jet-set.hatenablog.com/entry/2013/04/25/104735>

さて、本日の流れはスライド4です、1から3まではいけるかなと思いますのでしゃべり倒します。そしてその中にととききペアワークを入れていきたいと思います。

5の「評価をどうしたらいいのか」、6の「50代からの逆襲」については、みなさまのお手元の資料にもありますので最後まで話せなかった場合は後でご覧ください。

(スライド4)

今日の流れ

- 1 | 自己紹介 ドリカムからALまで
- 2 | 授業をAL化するコツ インテイクスイッチ
- 3 | なぜ教室でALが求められているのか？
- 4 | AL授業のポイント
- 5 | 評価どうしたら？テストを変えよう
- 6 | 50代からの逆襲

1 自己紹介

では最初の自己紹介です。

私がこのように研修会などで話をさせていただくときに必ず鉄板アイスブレイクネタで使う自己紹介です。何度も聞いたことがある方もいると思いますが、その方は知らんぷりしてお付き合いください。

平成 27、28 (2015、2016) 年に福岡県教育センターにいた頃に使っていたものです。早良高校の西納先生がつくってくれました。私が早良高校から県の教育センターに転勤するときの、送別会で私のことをこんな風に紹介ネタをつくってくれました。

『和田美千代とかけて、サッシーと解く その心は？』

サッシーはアイドルの指原莉乃です。今日の最初のお題はこれです。では今からお隣とシンク・ペア・シェアをお願いします。

会場後ろから及川先生がマイクを持って近くに伺います。では及川先生、どなたでも結構ですが、なるべく笑っていらっしゃる方をお願いします。と言うとみなさんいきなり黙ってしまうかもしれませんが、ちょっと会場に聞いていただけませんか？

一会場「センター」

なるほど。では次の方。

一会場「全く思い浮かばなかったんですが、サッシーはAKBの選挙ですと1位なので、何か不思議な魅力があるんだろうな、と隣の方と話していました」

どうもありがとうございます。

答えはこれです、『センターで大活躍』でした。拍手をありがとうございます。私が福岡教育セ

ンターに転勤するときに西納先生が、こんな風に私を紹介してくれました。この西納先生は私の城南高校時代の教え子なんです。私は「いままでの国語の答案の中で、一番最高の出来！」(笑)と言って、それからずっとこうやってあちこちで紹介させてもらっています。

この話をしてアイスブレイクするとみなさんに笑っていただけるんですね。実はこれがALの大事な手法の一つ(スライド11)で①「安全、安心の場作り」という言い方をします。例えば教室でグループ学習をするときに生徒たちがなかなかしゃべらない。その理由は、緊張がそこにあるからです。「正解を言わなくちゃいけない」と思っていたり、そこに場を仕切るような強い子がいたりして上下関係があったりしてその子の意見に従わないといけないような場合だと、生徒は自分の考えをとて言えません。そこで最初にこのアイスブレイクでほぐして、「安全、安心の場作り」をするということです。ここでやはり笑顔が出て、笑っていただけることが大事です。授業でいうと「つかみ」っていうやつですね。

「発言しやすい雰囲気づくり」にはアイスブレイクが大事、それともうひとつは先生のあり方が大事です(スライド12)

(スライド11)

これもALの手法安全安心の場作り

×権威と服従の関係の中・・・
×正解を言わなくては・・・
→意見を出せません



「アイスブレイキング」
「フラットな場」
「否定語 使わない」

笑っていた
だけか
にやあ

(スライド12)

ALポイント1

1 安全安心の場作り

発言しやすい雰囲気づくり

「正解じゃなくていいんだ」「間違っていていいんだ」
「何でも言えるなあ」

アイスブレイクが大事！
自己紹介、簡単なゲーム
ユーモラスな「つかみ」

先生の在り方が大事！
醸し出す雰囲気
たたずまい 笑顔

権威の鎧を脱ぎましょう。でも立場が邪魔する！

ちょっと私はこれからマイクから離れて立ち上がりますね。教室でこうやって立って話す先生の姿、そして先生が醸し出す雰囲気、これがものすごく大事です。このときに先生がとても権威的であるという状態だと生徒はとてもじゃないけど意見を言えないんですよ。例えば、一番困るのが生徒指導の主任の先生(笑)。その先生は役割というか立場として、そういう風につくっていらっしゃるんですが、そういう先生が「お前の意見はなんか？言え」と言っても、とてもじゃな

いけど生徒は緊張して言えないということがあって、先生の醸し出す雰囲気やたたずまいというのはものすごく大事です。ですから権威の鎧を脱ぐことが、とても大事なことじゃないかと思っています。

それからポイント 2 つめ。②「フラットな場をつくる」(スライド 13)には、その場に見えない上下関係や権威と服従が無いという点で「グランドルールを設定する」ことです。これはその場に出てきた意見に対して批判をしないということです。いったんはどんな意見も受け入れることで自由闊達に、それはどんなに変わった意見でも思ったことを口に出すということと、質より量でたくさんのアイデアをどんどん出しているうちに、ひとつくらいヒットするものがあるという考えです。

「相乗り歓迎」というのは、たくさんの意見が友達から出ると、それに自分も乗って「自分もそれに賛成でプラスこんなことも思う」という相乗りです。

「一意一分」というのは、以前校長先生や管理職の研修会をしましたが、こういったとき、一人で長々としゃべる人がいるんですね、そしてテーマをすり替えてしまう。「この際だから言わせていただきます」とか言って、人の時間を奪ってしまうことを意識していない、ということです。だから「一意一分」で一つのテーマで 1 分だけ話す。

こういうグランドルールを事前につくっておけば、どの授業でも発言の平等性を確保できます。声大きい人にその場を仕切らせないというのと、逆に何も言わない人をつくらない、フリーライダーをつくらないということです。人の間に乗っかるだけのタダ乗りの人をつくらないということです。こういうことでフラットな場をつくるのが AL のポイント 2 つめでした。

(スライド 13)

ALポイント2

2 フラットな場作り

その場に見えない上下関係、権威と服従ないですか？

グランドルールを設定する

受け入れる(批判厳禁)、自由闊達、質より量、相乗り歓迎、1意1分、テーマのみ等

発言の平等性確保

フリーライダー作らない

私は福岡県の国語科の教員です。校務分掌は長年進路指導部で全国の SJK (進路女子会) の顧問です。そして平成 6 (1994) 年に城南高校で「進路学習ドリカムプラン」というものを企画開発してから長い間、文科省、国研の教育センター研究所でキャリア教育関係の専門委員をいろいろしています。それから県では管理職をして、平成 17 (2005) 年に福岡県の教育センターの指導部長として着任し、福岡県では「新たな学びプロジェクト」という AL の普及推進のチームリーダーをやっておりました。昨年 (2017) 度は福岡県教育委員会の高校教育主幹指導主事として 1 年間働いておりました。

福岡県教育センターで AL の推進の仕事をしていましたが、そのチームで考えたことが以下です。

- ・授業の数だけ AL がある
- ・自分の学校の AL は自校でつくる
- ・職員研修会も AL でやる
- ・職場も AL 化する

AL の初期の定義は「主体的・協働的な問題解決」でした。これは教室の中だけでなく、私たちの仕事そのものが「主体的・協働的な問題解決」これに向かっていると思うんです。

- ・あくまで現場、自分の言葉で話すことが大事
- ・一人の百歩より百人の一步

一人だけ素晴らしい先生がいてめちゃくちゃ上手、でもあとの先生は進んでいない、というよりは、とにかくたくさんの人がまず最初の一步を踏み出すことが大事だ。

という方針でやっておりました。

私自身は城南高校の「ドリカムプラン」を開発して以来、その後世の中には「キャリア教育」、「AL」といった言葉が流行しました。その時代ごとの動きを捕まえて言葉で表現していますが、私自身の不易は「主体性、内発性、自分自身を駆動するエンジンとは何か」というのをずっと、追求しています。今もです。

そして国語科教師としてはとても変な授業をしていました。どんな授業かというと、国語の教科書に載っている素材を使って試験問題をつくります。解答と解説もつくりそれを配布します。そして各自で解答を考え、「わからないところは質問しなさい」と言います。これは「教えない」という授業です。もちろん生徒から4月ごろは「先生、なんで教えてくれないんですか？」という文句が出ます。そこで私はこう応えます、「大学入試の本番の日、先生はおらんとよ。社会に出ても先生も親もおらんとよ。自分でどげんかせんとならん。その自分でどげんかする練習を学校でしよるったい」と言って無理やり生徒に自分でさせます。

生徒の質問の手があがると私は生徒のそばに行きますが、いきなり質問に対して答えを言うのではなくて、質問に対して誘導質問で返す。「これはどういうこと?」、「じゃ、これはどういうこと?」と私が生徒に質問をしながら、最終的に質問の答えを生徒自身の口から出てくるころまで誘導質問をしていきます。そして生徒の口から答えが出たら一丁上がりです。そのころには教室で他のところでも手が上がってくるので、最初の答えが自分の口から出たその生徒を「今私とやり取りしたことを友達にしゃべってきて」と走らせます。そうすると玉突き現象のように、教室内で生徒がどんどん次の生徒へとぐるぐると回っていきます。そういう授業を「宴会授業」と自分で言っていました。

なぜそういう授業をしていたのかというと、「先生がいなくても授業が進む」というものをめざしていましたし、また、なぜそういう形をとっていたかということ、「説明する人が一番わかる」を体感していたからです。先生方も自分の教科で同じことを100回くらい説明していらっしやいますよね。そうすると100回も説明すればたいがい自分の中に定着しますよね、だからです。

でもそういう授業をしながら、実は内心、コンプレックスもありました。でも『アクティブラーニング入門』(小林昭文著)が売れて、その本の出版記念パーティで手にして帰りの飛行機の中で読んでいたら、ボロボロと涙が出て、この時初めて「自分の授業は変じゃないんだ、これはALと言うんだ」とやっと肯定できました。こういったところが、私の自己紹介です。

2 授業をAL化するコツ、インテイクスイッチ

今年（2018）年4月、城南高校の始業式で校長として式辞を話しましたが、これをALでやりました。この中にALの基本形がいくつか詰まっています。みなさまのお手元にその資料（文末添付）がありますので、すみませんがこの式辞を今から読んで、「ALのポイントはここじゃないかな？」と思うところを、自分で1つか2つか3つか考えてみてください。その後、隣の人とシェアしていただきます。では資料の【始業式式辞「先駆ける城南」】（文末に添付）に目を通してALのポイントを考えてみてください。ではどうぞ始めてください。

では及川先生、どなたかに聞いていただけませんか？

一会場 ALのポイントは要約することで、他は自分の言葉で再構成して話すということだ、と話し合いました。

もうばっちりです、ありがとうございます。みなさん拍手をお願いします。

ALについて自分自身が学んでいて、だんだんと気づいてきたんです。授業をAL化するポイント、一番のポイントはこれだと思っています。それがスライド21ですが「インプット→インテイク→アウトプットの流れをつくる。これを逆向き設計でやる」ことです。

（スライド21）

授業をAL化するポイント

・インプット→インテイク→アウトプットの展開を作る
それも逆向き設計で！



例 謝辞を言う人は講演をマジで聴く

1番め、①アウトプット予告をする。冒頭で私が「今日みなさんに、質問を付箋に書いてもらいます」と言ったのもアウトプット予告です。この式辞で言うと生徒に「どなたかにスピーチ要約を日本語で言ってもらいます。誰が当たるかわかりません」と言ったのがアウトプット予告ですね。アウトプット予告をすると自分が発表者という立場になるってことですね、そうすると自分で発表しなければならないので、ものすごく真剣にインプット、つまり取り込みます。それが図（スライド21）の中央の「②インテイク」ですが、意味は「自分事にする、当事者になる」です。わかりやすい例で言うと、「謝辞を言う人は講演をマジで聴く」ということです。私はあちこちの講演に行くのでよくわかります。「今日の職員研修会で謝辞を言う人はこの人だろうな」というのが前から見ていてわかるんですね（笑）。それは、なんでかと言うと、顔つきが他の人と全然違うからです（笑）。それ以外の人は例えば「この研修会が終わったらどこへ行こうかな」とか「今

夜の晩御飯は何にしようかな」みたいなことを考えていたりします。この「謝辞を言う人だけが講演をマジで聴く」というのを、授業で使うということです。

「ドライバーズ効果」というのをご存知でしょうか？ 運転手は絶対に助手席の人よりも道を覚えますね。あれは脳が、自分が主体者であると判断すると、活動を活性化するからなんです。脳はとてもエコにできているので「いま自分は主体者ではない」と判断すると、OFF・スリープ（モード）に入ります。つまり、授業で大事なのは生徒を主体者にする、ドライバーにすることだと思います。（スライド 23）。

AL って、「教えるから学ぶ」への授業観のチェンジなんです。そこでは主役が交代します、「先生が教える」から「生徒が学ぶ」へです。けどですね、スライド 23 のイラストのようにまるでカラオケマイクを手放さない人のように、授業のしゃべりのマイクを絶対に手放さない先生がやはりいますね（笑）。

（スライド 23）

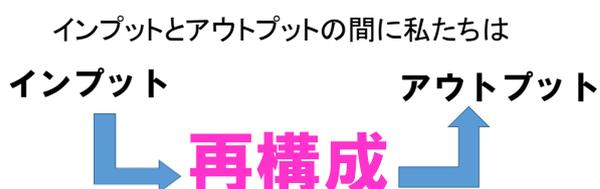
生徒を主体者に！

- 運転手＝自ら動く、活動している、主体的、能動的＝主役
- 授業中、主役は誰？
- AL 「教えるから学ぶへ」授業観のチェンジ
- 主役交代、主語が変わる
- 先生が教えるから生徒が学ぶへ（でも主役を譲りたがらない先生・・・）



インプットとアウトプットの間に、私たちは必ず再構成をします（スライド 24）。仮に私がここでしゃべっている話のうちの 1 分間分をそのままコピーしてしゃべってくださいと先生方をお願いした場合、完全コピーができる人はいません。絶対に自分の脳というフィルターを通す間に、自分の言葉で考えて表現をしようとしています。そこになって初めて知識が定着し、学力が向上するわけです。

（スライド 24）

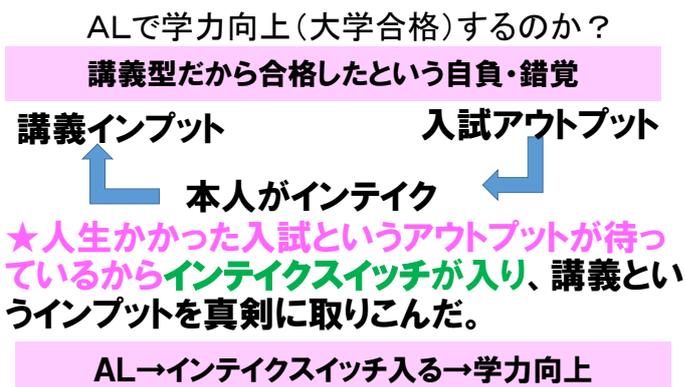


脳、活性化 自分の言葉で考え表現する

知識定着、学力向上

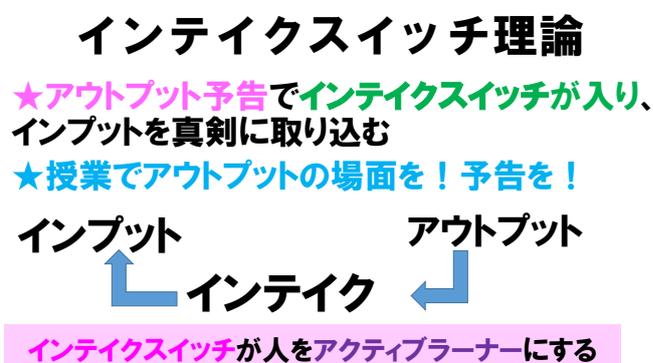
よく職員研修会で「ALで学力が向上するのか？」とケンカを売られます。それってつまり「ALで大学に合格するのか？」という、進学校の職員研修会に行くと圧倒的にこの質問です。こういう質問をする先生方は、「講義型だから合格したんだ」と自負していらっしやいます。だけどそれは講義型だから合格したのではなく、入試という人生がかかったアウトプットが待っている、だからどんなにつまらない講義でも生徒が自分で「インテイクスイッチ」を入れてくれて、インプットを真剣に取り込んだ結果なんです（スライド25）。

（スライド25）



だから、もし講義型で合格すると言うなら、先生の講義を聞いた人はみんな難関大学に合格しなくちゃならないじゃないですか。では、なんでそこで成績の差や生徒の取り組み姿勢の差が出るかと言うと、これ長年指導をする方はよくわかると思いますが、やる気スイッチとか本気モードとか「やっとあいつにも火がついた」といった言い方をしますが、その火がつく状態にする、ということ。成績の差や生徒の取り組み姿勢の差とは、火がつくという状態の差ですね。これをALではインテイクスイッチを入れる、そして学力を向上させる。これを「インテイクスイッチ理論」（スライド26）と私は名付けましたが、これはもともとあるもので外国語習得の理論です。

（スライド26）



「アウトプット予告でインテイクスイッチが入り、インプットを真剣に取り込む」。だから、手法としては「授業では絶対にアウトプット場面をつくる」、「それを予告」しておく、ということですね。インテイクスイッチが人をアクティブラーナーにするとおもいます。

では次に「なぜ教室でALが求められているのか」についてお話しします。

3 なぜ教室でALが求められているのか？

今朝からずっと、ここでみなさんがいろんなそれぞれ違った表現で、でも同じことについておっしゃっています。だけど、ここではそれをみなさんに自分の言葉で言っていただきたいんです。

いま授業改善についてぎんぎん言われていて、ALをやりなさい、しなさいと言われていきます。だけど「なんでそれを私たちはやるんでしょう？」。

文科省や県教委が言うからとか、または「係や担当に自分が指名されたから」やるんでしょうか？ 私たちがここでおさえるべきことは、WhatやHowじゃなくてWhyです。「なんでALをやるのか？」ということについて自分の言葉で語る。これができたら、たぶんとても説得力のある授業ができるようになると思っています。

(スライド 29)

社会の変化、働き方の変化



- ・人工知能(AI)、Society5.0、第四次産業革命
- ・AIに代替される？

Amazonでは24時間ロボットがずっと働いているので、あんなにも早く本が手元に届きます。「人工知能(AI)やSociety5.0や第4次産業革命」、「AIに代替される？」といった社会の変化が言われています(スライド29)。以前、NHK朝ドラで『あさが来た』をやっていました。ちょうど江戸時代が明治に変わるころの話でしたが、主人公の祖父のセリフが「時代の変わり目やで」。そして主人公のあさが「変わっていかんと、生き残られへん」というセリフを言いました。たぶん先生方は、いまのこの状態にあるんじゃないかと思います。

いろんな社会の変化が言われています、いろんな職がAIにとって代わるという話があります。本当にいろんな授業動画があって、教師という仕事も、県の教育委員会の指導主事という仕事も、もうとって代わられるんじゃないかという勢いです。

例えばジョージア工科大学には9人のティーチングアシスタントがいて、その中の「ジル・ワトソン」についてですが、この人は実はAIです。彼女は学生の相談業務にあたっていて、学生は彼女にオンラインフォーラムで質問し、随時解答をもらっていました。しかしその約1か月間、学生たちは彼女がAIであることに気がつかなかった。そういう時代に私たちは生きているということです。

現在は、第3の教育改革期。明治、戦後、現在と言われています(スライド36)。

(スライド 36)

なぜ、ALなのか

現在 第3の教育改革期

- 1 明治の学制改革→近代化の波が迫ってきた
- 2 戦後の教育改革→民主化の波が迫ってきた
- 3 現在の教育改革→グローバル化の波が...

それは工業化社会から知識基盤社会への変化の中で、近代工業社会では産業革命以来、ずっと世界経済は右肩上がりで、そこで求められていたのは優秀な工場労働者です。だからその優秀な工場労働者を育成するために学校というものがあり、そこで育成していたのは勤勉で従順で忍耐強い、協調性があってリーダーの指示に従う人でした (スライド 37)。

だけど、リーダーの指示を聞いているだけでは、知識基盤社会ではもうダメになってきた。知識基盤社会の中で情報革命以来、私たちがその真ただ中に生きているわけですが、そこで必要な人材は優秀な工場労働者じゃなくて、「新しい価値を創造できる人」。そして主体性、協働性、創造性が学校での人材育成で求められていると思います (スライド 38)。

(スライド 37)

工業化社会から知識基盤社会への変化

	近代工業化社会	知識基盤社会
	産業革命～1990年代	ICT革命～
経済	右肩上がり	不安定・低成長
必要な人材	優秀な工場労働者	新価値創造者
雇用	終身雇用 護送船団方式	不安定雇用 個人リスク社会
将来	将来設計が可能	予測不可能
学校での人材育成	勤勉、従順、忍耐強い、協調性、指示に従う	主体性、協働性、創造性

(スライド 38)

知識基盤社会で求められる人材

情報化・グローバル化などの急激な社会変化 ↓
 →リーダーの知識は古くなって役に立たない、
 上司に報告し指示を待つのでは対応できない
 →未来は予測困難、正解のない時代
 →協働して問題解決、未来創出

主体的に仲間と協働して未来を創りだす
主体性・協働性・創造性

どんどんと急速な社会変化をしていって、リーダーの知識は古くなって役に立たない。リーダーに報告して指示を待っているのでは対応できないようなスピードです。それから、未来がどうなるかということでは、リーダーその者にもわからない。この正解がない時代になんとか協働して問題解決をして未来を自分たちでつくりださなくちゃいけない。そのために学校教育の中に「主体性、協働性、創造性」などが求められているんだと思っています。

そこで文科省は法律を変えてまで、学力の再定義をしました（スライド 39）。

（スライド 39）

知識基盤社会が到来したために
法律を変えてまで、学力の再定義をした。

•学力の3要素

- (1)生きて働く知識・技能
- (2)未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等
- (3)学びを人生や社会に生かそうとする
主体的に学習に取り組む態度

だけど、職員室はまるで海の底状態で、こういう方はいらっしゃいませんか。「知識・技能」のところにベターっとへばりついているイソギンチャクのような方。つまり「学力とは何だ?」、「これだ!」と、この学力の3つの柱が言われているにも関わらず、「いや、知識技能が学力だ」とばかりに言っている先生方。そしてどんな教育改革の嵐が吹こうと、「関係ねー。そんなことを言っても大学入試が変わらんかぎり・・・」というような先生です。

そこでとうとう文科省も伝家の宝刀を抜いて、大学入試が変わります。「2020 の新テスト」がやってきます。みなさんの学校ではどういう対応をされていますでしょうか？

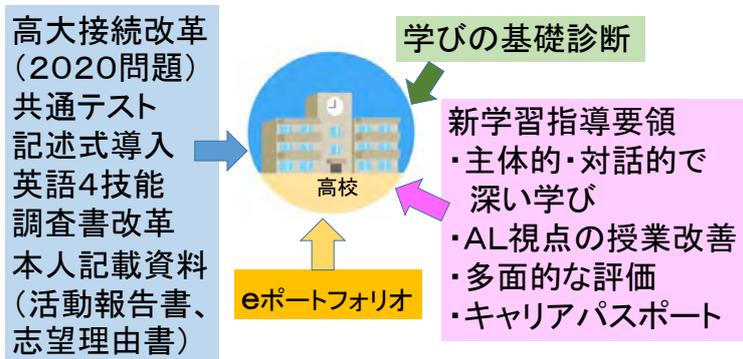
私はいまやっと教育改革の嵐が、海底までやってきたと思っています。一番すごいと思うのは、「高大接続改革」と「学習指導要領の改革」がセットで進行しているということです。

「高大接続改革」は「2020 問題」に代表されるし、「学習指導要領の改革」は「主体的・対話的で深い学び」に代表されると思っています。

一挙にいろんなことが押し寄せてきています。共通テストのプレテストがあり、6月18日でしたが、大学入試センターの方から来年の要綱が発表されましたよね。それから調査書の様式が変わります。私が一番恐ろしいと思っているのは、スライド 45 の左側ブロックの下から3行めの「本人記載資料」です。「活動報告書とか志望理由書を本人自身が書く」、そういう時代になってきていることです。

(スライド 45)

一挙に押し寄せています

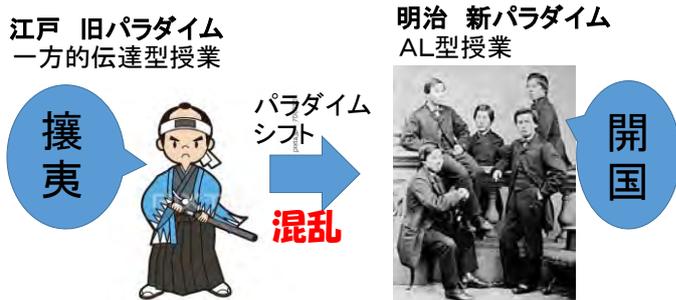


「高校を取り巻く激動の7年」。これは『リクルート キャリアガイダンス』の山下編集長がくださったプレゼントの1枚ですが、一番左が今年2018年ですね、そして2020年に大学共通テストがあり、2022年には新学習指導要領が全面実施、現小6の生徒たちが大学入試のときには、数学、国語などの分野だけでなく地歴公民や理科の分野にも記述式が入ると言われています。そういう時代の変わり目に私たちは教師として働いています。

ここから「あなたのパラダイムシフトが起きているか」という話をします (スライド 48)。ALが登場したときに「攘夷、攘夷！」だと隣で言っていた先生方がいらっしやいましたよね。職員研修会に行くと「オレはぜったいせんぞ！」そんな感じで後ろの方でとぐるを巻いていらっしやいました。この方はさすがに、あのプレテストを見たら、もうそんなことは言っていられない、という状況になっていると思うんですけれどね。やはり一番大事なのは「先生方の授業に対する考え方が変わる」ことだと思うんです。先生方ご自身は、いま頭の上にちょんまげが乗っていませんか、それとも右側の長州藩の方のように断髪されているのでしょうか。ちょっとお隣の方を覗いてください、どのぐらいいらっしやるのでしょうか。こういった価値観の転換って本当に難しいことだと思います。

(スライド 48)

あなたのパラダイムシフトはいつ起こる？

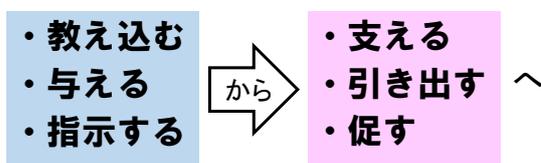


私は先ほど AL は「教えるから学ぶへ」変わるんだと言いましたが、これを九州工業大学安永卓生先生は、「教授する」から「生徒が学び取る」に変わるのだと表現されました。また福岡県教育長は今年（2018年）4月1日の訓示で県立高校の先生方に、「めざす生徒像と、学力観・指導観の転換の時期にあるんだ」、「〈教え込む、与える、指示する〉から〈支える、引き出す、促す〉へ変わるんだ」というような発破を私たちはかけられました。

（スライド 50）

福岡県教育長 4月1日の訓示

「めざす生徒像 と 学力観・指導観の転換」



ペアワーク

「なぜ授業を AL にしなければならないのか？」について自分なりの答えをつくる

では、「なぜ授業を AL にしなければならないのでしょうか？」です。

次の 2 枚の写真（スライド 51）は冒頭で見えていただいたものですが、左側は産業革命以後近代工業社会で右側は情報革命以後知識基盤社会です。この 2 枚を使って「なぜ授業を AL にしなければならないのか？」について自分なりの答えをつくってください。

ではまず 1 分間、自分で考えてみてください。みなさんのお手元の資料に書き込んでいただいても構いません。ではどうぞ考えてください。

（スライド 51）

図1 なぜ授業をALに？



産業革命以後近代工業社会



情報革命以後知識基盤社会

画像引用 http://blogs.yahoo.co.jp/r_in_cambridge/21967231.html

<http://jet-set.hatenablog.com/entry/2013/04/25/104735>

はい1分たちました。では自分の考えを隣の人とどうぞ話して一緒に答えをつくってください。

そろそろよろしいでしょうか？ それでは及川先生、またマイクを持って走ってください。正解を言うのではなく、「自分たちはこう思う」というのを言ってください、お願いします。どうぞ。

一会場「えーと、写真左のエイトは唯一前を向いている指示を出すコックスがいて、後ろを向いている全員が指示に従って合わせて漕がないと船が曲がっちゃう。だからみんなで合わせていく感じですが、写真右側は沢下りで、よくわからないけど、それぞれが座ったところで、誰かが指示してるというのではなくて、どうしたら船が岩にぶつからないかなどをそれぞれが考えていかないと船は進まない、そういう一人一人の主体性が重要でそれぞれの役割を果たしていかないと転覆する。と考えました。

で、「授業は何でALにしないといけないんでしょうか？」

一会場 これからの時代の生徒は、ただ指示通り動くのではこれからの世界ではもたない。それぞれが考えを持って、そして場合によっては協働で一つではない解を求めて、最適の解を求めて協働しながら、会社だったりあるいは自分の研究する分野だったり、それらについて成果を出していかなければならない。このような人材が求められる、ということだと思います。

はい、ありがとうございました。みなさん拍手をお願いします。

これを説明するときの、整理・説明のポイントですが、**スライド 52**にあるように、左側写真の海と右側写真の川の意味。それから人の向き、黄色い矢印などに意味があります。ちなみに「城南生はどっち？」の文字は、私が城南高校の職員研修会でも使ったからです。そして右側写真の下の文字ですが、「深い学び」は、比較、関連付け、転移ができるということです。

(スライド 52)

整理・説明のポイント



海、川の意味、人の向き、→の意味は？城南生はどっち？

画像引用 http://blogs.yahoo.co.jp/r_in_cambridge/21967231.html



深い学びは、比較、関連付け、転移

<http://jet-set.hatenablog.com/entry/2013/04/25/104735>

この写真2点（スライド52）を比較すると、高度経済成長で右肩上がりの時代は左側写真。左側の社会では左側の人材が求められていたと思うんです。でもこれからの予測困難な変化の激しい社会の中では、右側写真のようにラフティングボートに乗った人みんながもう必死で自分たちの全知全能を傾けて、その場その場で判断しながらチームでこの荒波を乗り切っていかなきゃいけない。そういう時代。

で、「みなさんの学校の教室はどっちの状態でしょうか？」と言うことなんですね。今日はこれを考えていただきましたかったわけです。

ここで誤解のないよう、お断りしておきます。

ボートの写真とラフティングの写真はあくまでイメージとしてつかいました。ボート、ラフティングの競技をされている方はよくご存知です。どちらの競技も全員が力をあわせて、協働しています。誰かの指示に黙々と従っている訳ではありません。

さて、私は最初に「何のために、主体的・対話的で深い学びをやるのか？」について、双葉や浪江や荒浜小学校を観た後に、自分なりの別解を考えたと言いました。

「世の中が、社会が、AIなどの登場で急激に変わっていくから、だから教室も変わっていかなくちゃいけないんだ」という論調で話は進んでいます。そして私自身もそう思っていました。

だけど昨日双葉や浪江や荒浜小学校にいて、昨晚から今朝にかけてずっと私の中でモヤモヤしていました。学習指導要領の答申の第2章の中に、「2030年の社会と子どもたちの未来」と言う章があって、「予測困難な時代に、一人一人が未来の創り手となる」という言葉がありました。以前からです。でも私にとって昨日、双葉や浪江や荒浜小を経験してこの表現の意味するものが以前とは違って見えてきたんです。答申の文字を読みます。

「直面するさまざまな変化」、

「どのような未来をつくっていくのか」、

「どのような社会や人生をよりよいものにしていくのか」、

「自分なりに試行錯誤したり、多様な他者と協働したりして、新たな価値を生み出していく」、

「子どもたち一人一人が、予測できない変化に受け身で対処するのではなく、主体的に向き合って関わり合い、その過程を通して、自らの可能性を発揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となっていけるようにする」

これを福岡にいる場合と、東北でいう場合は違う、と昨日感じました。

「一人ひとりが未来のつくり手」、これは、私は「生徒の一人ひとりが東北の未来のつくり手」じゃないかなと思ったんです。どのように、この問題を解決すべきなのか誰も答えはわからない。そのわからない答えをこれから私たちも含めて、みんなが考えていかなきゃいけない。そういう東北の未来のつくり手をつくるための、まあこれは東北だけではなくて自分の地元でたくさん問題が起きます、たくさん困難があります。その困難をどうやって解決していくのか。リーダーの言うことに従っていけば解決できるというものではない。なんとかみんなが知恵を合わせてこれを乗り越えていかなければならない。そのために自分を変えていかなければならないんじゃないかな。昨日からずっとそういうことを考えています。これをみなさんに絶対にお伝えしたいと思って昨日から今日にかけて、バタバタと左手で資料を作り変えました。

ということで、前半を終わらせていただいて、ここから及川先生による質問タイムに交代します。少し私の時間を超過してしまいました。では及川先生お願いします。

質問タイム 及川先生（コーディネータ）による進行

一及川 和田先生ありがとうございました。これから、和田先生の講演の感想等をお二人の先生に話してもらいながら、少し交流を深められればと思いますので、下町先生、春日川先生、登壇をお願いいたします。

では最初に岩手県花巻北高校の、今年3月まで校長をされていた下町先生に「和田先生の講義を聞いて」ということでいろいろとお伺いしたいと思います。よろしくお願いします。

一下町 下町です。アウトプット予告はあったんですが・・・(爆笑)。いろんな気づきがあって、何から言ったらいいんでしょう。一つは、先ほどのポートのスライドの右側にあるラフティングの写真ですが、これを見たとき生徒の主体性について考えていました。「マイケル・オズボーンやキャシー・デビッドソンやリンダグラットンがこう言った」とか、「世の中がドラスティックに変わっていく、だから君たちは主体的に生きなきゃならん」という文脈で「主体性」が語られることがあるわけですが、それってすごいパラドキシカルなことのような気がしませんか？「だから君たちは、主体的に生きる」って、パッシブ感ありありですよ。そうじゃなくて、やはり主体的に生きるってことは、未来がこうだからと計算して行動を決めていくのではなく、あのラフティング写真のように、子どもたちが、今自分が熱中できることにひたすら情熱を傾けていくことではないか。そのことによって未来が切り開かれると考えた方がいいと思うんです。そして、そのような場をつくるのが大人の役割のような気がするんです。

もうひとつ感じたのは、「教師が変わるべきだ」、「授業が変わるべきだ」と言ったときに、いまの自分のスタイルはそのまま温存しておいて、プラスアルファ部分でさらに何かを乗っけようとすることへの違和感です。本来はそうじゃなくて、私は引き算かもしれないという気がするんです。今の考え方を保持しておいて、そこにAL型のメソッドを取り入れる、グループワークを取り入れたり、ジクソーを取り入れたり、ということになっていっても、本質は変わっていないわけなので。むしろ、先生の「教え込み」という鎧を脱ぐことで、もともと持っている子どもたちの主体性が表出してくるのではないかという気がするんです。

それから、もう一つ、『東北はそれどころじゃないのではないか?』という話がありました。以前、熊本の前川さんが、熊本地震があったときに「ガラッと考え方が変化した」とおっしゃっていたんですが、実は私もそうなんです。例えばスマホが入ることで文化が変わるとかっていうのは、何月何日をもってパッと変わるということではないじゃないですか。知らないうちに気づいたら変わっていたという感じですよ。でも、3.11のときは、その日をもってガラリと変わったような気がするんです。このとき、例えば他国の人たちが自分たちの生活費を削って東北に寄付をしてくれたこととか、仙台で言うと、88歳のドナル・ドキーンさんが日本に帰化する決断をさ

れた、などといった心温まるエピソードがありました。でも、その一方、「怪しいお米セシウムさん」とか、大文字の送り火に岩手の木を送るなどか、そういうこともたくさんできてきた。そのとき私が思ったのは、教育屋としての復興ってなんだろうということでした。そして、私は、ALは「なぜ」やるのかを問うまでもなく、当然やるべきものだとこのころに立脚するべきと思ったんです。

東日本大震災という激しい衝撃によって、個々の人々の心の奥底に眠っている様々な価値観や見識が浮き彫りになった。良い悪いを含めて。ならば、私たち教師は、知識・技能だけを叩きこむことを生業にするのではなく、「幸福に生きること」「多様な価値を認めあうこと」などといった理念や理想を正面から語る存在でなければならないのではないか。そこに教育の価値があり、それが教育屋の使命ではないかということをつくづく思ったわけです。たぶんこれは和田先生がおっしゃることとも重なってくるんじゃないかと思います。

一和田 関連をちょっとだけ言いたいんですが、いいですか？ あの、先ほどの、これですね。

『東北の先生方、「それどころじゃない」のではないか？』

それ＝授業改革、主体的・対話的で深い学び、AL、授業改革

昨日の夜から私がずっとモヤモヤしていたのはこの問いだったんです。

だけど、「だからこそALなんだ」という風に思ったんです。今度の答申や学習指導要領って、実は私は東北のためにある、東北のために書かれたんじゃないかって。それは東北がものすごく象徴的なんですけども、社会変化が激しくて、いろんな問題が起こる。「そのときにそれを解決するのは誰か？」という、「誰でもない、自分自身なんだ」という、メッセージなんじゃないかなって。

だから訪れる前は、東北の先生方は「それどころじゃないんじゃないか」と思ったんだけど、昨日から今朝にかけて、「いや、『それどころじゃない』からこそ、だからやっぱり授業を黙って誰かの言うことを聞く授業じゃなく、自分からなんとか問題を解決しようとする、そういう授業に変わってほしいというメッセージ」なんじゃないかと思いました。

一及川 ありがとうございます。続きまして宮城県の白石工業高校の春日川先生、よろしくお願いたします。

一春日川 はい、白石工業高校で現在教頭を務めています春日川と申します。私はこの春まで、仙台市教育委員会学校教育部に在籍しておりました。実は去年4月に、産業能率大学の林部長さんから「仙台でフォーラムをぜひやりたい」という相談を受けまして、すぐにこの会場を紹介して、私はそのときにイメージとしては、この会場に観客の方400人がいらっしやることを実はものすごく期待して自分なりに声をかけたんですが、私の力不足だということを強く感じているところです。ぜひご出席のみなさん、職場に帰られたら、今日の雰囲気・内容を3人とか4人とかにお伝えいただけたら非常に助かります。よろしくお願いたします。

先ほど先生の資料の中に、「先生が教える」から「生徒が学ぶへ」(スライド23)というのがございました。ある大学の先生のお言葉なんですけれども、じゃ生徒がそういう状況ならやっぱり

先生方も「教えるから学ぶへ」にならないといけないのかな。そして、「学ぶ」で一番大事なのは、一から自分で学んだら大変なんで、例えば和田先生、下町先生、または今日いらっしゃる先生にも、ALをされている方はたくさんいらっしゃると思います。隣の及川先生も実践されている。「学ぶ」の語源は「真似る」なんですよ。自分がこれに合わせてやりたいなと思ったら、実はアクティブラーナーと呼ばれる方からたくさん資料をいただけるのではないかと、いっぱいくれます、多分。それを自分の学校用にアレンジしてもらいたいなということ、今日の和田先生のお話を聞きながら感じた次第です。

それから今日のパンフレットの一番下にある「チーム宮城」という項目があるんですね。私も及川先生も「チーム宮城」に所属していて、これはどういうものかと言うと、幕末にあった海援隊にならって、自分たちが志をもってチームをつくってお互いに学び合おうという集団です。そんなチームが山形にもできてきた。東北にも少しずつ広がりをみせている感じがしていて、もし興味があれば後でお声がけいただければと思います。

もう一点は、「教えるから学びへ」のところで、先生方の学びの部分で、昨年12月に私が教育委員会にいたときに、「一日授業力向上研修」というのを行いました。仙台の市立は中等教育学校合わせて5校なんですけど、先生方5、6人必ず出てください、としたらブーブー文句言われました。でも40人ほど集まっていたいて、本日ワークショップをやっていたいた小林昭文先生に丸一日、いろんな教科の先生方を対象に今日のような学びをしていただいたら、ものすごい反響だったんです。「こういう研修だったら教育委員会とか、なんでもっとこういうことをやってくれないのか、こんなに楽しい研修はなかった」と。やっぱり指導主事とか、そういう立場の方々、これから一方的に学びを押し付けるのではなく、「ああ、これは学校にもっと還元しよう」というものがないと、これからはダメなんじゃないかと感じました。

先ほど和田先生は「センター」とおっしゃっていましたが、じゃ、どんなセンターにされたのか、この辺に關してもぜひご意見いただければと思います。

一及川 和田先生、今の春日川先生の話を受けて何かございますか？

一和田 仙台市教委の研修で40人の先生たちが最初はブーブー言いながら集まってきたんだけど、でも小林昭文先生の講義を聞かれて変わっていかれた、と言われましたよね。その授業を観ておもしろかったんじゃないかなと思います。

先ほど下町先生が、「べき論で変わるんじゃない」ということを言われたんですが、「べき論」じゃなくて、授業が面白かったら、生徒は主体的に取り組むと思うんですよ。そういう仕掛けを私たち教師がつくらないといけないと思うんです。それってものすごく大変なことだと思うんですが、「今日の授業はおもしろかった〜！」というようなことを生徒が感想に持つような、そういう授業デザインを私たちがする。そうすると生徒はどんどん主体的に、それこそ仲間と協働して学んでいく。そういう仕掛けをつくることは、とても大事なんじゃないか。

だから、その先生方の研修会にしろ、生徒の授業にしろ、学ぶ楽しさとか充実感とか、それを味わうことが一番大事なことなんじゃないのかな。「学ぶことが楽しい」と思ったら、人は学び続けると思います。

一及川 はい、ありがとうございます。いまお二人の先生方からご感想をいただき、和田先生からコメントをいただきました。

先ほどフロアにいらっしゃる方々から質問を書きいただき回収いたしました。全部にお答えするのは難しいのでいくつか選ばせていただきました。いまからそれについてご意見等をいただきたいと思います。

質問① 「AL 型授業だと 10 教えたいことの内の 3 程度しか教えられない」と否定派の先生はよく口にします。そこに対する前向きな返答をどのように工夫すればいいでしょうか？

質問② AL 型授業は学校全体として取り組んでいくべきだと思いますが、さまざまな考え方を持っている先生方がいる中で、どうすれば学校全体がうまく AL 型に取り組めるようになりますか？

一和田 質問①の AL で 3 割しか教えられないということ、それから授業進度ということで、やはり質問を受けるんです。それで、実際に AL をやっている福岡県立福岡高校という学校があります。そこで実際にやっている先生に「進度はどう？」と聞いたら「進度早いですよ」と。「どうして？」と聞いたら、「第一、生徒の心構えが違います」と。生徒が与えられてやるんじゃなくて、自分でやるんだ、と生徒の意識が変わった。そうするとガンガンと進む。「そうすると進度は早いですよ」、「それからまた、受け止め方が深いですよ」と。生徒の授業理解が深いというアドバイスが返ってきました。

いわゆる「ふたごの過ち」という表現があります。先生が AL に関して二つの過ちをするということですが、ひとつは「網羅の過ち」といって、「先生は全部隅から隅まで教えないといけな」と思っている」ということ。もうひとつは「活動の過ち」といって、「活動させておけばいい」と思ってしまう過ちというものです。

先の「網羅の過ち」ですが、私は生徒の力を信じることだと思っています。先生が全部しゃべらないといけなのではなくて、先生は「ここと、こことここ」というポイントを絞る。そして「これについて、生徒自身に獲得させたい」というものと、「これは読んどきゃわかる」というものは読んで済ませるといふ、その緩急のつけ方だと思います。

だから隅から隅までベターっと教えなければいけないものではない。でも先生としては隅から隅まで教えて「おれは教えたもんね」というのはまるでアリバイで、「でもあとは生徒が受け止めたかどうか」ですね。先生が全部隅から隅まで教えるというものでもない、むしろ緩急をつける感どころを先生がデザインしなければならないんじゃないかな、と思っています。

私は共通一次試験の第一次世代です。当時は 1000 点満点で、日本史、世界史、化学、生物と社会と理科が 2 科目ずつある受験でしたが、学校の授業は、日本史は鎌倉時代、世界史はルネッサンス前で終わっていました。そこから先は自分でやれ、みたいなものです。だから私には先生が「全部教えなければいけないという考え方」とらわれているように思います。

質問②の「組織でやる」というものですが、私はやはりこれは管理職の問題だと思うんですよ。管理職の姿勢がとにもかくにも大事だと思うのですが、じゃあその管理職にどうやってその気になってもらうか。管理職がその気ならそれば一番簡単ですが、そうではない場合、一挙にい

きなり組織的にやろうとしても難しいと思うんですね。やはり学年の2、3人で始める、それがだんだん仲間を増やしていき、その動きを校長が見て「それはいいじゃないか」という風に、校長からみると先生方のそういう動きはとても頼もしく思うんですね。私は一挙には行かないと思うけど、少しずつやって仲間を巻き込んで広げていく、それは管理職も巻き込んでいく、ということが大事じゃないかなと思います。

一及川 管理職を経験された下町先生はどのようにお考えになりますか？

一下町 いま私は管理職を退職して、一職員として、数学ではなく情報の授業を担当していてディスカッションの授業をしています。これがとってもよくて、毎日が楽しいんです。

質問①の「10のうち3しかできない」というのは、これはたぶん教師が準備した内容に対して、自分の手のひらでコントロールした中で3つしか到達できません、という意味だと思うんです。確かに教師が予定したものを順次達成していく指導も時に必要だと思います。だけど教育のミッションには、知識を注入するだけではなくて、主体的な学びを創造するということもあるわけです。その「主体的な学び」っていうのは、教師が予定していた10以外の別のものを生み出すということが起こり得るということだと思います。だから、何て言うかな、教師の思っていたレベルを乗り越えていくような子どもたちをつくっていくことは、ものすごく大事なミッションだと思う。平均的な力をつけるけど、とんがったものはスポイルしてしまうということが、いまあたりするわけで。主体的学びは、もしかすると10のうち3しか達成しないかもしれない、でも、あなたが予定した10以外のすごいことをやってのける生徒も出てくるかもしれない。今私は、ディスカッションの授業の中で、鋭い洞察力を持つ生徒や、ユニークな発想をする生徒を発見する喜びを感じています。

次に、質問②の組織的な話で「人は変えられるか」という話をする、最近思うのは、人は変えられない、人を変えようとしてはいけない、ということです。自らがアクティブラーナーであるという意識の中におられる先生は、自分が正義であって、そこについていけない人が悪いんだ、だから彼らを変えねば、という思いを、内在的にうっすらと持っている可能性もあるように思います。そういうのはよくない気がします。

ドラマの『陸王』ってご存知ですか？『陸王』には企業再生に直面した新規事業作りに奮闘する老舗足袋屋の社長がいて、そして先代からの番頭さんみたいなきちっと社長に苦言を言えるような人もいます。最近私がマネジメントで考えているのは、そういう人たちを変えろっていうことではなくて、そういう人たちのパーソナリティをちゃんと受け入れた上で、彼らとどう関係性を築いていくかがより大切だと思うんです。だから陸王では、社長がこうやりたい、っていったときに他の人は「そうじゃない」とも言うけど、結局みんなは、会社の生き残りという思いは共有しているわけですから、そこを軸にしているんな人が対話し、人間関係をつくっていく中で、目標が達成されていくという流れになっていて、私はマネジメントってそういうものかな、という気がしています。

だから一概に「だからどの先生もアクティブに変われ」という風にもっていくのは、ちょっと違うかな、むしろ怖いような気もするんですよ。もっとそこはおおらかでもいいのかなという気がします。

一和田 携帯電話が出始めたときに、「絶対おれは携帯電話は反対だ、絶対に持たないぞ」と言っていた先生は周りにいませんか？ けどいまはその人たちも携帯をホイホイ使っていますよね。一挙には変わらない、けど10年とか20年とかのスパンの中でなら、気がついたら変わっていた。私は歴史ってそういうものじゃないかと思うんですよ。江戸時代から明治になるときに、明治維新でスパッと明治元年にみんなあらゆることが変わったわけではなくて、江戸時代に生まれて、明治維新を経験したという人の明治維新はいつやってきたのか。明治10年かも20年かも30年かもしれない。そうやって気がついたら、みたいなものなんじゃないかなと。だから周りに対して「変われ、変われ」という圧力はよくないというふうに私も思います。

一下町 冗談話ですが、「私、変われない」って言う人に、私は「大丈夫あなたは変われますよ、だって私たちは1日に5,000億個くらいの細胞が変わっていますから」っていうんです。細胞がターンオーバーしていくことが自分を維持することなんだって。なぜ明日も今日と同じ自分があるかという、実はものすごい変化を受け入れているからなんですよ、だから「大丈夫、あなたは変われます」と（笑）。

質問③ 自分の考えを伝えることが難しい子、コミュニケーション能力が高くない子がクラスにいます。「安心、安全の場」をつくっても自己表現のハードルが高いと感じている子にどのような手が考えられますか？

質問④ 「自分が発表しなければならない」、「あてられるかもしれない」、というのが生徒によっては強いプレッシャーになると思いますが、不登校につながることはありませんか？

一及川 では和田先生いかがでしょうか？

一和田 コミュニケーションや表現が苦手な子は必ずいます。例えばグループを編成するときに「一人グループもあり」という考え方が一つと、その子が社会に出ていくことを考えると、少しずつ少しずつ、例えば一学期に1回誰かと話せるようになる、とかのそんなスピードでいいと思うので少しずつでもコミュニケーションしていかないといけないかな、と思います。

それから、授業が全部バリバリのALになったことを想像すると「疲れるやろな」と思います。そしたら講義一辺倒の先生って人気になるんじゃないかと思えます。そこのメリハリ。ALの授業のポイントでもあるんですが、講義と活動を組み合わせることはとても大事だと思っています。で、授業の全部を活動ばかりとか講義ばかりじゃなくて、それぞれの良さを組み合わせることが大切だと思えます。

質問④の自分があてられることにドキドキするという生徒ですが、あてられて一人で答えるというのは大変ですよ。そこで「隣の人と話をし、一緒に答えをつくってください」というような方法。隣近所に助けてくれる仲間がいるということや、助けを求めることはとても大事なことだと思うんです。私も冒頭で、「みなさんペアになってください」と言ったのは、助け合う仲間をつくってくださいというメッセージでもありました。助け合う仲間をつくるか、人に相談して一緒にやっていくこと、とかを少しずつ含んでいく。それが協働性じゃないかと思えます。

一及川 では同じ質問で、春日川先生はいかがでしょう？

一春日川 和田先生がおっしゃったように質問③については、一人グループ、もしくは先生が「ちょっと今日はどうか？」とひと声かけるだけでも違うかなと私は思います。一人ALになっても、それでもいいんだよと「安心、安全の場」をつくるのが大事だと思います。

私は工業の専門なので、どうしても一人で作業をやらなきゃいけない場面が実際にあるんです。それが逆に安心な子もいれば、グループでやる方が安心だという子もいて、いろんな場面があります。ただ絶対にケガをさせてはいけないと思うし、社会に出るときのことを常に頭の中に入れて気を使っているようなこともあるんですけども、一人になってもしょうがないなと思って聞いていました。

質問④は、学校やクラスの状態でも違うだろうけど、クラスの特徴を押さえておく、クラスを観察しておくことで、もうちょっと言うと担任の先生と情報を共有しながら、特徴をつかむことが大事だと思います。

一及川 これについて私もひとつだけいいのでしょうか。かつて授業評価アンケートを取ったときに、オール最低ランク評価をつけてきた子がいました。理由の欄に「前の授業の方がよかった。チョーク&トークを50分やってくれ」と。中学時代に不登校を経験している子で、こういう授業は嫌だということでした。正直私は悩んでALを止めようかと思ったんですが、その後、和田先生含め、いろんな先生方と意見交換をする場がありまして、なんとか持ち直してもう一度やってみようとなったことを経験しております。

やはり、これは難しい問題だと思いますので、ぜひ今日ここで出会った先生方とネットワークを広げていただいて独りで悩まずに、相談先は学校の中、他の学校でも構わないと思います。先ほど紹介にもありましたように勉強会をやっていますが、そこに参加される先生方にも毎回聞かれます。やはりこれは根っこが深い問題だと思います。独りで悩むと先生方が不登校になられるかもしれませんので、ぜひ相談をしてください。余計なことかもしれませんがそのように思いましたので、ひとこと言わせていただきました。

では、最後の質問になります。これは和田先生あてに質問がきています。

質問⑤ そもそも和田先生が最初にALに取り組もうと思ったのはなぜですか？ ALという言葉すらなかったと思いますが。

一和田 ある生徒から古文の「なむ」の識別について質問されました。古文の中では定番の質問です。この識別を説明しようとして、「私はこれを何回説明したんだろうか」と、私自身が説明に飽き飽きしていました。それから、私がここで説明してもこの生徒はふむふむとわかった振りをするだろうと思い、「この子に説明させたらどうだろうか、その方がこの子はわかるんじゃないか？」と思った瞬間があって、それで「生徒に説明をさせる」という風に切り変えたんです。

それとか、一斉講義形式でやっていた若い頃も「隣の人と話してみて」と。指名してもシーンとして行き詰ってしまうときは、すぐに「はい、隣近所と話して答えをつくってみて」とやってみました。ある瞬間に「私から説明するよりも生徒自身の口から出させないかん」と思ったことがきっかけです。

一及川 同じ質問を下町先生、お願いしてもいいのでしょうか？

一下町 かつて、生徒が授業にぜんぜん乗ってこないとか、負の要素がたくさんありました。それで「なんとかせにゃ」と思って、「明日の授業を何とかしのぐためのノウハウ」みたいなものを模索するんですが、なかなかうまくいかない。それで「明日の授業」ではなく「明後日の授業」を考えると、ビジョンを持つことが必要だと思いました。その中で、生徒主体の学習や、教師自身が生徒と一緒に楽しむような授業を組んでいく中で、いろんなものが見えてきました。

さっきの話にちょっと触れますが、「コミュニケーション力がない生徒」というのがありました。これってわれわれに帰ってくる言葉かな、とも思うんです。その子自体の問題かもしれないけど、ぼくらが、その生徒を諭すような発問とか、「安心、安全の場」を与えていなかったということかもしれないし、あるいはヒエラルキーを生むようなグループワークを行っていたり。そういうことが綿々と続いてきたことによって「心のハードル」ができてしまったのかもしれない。そういう反省をぼくらは背負って授業を見直すことが必要じゃないかなと思います。

一及川 ありがとうございます。もっと質問を聞きたい、あるいはもっと掘り下げた意見を聞きたいと思っている方がいらっしやると思いますが、最後に和田先生から一言いただいてこのセッションを終わりにしたいと思います。

一和田 今投影している「ALは50代がうまい！」は、別名「50代の逆襲」です（スライド29、31、34）。スライドは数枚あります。

「若い先生はALに取り込むけど、お歳を召した先生はダメやもんね」みたいな雰囲気が学校の中にないですか？ 私はベテラン先生と若い先生のどちらがALがうまいかという、取り組み始めるのは若い先生ですが、ALの中身としては絶対にベテランの方がうまいと思います。それはどうしてかと言うと、「問いの立て方」、ここを押さえないといかんというツボをベテランの先生はよくわかっていらっしやるからです。それから「活動のさせ方」、生徒の動かし方ですね。それから「介入の仕方」、生徒のあしらい方。そして「応答の幅」、引き出しが多い。そして「見守り方」、懐が深い。ここら辺の深さはベテランにはかないませんよね。もう私みたいな歳になると、「はい、どっからでもかかってきなさい」、「どんな仕込みでもいいよ」、「なんでもどうぞ」みたいな感じになります、これってやっぱりベテランだから。やっぱりいっぱい場数を踏んで失敗をたくさんしているからだと思うんです。

最初から「ベテラン先生はダメだ、ALに取り組まない」と言われると、最初から「お前らダメだ」って決めつけられている生徒が伸びないことと同じことだと思うんですよね。やっぱりベテランの先生方を、ベテランだからこそALがうまいというところをしっかりおさえておくことが大事なんじゃないかと思います。その意味では、若手の先生はそういう点をたくさんベテラン先生に教えてもらうことも一つの手だと思います。

それからベテランの方が「どうせおれはもうじき引退じゃけん、もうすぐやめるけん」と、だから授業はこのままいきたいとおっしゃる先生もいらっしやるんですが、そういう先生に限って再雇用希望なんですよ（笑）。55歳でそういうことを言われると、再雇用10年間なので、65歳まであと10年間あるんですよ、あと10年ですよ。そしたらうちの若い先生が「『55歳であと5年の研修会』ってのをしたらどうですかね」と言いました。それいいなと思ったんです。「自分はもうじき引退だから、定年だから、自分の授業はもう見直さない」とおっしゃる先生に対して、

私は面と向かってハッキリとは言えないんですが、それって生徒にもものすごく失礼なことじゃないかと私は思うんですね。

ベテランの先生は絶対に「ALはベテランの方が上手」というのを心にとめてほしい。そして、「生徒にベストなものを与える」というのは、教師の良心じゃないかと私はそう思います。

みなさん本当にいろいろ悩まれている真ただ中だと思いますが、どうぞ自分の周りの人、学校の人と試行錯誤して、がんばっていただきたいなと思います。今日は本当にありがとうございました。

スライド 29

ALは50代がうまい！
別名 50代の逆襲

スライド 31

幕末 戊辰戦争で例えるなら

旧勢力	新勢力
▶ 佐幕派	▶ 討幕派
▶ 幕府の武士、会津藩、新選組	▶ 薩長の兵隊、維新の志士
▶ 旧式の「刀」	▶ 新式の「ミニエー銃」
▶ 一方的知識伝達型	▶ AL型

スライド 34

ベテランのうまい点

- ▶ 問いの立て方(ツボをわかっている)
- ▶ 活動のさせ方(生徒の動かし方)
- ▶ 介入の仕方(生徒のあしらい)
- ▶ 応答の幅(引き出しが多い)
- ▶ 見守り方(懐が深い)

一及川 12年前に和田先生の「職員室は海の底」の話を聞いて、「じゃあ、その教員を海面に引っ張り上げるにはどうしたらいいですか？」という質問を投げかけましたら、アドバイスをいただきました。私自身の答えはまだ出ておりませんが、東北のために、今日和田先生に来ていただ

いたのは本当に感謝しております。ありがとうございました。そして急遽登壇していただくことになった下町先生、春日川先生、ありがとうございました。どうぞ大きな拍手をお願いします。以上を持ちましてわれわれは任務終了となります。どうもありがとうございました。

和田先生からの追記

この講演ではラフティングとボートの画像を例として出しましたが、何人かの方から次のような指摘がありました。

ラフティングでは実際には漕ぎ手は自分で判断しているのではなく、一番後ろにいるプロのガイドの方の指示に100%従って漕いでいるということ。

競技のボートでは一番後ろのコックスという役割の方はタイミングを合わせる掛け声をだしているだけで、むしろ漕ぎ手が自分たちの判断で協働してまっすぐに前進させていること。

イメージ画像としても適切ではなかったかもしれませんが、ALを説明する意図はご理解いただけるものと思い、そのまま残しました。

「始業式、語る」

この平成 30 年 4 月、福岡県立城南高等学校第 24 代校長として着任いたしました和田美千代です。昭和 61 年 4 月から平成 15 年 3 月まで教諭として、平成 20、21 年度は教頭として、計 20 年間本校に勤務しましたので、今年度は城南高校 21 年目となります。城南高校は教師としての私を育ててくれた学校です。全力で恩返しをしたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

校長としての初仕事である平成 30 年度始業式式辞を紹介させていただき、着任の挨拶といたします。

【 始業式式辞「先駆ける城南」 】

今年も城南挨拶通りの桜が美しく咲き、新年度がはじまりました。2、3年生の皆さん、まずはこうして城南高校の体育館に元気に集える幸せに感謝したいと思います。

新学期にひとつ上の学年になり、新しい先生方やクラスの友達と出会う、当たり前のことのようですが、すでにそのこと自体が奇跡とも言うべきものです。

人は出会うべき時に、出会うべき人と出会う、一瞬遅すぎもせず、早すぎもせず。森信三先生の言葉です。新年度の出会いを大切にしてほしいと思います。

さて、ここからは少し英語でスピーチします。私は教科は国語です。58歳です。海外生活の経験も全くありません。でも、教師として、グローバル社会の中で、多様な人々と協働するというを生徒に言うからには、まず私自身がチャレンジします。これを、漢文では「隗より始めよ」といいます。

ブローケン・ジャパニーズ・イングリッシュで話すのは恥ずかしい。我ながらどうしてこんな自分で自分の首をしめるようなことを考えついたのだろうと思いますが、正確な発音よりも伝えたいメッセージの方がはるかに大事。そのメッセージをしっかり受け止めてください。

その受け止め方ですが、私の英語スピーチの要約を、この後どなたか日本語で言ってもらいます。

先に言っておきますが、正解である必要はありません。自分で考えて判断し表現することに意味があります。誰にお願いするかわかりませんが、今日が6日だからといって出席番号の6番が当たるわけではありません。一回しか言いません。皆さん、全身で聞いてください。

I had a dream. That dream was to become the principal of Jonan High School.

I am now the twenty fourth principal of Jonan High School. Therefore, one of my dreams has come true. Why did I want to become the principal of Jonan, when there are so many other high schools? I believe that Jonan High School's motto 進取 , 明朗 , 端正 - are the best in the world.

まずは、前半ここまで。では、私が言ったことの要約を、前後左右の人と相談して、確認してください。前後左右に誰とも話していない人がいたら声をかけてください。1分間です。どうぞざわついてください。

はい、1分経ちました。では、どなたにお願いしましょうか？

前に座っているのは3年生ですよ？ 3年1組1番の方、お願いします。言ってみてください。

(ここで、3年1組1番浅尾君のすばらしい発表)

ありがとうございました。皆さん、浅尾君の勇気に拍手をお願いします。

今、彼が言ってくれた通り、城南高校の校長になるというのは私の夢のひとつでした。その点ではマイドリームズ カム トゥルーです。私になぜ、城南の校長になりたかったのかといえば、それは城南高校の掲げる育の理想、「進取、明朗、端正」が、世界一すばらしい、人生を生きていくうえでの指針であると思うからです。

では、続けます。後半です、よく聞いてください。また、指名します。

Time will always pass. The world changes every moment. As long as we live, we have to change day by day. We are always changing.

Our school ideal of 進取, means that we should always read ahead and run ahead.

In the beginning of this year, I have a message to send to everyone.

Always look forward , Always look forward--- 先駆ける城南.

後半は、以上です。はい、では周囲の人と要約を確認をしてください。1分間です。1分経ちました。では、3年10組1番の方、お願いします。

(ここで、3年10組1番江崎君のすばらしい発表)

ありがとうございました。皆さん、拍手をお願いします。

今、江崎君が言ってくれた通り、常に時は過ぎ去り、一瞬も留まることがありません。日本の古典でいう「無常」です。私たちは常に変化の中にあり、明日の自分がどうあるべきか、どう変わっていくべきかを考え、明日の自分を創り出すのは、ほかならぬ自分自身です。

進取とは明日の自分を創り出すために「常に先を読み、先を走れ」ということだと思います。そして、先を読むためには、周囲の全てのことから学ばなければなりません。学ぶことによって新しい世界が拓けます。

学ぶことは楽しいものです。城南高校では、学ぶ楽しさを全身で感じてほしいと願っています。

always look forward 「先駆ける城南」

これを今年度の行動目標にしたいと思います。皆さんが授業、学校行事、部活動、あらゆる場面で先駆けて行動することを期待します。

さて、ここからはまた別の視点からの話です。今日のやり方がいかがでしたか？

皆さん一生懸命聞いていましたね。自分が当たるかもしれない、発表しなければならないかもしれない、という状況になる。つまりアウトプットの立場に立たされたとき、人間は脳が一気に開き、情報を含めて真剣に取り込もうとします。そして自分が表現するために、人が話した内容を自分の脳というフィルターを通し自分の言葉で再構成します。このとき初めて、人の話した内容は知識として自分の中に定着し

ます。

これがいわゆる「主体的・対話的で深い学び」というものです。もし、今日私が一方的に話すだけだけだったら、私の言葉はツルツルと表面を滑って流れていくだけで、実は誰も聞いていないということにもなりかねません。言い換えれば、人に説明できて初めて、学びは自分のものになる、ということです。

この「主体的・対話的で深い学び」が皆さんの学びの質を向上させます。

「先駆ける城南生」としては、受け身で学ぶのではなく、自分から能動的に学び、あらゆる場面でアウトプットする、アクティブラーナーであることを、教室でアクティブラーニングが展開されることを期待しています。

以上が、始業式式辞です。

始業式の式辞を、いわゆる「アクティブラーニングで、英語のスピーチを交えてする」というのは私にとってこの上なくチャレンジなことでしたが、壇上から見ていると、体育館が生徒 800 人が入っている教室のようでした。発表はさすが城南生！ 見事に期待にこたえてくれました。こんな城南生と過ごす時間を与えていただいたことに、心から感謝しています。

法政大学 教授

児美川 孝一郎 先生

これからのキャリア教育のかたち

—キャリア教育とアクティブラーニング、探究をつなぐ—

本日の話の流れ

全体のポイント

- 1 キャリア教育 beta—進路指導改革
 - ①キャリア教育の源流、1990年代における進路指導改革
 - ②改革の背景
 - 2 キャリア教育 1.0 ——若年雇用問題
 - ①キャリア教育の登場
 - ②キャリア教育 1.0の問題性
 - 3 キャリア教育 2.0 ——教育への回帰
 - ①キャリア教育 1.0の不幸
 - ②そもそも、キャリア教育とは？
 - 4 これまでの実践の落とし穴
 - 5 キャリア教育 3.0 ——新学習指導要領
 - 6 これからの「キャリア教育」のかたち
- 質問タイム

これからのキャリア教育のかたち

—キャリア教育とアクティブラーニング、探究をつなぐ—

法政大学 教授

児美川 孝一郎

本日の話の流れ

みなさんこんにちは。ご紹介いただきました法政大学の児美川です。午後の最初に山内さんの話を聞いてしまったので非常にやりにくいです（笑）。山内さんは本当に芸人の域に達している感じでしたし、そもそもぼくが所属しているのは東京にあるいわゆる大規模私大の文系ですし（爆笑）、しかもただの文系じゃなくて片仮名 8 文字の学部なので、「お前のところは本当に学生に力をつけているのか？」とずっと言われているような感じがして先ほどは居心地が悪かったです。ただ、ワークショップの時間をはさんで、それぞれみなさん、日常に戻ったはずなので（笑）、もう少し地べたに近いところから話をしたいと思います。

50分でこちらからの一方的な話は止めますので、その後は各グループで質問をまとめていただいて、ご意見も大歓迎ですが、それらを出していただき、それについて可能な限り答えて、やり取りの中で深めたいと思います。

ここで話をしようと思うのは、キャリア教育についてです。ただし、その「キャリア教育」と、「アクティブラーニング（以下 AL）」や「探究」がどうつながっているのか、ということです。

私はずっとキャリア教育の研究をしてきましたので、「そもそも出発点からキャリア教育はどんなふうに変化してきていて」、「現在はどこにあるのか」、ということを確認める中で、「どこでこの3つが出合うんでしょうね」という話をしたいと思います。

学習指導要領の話が最後に出ますが、「理想だけ言っている」と山内さんは言っていましたが、確かにそうなんですけども、われわれとしてはそこに準拠するところからしか学校の日常は始まっていかないので、「じゃあ最大限われわれが活用できるとしたらどういうことなんだろうか」という発想で触れたいと思います。

基本的にはキャリア教育の歴史を振り返ろうということで、「キャリア教育という名前が無かった beta 版」の頃から、「キャリア教育（バージョン）1.0 という時期」があって、その後ちょっと進化し始めて、その進化し始めたところから十数年たったところです。そこにはだいぶ落とし穴があったはずなので、そんなことも確認しながら「キャリア教育 2.0」の時期があり、そして今、新指導要領でこれを上手に使っていけばある種の「キャリア教育 3.0」にまたバージョンアップができそうというそんな感じがしてきています。

そして「AL や探究と、キャリア教育がまさに出合うのがこのキャリア教育 3.0」みたいな感じなので、そんな話もしたいと思います。

(スライド2)

本日の話

1. キャリア教育 beta ー進路指導改革
2. キャリア教育 1.0 ー若年雇用問題
3. キャリア教育 2.0 ー教育への回帰
4. これまでの実践の落とし穴
5. キャリア教育 3.0 ー新学習指導要領
6. これからの「キャリア教育」のかたち

つまり、「キャリア教育」にしても「AL」にしても「探究」にしてもこれらはキーワードなので切り口としては別々であってもいいと思いますが、「本体としてはもうすでに一緒だろう」と思えます。ひとつの実践的な教育の取り組みの中に、ある角度から見ればそれはキャリア教育としての役割を果たしていたり、効果を持っているけれど、形を見ていたらそれはまさに AL で、生徒自身が探究活動をやっているというように別々にあるわけではなく、一体のものとしてありうるということを、どう捉えられるかが、我々にかかっているんだなど、感じています。

全体のポイント

全体の説明だけでもし時間切れになると困るので、ここで結論だけを先に言っておきます。

スライド3のように「キャリア教育」が一方の側にあって、「ALと探究」がもう一方の側にあるとします。キャリア教育の側からすると、キャリア教育というのは学校の日常の生徒たちの学びの中にあって、そこと切り離されて将来のことを考えるとか、社会に出る準備をするというものではないはずです。本来は学校での学びの中で、学びそのものが生徒自身のキャリア形成と関わっていく、ということだと思えます。

(スライド3)



そうなるためには、キャリア教育を講義として受けるとか、社会人であろうとどんな方であろうと、ひたすら話を聞くだけでそうなるはずがない。当然、生徒自身が自分からそのことをアクティブに学んでいって、そして探究もする中で自分の将来が出てきたりする、ということになるんだろうと思うんです。

他方で、AL や探究は、それ自体はある種の入れ物みたいなものだから、「何をアクティブに学ぶのか」、「何を探究するのか」、あるいは「何のためにアクティブに学び」、「何のために探究するのか」ってことは入っていないわけです。そこを埋めるのはもちろんキャリア教育だけじゃなくて、違う社会課題を解決したいとか、いろんなことがあっていいわけですが、広い意味でのキャリア教育は、「何のためにアクティブに学んで」、「どうして探究していくのか」という「問い」に答えるような要素をもっている。だから両者は必然的に結びつくんだと思います。

これまで違う切り口で語られてきましたが、ただその所は「実はひとつの事柄なのだ」と言いたいわけです。

ただし、そういうふうにキャリア教育が理解されるようになるまでには、やはりずいぶんと時間がかかってきたし、当初はいろんな意味で誤解があったと思うんです。人間ってやっぱり素直なのでそういう誤解のもとで実践をしてきたし、それが上手くいったところも、もちろんあるでしょうし、上手くいかなかったということもあったかもしれません。

1 キャリア教育 beta ——進路指導改革

①キャリア教育の源流、1990年代における進路指導改革

考えてみると「キャリア教育」という言葉が無いときから、日本の学校の中ではその後のキャリア教育につながるような動きがなかったわけではない。そこでその時を「キャリア教育以前」として考えてみます。

それは何を指しているかというところ、「1990年代の進路指導改革」(スライド5) だと思います。

(スライド5)

「キャリア教育」の失われた源流 —1990年代における進路指導改革



- 「業者テスト・偏差値」排除から「生き方の進路指導」へ
- 文部省作成の指導資料（1995）における基本方針
 - ①学校選択の指導から、生き方の指導へ
 - ②「進学可能な」学校選択の指導から、「進学したい」学校選択の指導へ
 - ③100%の合格可能性に基づく指導から、生徒の意欲や努力を重視する指導へ
 - ④教師の選択決定から、生徒の選択決定へ



これは中学校を軸にして、その後高校まで飛び火して行ったかと言うところは怪しいんですが、少なくとも中学校現場では 1993 年に埼玉県の教育長の方が問題提起をしました。学校の授業時間中に授業を潰して業者さんがつくったテストを受けさせて、先生が試験監督をして、そこではじき出される偏差値で進路指導をする、ということが平然と公教育の場で行われているけれど、「それはさずがにおかしいでしょ？」と。それって出口指導とも言われますが、「中学卒業時点でこの高校にいけそうか？」ということと一緒に考えて指導することが進路指導だったわけです。この問題提起を受けて、「それは止めよう」という話になりました。

そして当時の文部省の言い方によれば「生き方の進路指導」という言葉が出て、[スライド 5](#)にあるような 4 つの方針で「進路指導を立て直していきましょう」となりました。

従来が出口指導でしたので、中学であればほぼ学校選択の指導でした。「この学校は大丈夫そうです」、「ここはちょっとムリだから 1 ランク落とそうか」みたいなことをやっていたわけですが、そうじゃなくて、やっぱり選択する主体は生徒でしょうみたいなことがかなり議論になりました。それが中学校現場で定着して、少なくとも業者のテストを学校の授業時間を使ってやるなんてことはなくなった。もちろん業者テストそのものが無くなったわけではなく、会場が学校内から学校外へ移っただけというところはありませんでしたが、ただどいったんこういう動きが出てきたわけです。

②改革の背景

進路指導改革が出てきた背景は、実は 1990 年代にも相当意識をされていたいました。それは出口指導なんかで済ませるようなやり方は相当行き詰まりを迎えていたということです ([スライド 6](#))。

(スライド 6)

改革の背景

- 長年の受験競争システムの中で定着した「出口指導」の行き詰まり
- 「いい学校→いい大学→いい就職→幸せな人生」図式の崩れ
- 過熱すぎた「一元的競争」を、「多元的競争」へ
- 1990年代以降の労働市場の流動化、労働力のフレキシビリティ化を見ずして



※ 「出口指導」からの脱却はいいとして、問題は、それに代わるものがあつたのか？



そして、この当時までみんなが思っていた「いい学校に行つて、いい高校に行つて、いい大学

に行ったら、いい就職ができて、それって幸せな人生だよ」 という図式がある意味、すでに時代とずれていた。学力基準の一元的競争が加熱しすぎて決して好ましい状況ではなかったのもうちょっといろんな多元的な尺度で切磋琢磨しようということでもあった。その背景を探れば労働市場です。1990年以降の労働市場は、徐々に流動化と、フレキシビリティ化というか、いろんなことを上手にできる人を育てていくことを見据えていたんです。おそらく「出口指導からの脱却」という理念自体はよかったと思います。だけど「じゃ出口のときの指導じゃなくてそれに代わるものは何だったの？」というものが、しっかりしていたのかというと今から考えると、あまりそうではなかった。

「生き方の進路指導」と文部省が言いましたけど、「生き方と言われてもそれはちょっと漠然としすぎ」という問題がありました。キャリア教育が開始されてからは「職場体験を日本中の学校がやりなさい」と言われるようになりますが、実はこの当時から、自ら改革して職場体験に取り組む学校も現れてきました。そういうところは見るべき成果としてあるわけですが、全体としては問題提起は一気に来たけど、それに代わるべき方向はどうしたらいいのか、というところは残っていたし、もっと言えば高校についてはこういう動きが出なかったのも、下手をすれば高校は相変わらずの出口指導で、就職なら学校に来ている求人からなんとかかしましょねと、あるいは大学も就職指導一本槍というのが続くという課題を残したわけです。そしてその後、キャリア教育が始まるんです。

2 キャリア教育 1.0 ——若年雇用問題

だからキャリア教育の始まりは、1999年の中教審答申や、2003年「若者自立・挑戦プラン」以降であるとされますが、現場レベルで見ると、まず1990年代の改革があって、それがあつたからこそ、実際に始まった時に「じゃあ、どうしようか」と少なくとも中高についてはある種のイメージがあって実際の流れが出てきたんです。

ただし、「キャリア教育 1.0」と名付けた、最初に生まれときのキャリア教育は、進路指導改革として1990年代に現場が動いた延長上にさらに発展したと考えられるかということ、残念ながらそうではないところがあります。

1999年の中教審答申は「接続答申」と呼ばれていますが、これは「接続」ですから、初等、中等教育、つまり高校までの教育と、大学とをどうつなぐかという答申でした。「AO入試」とか「高大連携」という言葉が山のように書いてある答申です。

時代状況が1999年なので、「そんな学校制度内の接続だけを意識していてもダメだよ」、「学校を出た後に、子どもたちがどういうふうに職業世界と接続できているのか」というところを問わなきゃ」というふうに、急遽「学校と職業生活の接続」という話が入ってきて、キャリア教育が登場したわけです。

だから二重の位置にある答申だったわけです(スライド8)。つまり1990年代からの「beta版」のときは「キャリア教育」という言葉はなかったけれど、その進路指導改革の延長上であるという部分と、それ以前には発想がなかった「若い人たちの雇用問題」が相当深刻になってきたので、

「教育としても何もしないわけにはいかないでしょ」ということから、雇用問題のほうが入ってくる、こういう時期だからこそその二重の位置にあったと言えると思います。

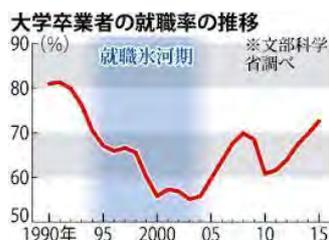
(スライド8)

転轍—進路指導から若年雇用問題へ



- 中央教育審議会答申（1999）
「今後の初等中等教育と高等教育との接続の改善について」

- 二重の位置
「接続」の改善として、進路指導改革の延長上？ 若年雇用問題の深刻化への対応？



その証拠物件がこのスライド9です。1999年の中教審答申ではさっき話しましたが、5章までは学校制度内の接続に関する話が延々と続きます。6章で「学校教育と職業生活との接続」をもってきて、この第1節の冒頭部分にキャリア教育（望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識や技能を身に付けさせるとともに、自己の個性を理解し、主体的に進路や選択する能力・態度を育てる教育）という言葉が出てきているという仕組みです。なぜこれが必要なのかは、6章全体のリード文章を見ていただくとわかるように、「新規学卒者のフリーター志向」だったり「早期離職」だったり「非正規」だったり、という問題です。そうはっきり書いています。そういうことがあるから、学校段階としても「学校と職業との円滑な接続のためにキャリア教育をやりましょう」となってきた。

(スライド9)

中教審答申（1999）



第6章 学校教育と職業生活との接続

新規学卒者のフリーター志向が広がり、高等学校卒業者では、進学も就職もしていないことが明らかな者の占める割合が約9%に達し、また、新規学卒者の就職後3年以内の離職も、労働省の調査によれば、新規高卒者で約47%、新規大卒者で約32%に達している。こうした現象は、経済的な状況や労働市場の変化なども深く関係するため、どう評価するかは難しい問題であるが、学校教育と職業生活との接続に課題があることも確かである。

第1節 学校教育と職業生活の接続の改善のための具体的方策

学校と社会及び学校間の円滑な接続を図るためのキャリア教育（望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識や技能を身に付けさせるとともに、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を育てる教育）を小学校段階から発達段階に応じて実施する必要がある。



ですから、純粹に進路指導、教育制度間の接続をより円滑にとか、より生徒主体にという方向で始まったというよりは、「かなり外的な状況の変化の圧力が大きくて始まったのが、キャリア教育 1.0 でしょ」、という話なんです。

①キャリア教育の登場

実際に 1999 年はとりあえず答申が出ただけで、その後の文科省は何をしたかという、ひとつは国立教育政策研究所の中に研究チームをつくって、その後、「4 領域 8 能力」と言われることになる「育てたい能力」を提示する答申をつくらせたのと、もう一方で調査研究協力者会議を走らせて 2004 年に報告書が出ますけど、というそういう準備はしていたんです。だけど準備はさせていましたが、キャリアという明確な枠がでてくるきっかけをつくったのは 2003 年「若者自立・挑戦プラン」でした。省庁横断的な当時のフリーター対策です。「それぞれの省で何ができますか？」ということになって、文科省としては小・中・高を通じたキャリア教育をやるという形で、この問題に参画します（スライド 10）。

「若者自立・挑戦プラン」は閣議決定されましたので、当然権威付けは充分だから、翌年（2004 年）から予算がつくわけです。で、翌年（2004 年）から「新キャリア教育プラン」が始まって、これが「キャリア教育 1.0」ということになるわけですね。

（スライド 10）

キャリア教育の登場



- 「若者自立・挑戦プラン」(2003)
フリーター対策をメインとした省庁横断的な若者政策(内閣府, 経産省, 厚労省, 文部科学省)
- その一環として文科省によるキャリア教育政策(小中高を通じたキャリア教育の推進)
- 「新キャリア教育プラン」(2004)



いちいち読み上げませんが、2003年の「若者・自立挑戦プラン」の中にはいろんな省庁による施策が入っています。(スライド11、12)、

(スライド11)

若者自立・挑戦プラン (2003)



①小学校段階からのキャリア教育の推進
②「日本版デュアルシステム(実務・教育連結型人材育成システム)」の試行
③若者のキャリア高度化への取り組み(専門職大学院, 21世紀COEプログラム等)
④「若者自立塾」の開設(ニート支援)
⑤相談活動等を通じた若者の就労支援(ジョブサポーターの活用等)
⑥「ジョブカフェ(若年者のためのワンストップサービスセンター)」の設置
⑦若者に対する能力評価を明確化するためのシステムづくり(YESプログラム等)
⑧創業・起業支援による若者の就業機会の創出
⑨起業家教育の推進
⑩「若年者トライアル雇用」の実施



(スライド12)

1999.12	中央教育審議会	「初等中等教育と高等教育との接続の改善について」
2002.11	国立教育政策研究所生徒指導研究センター	「児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について」
2003.6	若者自立・挑戦戦略会議	「若者自立・挑戦プラン」
2004.1	キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議	「児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てるために」
2005 年度	文部科学省	中学校における「キャリア・スタート・ウィーク」「キャリア教育実施プロジェクト」実施
2005 年度	経済産業省	「地域自律・民間活用型キャリア教育プロジェクト」実施
2006.11	文部科学省	「小学校・中学校・高等学校 キャリア教育推進の手引」
2006.11	高等学校におけるキャリア教育の推進に関する調査研究協力者会議	「普通科におけるキャリア教育の推進」
2006.12		教育基本法改正
2008.3	文部科学省	「小学校学習指導要領」「中学校学習指導要領」告示
2008.7		教育振興基本計画
2009.3	文部科学省	「高等学校学習指導要領」告示
2011.1	中央教育審議会	「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」(答申)
2013.6		第二期教育振興基本計画

1999 年はキャリア教育の一応出の発年ですが、しばらくの間は準備期間で、「若者自立・挑戦プラン」で勢いがついたので「じゃ、いざやるぞ」となりました。ご存知の通り、当初は 2005 年の「キャリア・スタート・ウィーク」、中学校で「5 日間連続の職場体験をやりましょう」ということをひとつの突破口にしてキャリア教育の充実を図ったわけです。だからこの時点では高校はそんなに火がついていなかったはずだし、小学校は「小・中の連携の中で」みたいな枠でした。

2000 年代後半、2006 年ぐらいに、「高等学校におけるキャリア教育の推進に関する」調査研究協力者会議（スライド 12）で報告が出ているように、徐々に「中学だけじゃないでしょう。全校種で、全国でやりましょう」という方向に流れてきた、というふうに捉えればいいかなと思っています。

②キャリア教育 1.0 の問題性

この時点での「キャリア教育 1.0」の問題点は明らかで、要するにキャリア教育への「誤解」をずいぶんと生んだと思います（スライド 13）。

そもそもの動機に不純なところがあった。つまり、若者たちの就職難・非正規化の問題は教育だけでどうこうできる問題ではありません。労働市場側が改善しなければ教育だけではどうにもならないんですが、ただそこを教育で何とかしようとしたというところが、そもそもの発想としては違っていた。

そんなことも含めてスライド 11 の「若者自立・挑戦プラン」をちょっと見ていただくとわかる

んですが、他の省庁を含めて「労働市場を何とかしよう」ということは基本的に少なく、⑧⑨⑩ぐらいです（スライド 11）。⑧の創業・起業にしても高卒や大卒の若者がいきなり起業して上手くいくわけがない。⑨の起業家教育も「将来に備えてそういうマインドを」だったらわかりませんが、すぐに問題が解決するわけじゃない。だからあえて労働市場の側にちょっとアクセスするようなことをやったのは⑩「若年者トライアル雇用」という、非正規の若者を雇った企業には助成金を出しますというプランでした。それぐらいしかない。

むしろ若者の意識の方にテコ入れして、なんとかこの問題に対処しようというところで始まったところが多分にあるわけです。それ以外は、マッチングの改善ですね。

だからこういう誤解が生まれました。現場レベルではそれ以前の進路指導改革があったので、「進路指導を同じようにやっていけばいいですよ」とか、「職業職場体験、インターシップ、職業調べ、をやればいいんですよ」というものです。ワークキャリアに傾斜していて、かつ、それが学校現場レベルに降りると、教育的な論理がほしくなります。だから「あなたのやりたいことは？夢は？」となっていったのだとぼく自身は思っています。でもそれが「夢追い型キャリア教育」をつくったのかもしれない。

最後に、現場ではキャリア教育がおこなわれるのは、「特別活動で行事等々を通じて」か「総合の時間でやるもの」というのが完全に根づきましたので、この頃の発想としては教科とは無関係です。「教科と無関係ということは、進学希望の生徒にはあまり関係ないですよ」といった理解で始まってしまった、ということだと思います。

だけど、これは本当は大いなる誤解で、その後ここをどう解きほぐしていくかが大切な課題、流れになったとぼくは理解しています。

(スライド 13)

キャリア教育1.0 の問題性



- キャリア教育への「誤解」（進路指導を言いかえただけ？ 職業調べ、職場体験・インターシップをやればいい？）
- ワークキャリアへの傾斜、「夢追い型キャリア教育」
- キャリア教育は、「特別活動」と「総合的な学習の時間」でやるもの = 教科とは無関係？ = 進学する生徒には関係がない？



ちなみにスライド 14 の写真は、リクルートの『キャリアガイダンス』です。高校の進路指導の

先生向けの雑誌で、筑波大学の藤田晃之さんと、彼が文部科学省から筑波に戻ったばかりぐらいの時期だったと思いますが、対談したことがありました。「当初のキャリア教育ってどうだったんでしょうね」という話になったときに、彼自身は明らかに当時のキャリア教育政策の推進者でしたが、その藤田さんですら「やっぱり創成期のキャリア教育って、狭かったよね」と言っています。それはフリーター・ニート対策としてスタートしたから、だから「勤労観・職業観」というところがクローズアップされたし、さらに言えば、「突破口として中学校の職場体験だったんだ」という認識なんです。彼の場合は「わかっててやっていた、必要悪だった」と。要するに、予算というものはある所に集中してつけないと意味がないということを含めて、それはそれでよく理解できるんですが、ただその後ずいぶんと時間がたっているわけですから、「その当時の残像」という言い方を藤田さんはしていたと思いますが、「残像にとらわれるべきではないし、もっと違う発想でキャリア教育を考えるということが必要ですよ」と、そのような表現をされていました。つまりこれまで述べてきたことは、ぼくが勝手に言っているんじゃないということをお願いいたします (笑)

。

(スライド 14)

当事者も、証言してます！



- 創成期キャリア教育
フリーター・ニート対策
= 勤労観・職業観
↓
中学校の職場体験
- だから、当時の“残像”にはとらわれるべきでない！



3 キャリア教育 2.0 ——教育への回帰

①キャリア教育 1.0 の不幸

ではどこら辺を契機にして、今の新学習指導要領につながってくるのか、ということですけど、その転換点は 2010 年代には起きているんじゃないかと思っているんです。

2004 年ぐらいから予算がつき始めて現場は、当初は試行錯誤もあったし、みんなどうやっていかわからなかった。だけど 2010 年代ぐらいになると、さすがに「やってきたことがこれでよかったのか？大丈夫か？」みたいな意識が出てきて、かつ教育政策の側もそういうサインを出し始めた、と思っています。

とりあえずその前の段階の「キャリア教育 1.0」は、登場した時期が悪かった（スライド 16）。それと政策的に予算獲得のためでもありますけど、活用しようとしたのは若年雇用問題だった、ということがあるので、そこに引きずられた。そうすると職業や就労への準備、そこに向かわせるためにはもうちょっとやる気を出させないといけないので、「やりたいこと」とか「夢を探す」、「自分探し」みたいなこと、そして目標が定まったら、じゃあ将来設計をつくってあとはひたすらがんばる、みたいになったんだと思うんです。でも、端的に言うと「対症療法」です。しかも本来は労働市場側の問題が半分だから教育じゃ解決できないことに教育でなんとか挑もうとしたという、「無茶な対症療法」みたいなところが半分あったのだと思うんです。

それから、まあ言ってしまうと「基本となるような教育哲学」がなかった。普通これだけのものが出る時には、ある種の「キャリア教育ってこういうことなんですよ」という理念があるはずなんですけど、そういうものがないままに、「でも取り組んでください」ってことだけさんざん言われて、最初は中学校、その後小学校、高校を含めて進んできたところがあります。

(スライド 16)

キャリア教育 1.0 の不幸



- 日本において「キャリア教育」が登場したのは、若年雇用問題（就職難、フリーター、ニート、早期離職・・・）が深刻化し、社会問題化した時期
- 「キャリア教育」の理解が、職業や就労への準備、そのため「やりたいこと」探し、将来設計に偏った
- 端的に言って、対症療法。基本となる教育哲学がなかった



②そもそも、キャリア教育とは？

では「対症療法ではないキャリア教育ってあり得るの？」という、ぼくがいろんなところで

話をしているのは、そもそもキャリア教育というのは、アメリカの「キャリアエデュケーション」をモデルにして日本に入ってきています。言葉自体が明らかにそうですね。

ではキャリアエデュケーションとは何だったのかと言うと、1960年代のアメリカの中等教育、中等学校は非常に危機的状況にあった中で、なんとかそれを立て直していくための理念・視点、改革をしていく理念なのです。1971年のアメリカ連邦教育局長官マーランドの演説の中で彼はアメリカの中等教育がいかに危機にあるのかを言った後で、「これからの教育では学校におけるあらゆる活動がキャリアエデュケーションになるべきだ」と言いました（スライド17）。

「あらゆる活動がキャリアエデュケーションになるべき」ということから、キャリア教育が特定の実践の領域や、単元や、特定の教科がすることではなくて、「学校全体がそういう理念・視点で変わっていくべきだ」、ということだったのです。

1960年代のアメリカの中等教育の危機とは、ひとつは教育内容がすごく陳腐化していた。1960年代を通じて産業構造の転換が早くて、世界でも第三次産業化が一番早く進んだ国だから学校で学んでいることが社会に出たときに役立たないし、子どもたちが学びながら「これに意味がある」と思えなかった。だから当然授業なんて聞かなくなるし、学校に来なくなるし、みたいな形でドロップアウト率が20%、30%という学校がもう普通にありました。かつ学校は荒れました。

そういった、学習内容がもう社会とつながらなくなってきているという話の一つ、もう一つは60年代のアメリカって価値感がものすごく多様化した時代です。ベトナム戦争がありました。国を二分して賛成派と反対派が論争していて、女性たちはフェミニズム運動をやりました。その前に黒人は公民権運動をやって、南部の州は「このバスには白人しか乗ってはいけない」といった差別がありましたが、そこをどう転換していくかという運動をやっていました。ヒッピーも出てきて、ある種の「こんな大量生産、大量消費の文明の中で生きていて大丈夫なのか？」という問題提起、意義申し立てですが、をしていた。そういう時代だから普通のWASPの場合、若い人たちの父親、母親は「古き良きアメリカ」の信奉者なんですが、当の若い人たちは「それでいいのか？」という問いを発していた。そういう若い人たちの生き方への問いに、学校での教育は素通りしていたんです。

だから「学習内容が社会と切れていたのをもう一回つなぐ」、「学習内容が若者たちの生き方と切れていたのをもう一回つなぐ」、「学びと社会、学びと生き方をつなぎ直す」、というのがキャリア教育なんですよ。これってひとつの教育哲学です。

学校では何を学ぶべきか？ 一つは社会とつながって、将来子どもたちが社会に出ていったときに、ちゃんと役立つようなことを、力をつけるために学ぶこと。

もう一つは、子どもたちが将来どう生きていくかということをも自分で考えられるような、そういう学び方ができること。この2つをアメリカではキャリアエデュケーションと標榜してやったわけです（スライド17）。だから対症療法で「学校が荒れちゃって困るから」ということだけではなく、ひとつの大きな教育理念がありました。

（スライド17）

そもそも、キャリア教育とは？



- 「学校におけるあらゆる教育活動が、キャリア教育になるべき」
(アメリカ連邦教育局長官マーランド, 1971年)
- 本来は、危機に立つ学校教育全体を創り直すというコンセプトだった！ (実践の領域ではなくて、理念・視点)
- 1960年代のアメリカの中等教育、何が危機だったのか？
学校で学習する内容の陳腐化
青少年の生き方への問いを素通り
↓
- キャリア教育とは、学校での①学びと社会、②学びと子どもたちの生き方、をつなぎ直すこと



考えてみるとこの2つ、学校での「学びと社会をつなぐ」、「学びと生き方をつなぐ」って、まさに新しい学習指導要領なんです。新学習指導要領って社会に開かれた教育課程です。ということは、学校で学んでいることが「やっぱり社会と切れていてはダメなんだよね、そこを立て直そう」という話ですし、「子どもたちに育てたい資質・能力の3つの柱」の一番上にきているものは、「子どもたちがどうやって社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」(スライド 32)になっています。まさにキャリアの問題です。

「学びと社会をつなごう」「生き方の問題とつなごう」ということは、本当にようやくにして日本でもそういう発想が出てきた、と言えると思います。

そこから考えると、「キャリア教育 1.0」って、やっぱり偏っていたということです。ちなみに、「キャリア教育 1.0」がぜんぶダメだったのかというと、すごく微妙な問題があって、スライド 18に出ているのは2004年の調査研究協力者会議のキャリア教育の定義なんですが、上の方(上段)を見ていただくと、これがメインの定義です。

「児童生徒一人ひとりのキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲・態度や能力を育てる教育」と言っています。

ただしそこに、「端的には、児童生徒一人ひとりの勤労観、職業観を育てる教育」というのを付けてしまったから誤解が生じて、おそらく学校現場では「キャリア発達の支援」なんて言葉はほとんど広まらなくて、「勤労観、職業観を育てる」だけが独り歩きをしていった、そういう不幸があるわけです。

(スライド 18)

キャリア教育の微妙な定義



- 「児童生徒一人一人のキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲・態度や能力を育てる教育」としながらも・・・
- 端的には、「児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てる教育」

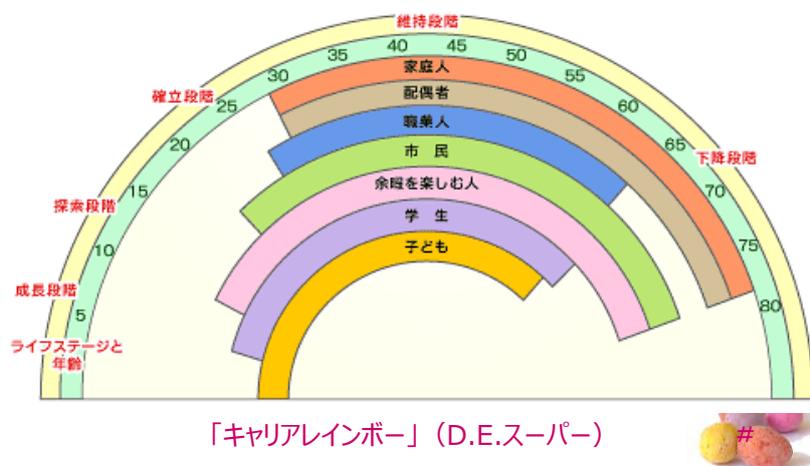
(キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議「報告書」、2004)



本当は当初から「キャリア発達支援」についてもうちよっと広く言っていた。すごく有名な職業心理学、キャリア心理学の D・E・スーパーという人がいます。彼は戦後日本の進路指導論にもすごく影響を与えた人ですが、「人間は生まれたときからいろんな役割をそれぞれのライフステージごとにこなしていく。その役割を全体的にバランスよくこなせるようになることが、キャリア発達だ」と言っています。だから当然ここからいけば、いま学校に通っている子どもたちは親との関係で子どもとしての役割と、学ぶ者としての役割をもっていて、その後市民になったり、職業人になったり、また家庭を持つという選択をした場合は家庭人となったりする。その準備ができていけばいいわけで、それを全部含めてキャリア発達と言うはずなんですね。だからそのところは本当は広くとらえるべきだったんですが、この時点である種のねじれがあり、また長ったらしい定義を覚えるよりも「勤労観・職業観」と言った方がわかりやすいしということで、ぼくはけっこうな数の学校の発表会などに行きましたが、みんな「勤労観・職業観」でやっていました。そういうスタートをしたのだと思います。

(スライド 19)

キャリア発達の課題



だけど、2010年代になると徐々に変わっていったのですが、どういうふうに変わっていったのかというと、典型的なのは2011年の中教審答申です(スライド20)。

(スライド20)

キャリア教育 2.0 へ

- 「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」
- 「特定の活動や指導方法に限定されるものではなく、様々な教育活動を通して実践される」
- 今後、上述のようなキャリア教育の本来の理念に立ち返った理解を共有していくことが重要である」

(中央教育審議会答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」2011)

これは、政策サイドとしてある種のサインを出したかったのだとぼくは理解しています。つまり中教審がもう一度改めて、キャリア教育を定義付けするとしたら、「一人ひとりの社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」(スライド20)と、「キャリア発達の支援」という原点に戻っているわけです。

しかも、キャリア教育は「特定の活動や指導方法に限定されるものではなく、様々な教育活動を通じて実践される」(スライド20)と、「学校全体を通してやるんですよ」ということも書かれていて、「今後、上述のようなキャリア教育の本来の理念に立ち返った理解を共有していくことが重要である」と。この手の答申文としては相当に踏み込んでいます。

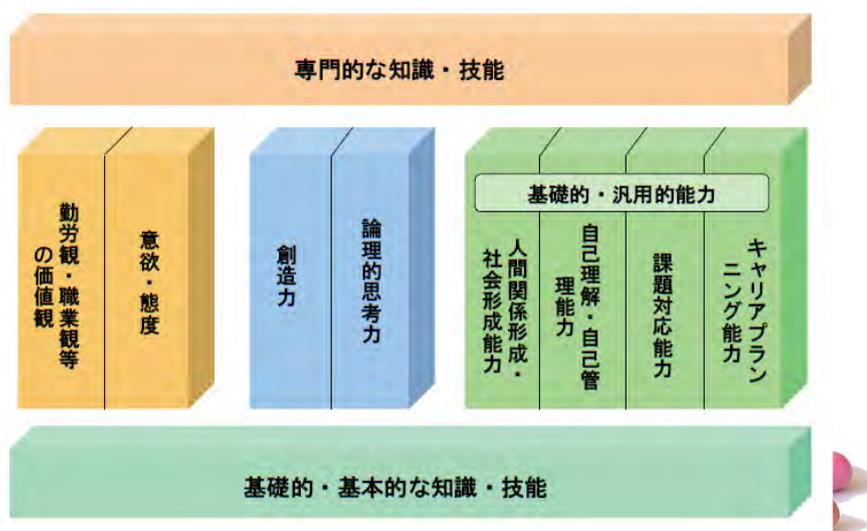
もちろん教育政策の担い手は、「過去の私たちは間違っていました」とか「過去は偏っていました」とかは絶対に言いません。言わないからそうは書けないんです。ただこれだけハッキリとサインを出しています。「従来の理解ではなくて、やっぱりもっと広い理解で、原点に立ち返って理念を共有しようよ」と書いているわけです。しかも、このときに言われたのは「社会的・職業的自立」です。職業的自立だけだったら、「勤労観・職業観」（キャリア教育 1.0 2004 年）の世界と同じなんですけど、ここに「社会的自立」と入れたのは決定的に大きい。だからいきなり職業という話の前に、もっと学校としてやるべきことがあるでしょうと。高校生だっていまだにものすごく社会性が欠けていたり、「もうちょっとまともな大人になってもらわなかったら、仕事以前の問題じゃん」みたいなことはいっぱいあるはずで、ぼくは大学生を普段見ているけどそう感じているんです。大学生だっていきなり「職業的自立」にはもっていけない。その前段のところをどれだけ耕して土台をつかって、ようやく卒業の頃までに、みたいな話なので、当然小・中・高の時代はそうだと思います。だからそういうところに意識が向かうようにした、というのがあってしょう。それがスライド 21 ですよね。

中教審で「キャリア教育でどんな力を身につけるか」（スライド 21）というときは、「勤労観・職業観」は図左側の柱にありますけど、でも全面に出ていたり大きかったりはしていません。そうではなくてさまざまな能力が必要で、特に今回注目されたのは右側の 4 つの「基礎的・汎用的能力」です。「これだったらどんな分野に出ていったとしても必要な能力ですね」、ということである種の整理をした、ということだと思っています。

（スライド 21）

どんな力を身につけるか（中教審）

「社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力」の要素



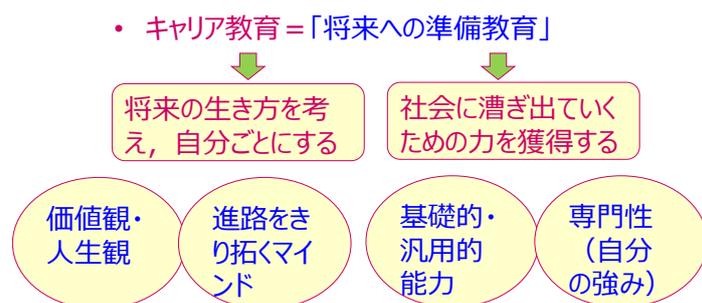
スライド 21 にはたくさんの能力が書いてありすぎるので、スライド 22 のように自分なりに 4 つに砕いて整理しています。

まず①「**観の教育**」、要するに価値観・人生観・職業観の「観」の教育で、自分の生き方を自分のものにちゃんとするという、価値観、人生観のような問題。それから②「**進路**」については「自分の進路なんだから自分で引き受けて何とかしていく」というマインドです。③「**基礎的・汎用的能力**」のような将来どんな分野に進んでも、社会に出ていくために必要な力をつくる、ということ。

それからあまり言われませんが、私は**スライド 22** で④「**専門性**」を加えました。とは言っても、学校段階によりますし、小・中学校では専門性は言いませんし、また専門性という言葉が日本語として強過ぎれば「自分の強み」でもいいんですが、そういうものも身につけることで「人って社会に出ていけるよね」と思うからです。

(スライド 22)

僕なりに噛み砕くと・・・



4 これまでの実践の落とし穴

とりあえず、ここまでで「キャリア教育 2.0」のところまで来たと思います。そのうえで、今の段階があるわけです。

それまでの段階でやってきた日本の学校現場におけるキャリア教育は、考えてみると、元々は「キャリア教育 1.0」のときはかなり誤解を含んでいたし、「キャリア教育 2.0」も現場は急に変われないため、当然のことながらしばらくの間は**スライド 24** のようなこともありました。

スライド 24 のようにこれまでの実践の落とし穴のひとつは「①自分のやりたいこと」に偏り過ぎていて、それが出口で反転するかのように「結局現実に適応しようよ」と言わざるを得なくなり、振り子のようなことが行われていたこと。

そして②職場体験や職業についての学習にすごく偏重していたので、むしろ、「学びそのものがキャリア教育なんだ、教科の授業そのものがキャリア教育になる」という発想はあまりなかった。ライフキャリアを見ていくところも少なかった。

また、③キャリアプランを5年、5歳刻みで書いていくバージョンもあれば「30歳の私」というものなどいっぱいありました。けど書かせる前にやるべき学習が当然あるはずなのに、そこが無くて書かせるから、なんかこう現実から浮世離れしているというか、「自分の親がたどったのと同じような道筋をたどると思っているんでしょ、でもそれは違うよ」という今日の山内さんの話と一緒に、「君たちのときはもう違うの!」という社会理解や社会認識が前提としてスルッと欠けたままでやっていたりとか、④ある種の心理に依るようなアプローチが多かったので、もっと本当は労働市場の理解とか、社会構造の問題へのアプローチが本当はあるべきだったけどそうはならなかった。

また「⑤土台なきキャリア教育」で、社会的自立のところがなくままに、いきなり職業的自立をさせようとするので、ムリが生じるというところがあったかもしれない。

さらに「⑥正社員モデル」のようなものもあり、「働くってどういうこと?」という図が一つしかないようなかたちも貧困だったのかもしれない。

それから「⑦イベント主義」です。要するに単発でいろんなキャリア教育の体験や学習を重ねました、ということになっていて、それが日常の授業や教育活動と全然クロスしないから、生徒たちの心に残っていかない、というところがあった。

(スライド24)

「落とし穴」カタログ



- 落とし穴① 「夢・やりたいこと」主義
→反転すると、「現実への過剰適応」
- 落とし穴② 職場体験・インターンシップの偏重
→学習, ライフキャリアの軽視
- 落とし穴③ 社会理解なき「キャリアプラン」
- 落とし穴④ 「心理主義」アプローチ
→労働市場への理解の欠如
- 落とし穴⑤ 「土台なき」キャリア教育
→「社会的自立」の軽視
- 落とし穴⑥ 「正社員」モデル
→ワークキャリア像の貧困
- 落とし穴⑦ イベント主義



例えば公立だけなら中学校の職場体験の実施率は98%くらいです。私立はやっていないところが多いんですが。ぼくが大学で授業をやって「中学時代の職場体験はどうだった?」と聞くと、行った場所を覚えていたらまだいいほうです。ほとんどが「どこ行ったっけ?」みたいな反応です。「その体験がその後のあなたにどういう意味があった?」とか「自分の進路を考えるときに、その体験を振り返ったりしたか?」というみんな「シーン」なんです。この反応は当然なんです、やりっぱなしだから。やったことをその後の教育課程の中でときどき振り返ったり、もし中学2年で職場体験をしたなら中学3年で「あのときのことと関わってこれを学ぼう」ということがあれば何か心に残りのこともあったかもしれないけれど、「職場体験をやった」ってことだけ

で満足していたら、それはみんな忘れます。

だとしたら、あんなに労力と時間をかけて先生方がエネルギーをかけてやってきたことは、何だったんだと。今は中学の話ですけどね。高校でも追跡調査をされたらそれはわかると思います。「やってきたことはどうなんだろうか？」ということがあがる気がしています。

5 キャリア教育 3.0 —新学習指導要領

では残りの時間で次をさっといきます。

「当初のキャリア教育 1.0 が偏り過ぎだったのを引き戻して、ちゃんとした教育をしよう」とやったのが、2010年代の始まりからの「キャリア教育 2.0」だと思いますが、今度の新学習指導要領をあらためて読んでみて、それは理想だと言われるかもしれないけど、かなり前進する側面もあるなと思っています。活用できることはしっかり活用しようと考えたい。

新学習指導要領の基本的な狙いの「生きる力」の実現（スライド 26）というのは、従来から引き継がれていることなんですけど、読めば読むほど「生きる力」というよりは、「生きぬくための力」みたいなニュアンスが出てきている。これだけ変化が激しい社会なのでそこで生きぬくための力をつけておかないと、という話になっています。「生きる力」は連続しながらも事実上は「生きぬく」という点にやや力点がかかっている、それでさっき言った「社会に開かれた教育課程」（スライド 26）となるわけです。

（スライド 26）

新学習指導要領の基本的なねらい

「生きる力」の実現

- 変化の激しい社会を生きるために必要な資質・能力



「社会に開かれた」教育課程

- 「教科を学ぶことの意義を明確化する」
- 「子供たちが、身近な地域を含めた社会とのつながりの中で学び、自らの人生や社会をよりよく変えていくことができるという実感を持つ」



まず一つは、各教科の学びも、なぜこの教科のこの単元を学ぶのかという「学ぶことの意義をちゃんと明確化して生徒に伝えてください」という話です。受験に出るから、という話ではなく

「これはどういうふうにつながっているのか」を伝える。そしてもう一つは子どもたちが社会とのつながりの中で、自分の人生や社会をよりよく変えていくことができるという実感をもたせる」とも言っています（スライド26）。

これは相当なことを言っていると思いませんか？ 要するに学ぶということは、いろんな社会とのつながり方を見つけて自分の人生をよくしていけるし、その社会自体をもよくしていくこととつながっている、そういう実感を持って学べるようにしましょうよ、という話です。

だから最初から、教育内容を軸にして組むのではなく、スライド27のように大きく組み立てを変えて、図の上段の、どういう力をつけたいか、「資質・能力」の「何ができるようになるか」をまず軸にして、こういう能力をつけるためには「学ぶ内容としてはこれが必要だよな」、そして「こういう学び方をする必要はあるよね」、という意味でALなどが入ってきます。

(スライド27)



中教審の審議でも、教科別の分科会が発足したのは半年ぐらいずれています。最初は教育課程の特別部会だけが始まって指導要領では「総則」に当たる部分の大枠を全部決めて、やっと教科になったわけですからそこは発想が違っている。特に高校は今回新科目が山のように出ています。しかも多くの科目に「探究」がついています。あれって何なんだとは思いますが、でも気持ちはわかります。ただ、あれだけ「探究」がついた科目があると、逆に「探究」がついていない科目は「探究なくていいのか」と言いたくなりますが（笑）。

「なぜ主体的学び・探究と言われているのか？」ということですが、これは先ほどの「生きる力」がなかば「生きぬく力」になっているという話と重なります。「先行き不透明な社会で」とい

う点が今回は全面に出ていますよね、そこでやっていけるためには、「今ある知識を蓄えておけば将来役に立つ」ということではなくて、「知識なんてすぐに陳腐化していく」、だったら自分で知を編み出すような力をつけないと子どもたちが困ることになる。生涯を通じて自分自身が能動的に新しい知識を獲得できて、「知」と「知」を組み合わせて上手に使える、そういう力がないと困る。そのために、「主体的な学び」や「探究活動」をして、子ども時代から主体的に生きる姿勢や思考を訓練して身につけようとなったわけです。

「生きて働く知」でなければいけないし、「問題解決・課題解決の知」でもあるし、そしてなぜそういう「知」を獲得したくなるかということ、やはり「自分ごと」になるからで、それが将来自分に使うことになるかもしれないし、将来自分が行きたい方向に進むために必要な力かもしれない。その意義がわかってこそ、初めて「学びに向かえる」ということになっているんです。(スライド 28)

(スライド 28)

なぜ、「主体的な学び」「探究」か？

- 「先行き不透明な社会」(第4次産業革命, Society 5.0) が大前提

↓
既存の知識はすぐに陳腐化する

- 生涯, 自ら能動的に新しい知識を獲得できる
- 未知の問題や課題に対しても, 積極的に解決に向かえる

↓
生きて働く知
問題・課題解決の知
自分ごとのできる学びへの構え

- 高大接続の見通しの中で

新学習指導要領では一方で高大接続改革を走らせていますので、当然そこと連動しながら、実施されていくという話なんです。「待ったなし」なんですよ、今回の決まり方は。特にターゲットにされているのが高校です。

小学校・中学校に関しては PISA のテストなどを見てもわかりますが、まあ一定レベルに思っているんです、教育政策担当の方々は。だけど高校以降は全然ダメだねという話になっていて、そこを変える。ただ「大学入試が変わってくれなきゃ」と高校側から絶対に言い訳されるので、そこを先に押さえて「大学入試は変わりますよ、だったら当然高校の中身も変わりますよね」と今回は流れている。こうすると、いろいろとやられていることがかなり整合的に理解できると思います。

ちなみにキャリア教育についても、現行の学習指導要領は無責任なことに、「キャリア教育」と

という言葉は小・中学校版には出てこないし、高校版も1か所だけです。総則の中で職業教育が主語になった文章の一番最後に「キャリア教育の推進」と書いてある。「なんだよ、あれだけやれやれって言うておいて」と思いますが、今度はちゃんと明確に第1章総則の第4の「生徒の発達の支援」に入りました（スライド29）。

新学習指導要領におけるキャリア教育

- 現行の学習指導要領と比較して、明確な規定が与えられたことの意味！（逆に言うと・・・？）
- 中学校学習指導要領（2017年）
第1章「総則」第4「生徒の発達の支援」1（3）
- 「生徒が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要として各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること。」

（スライド29）

ここ（スライド29）に書いてあることはなかなかすごいことで、つまり「学ぶことと自己の将来のつながりを見通しながら」というわけです。どんなところを学んでいたとしても、それは生徒自身が自分の将来とのつながりを見通して学ぶと書いてある。そして続く文章の社会的・職業的自立うんぬんは、中教審のキャリア教育の定義と同じです。「そういう力がつくように、特別活動を要にして、各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること」となっています。

つまり特別活動は、従来通り要としてキャリア教育で重要な節目にやりますが、各教科においても「特質に応じて」と書いてありますから、各教科の狙いとか、そういうことを損ねるっていうわけじゃないですよ。国語は国語としての狙いがあるし、そこに基づいて授業をするわけですが、ただ特質に応じながら国語としての狙いを追求しながら、でも同時にキャリア教育の充実にもなるでしょ、って言うているわけです。教科は例外じゃないという、むしろそっちの方が、子どもたちが学校で過ごす時間としては多いから、そのところをちゃんとやっていこうよ、というのが今回のねらいになっています。

スライド30の特別活動の説明は飛ばします。スライド30では中学になっていますが、「一人ひとりのキャリア形成と自己実現」が、HR活動のところにも高校も同じことが書かれています。中教審でキャリアパスポートといわれていたポートフォリオも実際にやりましょう、と。名称はどうなるか、たぶんキャリアパスポートにはならない気がしますが、やりましょうね、ということです。

（スライド30）

特別活動における位置づけ



- 中学校学習指導要領（2017年）
第5章「特別活動」の「学級活動」2（3）
- 「一人一人のキャリア形成と自己実現」を柱に
- 具体的には、「社会生活、職業生活との接続を踏まえた主体的な学習態度の形成」「社会参画意識の醸成や勤労観・職業観の形成」「主体的な進路の選択と将来設計」を促す活動
- 「活動を記録し蓄積する教材等」の活用（＝キャリアパスポート）



教科についても、高校版の解説（高等学校学習指導要領解説「総則編」（スライド 31））を読むと「自己のキャリア形成の方向性と関連づけながら見通しを持ったり、振り返ったりする機会を設けるなど主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進めることがキャリア教育の視点からも求められる」と書いてあるわけです。

（スライド 31）

各教科等における位置づけ



- 「学ぶことと自己の将来とのつながり」（総則）
- 「自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら見通しをもったり、振り返ったりする機会を設けるなど主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進めることがキャリア教育の視点からも求められる」（「高等学校学習指導要領解説」総則編）
- 新学習指導要領においては、各教科等の学びそのものが、キャリア教育として位置づく
→育成をめざす資質・能力の三つの柱



つまり「普通の授業の中での学びは常に自己のキャリア形成の方向性と関連づけてやっていく」という話なのです。だから、当然各教科の学びもキャリア教育として位置づく。「その証拠は？」

とは、さっき言った今回の新学習指導要領で「一番メインになっているこういう力をつけるんですよね」、という『資質・能力の三つの柱』のところですよ。

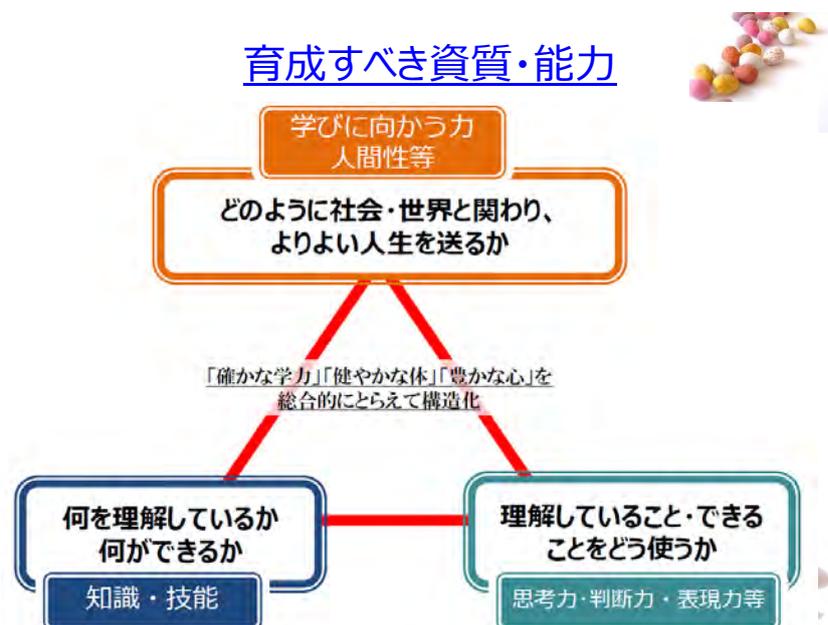
知識を獲得していることはもちろん大事です、これがなかったら何もできません、思考できるはずがないし、判断できるはずがない。だけど、知識の獲得は大事だけど、それは何のために獲得するかというと、それを使うためですよ、活用するためですよ。でもそこだけでも足りない。

何で足りないのか？ それは「ちゃんと知識を身につけていて、活用できたらそれでいいじゃない」と思うかもしれませんが、それだけだと「何のために活用するのか？」がないんです。「子どもたちは何のために知識を活用できなきゃいけないのか」というと、それはスライド 32 の上段部分があるからですよ。「知識を活用できるようになることで、自分はどんなふうに社会に関わって、どんなふうに自分は生きていくのか」、そのところにせりあがっていくからです。

それを「学びに向かう力、人間性等」という言葉で言うのがいい表現かどうかは、ぼくはちょっと微妙だと思っていますが、下方はわかりやすいですね。

一番上の枠の『どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか』は、まさにキャリア教育のテーマです。だからそれぞれの学校でのいろんな場面での学びが、みんなここにつながっていく、ということが考えられている。

(スライド 32)



新学習指導要領をどう読み解くかはスライド 33 に書いた通りです。①まず上段のように学校教育全体でやります。そして②特にキャリア教育に焦点をあてて、意識したような活動は特別活動です。だけど③そうではない教科の学習でも、直接にはキャリアとは意識しないし言ったりもしなくても、自分の将来のキャリア形成と関連づけるようなことはできるわけだから、そういうものは「広義のキャリア教育」で教科を含めてできるはずですよ、というのが今度の指導要領の組み

立てになっています。

(スライド 33)

どう読み解くか



- キャリア教育が、学校教育全体で取り組まれるべきであることは、大前提
- キャリアに関する学習や体験に焦点を当てた「狭義のキャリア教育」→特別活動を軸（「要」）に
- 直接にキャリアに関する学習や体験ではなくても、キャリア教育としての効果を持つ「広義のキャリア教育」→各教科等を含めて（「特質に応じて」）



ちなみに狭義のキャリア教育は、「特別活動だけが要」という言い方に今度の指導要領はなっています。でも今までは総合的な学習の時間がキャリア教育の軸だったじゃないですか。だから「それはどうなったの？」みたいなところはあるんですが、高校は総合的な学習の時間を「総合的な探究」にしたので、「探究活動」としてだったら当然「総合的な探究の時間」もキャリア教育の要にしていくことはできる。けれど探究という要素がないとできないので、とりあえず一旦各教科等にこれを加えて総合的な探究というのを設けたのだと思います。

ここがあるからこそ、「キャリア教育」と「AL」および「探究」が出合うわけですよ（スライド 34）。

つまり各教科等における学びがキャリア教育なんだとしたら、そこでの学びが、やはり生徒自身が自分が将来社会とどう関わり、よりよい人生を送るかということまでせりあがっていかないといけないわけですから、その学びというものが何か受動的に教えられる学びであるはずがなく、まさに自らがアクティブに主体的にそして探究的に学ぶ以外にないわけです。

「主体的・対話的で深い学び」における「主体的」というのは、単なる自主的ではないし、単なる自律的じゃないのです。主体なんです。「生徒個人という生きる主体にとって意味がある」という意味だからそれは当然将来のキャリア形成と関連づけて、と言っているのです。この「主体的」はそのように理解するべきだとぼくは思っています。

(スライド 34)

キャリア教育とAL, 探究の出会い



- 各教科等における学びが、キャリア教育に！
- 学びが、「どのように社会・世界とかがわり、よりよい人生を送るか」にまでせり上がるためには、そこでの学びは、アクティブで、探究的になる以外にない！
- 「主体的・対話的で深い学び」における「主体的」の意味！



6 これからの「キャリア教育」のかたち

従来のキャリア教育は、beta版、1.0、2.0、と推移してきましたが、それはスライド36のようにまるで「キャリア教育やっています」という花火のようなものでした。奇麗だし派手だけど、これからは地味ですが積み木のようなものではないでしょうか。積み上げです（スライド37）。積み木はなくなりません。積み木は土台を幅広くとった方が上まで高く積み上げられます。そういう方向になっていくはずですよ。

学校なんですからさっきのキャリア発達で言えば、生徒たちはまずは「学ぶ者」としての、ちゃんと自分で自立的に学べるようになることがキャリア発達での課題です（スライド38）。

ちゃんと自立的に学べない子が、その後自立的に働けるようになったり、自立的に市民活動に参加できたりするわけがない。活動としては一緒なんです、勉強って活動も、働くって活動も、市民活動という活動も、活動としての型は一緒で、目の前の学習のところが自立的にできない、主体的にできないのに、将来それができるわけがないのです（スライド38）。

だから「もっともっと学びの場面で」というところを意識したキャリア教育にしていいたと思うんです。そういうことも考えた方がいいんじゃないか。だから重点的にも従来とはこれぐらい違うところ（スライド36と37）がでるかな、と思います。

やりたいことや夢をどう実現するかは、否定はしませんけど、ただその前に自分は社会とどう関わってどう生きるのか、そこの中にやりたいことが出てくるという方が自然だと思います（スライド39）。

いったん私の話はここまでです。どうもありがとうございました。

(スライド 36)

これまでのキャリア教育



(スライド 37)

これからのキャリア教育



(スライド 38)

学校におけるキャリア教育の役割



- 学習者としての「役割」を自律的に遂行していく能力を
培うことが、大前提
- ↓
- それで、その後の「働く者」「家族を営む者」「市民」…
等々の「役割」を自律的に遂行していく能力形成の準備
になる

(スライド 39)

実践的な強調点も移動



「職業的自立」をめざす→「社会的
自立という土台づくり」

「イベント」型→「日常」型へ

職業や働くこと重視→ライフキャリア、
学びを重視

「やりたいこと」や夢をどう実現するか→社
会とかかわって、どう生きるか



質問タイム 実践ロイロノートを使って

これから5分間取りますので、まずグループのみなさんで感じた疑問、聞いてみたいこと、ちよっと違うんじゃないか、などをまとめてロイロノートに書き込んでください。それを一斉にこちらでキャッチします。

では時間がきましたのでいったん話しを止めてください。たくさん出していただいているので全てにはお答えできませんが、ピックアップして話しますが、もしそれについて「いや、その話

しじゃ不満だよ」とか「もうちょっと聞きたい」というときは手を挙げて合図をください。その場合は追加していきます、そうしないと本当のやりとりにならないので。

最初はこれです。2つか3つ、同じ質問がありました。

質問1 「主体的・対話的で深い学び」の「主体的」ってどういう意味ですか？

「主体的」と「自主的・自律的」は違うよと言いました。それだけのことですが、まず「自主的」というのは、人から言われなくたって自分から学ぼうとすれば自主的です。だけど、個人が、自分自身が今後どう生きていくのか、今日言っているキャリア形成などと関連づけていなくても、自主的な学びは実現できますよね、「言われてないけどやってみよう」とか。だけどそれからさらに主体的になるにはもう一歩要るだろうと言っています。

「自律的」の方は誰かに教えてもらったり何かアドバイスをもらわなくても自分の方から学べることってありますよね。それは自律的な学びですが、かならずしも自己の生き方や将来と関わる「主体的」になっていない可能性があります。そういう意味で、「自主的・自律的」と「主体的」って違うんですよと言いました。「主体的」はかなり重篤なことだし、だけどそこができるようになることが今度の新学習指導要領の目標ですよ、「主体的な学び」ってきんざん言われているわけですから。

質問2 「同じような感じでナントカの事例はありませんか?」、「日常に根ざして言うかどうか?」

みなさんからいっぱいこのように書かれていますが、すぐに具体例を聞くのや止めてほしいですね。(笑)

学校の先生の集まりだと、すぐに「事例はないですか?」「具体例は何ですか?」って聞かれますけど、その時点でもう主体的学びになっていないですよ。

たぶんこういうことを聞いてくるその根っこにあるのは、キャリア教育を大げさに考え過ぎている、すごく大仰なことをやらなきゃいけないと考えている。それを「授業の中でやるのは難しい」とか「日常になんてムリ」と思っているんだと思いますが、もっと単純で、例えば朝のHRで担任の先生が生徒にしゃべるじゃないですか。その一部がちょっとキャリア教育っぽかったりするっていう程度だっただけです。授業だって、いきなりぼーんと授業の内容に入るんじゃないで、何かしゃべるじゃないですか。あと、教科の新しいところに入るぞってときに「この単元で学ぶことって実は社会ではこういうふうに使われていて、こんなつながりがあるんだよね」とすればいい、ぼくの発想はこんな感じなんです。

だから、逆の質問があって「そんな風にイベントではなく日常的にキャリア教育をやるとしたら、教員自身が消化不良になって、大変じゃないか」というご意見もあつたんですが、ぼくが思っているのは逆です。日常型にした方が先生方はラクになりますよ。だって「余計な時間でイベントをたくさん積み上げて、その準備をして、やりきって、その分授業時間を失って」、なんてこ

とになっているくらいだったら、普段どおりの授業をやる中でちょっと意識と発想を変えて、「この場面ではどんなことが言えるかな？」とか、そういうことができたらむしろラクになるんじゃないかな。しかも「主体的」っていうことで生徒が40人いたらその40人の一人ひとりの将来に関わって、なんてやろうとしても無理ですよ。だから、先生方がやるのは「いま学んでいる学習のこと、いまの社会がどうつながっている」、というところを示せばいいんです。「どうつながっている」って所を示したら、そこにどう食いつくかは生徒一人ひとり違って当たり前です。その話題に食いつく子もいれば、別の話題にしか食いつかない子もいて当然で、そこまで全部生徒の数だけ40通りをやりなさいなんてのは無理な話です。

だけど、「学んでいることと社会がこんなに生き生きとつながっているよね」ってところまではできるんじゃないかということです。

そういう意味なので、「具体例を教えて」と言われても、先生方が日々の生活で先生が一番生徒と接して長いわけだから、どうやるのかということですね。

質問3 夢は必要ないのでしょうか？

これ難しいですよ、夢とかやりたいことをぼくは否定するつもりは全くなくて、夢があればやる気がでるし、目標となってがんばれますよね。だから否定しちゃいけないと思ってます。だけど同時に社会の動向を見据えたり、自分の能力とか資質・適性というものが実はあるわけだから、そこは年齢段階に応じてちゃんとそこを見つめることの両方が必要ですよ。

折り合いをつけるということですが、今日ぼくがお話したのは、従来はその折り合いをつけるところまで、教育側が責任を持つということはあまりしていなかった。夢は夢でずっと持たせておいて「実現できなかつたらそれは仕方がない」、というのはちょっと無責任じゃないか。もうちょっとその前の段階でやるべきことがあって、最終的に折り合いをつけるのは本人ですよ、当たり前です。自分の生き方ですから。本人が折り合いをつけるんですが、両方の側の状況について生徒に知らせておいた上で、さっきの山内先生の「声優になりたい子」の話ですが、あこがれてもいいんです。いいんですが、声優という職業で食っていけるのはどれだけか、という状況も教える。だったら声優の専門学校じゃなくて、いったん大学でもうちょっと幅広く勉強をしながらでも、声優の夢も潰さないでおこうと考えるかもしれない。「いや、それでも私は！」ってなるかもしれない。そこはいいんです、ちゃんと両方のところを示したうえでやれば。そんな感じかなと思います。

質問4 キャリア教育にイベントは不要ですか？

イベントと普通の授業の関係がわからない。

ここのところが腑に落ちないと、今度の新学習指導要領が腑に落ちないことになります。現実のところ根を張って、われわれができることがあるとしたら、たぶんこれだと思います。つまり、子どもたちが将来どう社会・世界と関わって自分が生きていくか、というところとつながっ

ていけばイベントでもいいんだと思います。普段の中でいろいろ考える機会があって日常で考えていて、ときどき節目にそれをじっくりと自分の中で内在化する、そういうキャリア学習・体験がときどきあればいい。そうしたらいまより減らせるかもしれない。

だけど日常の授業の中で、学習と将来をつなげて考える機会がないまま、キャリア教育の学習・体験を減らしたら、たぶんそれって心に残らないですよ。

だからここは鍵になるとと思いますが、質問の「関係がわからない」への答えもさっき言ったことと、とりあえず同じだと思います。要するに数学でも理科でも体育でも、そこで学んでいることと、社会がどうつながっているのかということまではそれはもう先生方、教科の専門家だからそこは責任をもってちゃんと生徒たちに示す義務があると思う。示さなきゃいけない。で、示したうえで、そこはわかったうえで、「じゃあ自分はどうするか」は、先生方がいちいちやる必要はないと思う。生徒の中には上手く反応する子もいれば「ふーん」で終わってしまう子もいると思う。そういうことなんです。

数学だったら、日ごろ数学で学んでいることが、実はこういうことがわからないと社会ではこういうことが全然わからないんだよね、ということを手前に言っていけばいいし、それを考えよう、みたいな社会で使われていることとつながるのが一つ。それから、また、数学という学問にはこんな歴史があって人類がこういう原理を発見したことでその後はこうなんだよね、みたいな話だってなんでもあると思うんです。

だからこのようにつながり方は実はいろいろあって、最終的に「どう生きるか」までつながるのは生徒の側。そこで、最終的につながる前の段階までのいろんな情報や筋道や可能性までを示すのが、授業として先生方がやることだと思います。

逆にどう生きるかまでを先生方が示しちゃったら、それは相当ヤバイ教育になるわけですよ。本人が最終的に決めなきゃいけない。だから決めるための材料とか大事な条件やメリットやデメリットを示すところまでが先生方の仕事なんです。そして本人が最後は決めるということです。

一会場 はい、私が書いた本人です。その程度でよければ今もやっているんですが、数学で言うと、現実世界と離れているところが素晴らしいのかなとも思う。だからあまり現実社会との関係を強調しすぎると、良さが無くなってしまふかなということもあって、書きました。

その程度でいいんですよ。ただ、本当にその程度やられていて、「生徒さんがそう思っているのか？」なんです。一番大事なのは、先生方が「その程度のことはおれも普段から言っているよ」と思われたとしても、それを生徒が「数学ってこういうもので、そんなふうにつながっているんだね」と思っているかどうかだと思います。ここから先はこの場でどうこう言ってもわからないことなんです。「普通に責任をもって授業をやっている以上そんなことぐらい考えているよ」ということをちゃんとやっていただければ。

ただし、それを教員が考えているだけじゃなくて、生徒のところをベースにして「彼らにちゃんと伝わっているのか」、「彼らはそれを自分のものになっているのか」といったところを点検していきましょう、というのが今回の話だと思います。

質問5 これからのキャリア教育には、学校組織はどうなったらいいですか？

なるほど。要するにある種の派手なキャリア教育をやっている方が、やっている感はあるし、もしかしたらお互いに「うちの学校よくやっているよね」といった関係性もつくりやすいんだと思います。逆に派手ではなく日常に根差したものをやりだすと、そのつながりや、お互いにやっていることが実は見えない、などいろんなことが出てきそうな気がします。だけどそれを見えるようにしていく。決して派手なこともムリもしていない。でも「数学科ではこういうことをやっているよ」、「社会科ではこうだよ」といったことがちゃんと生徒に伝わっていったらいいわけです。大事なのは、「数学ではなに」「社会ではなに」ではなく、そういうのをトータルして、主人公である生徒本人がどういう力、それこそ資質・能力を身につけるかなんです。資質・能力を身につけることに関して、生徒がどうなっているのかをちゃんと点検できるような、そういう場になっていく、という話です。

この話はたぶん、カリキュラムマネジメントの話と相当近くて、カリマネは今年の免許更新講習でも話したんですが、「誰がカリキュラムマネジメントを回すか」によって、先生方にとっては、たぶん天国にもなるし地獄にもなる、みたいな話です。

つまり管理職や教務主任みたいな人だけがカリマネを回していて、先生方は「どうですか」って点検だけさせられて、そして「改善する」、ついでに評価もされるみたいになるカリキュラムマネジメントが走り出したらけっこう嫌ですよ。日常の実践はけっこう束縛される。

だけど、一人ひとりの教員が本当に「自分の授業の1年間の計画を考える」みたいなこともあるし、教員全体で「3年間で達成する」みたいな見通しなどをそれぞれが持つようなものとして、カリキュラムマネジメントをやっていったら、それはちゃんとした点検をしながらみんなで進んでいくということにもなる。そしたら自分のところだけじゃなく、他のところが何をやっているかも見えてきますよね。そういうふうになっていったらいいんじゃないかと思います。

いまこの場を「ZOOM」という仕組みで全国をむすんでいて、その参加者の方からも1点質問があるということでお聞きします。

一会場 産業能率大学の皆川です、私はここにいながらずとネットで全国の方々とやりとりをしまして、質問はいくつか上がってきています。中には「児美川先生が理想とするキャリア教育とはどんなものですか？また紹介されているサイトはありますか？」というのもありましたが、質問はこれです。よろしくをお願いします。

質問6 そもそも「キャリア教育」というくくりは、今なお必要なんでしょうか？

最初に言われた「理想とするキャリア教育とは何ですか？」と、質問6の「くくりは必要なんでしょうか？」は、ぼくには一緒です。ぼく自身は「キャリア教育と言わなくなること」が最終ゴールだと思っています。キャリア教育という言葉を使わなくても学校なんだから、当然子どもたちが社会に出ていくのは前提だし、そこに必要な力をつけていくし、子どもたちがどういう方向に

出ていくかという進路についても手助けできているはず。そこにいちいち「キャリア教育」という言葉がなくなつて、普通に学校をやっていたらそれぐらいやっているというのが理想だと思っているんです。

そういう意味で言うと、「いまさらくる必要はあるのか？」というとその通りです。でも「じゃあ、本当にそれができていますか？」という話なんです。まだそこが充分じゃないかもしれないし、いまはあえて言葉を使って意識化しておかないといけない時期かもしれない。そういう感じがあります。

だからもうしばらくは意識化するために、忘れないために、「キャリア教育」という言葉を使った方がいいかなと思ってます。でも最終的にめざすゴールは「そんな言葉を使わなくなつて学校教育として当然やっていますよ」という時代がくることだと思っています。それで、最初に「1つめと2つめの質問は一緒です」って言いました。

ということでこの場はここまでにしたいと思います。みなさんどうもありがとうございました。

(終わり)

第12回キャリア教育推進フォーラム 報告書

「学習意欲を高め学力向上につなげる授業改革」

東京／自由が丘開催 仙台開催

発行日 2018年12月

発行 産業能率大学 入試企画部

〒158-8630 東京都世田谷区等々力 6-39-15

TEL03-3704-0731 FAX03-3704-9766

<http://www.sanno.ac.jp/>

(禁無断転載・転用・複写)
